

平成十一年三月
津山郷土博物館紀要第十二号

安永二年（一七七三）

津山松平藩町奉行日記 七

津山郷土博物館

津山松平藩町奉行日記 七

凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫の中から、「町奉行日記」安永二年を収録した。

一、本文表記法は、つとめて原文の形にしようとしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として当用漢字および現行活字体に改めた。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに(ママ)と注記した。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

躰てい 扣ひき 喫あつかう 歎か 喧嘩けんか 音物いんもの 稠敷ちゆうぢき 又候またまち 与風よふう 早おそ

5 変体がなは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而(て)、江(え)、者(は)、茂(も)、与(と)は、小活字で示した。

6 (より) ヲ(して) は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号(ゝ)を付し、右側に訂正の文字を記した。
また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破壊は、「」でその状態を示した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、(表紙)のように注記した。
9 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は乾貴子と小島徹が担当した。

安永二癸巳年正月の十二月の迄
御用日記
廿六 大沢三平

(表紙)

正月元日 晴

御家老安藤造酒之助殿
御用番伊達与兵衛殿
御年寄山田衛守殿

大年寄
玉置忠兵衛

一年頭御祝儀中奥組以上例刻ハ登城御流頂戴早ニ而町奉行詮義方郡代御用席江罷出御祝義相延ル
一大目付赤見類助ハ町家大年寄其外之面々年頭登城之節表ハ罷出候様其外平日ニハ裏下ハ往来尤是迄物持不申ものハ表通行いたし候得共おし並年頭之外右之通に今度相改り申達候儀被申聞則日大年寄玉置忠兵衛へ申聞せ候

二日 晴夜ニ入雨雪

一昨元朝あけ方京町まさヤ芳兵衛借屋文四郎「たつ手あやまちニ而布団な」焼候得共早速消留候由承置隣町も騒キ不申候者可然先例考候様申聞せ置候

一御小姓頭之嫡子以下大役人迄御流頂戴小役人松之間御縁側名披露桧之間惣御徒礼

一御用始ニ付町奉行詮義方勘定奉行備前近藤伊左衛門郡代御藏奉行御金奉行彼順ニ而罷出御用始御祝儀申上候旨述之早而於七間廊下日参之御役人迄御吸もの御酒頂戴相濟各支配方江御礼相述る

一今日例之通於宅大年寄并札元対面盃事

一明三日四時御供揃ニ而地藏院御社参夫ハ泰安寺御仏詣被仰出候旨

中奥目付西尾多内通用御道筋例之通御先払其外町分取計申渡ス

一司馬五郎様御同刻之御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被成候旨稲垣茂次ハ通用有之候

三日 晴

一御社参御仏詣被遊候司馬五郎様御同様也

一明四日四時御供揃泰安寺妙法寺本源寺へ御仏詣被成候旨被仰出中

奥目付本多嘉内通用夫々申渡候

一昨日勝山筑間源右衛門渡部唐兵衛ハ年頭状到来返書遣ス

一今日町方廻勤致候

四日 晴

一御仏参被遊候司馬五郎様御同断

五日 夜雪

一寺社方御礼無滞済

一船頭町御制札ニ故有之^{ユエ}「」之為同心差遣可然旨弥三兵衛被申聞藤森權六見分ニ參候処何之心懸り之儀無之候

一野井乃役人川端代八〇年頭書并錢相場之儀之申来り返書認明朝飛脚江相渡候儀取計

六日 晴 七日 晴

一今日於宅御用達共御藏元諸吟味^当年頭対面盃事早而町々年寄一通り之礼受

一平井郷左衛門妻今朝出産男子出生血忌引込之儀相届られ候様申来り弥三兵衛江手帟ニ而申達ス

一坪井役人松下助七〇年頭状到来

一幾野御代官所手代大井田与五郎中里忠介〇年頭状且又作州吉野郡伊原村御留番所十歩一御運上錢銀直シに相用候ニ付去辰ノ一ヶ年分錢相場書申来調遣ス

八日 晴

一芸州家中之由眼病ニ而備中大竹村〇送り出シ院庄に到り相尋候処名前を不申行先も不相知候ニ付郡代所申合送り返しに可致殊更芸州家中と申趣ニ而ハ甚取計も難成ニ付弥三兵衛へ申達候処送り戻シニ取計候様在町共ニ申付候得共最早安岡町迄相受取名面相尋候処多田民江与申四五拾計成年齡殊播州高畑村目医師へ当ニ罷越候趣ニ付猶又弥惣兵衛へ申談候処送り戻シ之議相止是迄之通送遣シ候様にとの義ニ付而役所申合送り出ス

一明九日御出ニ付御出席無之旨大目付亦見類助〇演達

九日 夜前〇雨

一西川役所坂井良藏永松太惣左衛門〇年頭之祝書昨日到来今日返書差遣ス

一明十日四時御供揃ニ而地藏院江御仏詣被成候旨中奥日本多嘉内〇通用来ル大目付中〇も為知来ル

一関十治〇材木舟二艘書判手形二枚相調遣ス

一安岡町村屋藤助余程快方ニ及候ニ付手錠申付ル今夕廻り〇計

十日 晴 十一日 晴

一明十二日四時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被成候旨浜田平橋〇

一林田町ふかや安之丞他參留申付候処差免候様被仰渡其旨取計候

一御藏米五拾式匁町米四拾八匁届出る

一とんとさきちやうの触差出ス

一勝間田中村与左衛門和田半兵衛〇年頭状来ル返書十三日ニ遣ス

十二日 晴

一今日大般若御祈禱ニ付宇治橋之間ニ而御奏者番御番頭寺社奉行三奉行大目付当役御使番寺社取次中奥目付相詰御修法早而殿様御拜被遊次而御家老中初詰之面々例之通御拜等無滞相濟

十三日 晴早天ニ雪

一郷左衛門明日〇血忌明ニ付出勤之届從拙者御奉行へ申達ス

一明十四日例之刻御仏參ニ付西尾多内〇通用司馬五郎様御仏參同様稲垣茂士〇通用

十四日 晴

一直姫様御縁組并御輿入之御祝儀自他之座頭共頂戴仕度旨申出候処今日弥三兵衛〇御縁組御祝儀一ツ分被下之御輿入御祝儀ハ追而可

被下此段取計候様乍然兩様御祝儀達而頂戴仕度申上候先例も有之
ニ付役人共申立可遣旨為申聞致承知候ハ、兩様為致頂戴候様被
申聞其旨玉置忠兵衛へ申渡ス

一牢舎人音次江向木小藤太ハ脇指之鮫ニ脇刃之質ニ頼置候処手札無
之質先も不相知候ニ付平井郷左衛門へ預呉候様申聞候ニ付小藤太
書付を以て通用候

一坪井町ふしヤ加右衛門弟元泰当己廿六歳先達而五年切西川領松野

元通方へ医学見習差遣し置候処右之元通江養子差遣申度願承届候

一ふきヤ町吹屋八左衛門倅六之丞先達而大坂へ用事ニ付遣し置候処

今三十日日延相願承届

十五日 朝雪少

一今日諸士登城御礼申上於御座間ニ御目見申上る

一盗人久米右衛門旧冬召捕候主意小屋之ものへ相尋候様ニと弥三兵

衛ハ被申聞候ニ付其段申付候処旧冬世上物忽ニ付惣而総町心を付

候様蒙仰候処原田屋利助ハ樽御座候ニ付手懸リニも可相成倉敷に

居申候由參候処福本に居候由是江參候処番人捕居申もの方吟味之

儀相済候上ニ而うけ取罷帰申候旨三藏新藏直八申之言達ニ及候

一疏状被出候坪井町鍵屋吉兵衛疏誠直之儀及吟味候処委細書付差出

候ニ付差出ス来ル二月ニハ此元出立八九十日計之逗留ニ而九州へ

罷趣申度其内極月に他所も御渡候様書面に有之候弥三兵衛江申達

ス

一直姫様御縁段御祝儀今日相渡ス小頭石名左五兵衛部屋目付藤森權

六立合配當場ハ城正

銀札五百式拾七匁五分 衆分百五人五匁ツ、晴式人

三拾匁打懸拾五人三拾八匁七分五厘 初心三十壹人

三拾匁寿名式十人三拾目配當場役料筆墨帟

六六百六拾三匁七分五厘

一宮川大橋北ノカウらんニ宮脇平次右衛門不埒鉄砲御家人五六人打

積り南之のきほうしニ智名平ニ右衛門と落書有之旨申出ニ付則弥

三兵衛ハ達し橋本町年寄に申付洗セ申候尤昨日同心ハ申出候ニ付

左五兵衛へ申付ル

十六日 晴

一御具足御祝儀諸士登城有之候

一今日被為召候而被仰付候面々

御使番当役

栗田唯治

組頭寺社取次在役

佐々木弥大夫

一御具足御祝儀分御目見町方支配左之通

茂渡市右衛門大年寄三人早而町惣代藏合孫左衛門此分纏節五十

入一箱例之通也次而山本三右衛門茂渡藤右衛門武田七郎兵衛惣

ノ札元ハ市右衛門初其外差上物大年寄之通纏節三拾台居例之場

所ニ而持參候之献上抽例也相済此処ニ而御郡代大村庄助ニ代り

合地方目付手伝見習迄献上大年寄同断相済引続キ御縁側ニ而繰

出し之為じやりニ小遣壹人出ス

町医拙者同道岩佐孝碩川嶋桃庵北山周斎中嶋作庵河辺周益是ハ

初而故三本人扇子御目見申上候

右箱纏并扇子兩様ハ大御番組ハ進物番出る当病之面々箕作丈庵川

口藤十郎三室屋宇左衛門浜野屋善十郎伊勢屋長右衛門大嶋屋平右衛門^ノ六人

一御書院ニ而御目見際直に松之間へ御懸り被成中之口銀鷺之間南之御から紙卷間弛し御通懸御立座被成候御奏者助太田舎人中之口北之柱際ニ而南ニ向ヒ名披露御用達し并御蔵元共ハ鏡板ニやり取布北を頭に居并ヒ前之段に扇子^{三本}入を差置御礼申上ル献上之扇子此度者銘々に調以後者新ニ調ニ不及大納戸ニ預り被置候積り小勘者吉

御用達
御蔵元

田文左衛門へ通用申談置候
高松屋平兵衛塩屋八郎右衛門沢屋孫四郎福永屋藤介^{御蔵元} 姫路屋彦

兵衛熊野屋伝兵衛^ノ六人

一御具足御祝儀於芥子之間安藤造酒之介殿佐久間上総殿安藤登殿山田衛守殿本多左門殿伊達与兵衛殿大沢長大夫殿下村友右衛門殿宇治橋之間村山平学^{大齋頭}太田舎人大沢長大夫隅田族井上弥三兵衛永井甚大夫鈴木此右衛門黒田多膳赤見類助海老原極人大沢三平例之通頂戴相済引統御用番伊達与兵衛殿於御書院例之通諸士御祝儀頂戴無滞相済

一明十七日四ツ時御供揃地蔵院稻荷宮御社参被成候ニ付中奥目付西尾多内^ノ通用

一御家之記録銘々記置候事有之候ハ、本書ニても写ニても可被成御覽間可差出之旨御政事奉行永井甚大夫^ノ夫々演説有之候

十七日 晴雪も少し

一鉄運上可被仰付ニ付下方様子相尋吟味之上可申付旨此旨被仰出候ニ付山形屋与次兵衛今津屋孫十郎^ノ大沢長大夫手筋ニ而下問合被

申之由則此もの江存寄尋候処平信半疑之趣書付出し候ニ付運上之儀決定之段ハ難申上候先書付ハ弥三兵衛迄差出候

一今晚方運上之儀ニ付鍛冶町之者共西東之鍛冶屋ともへ致通用山形屋今津屋兩人江差詰ニ仕懸ケ候様子追々相聞候ニ付同心共両町へ手配り致し遣し候処兩人ともニ運上之儀問屋可仕之願申上候ニてハ無之上^ノ御尋候ニ付重畳毛頭無之段有り躰之書付差上候趣双方^ノ加治町之者共江達候処各々承知之上ニ而事穩便ニ相成候由勿論今津屋詰合之弁書同心共請取帰候山形屋^ノも同様ニ差出候由相聞候今夕差向候同心権六甚蔵作右衛門伝内左助孫八也

十八日 晴

一山手屋弥右衛門借屋大工庄助倅勝蔵去辰九月百日計之逗留ニ而甲州身延江参詣願候処江戸表親類見舞罷候間江戸表ニ而細工修行又候百日計滞留願候へ共先達而願ニ致相違聞届かたく候ニ付便之砌罷帰候様可申遣候旨為申渡候

一馬駅問屋之儀三津屋平次右衛門平田屋伝次願候趣是迄人馬問屋無御座相済来候へ共此度私共而役被仰付被下候ハ、職入用銀隨分減し滞無之様取計可申候尤入用等有之候間從御公儀様相応之御手当被下置候ハ、難有奉願上候旨則今日弥三兵衛江差出置候

十九日 晴

一去ル十七日加治町之一件下吟味致し書付取可申旨玉置忠兵衛江申聞東西鍛冶共申趣口書取之候鍛冶町ニ而東新町へ使ニ参候岩助長八甚助鉄釘高直ニ成候ニ付在方江遣候道具直段少ツ、上可申町内計り者難成相談ニ相極度ニ付源四郎五郎兵衛方江参候由。安岡町

鍛冶共尋候所長右衛門治右衛門文吉長兵衛源右衛門申趣ハかち屋
伝兵衛助今老人ハ睨と不知鉄座願之者有之急ニ相談申度只今之内
宗道宮へ寄合申候旨を申使参候由各別ニ口書有之
一坪井町ふし屋西川領松野元通へ遣し候本證文出る

廿日 晴

一魚住藏人ハ年頭書来返書遣ス

一明廿一日司馬五郎様泰安寺江御仏参被成候ニ付稲垣ハ通用申付候

一魚町のたヤ孫三郎伊部屋左助兩人来ル廿三日皆納御掛銀之御言祝

として御吸物御酒被下候旨御勅定奉行山岡与左衛門「申聞尤旧冬

弥三兵衛ハも噂有之候キ玉置忠兵衛方取計之儀ニ付其旨申渡ス

直屋市右衛門酒改印形改候ニ付印鑑差出ス

一鍛冶町ハ使ニ而寄合之儀申来り候趣源四郎五郎兵衛兩人江猶又尋

申付口書出ス且又安岡町江呼に参候加治町伝次郎徳三郎と申兩人

之者尋申付候処双方之間違此儀を以寄合手懸り相見え候近日宅之

吟味取懸りて「今日弥三兵衛迄伺付候

廿一日 晴

一御蔵米五拾壹匁町米四拾七匁

廿二日 夜ニ入雨

一錢相場七拾四文札元ハ申越旨忠兵衛ハ申出る

一今日於宅鍛冶屋とも東西共に吟味取計候石名平太兵衛同小頭左五

兵衛斎藤孫右衛門藤森権六野村喜兵衛室井作右衛門三舟孫八吟味

之趣左之通

去ル十七日之夕騒動宮寄合候ハ如何様之訳ニ而候哉と相尋鉄直

段高直ニ而細工もの直段上申候積り同職之者申合之由併今津屋
孫十郎山形屋与次兵衛懸合候趣ハ鉄直段之儀ニ抱候事共可被存
候由尋候処相応候ハ山形屋与次兵衛組合方へ罷越免言致候故鉄
高直之上ニ御運上差出候様相成候得ハ家職之故障ニ相成候ニ付
町内一統宗道宮へ寄合候「山形屋与次兵衛和泉屋利八戸屋
惣十郎罷越孫十郎与次兵衛兩人ハ鉄座相務申儀ニハ無之書付読
聞せ候ニ付各致承知其場引取申候東西鍛冶共へ使ニ参候もの申
口相違仕候儀恐入候旨段々誤入候ニ付吟味形付申候委細之儀ハ
別に有之

一大熊勘ヶ由殿江戸表ハ帰着翌日造酒助殿御養母死去也

一今夕火事沙汰有之候得共出馬ニ不及尤同心火本見ニ遣し候処川向

ニて何角火燃上り其火影を見違候由追々申出候趣弥三兵衛へ申達

ス

廿三日 半晴

一今日のたヤ孫三郎玉置忠兵衛於宅御吸物御酒被下候小頭石名左五

兵衛挨拶ニ出ス伊部屋左助者他行故断

一明日四ツ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被成候ニ付西尾多内ハ被申

聞候

廿四日 晴

一御箱之者老人御入用ニ付触出し弥三兵衛被申聞中奥目付西尾多内

へ引合来ル二月五日迄寄人之儀被申聞候

廿五日 晴

一源剛院様百回御忌来ル廿九日於泰安寺御茶湯被仰付候ニ付御知ら

せ之廻状三奉行中から到来石名平太兵衛初其外支配筋へ相触候

一安岡町村屋藤助盗人久米右衛門懸り合之ものニ付今日平井郷左衛門へ引渡し書面例之通取替候ハ、出番甚蔵作右衛門

一門内に投書有之

一明廿六日於御対面所御囃子有之大役人以上二男三男ニても武芸之御御目通江出候者ハ去年之通勝手次第拜見被仰付候尤平服ニ而可罷出候井上鈴木永井

一明日御対面所江被為人候為知黒田多膳が為知申来ル

廿六日 晴

一今日御対面所江被為人候ニ付父子共被為召罷出る

廿七日 晴雨少し

一小姓町若屋伝次家主其外商売柄之儀江戸表が尋候ニ付今日申遣候由弥兵衛が申来馬持ニ而式分中買尤作人徳次借屋之旨申遣ス

一去ル十七日宗道宮ニ而加治東西之者会合之儀不届ニ付取計相濟刑法奉行中へ相届申候

一鍛冶町年寄式人組頭五人押込申渡ス当分代り紺屋町年寄へ為取計候様申渡ス右申渡書付扣ニ有名面大概

此もの共ハ鉄匠相觸候者有之事為之者にも追込差之者之口ハ鐵匠之直段を旨申渡被

二月五日鍛冶町 此者共之儀ハ鐵匠上之儀ニ付宗道宮、寄合候之儀ハ鉄匠直段高直ニ成候ニ付細工直段上候ニ付東西加治申合之儀ハ偽り何分加治上同候之者一味注意せしめしき会合致候事難儀ニ付為心得見せしめに追込申付候

新町へも同敷此町年寄、両日前ニ禁定免又

安岡町鍛冶長右衛門次右衛門
文太長兵衛源右衛門五人

鍛冶町五郎右衛門 徳右衛門 善右衛門

理兵衛甚兵衛年寄与四郎

喜三右衛門七人追込

此者共之儀ハ加治町の岩助長八甚助三人鉄鍛匠直段高直ニ細工直段上度会合可致ニ而兵衛ハ使、鉄匠を拜加治迄も呼合セ宗道へ抱寄るが成る事起り候ニ付追込年寄、別願へ禁定ニ等しく申付、式人禁定

一塚屋伊右衛門いせ山田福井大炊方へ用事ニ付罷越申度往来三十五日計之逗留断書出聞届ル

廿八日 雪

一曰杵小藤太が前原乙次江脇差之鉸質ニ置度預置いつ」 「差置候哉手札も無之請返申度尋くれ候様牢舎人ニ付郷左衛門江此段申談候処尋之上二階町させる屋に為計候由申ニ付煙盆屋ニ尋候処寅極月十一日ニ質物ニ相成候流に立候物ニ候へ共私留置申候当月中ニハ筋立被成候様ニ小藤太様へ申置候相濟候上可申出旨書付差出候

一明日四ツ時泰安寺江御仏詣被成候ニ付例之通取計之中奥目付似役太田官平が通用

一鍛冶町打穴屋利八平井郷左衛門江引渡候此者盗人久米右衛門へ懸り合之儀安岡町村屋藤助と同科ニ付直ニ入牢之由 御仏詣ニ付候ニ 拜儀

廿九日 晴

一源剛院様御仏事ニ付御仏參被成候

一堺町西川屋善助切手備前岡山橋本町垣屋伝六手代武兵衛壺人酒代掛取に昨日入同国同所下片上町大和屋清右衛門手代義助壺人醬油掛取候昨日入り込宿同人

一吉六両親并妻西新町ニ而持家有之候如何計可申哉彼等に科無御座候候何とそ其儘被下候様可成哉同候処其通取計可申旨弥三兵衛が

被申聞候ニ付則玉置忠兵衛江申渡す

一後藤守助長屋ニ罷有當時牢番預ニ相成居申候〔〕右衛門儀今度御仏事ニ付出牢被仰付家中奉公并出入相構申渡町ニ而請人江渡候様可取計旨被仰出候明後二日郷左衛門引渡可申之旨後藤守助江も演説有之候由

一安藤造酒之助殿養母去ル廿三日死去今日忌御免也大熊勘解由殿ハ去ル廿五日忌御免也

一吹屋町吹屋八左衛門願私倅西今町房屋六兵衛義当已三拾貳歳今般船頭町今津屋孫十郎仲人ニ而備中倉敷平野屋尽平入夫差遣度之趣申出聞届ケ此ものハ馬飼申付者也
二月廿八日ニ引合有

二月朔日 晴雪

一今日諸士登城御礼申上当役於御座間御礼例之通

二月廿日小鳥屋次郎右衛門引渡文差出し銀札實四百貳拾五匁出三月朔日ニ運上方へ納請取手形有候

一坪井町辰屋家屋敷之入札今日開七百三匁五分細屋六百三拾目船頭町井本 原田屋 坪井町爲屋 小徳時 岡屋十郎 原佐助

八百六拾匁五分原田屋八百五匁坪井町爲屋五百五拾目小徳時五百

目渡部休庵高札志實二百六拾五匁魚師魚住屋 庄助高札ニ五拾目増小鳥屋 次郎右衛門右ニ

付小鳥屋次郎右衛門儀落札ニ相極申渡齋藤孫右衛門為取計候

一山本与市断私所持之他国受酒株去ル子三月□去辰極月切東新町はし元屋茂次右衛門江貸候処右年数済候故此度手前江差戻し度聞届一御政事方永井甚大夫先達而申達候銘々記置候御家之記録多分ニ不限差出し候様是迄不申出候ニ付尚又被仰出候旨諸向へ被申聞候

二日 晴

一辰屋家屋敷入札開之儀員数刑法方江申達ス

一今朝郷左衛門引渡引渡し尤手形取替ス則刻紺屋町年寄兩人之請人呼出し久右衛門を引渡し取計立合小頭并大年寄ニ而申渡し其方儀先達而不審懸り候故詮議方へ引渡之上牢番預ニ相成候処吟味形付以御憐愍出牢被仰付候以来御家中奉公并出入相構候町住居之儀勝手次第申付候此段年寄并請人組合共江も入念申渡し引渡し請人より受書取之上謂長七下謂是与左衛門也
・東新町年寄兩人去ル廿七日一件ニ付禁足申付置候共別職ニ付今日差免申渡ス

三日 晴

一明四日例刻御仏參被成候旨浜田平橋通用夫々取計候

四日 晴夜ニ入小雨

一福渡町松尾屋源八一場村手負女を親分ニ成候而一場村善七郎江遣候由郡代所ニ而吟味書付相廻り右ニ付源八再尋糺し弥親分と申替し候ヤ相糺候様被申聞相尋候処宿は致し遣し福田甚藏とのも御頼ミニ而善七氣ニも入妻ニも成候迄ハ奉公ニ遣し半年一年ニても勤歸候時は給金可受取約束ニて差越申候全親分ニてハ無御座之旨書付差出し弥三兵衛江差出し候
今迄

一独獨ふち拾式匁当月分孫右衛門江相渡ス

一堺町嶋屋藤吉断わく手伝九郎兵衛長次郎式人昨日參候旨

一中之町荒物屋伝右衛門家屋敷南側表口四間裏行十五間本役此度同町鳶屋伝助江売西ハきくらヤ平三郎東ハ西新町作人又八也代銀札四百五拾匁也本證文当月十日ニ出ス

一中之町佐野屋吉兵衛古道具取売株吉兵衛不勝手ニ付此度相止元魚

町湊屋喜七相勤申度旨願差出聞届

五日 晴

一 祇園三位の例歳之通札相納蔵合孫左衛門持参小納者所ニ而御次江被差出候御初尾銀式両

一 明六日御鹿狩御出被成候ニ付御出席無之候旨墨田多膳の通用

一 去ル廿七日追込申付候鍛冶町年寄并五人組頭差免シ且又東新町鍛冶屋共組頭是又差免取計此旨弥三兵衛江相届候

六日 晴

一 福渡町松尾屋源八此間之口書之内再応之尋申付候所書付候差出し弥三兵衛江差出置候

一 鍛冶町宗道宮ニ而町内日待且宿願開神楽を上申度旨届出候ニ付大年寄共の万事相慎取計候様ニ申聞候旨出ス

七日 雨

一 明八日例刻御仏詣被成候ニ付西尾多内の通用夫々取計候

八日 晴暮の雨

一 源剛院様御仏事自他座頭共御布施頂戴之儀此間分配當場城正申出候得共此度者御茶場被仰付御法事と申候儀無之殊御代々と申儀ニても無之帳面操候処五十年御忌ニも不被下候へハ難被出旨申聞せ候処五十年御忌之節居申候者も当時存命不仕御茶湯ニても御法事

ニ而も此段ハ上に御座候御事何分ニもうすき百年御忌之御供養ニ御座候へハ御慈悲ニ御座候間偏頂戴被仰付被下候様ニ再応申出昨

日も弥三兵衛へ罷越申談候処昨晚最早孫右衛門方江座頭共押かけ参右之旨相歎候故御評儀之有無も不決内御仏事儀ニ付彼是事騒敷

致し方不束ニ候何分引取候様申聞候而為引取候今朝も無覚束同心

とも兩人差向置出仕之上弥三兵衛江申達候処甚御聞入六ヶ敷候処

御聞届ニ相成則勘定所江通用今日配当相渡

一 銀札五百五拾壹匁衆分八十五人五匁ツ、打懸拾八人式匁五分初心三十式人壹匁式分五りツ、寿名拾四人三匁五分ツ、配當場役料筆墨共ニ小頭石名左五兵衛目付藤森権六罷出ル

一 御手廻り寄人見分有之候西新町米屋彦太郎俸廿七才市右衛門二階

町作人四郎兵衛俸廿三才仁右衛門

一 明九日四時御供揃二宮辺江御遠乗被為入太田官平より通用夫々取計

九日 晴 十日 晴

一 播州今市鍵屋嘉市手代忠七老人例年之通呉服物売昨日入

一 宮脇町房屋庄吉願兄喜兵衛当巳式拾四歳此度大坂今橋一町目山本

佐兵衛由緒ニ而罷越町人別指除被下候様聞届ケ

一 福渡町恵助江紛失之品姫路屋文六の取上見せ候所無相違之旨其段

書付取之一のき島木綿布子へ一水階子嶋一木綿女帯一

一 橋元町綿屋善兵衛願私儀先年願出候当内七人去ル辰之暮迄罷有当

巳之春御願申罷帰候筈之処来ル酉歳迄五年之間罷越居申度旨願

一 備前邑久郡山田牛窓大工喜右衛門市兵衛半右衛門善助四郎左衛門小作与申者以上六人例年之通細工ニ罷越願二階町堺屋伊右衛門切手

一来る十二日御役料給米等相渡立候旨御蔵の廻状

十一日 小雨

一 船頭町渡し守治助を渡し舟損御見分之上御修覆之儀書付出ス

一 配当場城正の久米南条郡組頭城豊同役重都北条郡組頭城当の申出候趣ニ而書付大概此間頂戴ニ出候座頭院居橋之前ニ而三十人計之座頭共通り懸り東江追来候午ニ行合南条郡城北花北条分官尾村林嘉兩人川へ落候処中須賀之者とも引上遣し命別ニ氣遣無之候得共落し候仁体も不知以來ケ様ニ盲人往来之儀ニ而難儀仕候段迷惑仕候何とそ何村之誰と相知候様ニ被仰出候様相願候旨段々申出候併文段ニ何村誰と書殊に牛追之者落し候哉若くハ牛追来候ニ付盲人共ありて己と落候哉いづれ配当場引受ニ而可申出筋とも不相見候ニ付其心得を以相返し候様大年寄江申聞候勿論御奉行江も一通り相達し置候尤去ル八日之儀也

一去ル八日配当銀札高申達ス

一 明十二日泰安寺御仏詣之儀太田官平の通達夫々申渡ス

一 林田町作人利介願私家屋敷表口七間裏行拾壹間半三步役北隣御家中屋敷高石垣南ハ大溝切代銀札百目町内鍋屋治兵衛江売渡し。同人願私家敷北側ニ而表口式間裏行拾六間半役なり東口横町西隣ハ野介代屋平四郎代銀札百五拾目鍋屋治助江うり渡申聞届ケ両通本證文二月廿一日差出ス

十二日 晴

此証状若何付テテ年寄様ニ申渡申相違ハ可申候様ニ御申聞ケ其旨ニ取計家ハ
一 戸川町配当場城波旧冬十月頃致病氣候右之座頭後家きわ此間款
餘儀方相違し候段御所願ハ申出之儀其旨申渡シ候様ニ御申聞届候儀
書差出し候右旨ハ去年三月頃ハ城波相知去冬相果候四五日以前神
一件所不記
一 戸村古川村ニ而盲人之叔父三人呼ニ遣參候処不幸之場ニ及尤甚狼藉之致方死骸を押し在所ニ取帰り盲人之所持致候銀札九拾匁余正

米志儀其外田地證文敷置候豊迄取帰右甚不埒之致共心外ニ存候其上家も明ケ大家江渡し親分之もの方江罷帰候様在中之者共申候而難儀致し候旨申出候。右書付ニ付是迄之同役城正へ承候ケ様なる法外有之候を日頃之持込に不似合理話江も不役候義難心得但シ法も候哉と尋候処兼而不和ニ罷在出合等不仕併城波死後五十日之入用之分式拾匁余ハ後家江相渡申候旨申出候。きわ儀城波妻ニ取組節いか様之趣候哉と尋候処元屋町四郎右衛門件人ニ而清右衛門御所願親分ニ而取組候旨書付差出候何角四通弥三兵衛江差出ス拙者儀も添書認差出候

一 御蔵米五拾匁町米四拾六匁

一 同心部屋目付川端又六儀今日小頭石名左五兵衛於宅へ呼出部屋目付藤森権六立合申渡
川端又六江

其方儀動向年来致出精候様候処去秋以來案有之候へ共勘弁を以致猶予候乍去敷書子細有之候ニ付番代申付候其旨可相心得候已上

此大旨ハ去秋別居致候倅坂井藤太ハ御城代組ニ而甥之有本左七ハ御家老組ニ而小須賀一学殿出府供ニ而被召連候訳有之候処右之藤太内々意趣有之哉左七ニ手向ひ可致旨一学殿出立ニ相日ニ聞え即刻藤太儀ハ追込番を付候左七儀ハ追込之取計ニ相成候処一学殿ハ出府之儀造酒助殿ハ藤太儀ハ帶刀取上山山下御所願御徘徊指留番代御家中奉公被構候由左七儀者頃日番代被申付尤此もの儀勘解由殿取計有之候仍之兼而又六儀者為引込差置候処倅藤太共ニ内々有本左七ニ懸り無法之儀も候由外実難

去事も候へ共令用拾番代申渡候勿論造酒之助殿勘解由殿へも

対し被尋井上弥三兵衛江も右取計之趣意及内分候

一 小性町南側ニ而田原屋太兵衛家屋敷表口式間半裏行拾五間大溝切但六歩役東隣ハ作人鉄蔵西隣ハ糶屋小右衛門代銀札三百匁相極町内作人鉄蔵江売本證文二月廿二日出ス

一元魚町ふしの屋借屋乙次居候跡預候者へ借申度開封願申出る

十三日 晴

一 明十四例刻泰安寺江御仏詣被成旨西尾多内ノ通用

一 堺町西川屋喜助切手備前岡山下市町中嶋屋久六老人例之通元結売昨日入

一 先達而一石屋一件ニ付姫路并倉敷江罷越候節同心とも用意銀貳百

六拾匁御勘定所江返納尤両度之分一先仕切致候右差引書付一件之部ニ記置候

一 今日伏見町姫路屋文六身職人町福井屋伝右衛門元魚町吉屋左衛門ふし屋治兵衛禁足申付候其趣左之通

先達而其方共夜陰ニ買取候品福渡町恵助被盜候品々之内ニ無相違此度取上恵助へ相戻遣し右買取候節売手何もの哉 見知不申由申之候夜陰江申無人も見届候て買取之段甚無念不届之事ニ候依之急度可申付候得共憐愍を以禁足申付候相慎可罷在候

十四日 晴

一 去ル十二日差出置候戸川町城並後家其外及尋候者とも之書付戻り

大年寄共ノ二宮地方目付江掛合其旨ニ而難濟候者取計可有之候旨ニ付相受取則斎藤孫右衛門江申合メ立石才兵衛江書面引合ニ致候

一 御藏米四十九匁町米四拾五匁

十五日 晴

一元魚町藤野屋重吉へ今日申渡し取計

其方借屋に罷在候嶋本屋後家倅元前原乙次御家中ニ致奉公罷有候処右後家方江兼而同居躰之乙次不宜者之様相相聞候所此度悪事有之ニ付入牢被仰付候平生後家方ニ而何となく乱雑成暮方之様相聞候右等之儀家主ノ心を可付筈之処無其儀等閑ニ致置候段甚無念之事ニ候急度申付方も有之候得共今般者令用拾候向後借屋もの指置候共諸事入念可申候尤右後家借受之借屋之儀者何れへ成とも望もの江かし可申候右家開封申付候 右大年寄於宅

一 福茂屋武介切手播州姫路龍の町和泉屋孫兵衛同手代久兵衛式人例年之通小間物売昨日入。魚町鳥屋与惣兵衛切手大坂堺筋北久宝寺岸部屋茂十郎同手代甚七式人例手之通小間物卸昨日入。堺屋伊右衛門切手勢州安芸郡白子村形屋忠右衛門例年之通昨日入

十六日 晴

一直屋市郎左衛門手代忠七今曉榎原前ニ而印判拾候旨届出候ニ付大番所両橋へ建札可出旨御奉行江も申達し孫右衛門江申合メ札をこしらへ尤役所物入ニ而以後も入用之時ハ削候而用候様ニ可致段相定今晚ノ両橋ニ為達候

今あかつきかしわらまへニ而ゐんばひろい候者有之届出候心当り之者有之候ハ、大年寄迄可申出候

一 今日於宅御条目読渡し取計候尤白砂ニ葎敷上ニ本むしろを為敷町之年寄^{一町}届並らへ読渡一ケ条自分跡ハ書役読之立合石名平太兵

衛小頭部屋目付大年寄孫左衛門孫右衛門同心当番干而町々ニおる
て於年寄宅読渡し取計候様ニ申渡ス

一吹屋町吹屋八左衛門伴六之丞先達而登坂今三十日計滞留日延
去九十三日可記事

一伏見町倉敷屋多兵衛伴和助孫三郎例年之通京都近江屋市右衛門方
の呉ふく商因伯表へ参くれ候様被頼明後十五日出立来ル十二月下
旬迄逗留之願出る

十七日 晴

一昨日取計之御条目読渡之儀此旨の御奉行へも達し置候ニ付相濟候
段申達ス

一京町筆師六郎兵衛の疏状入候ニ付此間御渡被成候得共御吟味不及
候ニ付今日其段相断御奉行へ達し御定メ之通付币ニ而返上

東十五 巳正月 乍恐奉願上候事

一私儀近来筆御用被仰付難有仕合被存候処御約ニ付去七月の
他所筆請買上相成御用等不被為仰付甚難儀仕居候上津山筆与

申似せ筆他所の入込候故私甚難儀仕候得共私力ニ相叶不申候
卒御慈悲之上右之似せ筆御差留被遊下置候て私随分吟味仕候

而差留可申候此趣ニ御座候而ハ私家内及渴命候ニ付無抛奉願
上候御憐愍以願之通ニ被仰付被下置候ハ、難有可奉存候以上

京町筆師 六郎兵衛

無御印 西川屋善助

一備前岡山中之町ましま屋太平次手代源兵衛例年之通万紙類昨日入
一元魚町乙次居候家左五兵衛 櫛六兩人之封印切候而渡ス

十八日 晴

一備中倉敷手代若林久米右衛門の飛札到来七郎右衛門方ニ而致吟味

候盜賊一件引合先達而及御掛合御指出御座候

越後守様御領分美作国津山町一石屋伝次儀村役人に相尋候儀有之
候間各村庄屋年寄七郎右衛門役所江尋御指出可被成候各之段可得
意旨七郎右衛門申付如此御座候二月十六日之日付ニ而到来相応之
返状遣し候尤小性町年寄清六へも先方牢引受孫大夫と申者の賄入
用金子式三拾匁差越候様ニ申来ル御奉行江及沙汰候

十九日 晴

一今日小性町年寄清六并組頭兩人倉敷へ罷立候

廿日 夜中の雨

一明廿一日例刻御供揃天崇院様證月ニ付御仏詣太田官平の
泰左等へ

一安岡町打穴屋庄右衛門断鉄砲町新七屋敷ニ居申候まつ儀私婦ニ而
御座候然此度從御郡代所御存寄御座候ニ付居所立退候様ニ被仰
付私方江引請差置申度奉存候旨聞届

一房屋六郎兵衛断造酒株并屋号町内今津屋繁藏へ相譲り申度願聞届
今町也

一二階町堺屋伊右衛門切手京六条通瀬川西へ入町升屋勘六例年之通
小間物きせる卸売昨日入

廿一日 晴

一橋本町三関屋五郎兵衛伴重藏当己廿七歳久せ出雲守殿領分薪森原
村津田方へ今年の来ル申歳迄出職

一安岡町小倉屋治右衛門断自国受酒株去ル卯の当己迄同町米子屋伊
助へ預ケ置候此度商売止メ取戻し候旨

一大年寄献上煙三十一七匁五分ツ、札元同断藏合孫左衛門惣代口五十八人 檢式匁五分阿

部周益三貫式分五り都合六拾五匁式分五り当正月獻上もの代大納戸の書付廻り申渡ス

廿二日 雨

一 福渡町源八請人兩人永尋ニ申付ル

一 印判指札今日切ニ而為引候

廿三日 晴

一 勝北郡植月郷鳥羽山万福寺觀音開帳行基被作改行者 其外此内両橋ニ建札之儀大年寄頼来り及御沙汰為建候

一 福渡町小紋屋茂市願私伴茂十郎当已拾九歳ニ罷成申候此度二宮村茂一郎引受ニ而借屋借り受五ヶ年之間出職願

廿四日 晴 廿五日 晴 廿六日 晴

一 刑法御捌大意之帳一昨日弥三兵衛が被相渡詮儀方郡代所申談し存寄も候ハ、可申達之由被申聞其旨申通ス

一 鍛冶町かち屋新右衛門願備前国和氣郡和氣村喜助当已四十三歳親類ニ而此度勝手ニ付引請渡世為仕度尤先村庄屋五郎兵衛が添書来

廿七日 晴

一 紺屋町年寄申出候者達先而町内文六江俵義助并妻きく入牢之処右之下きく出牢被仰付御預ケ被成候処昨廿六日四ツ時合相見へ不申候ニ付方々相尋候得共是迄相見へ不申候旨申出候旨大年寄齋藤孫右衛門申出候ニ付猶亦相尋候様ニ申聞候

一 京町吉田屋喜助去ル西十二月横山村彦右衛門へ銀札百目取次候而戌十二月式拾目利上致し其後相滞催促致候処田地可渡旨申候へ共

請取かたく訴出し併百目以下之出入ハ以前合取上不申候ニ付其旨取計候様大年寄江申含候

一 檜原前石垣之上倒死之者有之見分申達候右相済及差図候迄非人共番人申付候様弥三兵衛手栴来大年寄へ申遣追付取計候処夜分九ツ時頃弥三兵衛が手紙非人倒死相済桶屋町合町役者呼出立合セ申候趣相聞候場所水車東之方石垣之上拙者構場ニ而右之者妻娘付添居候由如先格非人共掘埋申様可被仰付候尤妻娘早々外へ立退候様可申付旨申来追書ニ小田中村がも注進申出郡代所がも申来此方取計相済候段申遣候旨申来候則刻孫右衛門江申遣件之通申付候旨申遣候右前儀共夜分之儀也野伏備前之者之由

廿八日 晴

一 浜中屋重郎兵衛先達而酒運上三枚半被仰付候御処近来不勝手当時借銀多渡世及難儀右運上上納之日延願出

一 中之町福茂屋切手播州あはし新在家町賀か屋善七手代利八例年之通小間もの卸売昨日入。撰州堺北原町河内屋甚八手代善三忠兵衛式人例年之通木綿類反物いともの類昨日入

一 吹屋町吹屋六兵衛去ル明和二年酉二月鳥飼申付候処先達而斷備中倉敷へ入聲ニ参候ニ付願相済引越

一 河原町南側宮地屋伊助家屋敷表口三間三尺五寸裏行五間半五歩役西隣ハ船頭町作人源兵衛八角銀札百目ニ此度売払御願聞届本證文同月廿日出

一 堺屋伊介へ鳥屋左助母并世倅清藏預置候所伊助甚困窮渡世難儀ニ付組合共合渴命ニも及候程難忍ニ付何とそ宜様聞届くれ候様願差

出し相伺候処於役所段々詮義之上最初の牢賄ニも被仰付家財闕所
ニも此方之内可被仰付候処旧冬已来先其分ニ御宥恕被付置候此上
暫も御捌決し不申候へ者何とそ組合共歎ニ御免し被下家屋敷家才
一同に預り居申親類共江相渡候ニハ難被成候哉牢中之三人ハ^{勸勤}其
罪御座候共親類共ニおゐてハ御宥免御慈悲を以右之御計ニ被成度
弁書を以伺候処今日弥三兵衛の其段可致取計候様被申聞候
一 堺町小鳥屋金吾^{次郎}此度大熊勘解由殿へ被召抱候ニ付粉川金吾
と改号奉公ニ罷出申度願

廿九日 雨

一 於江戸表万寿姫君様御不之処御養生不被為叶去ル廿日御逝去被
成候段申来候依之今日の来月八日迄十日之内鳴物高声御停止之事
尤普譜ハ三日迄五日之内不相成候右之趣

二月廿九日三奉行

一 於東武万寿姫君様去ル廿日御逝去被成候ニ付来ル上巳之御札不被
為請候旨被仰出候此旨同役属役等々へも可被相達候以上

二月廿九日太田舎人村山平学市村数馬

一 御駕籠之者被召抱候ニ付町方望之者ハ来月十日迄ニ御駕籠頭へ申
出候様相触可申之旨井上弥三兵衛の申来り即刻触出ス

一 万寿姫様御儀ニ付石名平太兵衛同心組三間屋番御触之趣申遣ス

一 自国請酒他国請酒尤運上差出し候上登り船運上樽一挺ニ付壹匁差
出し其上売酒ニ付御運上差上候儀難儀ニ付酒改宛ニ而樽運上之儀
致御免被下候様相願ひ弥三兵衛へ申達候得共大年寄への願書ニ書
付候得ハ役所取計と不相見候間勘定奉行なとへ対談之上相考可然

旨被申聞候自国請酒ハ重運上ニ無之ニ付願不及食着候

一 浜野屋七郎兵衛の近来不勝手渡世難成三枚半之酒運上今月上納候
処右ニ付日延願出候是又酒改宛之書面ニ付役所より御勘定奉行へ
引合同様也

廿日 晴

一 当月朔日辰屋家屋敷入札銀札員数今日相受取買券状文段坪井町北
側ニ而辰屋後家家屋敷表口六間裏行十七間壹間半役東隣高砂屋兵
助西隣福惠屋政六右之家屋敷此度入札被仰付落札銀札壹貫四百拾
五匁上納仕候旨下署買主堺町小鳥屋次郎右衛門也

三月朔日 晴

一 辰屋闕所銀札運上方江可相納之旨弥三兵衛江相達ス

一 大年寄札元并周益当年頭献上之代物去月廿一日日記之通相納る大
納戸の請取手形孫左衛門江渡ス

一 三町目浜野屋重郎兵衛先達而酒運上銀三枚半被仰付候処近来不勝
手相成當時借銀多相積難仕候ニ付此度造酒相止候旨断書出ス

一 直屋市郎左衛門弟文藏去辰三月相願大庭郡赤野村伝藏方江差遣し
候処此度勝手ニ付引戻し候断。同人願文藏儀当巳式拾式歳此度備
中万年七郎右衛門殿支配所倉敷東油屋嘉兵衛養子ニ遣し度町内人
別除くれ候様申出聞届ル

二日 晴

一 坪井町辰屋後家買券去月晦日書面之通落札員数闕所物ニ付御運上

奉行近藤伊左衛門岡半四郎へ納手形相添今日收納左之通

合銀札壹貫四百拾五匁右ハ坪井町辰屋左七後家家屋敷先達而

御取上ニ相成今般入札を以御払に成候代銀相納候処仍而如件

一 国分寺村国分寺并天開帳ニ付兩橋建札之儀寺社方ハ申立有之刑法奉行并上弥三兵衛ハ被申聞尤寺社取次佐々木弥大夫ハも通用則大年寄孫左衛門江も申聞置候

一 上紺屋町浜次郎家屋敷表口四間裏行九間六尺半役也東隣者形岡屋清兵衛西隣ハ作人清兵衛代銀三百五拾目町内形岡屋利助江壳渡し本證文券三月四日ニ出

一 二階町堺屋忠七願鳥屋左助家内之内竹八虎藏留藏三人預ケ置候処家内大勢ニ而渡世成兼下地困窮必至致難儀候ニ付御慈悲奉敷候由申出る

一 東新町大嶋屋平右衛門願私母并弟并吉西国并信州善光寺詣来ル六日立往来八十日計滞留願「」

一 小田中村三右衛門鳥屋左助へ別米三俵遣し置候是ハ肥しの代米ニ候処当時御咎ニ相成候而致迷惑候ニ付書付出し候仍而郡代所ハ引合被申聞候ニ付凶掛方福田嘉兵衛江及通用左助へ右引合之尋致し呉候様談候 同月四日左筋へ候ニ奉申上ニ度敷候「」付至兵衛討解年寄御書取次立書

三日 晴

一 今日日出仕無之

一 明日四時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被成候旨浜田平橋通用

四日 晴

一 送り者作州好野郡倉敷之住人ニ而医師道伯と申仁病身ニ付歩行難

成所江帰度旨備中山中村ハ送り出し新田村ハ則林田村江送り遣し候由届出申達ス

一 今日御仏詣御中陰ニ付日延之旨被仰出候

一 金毘羅參追々申出大年寄ニ而承候様申渡尤役儀勤候者ハ一通願書及見候

一 坪井町鍵屋吉兵衛琉球苗植置申度依之右苗取ニ九州江罷越申度奉存来ル七日出立往来七八十日計之逗留尤海上之儀日限之儀踪与難計候由願書承届候

一 福渡町小文字屋茂市二宮村武左衛門江引請罷越申度由願郡代所引合

一 御藏米五拾匁五分町米四十六匁

五日 晴

町触無之
一 来ル八日桃園院様五十回御忌ニ付於本源寺御茶湯被仰付此段為相知候様被仰出候右之趣同役属役并支配方江も可被相達候并上永井鈴木之三奉行ハ廻状

六日 晴

一 此間之送り者倉敷ハ送り戻し此仁当所ニ覚無之段尋候処伯州与相聞候尤郡付も違居申ニ付当所江ハ難請取倉敷庄屋惠兵衛ハ湯郷庄屋次左衛門江右書面ニ而追々新田村へ続送り申候今日届出則申達ス

一 安岡町角屋藤十郎借屋ニ居申候太兵衛当已五十二歳妻五十俵甚助式拾七歳同六之丞拾三歳此度町内人別除新田村へ引越

一 安岡町久米屋清兵衛村永屋甚右衛門四国偏路当七日出立往来七拾

日計逗留願

- 一 寺本村 一郎右衛門娘おけ屋町新平妻に引請願
- 一新田村平助娘安岡町太郎市妻ニ引越願
- 一 寺本村与平次後家職人町屋金七方へ引越願
- 一 材木町車屋源兵衛此度立願ニ付金昆羅參詣

七日 晴

一 去月十二日之書面戸川町座頭城波後家訴状古川村神戸村懸り合之儀其以後大年寄齋藤孫右衛門の二宮村地方目付立石才兵衛へ懸合取計可見申旨申含候処才兵衛の此間孫左衛門へ対談孫右衛門の申通候後打方之者の返答書も取候上内済存付も申談候得とも後家中々不致承知猶又再書付出し弥孫左衛門手前ニ而後家以挨拶被相糺し不及了簡候ハ、可申出由申渡ス

一 川端又六番代之儀申渡候以来俸円六を願出候得共此者先年御使組ニ相成候節頭江一通り目見ニも不出直に暇を願候儀甚不埒ニ付御勘定奉行中ニ而も評儀ものニ成内々及御噂候上ニ而病氣ニ付暇願無滞相濟候由ニハ相聞候得共何角一通り之者ニても無之ニ付、清水多吉又ハ平井郷左衛門杯江も以前之儀も承り合候処拙者意内に不相替兎角之会釈も無之」又六俸孫子共之一条も候へ者旁以外評ニもなり候儀不得止事余人相願候様申渡候
番代願書ニ付紙ニ而小頭左五兵衛江相返ス

此願書之儀又六父子并各勤仲間之面々自分場合ニおゐて無
在候得共無抛不任心底候儀ニ付差戻候余人相」

右願ハ去月中旬之内申渡候得共左五兵衛内分ニ付及猶予候処此間

ニ到り無取上旨申渡候得共右再歎仲間内江申候所難成得胃今夕再歎いたし難儀旨及返答候由相聞え候

一 明八日御仏詣御延引被成候旨大目付赤見類の為知手紙候

同月十三日快出立
一 橋元町宿屋ニ紀州小岸村茂右衛門と申者千ヶ寺松井屋源八方ニ去

ル五日泊り居候処不計病氣付尤往来持居候由養生氣を付少しニても快候ハ、立出候様ニ可申旨申含候

一 京六条通油小路下ル町香々屋兵助同手代老人小間物売。播州豊島

郡池田村月野木町植木屋平兵衛老人例年之通うへ木売兩人やと新魚町小鳥屋与三兵衛

一金昆羅參下紺町満照院二階町安樂院吹屋町熱田若狭河原町熱田市

正吹屋町教田坊安岡町喜代八佐吉留次治助善吉太郎市多助多三郎
義助佐助長蔵都合十式人撰州小林山城

八日 晴

一 一場村武七俸儀兵衛同村善七を切殺下女かねニ事をおふせ逃去以來段々御詮議候処明日御捌有之右下女かね儀福渡町源八江渡し候様ニ弥三兵衛の被申聞候

一 西国順礼来ル十一日ニ立往来八十日逗留願東新町大地屋源八妻ぶん信州善光寺江も參詣。坪井町小しほや茂右衛門妻。西新町飯綱屋源兵衛妻。西新町丁子屋源左衛門父彦右衛門并」西国善光寺
參各出立逗留同日

一 安岡町波屋嘉兵衛四国偏路来ル十日出立七十日計逗留

九日 晴

一 一場村善七下女今日御捌郡代大村庄助の送り手形来り尤村方で地

方目付肝煎庄屋組頭組合右下女召連下代植月喜三次差添被差越当
番藤森権六出会受渡し拙者を受取手形喜三次江相渡ス

一郡代所ニ而下女かね江申渡之趣左之通

其方儀善七留守同村武七俾儀兵衛連出候処随ひ立去候儀女と
ハ申ながら不届ニ候善七尋出連帰リ居候処右之意趣と相聞儀
兵衛儀善七を切殺し并其方ニ手を負せ候ニ付先達而其方事吟
味及候得共善七死し儀兵衛逃去候得者虚実難札候然共早竟其
方儀兵衛ニ随ひ立去候事起リ右躰之事ニ及候ニ付急度咎可
申候得共以憐愍宿者福渡町源八ニ引渡候

一福渡町松井屋源八江申渡 先達而一場村善七を同村義兵衛及殺害
下女ニ手を負行衛不知逃去其以來村内并右女之身の上ニ懸リ段々
御吟味有之候元来右之義者其方致世話下女ニ遣候儀ニ候得者懸り
合之儀ニ付其節及吟味候処前後返答書指出之逐一承届候然此度
御詮議筋立郡代所当役所江被相度候右女元知人之訳有之頼もし
を以致世話遣候女に候処使之通不慮之難に候もの御取計之思ニ付
而者無拠立路次候儀難計御憐愍之御取計を以今日其方へ相渡し候
以上申達無之候得共願届随分涼切を加無慮略弘致養育可遣事ニ候
尤右女へも委細申渡候聞其旨相心得可申候

一かね江申渡 其方事先達而一場村善七江下女ニ而罷在候右善七儀
不慮ニ同村義兵衛被殺其方ニも手を負せ立去リ義兵衛行衛未相知
候得共段々御詮儀村内懸り合之面々へも御吟味有之候処追々筋付
其方事も急度御取計も可付処不慮之難ニ逢候もの此上之御慈悲ニ
候哉身分にかゝり御吟味も筋立今日郡代所当場所江引渡し候上

福渡町源八江相渡候唯少義者元来其方知人ニ而頼もしを以右之善
七江致世話遣候ものニ付其訳を以取計候然上者以来源八江身をよ
せ尚又朝暮之得世話候事故万事致雅雜第一右御憐愍之所を難有奉
存源八家内之ものへも相随ひ何事もこらへ忍び保養いたし相暮し
可申候

右者自分口上ニ而段々入念申渡ス上猶又書物読聞せ候立会石名
左五兵衛大年寄藏合孫左衛門当番藤森権六
福渡町年寄浜野屋惣兵衛并組合差添罷出ル

取計早而刑法奉行中へ手帯届

一廻状井上弥三兵衛鈴木此右衛門永井甚大夫左之通

御参勤御時節先達而御伺被成候処四月中頃与被仰出依之閏三月
十八日御発駕被成候筈相極候此段為相知候様被仰出候且又御道
中御条目虎之間御縁側被指出候間御供方何れも拜見可被得其意
候右之趣翌下右御触書石名平太兵衛同心組三軒家江も組触候
町分江者虎之間御条目之儀ハ省之候

十日 曇天 十一日 晴

一明十二日御仏参御延引黒田多膳手帯

一来ル十六日詮議方ニ而林田懸り合捌申渡有之候ニ付式步中買あみ
屋伝七ゆうか屋九八平井郷左衛門於宅申渡有之候旨亦三兵衛ハ噂
有之候

十二日 晴

一御蔵米五拾壹匁五分町米四拾七匁五分

一一石屋伝次一件ニ而物入取替茂渡市右衛門川口藤十郎是迄巻貫五

百目も取替際無御座候御用相納申儀彼是申上候ニ而ハ無之候へ
共此上ニも御用候ハ、余人江も被仰付度旨申ニ付尤ニ存先老貫目
計ハ取替候様ニと申含メ候旨粗弥三兵衛江も申達置候

十三日 晴

一明十四日御仏詣御延引赤見類助の

十四日 雨

一問屋人馬継場之儀三津屋平右衛門平田屋次願出候右ニ付何角間
繕之為添書ニ而姫路明石町役人江聞合候様孫左衛門江申渡ス

一今日尾高屋宇兵衛へ馬持共掛り合去辰之十月訴答去辰之五月十九
日御帰城之節町馬式十式疋計參候と玉置忠兵衛の馬指卯兵衛へ申
渡し土居馬役人は承左様ニ而ハ土居ニ而八疋用意可致と帰りは

八十八日之儀右式十式疋疋為引參候所寄馬八疋川崎村瀬助河辺村助
兵衛為牽罷越候を卯兵衛了簡を付在馬不参立ニ而右八疋も御用を
勤老貫六百元之外酒代老貫六百元ヲ瀬助へ八百文渡し馬指卯兵衛

理八八八八三人ハ残而八百文分取候儀外ニも惣馬持共兼而卯兵衛
取計不束之儀をも詰合瀬助のハ八百文ハ不請取四百十四文受取又
履代老疋ニ付三匁ツ、八疋分受取候由彼是間違之儀ニ付今日相尋

候理八と肝煎庄助呼出し候立合石名左五兵衛藏合孫左衛門部屋目
付中山市左衛門宇兵衛非分ニ落申し候而馬持共申趣瀬助申趣ニ帰
し候様ニ吟味形付候（この簡条の上に左の注記あり）
「此二件聞三月八日於玉置宅取計路申渡一願書付有之候」

一馬揃共之吟味候去ル十二日五人ほと呼出し相尋候処是又宇兵衛非
分ニ相見へ候

一虚無僧取計林田村吟竜病中之処今昼死去致候届

一明日御礼無之候旨市村數馬の為知
一又六番代申付置候処彼是存寄申旨ニ付主意書付弥三兵衛江及樽置
候

十五日 晴

一三奉行中の廻状左之通

於江戸表日向守様御病氣之処御養生不被為叶去ル二日御卒去被
成候段申来候仍之今日の来十七日迄三日之内鳴物高声御停止之
事ニ候尤普請者不苦候 例之通夫々へ触出ス

十六日 晴

一明日例月之御社參御延引手紙赤見類助の来ル本付

十七日 晴

一中之町粟井屋善吉借屋宇助五十五歳倅喜之助九歳此度林田上之町
喜助借家へ引越聞届

一はん州あほし余陸屋宗七手代彦右衛門式人例年之通やをやものお
ろし昨日入

中之町正木屋伊右衛門切手。摂州大坂玉作上木綿町松坂屋忠右衛
門老入例年之通唐弓弦おろし売昨日入東新町因幡屋新助。播州網

干塩屋伊兵衛同弟助三郎式人例年之通荒物塩もの御昨日中之町正
木屋伊右衛門。播州堺小原屋町河内屋甚右衛門手代弥次兵衛例年
之通木綿類糸もの類端物絹切売昨日入中之町ふく茂屋武助切手

一造酒屋受酒屋運上四貫三百六拾四匁五分酒改年番直屋市右衛門の
運上奉行中へ上納且又売酒是迄追々止候物者歎出候ニ付御免之上
運上不致上納候

橋本屋

米子屋 八木屋 大木屋 浜屋 余陸屋 庄兵衛 重郎兵衛 茂次右衛門 伊助 善七 太助 五右衛門

一中之町三室屋宇左衛門梓林助備中矢かけ町登門方江参往来十八日逗留願

十八日 夜八雨

一三奉行中〆廻状 去歳被仰出候通千松様鉄弥様御儀公義御届 茂被相濟候儀ニ候間右名面之者も有之候ハ、可被相改候 右御触書之通夫々相触候

一今日井上弥三兵衛〆平井郷左衛門拙者於西湖之間被相渡書面左之通刑法惣奉行所

一旧記中載候家中寺社町在等刑法類部分記録并市郷之者取扱部分ケ記録

一刑罰部分ケハ殺害一類争鬪一類盜賊一類姦姪一類与此類ニ部分致し其内ニ而輕重之次第を可立

一町在ハ一人法を犯す時ハ五家連座之法を立五人組嚴敷可定之

一町奉行一件帳人別帳水帳闕処地帳諸禁令帳是又部分可記録候

一郡代所一件帳人別帳水帳田畑與廢地并耕田上中下之差別帳諸禁

令帳原野山川境界帳是又部分ケ可記録

右之類此度渡候書付より記録可仕立候

十九日 曇

一梓斧助誕生寺参御届申達ス

一東新町左之面々今日呼出し申渡取計其訳ハ玉林林田村ニ而大商売

募り去冬一統廻状出し候得とも所詮自他之勢ニ候得者重キ御評義

ニも相成候由之処昨日林田村之者六人追込西新町飯岡屋九八江見

屋伝七も追込尤在町懸り合ニ付詮義方ニ而取計有之候仍之右町之間屋共呼出し申渡候大意也文段申渡之扣ニ有之候

林田村玉林与之儀ニ付商売筋ニ付東新町及難儀先達而歎書出

し候得共無取上触書出し候得共米中買式歩中買馬持共右場江

調義致し又玉林林田村ニても売買超過ニ而重キ御評義ニなり

昨日詮義方ニ而林田村之者六人追込被申付西新町兩人も追込

被申渡候而郷中ハ農人に帰し商家ハ職業ニ御捌付候へハ以来

他之場所ニ無相構此度之儀不存利運を内町之面々申合上御苦

勞不奉懸候様ニ諸事可相慎旨為向後呼出し申渡置候旨申含メ

候 (この簡条の上に左の注記あり) 「江見屋伝七飯岡屋九八申渡文段右一類袋に入有之候」

廿日 晴曇

一今日西新町之間屋とも呼出し昨日之趣申渡ス両町請書取之候

一 廿一日 晴

一御駕籠浪人源六と申者所々ニ而あはれ候由見合次第召捕させ候様

弥三兵衛被申聞其旨申渡ス

一関十治〆大坂江御入用ニ付袖瓦二千枚例之通裏印遣ス

廿二日 雨

一田原屋六兵衛明八時会所江罷出候様大村庄助〆弥三兵衛江達置申

来ル

一福永屋助右衛門大坂用事ニ付廿四日出立往来廿日過書町松屋甚兵

衛方へ

廿三日 晴雨

一疏狀御渡し被成文段百姓大分之質物置申候農道具一切ニ種初少々
夫持方妻宮之神具寺之立具等取出し町方江質に置申候右々ハ利銀
半年が老割老々年ニ而も式割ニ而御座候近来ハ質座申合半年に老
割五分老々年ニも成候得者三割之高利を取り申候ニ付何とそ式割
ニ相成候様左様ニ相成候得者農業出精可仕之旨惣百姓之為と申書
面ニ而一端郡代所江廻り候上ニ而役所江相廻り候

一福永屋藤助商売用ニ付大坂過書町松屋甚兵衛江明後廿五日出立往
來四十日滞留

一田原屋六兵衛今日於会所尋有之候者兼田橋床之上十五年以前卯之
年開発願之上被仰付右場所之内ニ押入村之百姓拾人計発し候場を
六兵衛高ニ相成候へハ外高替地被申渡六兵衛ハ開料其者共へ五
石計も出し候由其儀ハ相濟候処其以前式千六百俵も調達いたし候
儀を吟味決し候上ニ而申出候事也不届ニ何候而其夕大村庄助相見
へ其段被申聞候ニ付先六兵衛儀ハ禁足申付置候

廿四日 晴

一田原屋六兵衛儀郡代所ニ而不埒有之ニ付追込申付候様弥三兵衛被
申聞書付を以孫左衛門宅申渡させ候立合無之

其方儀昨廿三日於郡代所尋之趣請答段々相濟候得共此上可申儀
無之哉と指詰申聞有之候処右之外申上候儀無之与申其上ニ而種
々之儀致發言候事右役所を不憚不届之至ニ候依之昨夜禁足取計
置候得共猶又今日郡代所ニ懸合之上追込申付候相慎可罷在候
右之写に田原屋町奉行所江呼出し申候者何角尋候儀も可相成
候段弥三兵衛江申候得者惣御代官所ニ而町家之者咎メ手錠

等ニても取計有之候地方ニ付候而者郡代所取計置候間庄助江
其段申達候由被申聞候以來其心得可然候右ニ付申渡し文段左
之通ニ候

廿五日 曇 廿六日 曇

一大坂久宝寺町尾はりヤ七郎兵衛手代権兵衛御用候ニ付昨日入京
町綿屋源七宿切手

一北山周斎備前岡山家中今岡藤三郎娘とも廿一歳姪ニ而去辰十一月
断書三月迄滞留為仕候処此度養女ニ貫申度御書他住居之願書聞届
離書来ル

廿七日 晴

一ゑみや伝七飯岡屋九八明日平井郷左衛門宅江遣し候様申来候
一秤師神善四郎名代之者為秤改去々卯之春ハ因伯出右隠相廻候ニ付
從京都上下右五ヶ国伝馬無滞可差出之旨明和八卯正月御証文土岐
美濃守印松平伊賀守印松平越中守印土屋能登守印左之通配候ニ付
届出ニ付承置候

覚

一御伝馬老疋 一賃伝馬老疋 一賃人足五人 右之就御用雲州ハ広
瀬大坂迄罷通候則御証文相添相廻候道中人馬無滞可被差出候以
上雲州広瀬領御秤改神善四郎名代額田忠兵衛印巳三月廿四日郷々
村々役人中

廿八日 晴今夕ハ雨

一今日式步中買へ於詮議役所追込差免申渡通用申来ル
一司馬五郎様八時御供揃二宮へ御遠乗被成御出候京橋御門夫ハ本町

通ニ入セ候旨稲垣茂士の通用則取計候

一御座間御目見例之通相濟

廿九日 晴

一石名平太兵衛方江中嶋喜大夫仲人ニ而養女貫候由以後伴三齋江娶候由此儀ニ付御勘定奉行清水多橋及内談候得共町方の取組候義ニ付願も不出候事以前之頭聞置と申儀ニ而其伴出府候時ハ跡ふちも出候由勘定吟味中ニハ古格有之候事と相聞え候尤三齋者御用所坊主故以後婚姻取結候上者内方ニ而可然申談候由跡夫持出候様（ト）ニも可相成と申儀ニ候

一こんや町浜次郎新田村与助借屋ニ引越当已四十六歳妻三十四才娘拾才家内三人町内人別離

一勝部村多胡左市借切之儀銀主の度々及催促甚難儀仕又候再願何とそ筋立候様申付候様申出願主山本屋与三七

一西新町江見屋伝七ゆふかや九八中買役取上若元屋勘兵衛儀者頭役ニ付禁足申付候 左之通江見屋ゆふかや江申渡ス

其方共式步中買申付候ニ付ケ条を以兼而申渡候然上者役目勿論万端正路に可相動候処先達而玉林林田村之儀ハ商筋ニ付定法も有之候処右場所大商増長致し内町及哀微候段東新町并西新町のも引統歎書指出候得共所存有之其段不取上候其方共ハ其町内に

居申者ニ候得者其訳存候ニ付心得慎も可有之処利勝之者止路実意を失ひ友喰同様之働郷中之者ニ相和し内町商売屋一味口入致し勤前之外之事に携り自他存人も不憚不屈之至ニ候此間詮儀方於役所咎之儀者相濟候得共役所存寄有之候ニ付式步中買役取上

之候

三月廿九日

式步中買頭若本屋江申渡ス

式步中買江見屋伝七飯岡屋九八兩人共右申渡候其方儀兼而頭役も申付置候処兩人之もの件之場所江かけ組内町商人共へ取次種々調義致候事乍存聞遁忽躰申付置候役前之元を失ひ取計筋身を不入候処ハ仲間之者共隨身薄（ト）く今度兩人之一条ニ不限事共ニ付急度可申付候得共以用捨禁足申付候自今万端相慎可申候

三月廿九日

廿日 曇

一田原屋六兵衛儀追込差免候様弥三兵衛の由来り則申渡引合ニ付大村庄助江通用いたし候

閏三月朔日 晴

一今日諸士登城御用江無滞濟当役於御座間御礼申上ル
一坪井町小倉屋喜助伴清右衛門義大坂錢屋七郎右衛門方へ罷越申度明後三日出立往来四十日計之滞留。坪井町塩屋八郎右衛門同断願。伏見町小田屋伊平次同断

一 分職ニ付以後

御在府年詰江 安藤造酒之助殿

戸被仰付候

分職ニ付御新

政之儀委仕被 大熊勘解由殿

成候ニ付引請

相動候様被仰付候

御年寄見習被仰付
兼而持病も有之致 安藤昇
保養相勤候様被仰付候

御新政御用懸り被
仰付候出精可相勤 伊達与兵衛殿
候尤御勝手方当時急務ニ付別而心
を付可相勤候旨而去年以来出精之
勤御喜色之事ニ付固是御目錄之通

一左之通今日御呼出し

刑法方事多ニ付 刑廷奉行
市郷惣奉行御免 井上弥三兵衛

市郷惣奉行 御政事奉行
兼役 永井甚大夫

二日 晴

一明三日四ツ時於御対面所御囃子被仰付大役人以上二男三男ニ而も
武芸之御御目通江出候者ハ先達而之通勝手次第拜見被仰付候間平
服ニ而可罷出候尤不罷出候共不及断候三奉行中廻状

一紺屋町作人浜次郎儀新田村江家内借屋引越願候得共郡代所引合存
寄有之由ニ而無取上差返し候

一三奉行中廻状去歳以来東西大番所前疏状箱被指出候向後共御留
主中御引取御在國中被指出候此段及演達候様御用所御申付「是ハ触候儀石之町分ハ引石名立ハ相触并同心三軒屋立も相触候」候
一同廻状火之用心之儀前々被仰出候得共猶又御発駕前堅申付殊御発

駕当日ハ別而相慎可申事

酒之義是又兼々被仰出候得共弥下々迄堅相嗜候様可被申付候若酒
狂杯有之候ハ、可為曲事事

一御発駕之御御城内不及申可為人込候間喧嘩口論無之様別而相慎可
申事

一奈良今井町墨屋伊兵衛手代源介老人例年之通墨壳昨日入かもヤ和
六切手

三日 晴晚大雨

一明日四ツ時泰安寺御仏詣被成御道筋例之通浜田平橋申来ル
一今日御対面所被為入候

四日 晴

一西今町冲屋庄助同町勝屋常右衛門所持自国受酒当己閏三月より来
ル申三月迄借請商賈仕度

一組屋勘十郎宮川筋水車片羽ニ相願郡代所ニ而濟届下惣羽之形也
一西新町西屋亦右衛門願私所持之家敷南側表口式間半裏行八間但土
手切半役東隣ハ山科屋源八西隣中町津田屋伝助右之家百三拾目売

渡し本証文閏三月十日ニ出ス

一戸川町南側ニ而村瀬幸寿家屋敷表口式間半裏行拾七間東隣ハ作人
文吾西隣孫兵衛ニ而寅歳断質物ニ書入銀札三百目文吾取次ニ而借
用幸寿相果右家敷同丁市右衛門受込此度返済家敷受戻し

一鍛冶前川渡近来悪敷罷成候而作人共別而難儀仕銘々組合作人とも
願出申候ニ付御断申候由懸橋之儀麦作取上御廻候迄御指置被下
候様不達者共老人共別而難有奉存候旨願甚大夫江達候所則日相濟
候

一明日四ツ時御供揃御遠乗河辺江被為入西尾多内ハ通用且又大目付
中ハ明日御出席無之旨為知廻状手帑来

一今日馬見分為致候小頭左五兵衛ヘヤ目付権六罷出ル

五日 晴雨

一今日河辺御出御延引二宮へ御遠乗同町御供揃二階町御門の八百町元魚町本町通り

一宮川大橋下倒死之者有之見分出候処千ヶ寺参坊主癩疾之由相見往來も無之由其段御届申達ス則日取埋申付候見届^{目付}中山市左衛門神田權兵衛年寄山本屋与三七五人組頭清六

六日 雨

一來ル八日座頭共千松様鉄弥様御広め御祝儀之儀申出る

一田原屋利助鳥屋左助兩人牢舎ニ付倅共替リニ入牢被仰付被下候様追々書付差出候尤旦那寺も右難申出候由然ル処当役所も孝道之義ニ付度々申上候処今日永井甚大夫右倅共願之儀及御沙汰候処先達而土井宗内倅親に替り入牢致候得共此度之儀右様之儀「有之格別御評議ニ付入牢被仰付候儀ニ付何」「申出」「無御取上候^(ト)乍去考心之段ハ寄特ニ付挨拶遣し候様ニ被仰渡由被申聞則大年寄へ申渡候

一吹屋町井戸之際野伏之子共煩居候由尤近辺加不評候由承置候

一安岡町表屋七兵衛所持自国請酒株当已聞三月の申三月迄三ヶ年借受商賈仕度旨聞届

一東新町八木屋善七の右之願

「かや町寺右衛門植木左士供ニ而江戸江罷越來春迄滞留願

七日 晴

一伊丹建治^{御徒} 一昨日御供先間違之儀^{御徒不該其外 彼是心得違} 差扣伺候処伺之通

被仰付候ニ付石名平太兵衛指扣伺候得共不及其儀候

一明八日四時御供揃泰安寺江御仏参浜田平橋の通用有之候

八日 晴

此一件一被^{有差}ニ置ス尾高屋字兵衛理八十八禁足申付候
一來ル十八日御発駕被成候ニ付町馬式十式疋寄馬十八疋以上四十疋致手遣可申旨甚大夫の御郡代所当役所江被申聞候尤寄馬之儀ハ大村庄助の例之通取計申談候

九日 雨少

一御発駕ニ付京橋の御見通し掃除ニ付町分御堀へ足代申達候

一馬指馬持出入一件ニ付掛り合ニ相成候川部村勘兵衛川崎村瀬助土居村役人の出申候酒代字兵衛の其節請取候事ニ付郡代所の兩人共ニ呵り申渡し可有之旨甚大夫の郡代所江申達し有之候由

一千松様鉄弥様御広めの御祝儀座頭共頂戴可仕之儀段々前例見合候処主税様司馬五郎様御誕生之御祝儀ハ不被下御元服之御祝儀ハ例有之ニ付其段申聞候処然ハ御元服を御取越被下候様申出候得共御取越とハ難申聞罷出候儀ニ付可為難儀間追而被下候御元服之御祝儀之内を取替為路用可相渡旨申聞候是又彼是申今度座頭共儀ハ一統御名広めの儀ニ付「主税様司馬五郎様御元服被成候御跡に御改号被成候儀」「故こもり無余儀御祝儀一ツ分ニ而頂戴仕候前説ニ承り候へハ是非「申儀ニ御座候今度御二方様御儀御公儀様江御広メ被遊候重き」「祝儀之御事御触御座候得共此儀私共頂戴不仕候而者隣国御天子様事ニて頂戴之仕儀も破れ申候ニ付是非共被仰連可被下候御広メ不奉存候へ者無是非候得共急度御触御座候儀ニ付被仰渡之通ニハ乍恐得不仕候達而御願幾重ニも奉申上候此旨申出候ニ付甚大夫へ申達候処与兵衛殿江可致同道被申候ニ付一所に罷越段々思召も承存寄も申分候上ニ而追而御元服御祝儀ハ如何

可致哉と被仰候ニ付玉置忠兵衛儀場右衛門方ニ為扣置候ニ付其段配當場江差詰可申候旨申聞則刻忠兵衛取計千松様鉄弥様御名広メニ二ツ分頂戴仕御元服御袖留も籠り居申候ニ付追而ハ頂戴仕間敷旨書付差出候ニ付弥可被下ニ今夕相決し尤甚大夫江も申達候

十日 晴

一千松様鉄弥様御名広メ御祝儀自他座頭とも江被下置候ニ付小頭石名左五兵衛ヘヤ目付藤森権六罷出ル

一銀札壹貫三百七拾四匁五分 百七拾四人 ニツ分

衆分百四人。打掛拾五人 初心式十八人。寿名式十老人小替女式一人。はれ衆分三人。在名老人 役料ニツ分六拾目

一西新町西屋又右衛門家売本証文今日差出ス

十一日 晴

一豆腐直段是迄拾三文ニ候処十四文ニ売申度左之通今日申達

壹匁式分大豆式升。三分薪代。 壹匁五分

拾丁分元入十四文売ニ立壹匁式分九匁 内壹匁五分元入ニ而 式十九文手間代 大豆高直ニ付十四文売」

一姫路屋前土橋損し御届申達ス

一御発駕前火之用心例之通御触書出候得共日取考」今日町方江触書差出ス

一安藤造酒之助殿去ル九日被為召永見と改姓被仰付候」十日此右衛門が被知候而御用所ニおゐて御歎いづれも申達ス且又安藤昇殿此間所司と改号被致候ニ付町方江も同様為知廻状出ス

一明十二日四時御供揃泰安寺御仏詣被成西尾多内が通用

一雲州仁多郡二田郡六右衛門と申者娘春母も差添男子老人連之娘老人右はる此間が煩伏見町わけヤ理兵衛と申者方ニ罷在候由

一先達而訴訟致し在中懸り合候戸川町城波後家病氣之処今日相果候由届懸り合之者故親類共町内差詰り致候様忠兵衛江申遣候

一東新町和氣屋太兵衛職人町西木屋佐助所持自国請酒株当己が来成三月迄借受候断承届ル

一原田屋馬七一方村ニ而水車片羽先達而普請仕かけ候処兄利助牢舎被仰付彼道具預置候ニ付他参留置右ニ付仕かけ造作時節も至り候故罷越申度願出候ニ付聞届遣し候

一西新町山伏吉祥坊伯州夜橋郡夜橋町山伏」院弟正覚坊当己式十

四歳町内升屋嘉平次へ引請仕弟子ニ貫申度伯州役人も離状来ル

一「町平岡屋忠右衛門四国遍路来ル十四日立往来九十日

一中之町久屋又兵衛当己五十六久米南条郡下ニヶ山手村宇助当己が

未歳迄三年切奉公ニ参願

一東新町橋元屋茂次右衛門家屋敷南側ニ而表十三間半裏行十七間半軒七步半役東隣田原屋太郎市西隣ハ水口ヤ茂兵衛西之方表五間半裏行十七間御役」同町松屋吉兵衛取次ニ而質物に書入七百目

借受来ル午十一月受」

一中嶋仙庵儀清庵と改号願

一河原町とよ断治兵衛去月十九日商ニ出于今帰不申旨届聞置

一鳥屋左助伴虎屋留蔵入牢代不相立候上私共ニ入牢撫育仕度敷出ス受」

一江州神崎郡新堂村嶋屋新平例年之通きせる筆墨昨日入塚町西川」

十二日 雨

一 御発駕前ニ付御道筋見分ニ罷出候同心老人御貸人鎗合羽籠馬ハ御渡し不被成候小頭石名左五兵衛大年寄藏合孫左衛門罷出候

十三日 雨

一 馬指取上禁足申付候尾高屋宇兵衛其外小性町八十八町理八儀も今日差免し申渡す

一 明十四日四つ時地藏院泰安寺御社參御仏參之儀西尾多内

一 御徒目付遠藤十助倅銀藏儀ニ付仲間預ニ被仰付御使組兩人番ニ被仰付候処御発駕前御人少ニ付同心の兩人差出候様ニ被仰付候此儀

是迄御使組江加番ニ同心組の被差出候儀無御座候彼等儀ハ非常ニ御備被成候者共ニ付屋敷番取受候事決而難相成候旨申達候処左様候ハ、老人出し變儀ニ候ハ、御使組小頭江申遣し被引取候□尚又

被申聞左様ニ候ハ、各様御趣意ニ而同心組老人ツ、御渡被成候被仰聞候へハいか様共為知可申段申達候所甚大夫委細被申達候上被

是抜指いたし相濟候間差出し候に不及候旨相濟候

一 御当日御先手立宿花屋番八江申付候同心宿年寄戸屋岩右衛門方

十四日 晴

一 津川之焼炭之儀此度御用ニ付川下し被仰付候右ニ付以後故障筋無覺束存寄書も差出候処川下候而差出ニも相成候而津川ニ而増焼炭

可被仰由大沢長大夫請合候由其旨相心得候様甚大夫被申聞候郡代所取計ニ付役所無構ニ付畧之

一 町方并在分ニても往還筋御通り之節旅人往来之儀是迄致来之通可取計尤右之内 公儀御用可為別□但可□事なり 宮様方御用可取

計但通しニ而不調法ニ不成と云事也 早追右同断但不調法といふ事□

右之外急飛脚之類達而罷通度断有之候ハ、脇道有之場所ハ其方江遺左もなき場所候ハ、断之訳御先払の段々御跡江申継達御聴御免

之上可相通事此段甚大夫の被申聞候

一 米切手老斗卷升一枚拾ひ又ハ買取候者有之候ハ、可申出旨甚大夫の被申聞今日蝕町方江出ず尤遠藤銀藏不埒之一件ニ付御徒中村定

八懐中之切手之由

一 錢七拾五文遣

一 大坂久太郎町□屋藤兵衛手代清兵衛例年之通大工道具売昨夜参ゑひヤ長右衛門

一 東新町八木屋善助倅幸吉与兵衛殿へ出入奉公□と改姓届一堺町小鳥屋次郎右衛門歎書先達而も申出候鳥屋佐助妻子四人御預

に相成候大切養育致候処何卒相続成ル迄ハ色々相暮候得共甚不勝手ニ付暮方及難儀候必至及飢渴候ニ付歎書差出候

十五日 晴

一 東新町橋元ヤ茂次右衛門家屋を質入ニ致し右本証文差出ス一今日御前御用処へ被為入例之通出座之面々追々引続キ詮儀方御勘

定奉行郡代当役罷出候御意之趣御留主中いつれも別而入念可相動折角息才可罷在旨蒙仰候

一 東新町橋元ヤも次右衛門願私身弱御座候ニ付為後見ニ宮村茂市義内縁有之引越世話仕呉候様仕度当年の来ル申年迄四年之間家内四人引請申度奉願

十六日 晴

一 御留主年三八御用日被仰出候旨甚大夫被申聴候

一 先達而シテ懸り合多胡左市与三七江返答書大村庄助シテ受取

一 細工町大工藤助江戸表へ来ル十八日出立当秋迄修行滞留。茅町作

人幸右衛門植木左治供ニ而来春迄滞留両様甚大夫江届

一 川端又六先達而申渡候番代之儀小頭迄之場相ニ「彼是事六ヶ敷候

処段々筋付是迄造酒之助殿ニ相動候香山太蔵と申者取組候ニ付小

頭左五兵衛シテ造酒之助殿家臣松木勝蔵江も申談候処何之構も無之由ニ

付今日小頭部屋目付同道ニ而太蔵儀目見請申候

十七日 晴

一 馬統之儀当年八四拾四疋津山シテ出申候ニ付内寄馬式拾式疋出申候

儀尤土居ニ而三拾六疋差越呉候様ニ申来り勝間田シテも式拾五疋ハ

宿用迄式拾六疋ハ土居江通し候ニ付其旨申付被下候様頼来り津山

ニ而者寄馬と申も在中懸りものニ候得者多宿之為御費候間聞合も

仕度入込候御使組勝間田ニ様子内聞仕度甚大夫迄内分申候而御使

組渡部甚蔵小頭同道ニ而差出候ニ付内分申含メ候

十八日 晴雨少し

一 今日明ヶ六ツ時可被仰出候処五ツ時御機嫌克御発駕被遊候町奉行

例年場所江罷出候御俊約ニ付馬挾箱無之立宿茂渡藤右衛門宅大年

寄蔵合孫左衛門玉置忠兵衛罷出例之場所孫右衛門ハ不快

御先払小頭石名左五兵衛 平中山伝内石名左助 掃除見分藤森

権六三船孫八 人留メ中山市左衛門 自分供福田甚蔵 合羽籠

ハ出申候 諸事無滞御届甚大夫江申達ニ「動

一 勝間田ニ而内用申聞置候御使組渡部甚蔵罷歸り様子承之候

十九日 晴

一 若松屋善左衛門内用ニ付大坂北浜泉屋久右衛門方へ參候明後十九

日出立往来廿日計之滞留之旨。今屋伝助愛宕參明廿日出立往来廿

二日

一 戸川町疫病除之百万遍今夕五ツ時自身等引候後修行仕度ニ「

一二階町塚屋忠助商筋ニ付他參仕度當時預者有之候得共親伊右衛門

右之者引受勿論同役山手屋弥太郎へ頼置候由甚大夫江及沙汰聞届

廿日 晴

一 送り者雲州仁多郡下横田手付百姓六右衛門娘十三歳はる參宮帰播州辺シテ煩

出し去ル十一日之頃シテ当所伏見町和氣屋理兵衛と申やと屋江泊り

相勝レ不申連之者ハ市右衛門と申ものきた十一歳と申者母老人各介抱い

たし居申旨申出同心廻りシテ心（心）を付大年寄シテも町内年寄へも申付医

師等も心を付候様申渡候処段々致平（心）愈送り出し呉候様ニ相願候ニ

付右之者シテ段々御役介に預り候旨書付取之町内年寄之書物ヲ以あ

んニのせ今日新田村江送り出し申候尤届申達ス

一 茂渡藤右衛門岡山大和屋清右衛門方へ用事ニ付罷越申度明後廿一

日罷立往来八日計之滞留

一 安岡町久米屋清兵衛借屋長八願ニ而新魚町河本屋伊之平と申者江

懸り誕生寺先達而法念之參詣於小原村口論尤右長八悴平吉相手ニ

而訴答今日差出

廿一日 雨

一 安岡町魚町懸り合ニ付安岡町可呼出と申渡候処延引申遣候

廿二日 晴

一 大村庄助出郷御領内廻り之由留守中頼ニ付其段申達ス下代植月喜
三次御用向之儀申出候而其旨取計日記ハ別ニ此方不相記旨同人
江申聞候申達シ又候聞届候事度々ニ申聞候様ニ致し置候

廿三日 晴 今日御用席

一 戸川町城波後家先達而之訴答後家難儀申候得共御詮議可有ニ
付今日詮議方江書面相渡り候由

一 御藪之笋子番屋ハ是迄之通夜分ハ小屋之者両度ほとも相廻候様尤
最寄御家中屋敷江も其段為御知有之候由柳之土手御藪ハ昼夜共ニ
小屋之者相廻り候様可申付旨今日甚大夫被申渡廻り初候義ハ御
作事為知候様申談則大年寄其段為知候

一 戸川町一件詮議方江御渡し被成候儀も為心得大年寄へ為知候
一 又六番代香山太蔵儀昨日出番今夕初廻り

廿四日 晴

一 明廿五日九ツ時御供揃ニ而二宮辺江御遠乗被成御出候ニ付田町御
門の大番前夫本町通り稲垣茂土右通用也
一 岡山家中抜古庵祖母伯母之由此度罷越廿日計逗留川嶋桃庵断書承
届ル

一 勝間田町山形屋九兵衛西国順礼来廿六日立往来九十日逗留
一同町浜田屋雪同断

廿五日 曇雨

一 鍛冶町かちや伝右衛門家内六右衛門二年已前卯年十一月願弓削村
長吉方へ出職致候処勝手ニ付此度六右衛門倅宇平次老人罷帰り致
世話候願

一 吹屋町中之横町西側ニ而私家屋敷表口四間裏行七間但三步役也北
隣ハ松屋清右衛門南隣ハ爪生屋仁左衛門銀札式百匁ニ相極新魚町
松屋清右衛門江壳渡し申旨爪生原屋仁左衛門壳主本証文同三月廿
八日出る

一 堺町西川屋善助ハ尾州嶋崎神職吉田左右と申者上下式人永見齋宮
殿御内祈禱被申付候ニ付要用之儀有之候而日数廿日之逗留宿仕度
旨申出候ニ付去歳之取計承合セ可申付旨申聞候

廿六日 晴

。 中山市左衛門野井野江用事ニ付願候間罷越候
一 御藪笋生出候ニ付是迄ハ下目付組御中間昼夜相廻候処此度小屋之
者ニ夜廻り申付候様被仰出候由甚大夫被申聞此儀存寄を申上候而
非人共江申付候儀見合

廿七日 雲

一 大村庄助今日中帰りニ而対面山本屋与三七多胡左市懸り相借物出
入之儀明日市郷奉行江差出候様可致旨引合相濟明日双方之書面差
出候様相極候

一 吹屋町土手端に相煩候野臥小女昨夜中相果候旨右町内ハ届出候早
速見分ニ差出ス福田甚蔵石名左助病死ニ無相違旨一札取之則取捨
申付其段甚大夫江相届ル

廿八日 雨 御用席

一 佐久間上総殿今日被為召大旨左之通
御自分儀養子被仰付候間相成之者可被相願候尤同氏兵右衛門倅
等有之候ハ、是たり共勝手次第可被相願候且又兵右衛門儀先達

而御自分江御預候処□後御免被成候徘徊勝手次第面謁御目通ハ可致遠慮候

一玉置忠兵衛今日御城江罷出来午四月廿五日関小十郎殿江戸出入立入部ニ付五月十一日勝間田休同日津山泊坪井同十二日勝山泊同十三日小さか部休之旨用人原田要人今村斧右衛門日高弥右衛門名前先触之書面ニ而使高木惣右衛門と申者参り尤先年蔵合孫左衛門方止宿も被頼候得共当時ニ而者請難儀之旨応対之上忠兵衛方へ被頼候旨先留主申候段内々相伺出候ニ付則甚大夫江申達候処役人江伺候て先役人江申候事ハ不宜相对ニ而止宿之請致へき事ニ候其旨ニ心得候様尤御湯殿雪隠其外馬盤□旁御借被成候取立候儀ハ自分物入ニ而可致之段止宿請之儀ハ勝手次第ニ致候様申聞せ候

一惣側御敷廻り之儀ニ付非人共相廻り候儀不可然奉存候ニ付式三ヶ条存寄候内分申候処今日右之儀ニ付甚大夫の手帯到来御手人ニ而相濟候様子御敷ハ昼夜共非人共相廻り候様可申付之旨申来ル則申渡候

廿九日 晴

一御蔵米五拾三匁五分町米四拾九匁五分 錢相場七拾五文
一中之町乃の字屋徳三郎と申者之娘之由先達而右徳三郎方江娘を妻ニ致し候而後彼方へ役介ニ致し居申娘ハ先達而相果孫子も兩人有之由ニ候処右徳三郎致方悪敷其上追出され候よし毎度申堪忍なりかたく年寄組合も趣意取次くれず候ニ付無抛直訴申置公事を申ニハ無之鬱憤申述候得者いつ方江も罷出いか様ニも可相成之趣申ニ付則刻大年寄江申遣し徳三郎と申者呼出し相守可申旨尤直訴之

者八年寄組合家主召連に参候様申遣し迎に参候ニ付年寄江相渡し右徳三郎と向ひ合不□様可仕旨申付置候左五兵衛も相詰罷在夫々取計候

一石名平太兵衛先達不不快ニ罷在候処今日出勤

四月朔日 晴

一尾州嶋崎神職吉田左右去月廿五日書面ニ有之候通一通り之者ニも無之永見齋宮殿祈禱を事候旨町方之者帰依蜜させ甚難濟役所すべも違候而悪敷外歴々方引例ニ相成候儀も不宜候ニ付小頭左五兵衛儀一昨日造酒之助殿家臣江うつり申含メ遣し候処今日使参右之左右儀祈禱も頼候間十五日之日数聞届くれ候様御申越候付承置候

二日 晴

一稲荷山草苺之儀例年之通今日取掛り候旨中村豊次届申出候

三日 晴

一去ル朔日之不屈吉田左右儀逗留日数先月廿四日之日取に可申付哉永井甚大夫江此間々致沙汰置候ニ付今日又々決定之処相伺候上ニ而弥願出候日十五日之日取ニ可申旨ニ付申渡候

一稲荷山草苺今日取掛り候段甚大夫江達ス

一戸川町城波後家去月廿三日不屈ニ付郷左衛門方ニ而明日詮議致候間懸り合之者共ニ大年寄差添差越可申旨通用其段大年寄江渡ス
一滴水之節大目付中江為知候様右役所ニ而黒田多膳被申聞候尤最寄申聞候而宜敷之旨

一中山市左衛門去月廿六日野井乃へ行昨夕帰宅之届申出る

四日 雨

- 一 乃井野の先触到来囚人彦人但目簷入右之御用ニ付当預り所作州大庭郡久世村迄我等召連之明後五日曉乃井野出立罷越候条川渡舟等之場所者勿論泊休等之場所迄も飽末無之様入念夜ニ入候ハ、明松差出可申候以上 巳四月三日森对馬守内白檉与市 左用土居勝間五日相り田津山坪井久世右問屋年寄中津山ニてハ宿三軒御申付可給候
- 右之通申来候ニ付申達し郡代中江も及通用且町分取計申渡ス右囚人ハ去辰十月十八日止宿致候久世原方娘を殺候定平と申者之由此度乃井野ニ而伺相濟久世江引死刑獄門ニ相成候由ニ相聞候
- 一 堺町ひこ屋治兵衛方参宮下向之者雲州飯石郡吉田村金助二十三才八二十六才喜太郎二十三才先月廿八日播州辺の病人ニ而漸来夫の相煩種々介抱致し医師等も立入氣を付候様大年寄共の申付候処致積氣然ル処雲州親其外身近きもの迎ニ罷越候由申出候間書付を取候上ニ而差歸候様ニ申渡候
- 五日 晴
- 一 大村庄助の詮議立合病人有之候間同心彦人差出しくれ候様ニ申来室井作右衛門遣し候
- 一 乃井野囚人今晚到着目籠左右前後先江三人跡三人「其次江白檉与市駕籠脇両人道具挾箱仕置道具先江参候由役人」見へ駕籠相見へ候同心江乍駕籠挨拶
- 一 宿屋途中江罷出止宿ニ而心得之儀役人江伺候事
- 一 藤森権六中山伝内林田鍛冶町の跡ニ扣見計申候事材木町の先江廻り桃灯二帳ニ而参候由

一 囚人着之上立宿ニ扣高帳夜中建之相見市兵衛挨拶として参候此方同心小頭

のを見舞へ罷越候尤同心儀大年寄并其辺之年寄宅江罷越候由

一 大年寄も止宿江見舞ニ罷越候事

一 式步中買用意致候処入用無之候事

一 囚人宿ハ鳥屋与三兵衛方ニ止宿同心相詰候由先方

一 堺町例之場所東西に繩為引立番一時代りてうちん例之通近町火之用心申付退場ハ成道寺大雄寺社取次中ハ拙者通事ニ而濟

一 石名左助福田甚藏替合相詰翌日兩人取計候

六日 晴

- 一 囚人今朝出立無滞旨届之則申達候
- 一 戸川町之掛り合郷左衛門於宅今日詮議ニ付孫右衛門差添罷越候左之通
- 後家組合兵助茂七伊兵衛忠助長七七左衛門年寄高尾ヤ藤助玉津家主
- 屋勘左衛門後家親分こん町四郎左衛門組合相添
- 一 京町ゑびや長右衛門やと切手京都烏丸通六角下ル町二文字屋手代金十郎新兵衛甚六善八の四人例年之通呉ふくもの売昨日参
- 一 司馬五郎様九つ時御供揃ニ而二宮辺江被為入二階町御門の本町通り大番所夫の藪田町御帰ハ安岡町本丁通ニ候旨稻垣茂士通用
- 七日 晴
- 一 鍛冶町鍛冶ヤ梶兵衛甲州身延参詣来ル十日出立式百日計逗留
- 一 福渡町阿波屋長左衛門家屋敷表口四間裏行拾七間但彦軒役也西隣ハ住屋新兵衛東隣ハ但馬屋武左衛門也右屋敷西之方ニ而表口式間半裏行十七間但六歩五リン役也代銀札百匁同町森原屋宇兵衛ニ売

申度願

一中之町藤屋安右衛門家屋敷北側表口三間半裏行拾五間但半役也東隣茶屋喜左衛門西隣ハ才布屋伊助也代銀札三百五拾匁同町三室屋

〔助へ売渡本証文当月十日ニ出ス

一勝間田町大屋仁左衛門身延參來ル八日ニ罷立九十日計之逗留

一堺屋忠七岡山高砂町鐔屋加兵衛方江來ル八日ニ立往來十日之願

一茂渡市右衛門備前岡山車屋六大夫所江要用ニ付來ル十日立往來十日計

八日 晴

一稻荷山草苧上候届申達ス

一藏合孫左衛門川下もの運上取計五百匁斎藤孫右衛門塩運上もの取計三百匁玉置忠兵衛綿実川下運上取計百五拾匁右三人勤金半年分被下之候右之内忠兵衛儀ハ油ノ運上式匁ニ而川下運上ハ式匁五分ニ中り五分ツ、御容赦ニ付相減し候向後ハ同人江者不被下候由今日三人江申渡ス

一二階町珠数屋金七昨夕同町罷出候而帰不申方々尋見申候所林田百間土手尻流死致し居申旨註進申出即刻部屋目付藤森権六へ申付郡代所々下代替り神西源内双方地方の大庄屋其外立合見届惣身疵も無之例之通取計候旨申出候ニ付市郷奉行江申達し死骸取納候様申渡尤金七後家々書付差出候

九日 晴

一永井甚大夫の手帛到來申達候御用向有之候ニ付唯今宅へ可参よし
ニ付罷越候処刑法奉行立合ニ而甚大夫被申渡

勝手向及極難候由家内多人數ニも無之処不勘弁之義其上御時節をも不願難洪申立候段不調法之事ニ候併當時ニ至術計無之急難無余義義ニ付三ヶ年之間家内人別扶持御渡し依之物成渡被差止候尤右年限之内御用向之外致禁足随分艱難相暮取統御奉公可相勤候

但悴義武芸講釈等ニ付罷出候事勝手次第ニ候

右者兼而勝手及困窮去暮以來郷左衛門を以御歎申上家内夫助難成飢渴と申趣ニ追々申達し候所是迄種々之取統候得共々先月下旬以來申立致し置候上書面之通ニ被仰付候仍之郷左衛門を以指扣之儀同候処不及其儀旨甚大夫ハ同人江申來候

一郷左衛門ハ戸川町掛り合再詮議致候間明日五つ時四郎左衛門其外大年寄差添罷出候様可申付旨其段申遣候所四郎左衛門儀此間不快之由申出其儀郷左衛門江申遣候得共何分戸川町面々を差出四郎左衛門ハ快氣次第差出し候様申來り尚又其段取計候

十日 晴夜中雷雨はけし

一去ル三日之書面吉田左右今朝罷帰届申出候尤今年切也

一明十一日昼後直訴之祖母并徳三郎呼出し候様孫左衛門江申聞置候

十一日 晴

一今日徳三郎并同人先妻之母呼出し中之町年寄五人組ニ等各罷出石名左五兵衛部屋目付中山市左衛門大年寄斎藤孫右衛門書役野村喜兵衛出役阿申渡之訳一件袋ニ入置候直訴致候事相呵候へ共早竟先妻死後之為渡世として後妻を求め殊に孫子も兩人迄も有之処徳三郎仕方も不宜候由祖母も相果候娘儀ニ付述懐奉り申募互之和順無

之処より及直訴併右底申候趣ニ候得者以来同居ハ難為致年寄江為致養育物入をは割合を以大家并五人組江も相応之取計為致可申付候存候処彼等申談此間願書出し徳三郎右之祖母江月々老斗五升擬借屋もかり受遣し可申和談之上大家五人組迄一同徳三郎祖母并徳三郎女ミす迄申出候ニ付為心得右擬以後無相違旨書付取之候様申渡為引取候別書ニ留有之故畧爰ニ

一 去ル八日ニ 断書茂渡市右衛門儀岡山川崎町車屋六大夫方へ当月十日ニ 立往来共日数十日計之逗留ニ 罷越申度聞届

一 若松屋善左衛門印形紛失致候ニ 付改印断出ル

一 来ル十月万人講日取五日六日伺書出ル

十二日 晴

一 上之町文針儀虚無僧取計ニ 候儀中嶋徳助土井太郎右衛門申渡し其旨大年寄へ兩人申通候筈之由以前吟童儀者中庄屋ニ 而大庄屋支配新仕儀者大庄屋中庄屋無之直支配之様相成居申候文針儀者庄屋支配ニ 申付候重キ寺社たり共人別之儀百姓同列之事ニ 付准之候由上京又ハ本寺ニ 文通等ハ先例ニ 任大年寄取計可然事ニ 為此段通申候旨大村庄助申手栞来候

十三日 晴

一 講元来ル十月万人講六百 伺候処何れニ 而も申付候様御聞濟ニ 而候一 先達而御徒中村定八紛失切手今津屋孫十郎へ買取候処此度米を受取候共払候共勝手次第可仕旨被仰付其段大年寄へ申渡ス

十四日 雨

一 明十五日九ツ時下紺屋町四郎左衛門郷左衛門於宅城並後家一件ニ

付再詮議取計候ニ 付大年寄差添罷出候様申来る其旨申渡ス

十五日 晴

一 今九ツ時司馬五郎様川辺江御遠乗被為入京橋御門夫ハ本町通り御道筋之由稲垣茂土ハ通用申来候

一 久世出雲守殿領分西々条郡原村座頭城吟当已五十四歳同妻とめ四十三歳娘てん三才家内三人縁家之者ニ 付引受申度原村庄屋多吉と申者ハ離状も来候下 屋町兵庫屋弥助願此度座頭儀ハ兼 而配当場ニ 申付度者ニ 候所他所ニ 居申候 而者其儀ニ 難成有之候処此度幸御城下へ人別人可仕ニ 付弥助引受ニ 致候由今日則御聞届被成候故其段申渡ス

十六日 晴

一 本覚寺夜念仏致執行候旨御取次佐々木弥大夫ハ通用

一 東新町鍋屋八兵衛願林田村作人弥三郎と申者之借屋ニ 罷在候丸木屋長四郎義此度家内六人私借屋へ引越させ申度聞届

一 万人講来ル十月五日ニ 極両橋建札之儀申渡ス届も申遣ス

一 虚無僧大年寄ハ改メ申渡候ニ 不及段大年寄齋藤孫右衛門申聞候其趣「」承置候

一 同心香山多蔵願書実父吟龍義兼而虚無僧取計役被為仰付候処去冬ハ病冬ハ病氣養生不相叶当春病死仕然ル処虚無僧取計役之者未被仰付も無御座候ニ 付宗縁之者共より何卒私江右取計役相動候之様相進候ニ 付此度私江右取計被仰付候様奉願候。右願書外ニ 弁書本寺表ハ先達而吟龍本則之儀先私江預り置候様申来候ニ 付相預り置申候今般本文奉願候通被仰付候得者役僧兩人御当地江引越万端可

致世話旨申候ニ付奉願上候宗門之儀ニていか様之苦敷儀出来仕候
而も兩僧引請御上江御苦勞懸ケ申間敷候虚無僧之儀ニ付為指御用
向も有御座間敷与奉存候得共万一御尋もの等内々御聞合等之儀共
又ハ忍ニて捕候もの之為引被為仰付候得者当国者不及申近国迄も
致通行候之儀者吟龍名目ニて遣候得者余国之宗縁ニても随分取持
與申候右之通「仰付候得者私御奉公之儀ニ付何之構無御座候様子
追而本寺表申来候様可仕候何卒右之兩僧願之通御当地江住」為
仕度奉願候旨別番相添出し去ル十三日市郷奉行永井甚大夫江申達
候処可然も被存候得共此間郡代所ニていつれニも文針を取計役被
申付是迄町在相兼而老人勤来相濟候右本則も所持預り置候儀ニも
候ハ、銘々之嗜「時節を見合セ候様ニと存候旨被申於拙者も此
儀押立候而為勤度と申ニて者郡代所江懸りいかニ付同事之心持
共通りニ相止申候様可申聞旨及即答候

一之宮市町ニ付竹田からくり拾老人連參り懸り候ニ付神主中ハ被
相頼候処私彼之地江罷越世話仕度尤市町中役者共万端私引受喧咄
口論不仕候様ニ取計可申候御上御役中様へ少も御苦勞掛申間敷候
尤於社不調法ニ取計御座候ハ、如何様共可被為仰付候旨河原町山
かた屋新太郎願出。戸川町伝六願六人連之輕業參り懸り兩通申達
し相濟右各一札出ス

十七日 晴

一御奏者市村数馬村山平学太田舎人ハ廻状殿様御道中倍御機嫌克去
ル五日被遊御着府之段申来恐悦之御事候右為御歛御帳付候間明十
八日辰之中刻ハ巳之上刻迄之内登城可有之候此旨同役属役支配方

へも可相違候以上 四月十七日

但右ニ付拙者江ハ別ニ手辨別紙廻状差出候得共明日御帳付候義
者被指扣可然之旨御用番申来候間左様御心得可被成候以上
奉承知候旨返事遣候

一宮市町大坂八人連之方持參り懸り安岡町出屋茂市願聞届一札出
ス

一同福渡り町永本屋喜助願參り懸り七人連之万歳聞届一札出ス

一茂渡市右衛門岡山ハ昨夕帰宅之由届申出ル

十八日 晴

一今日御歛御帳付候昨日書面之通ニ付拙者着用之儀外並之通ニ可仕
与甚大夫迄昨日申遣置候 式日者一同之儀御歛申上候ニ付上

下着用仕候儀ニ候「無其儀候而外並之着用ハ如何ニ付平服ニ而
罷出勿論御用席出座之節も右御悦不申上候様ニ可仕旨今朝甚大夫
江申談候処其通に仕可然旨ニ候間平服ニて罷出候

一先達而差出候山本屋多胡懸り合兩役ハ詮議方へ指置度ニ付受取置
候処元来借物筋返濟筋之訴答之通ニ候借候物者返し貸候物ハ取戻

申候事其道理ニ候仍之大村庄助江申達し与三七江急度返濟候様ニ
左市江被申渡候様尤大庄屋「共々其儀取計セ可申旨申達候間弁書

及返進候旨甚大夫今日申聞候

一坪井町劔屋市郎左衛門後家地国受酒株去辰年ハ三ヶ年之間東新町

樽屋清八江借置候処当年相戻し候旨承届

一西今町菱屋治兵衛願後藤守助長屋ニ居申候勤次郎妻当巳ハ六拾歳ニ
相成申候右之勤次郎縁家之者ニ御座候然所此度病氣ニ付私方江引

受申度旨承届候

一 東新町樽屋清八断西今町久米屋勘七所持之地因請酒株当己之年〆未之年迄三年之間私借請商買仕度奉願候勘七方ニ而請酒商買不仕候旨承届候

一 堺町檜皮屋平次郎願堺町北側ニテ私家屋敷表口式間半裏行拾貳間半志歩六厘役也東隣山北屋伊兵衛西隣ハ作人幸吉右之家やしき船頭町作人喜八に代銀札百五拾目ニ売渡し承届同月廿二日本証文出ス

一 明十九日於町会所酒改共聞酒致度旨断出し申候ニ付御郡代所ニ而下代溜之間八疊分御代官役所ニ而次之間八疊分借し渡し之義甚大夫江申達し御勘定奉行江談し御代官中へ被申通承知御郡代所江も申談し相済大年寄江其段申聞せ候

一 去ル十六日之書面上之町虚無僧取計露計文針町奉行役所ニテ改メ申渡し可致よし大村庄助申聞候得共其儀大年寄共申趣ニテハ御郡代所之者右御役所ニ而取計之儀被仰渡大庄屋〆通用申来候ニ付致承知候旨返答申遣候上ハ私共場合ニ而申渡ニハ及不申候以来左様ニ相心得居申候得者取計之儀一通相済申候由申ニ付町分も済候と申儀露計江庄助より被申渡候趣相成申候

一 一宮市今日〆相初り候ニ付例年之通同心差出ス去歲芝居於小屋警固之面々と此方同心吳論之趣も有之候ニ付当年ハ右場所勤方心得ニも相成候書付相認昨日小頭於宅其趣申「候今日藤森権六三舟孫八罷出候

十九日 晴

一 一宮江中山伝内右名左助罷出ル

廿日 晴

一 虚無僧取計露計文針於郡代所町分取計引受も相済候旨被申渡と相見へ玄関迄届ニ罷越候

一 中山市左衛門福田甚マツ一宮江罷出ル

一 越中富山松屋理兵衛役介嘉兵衛勘兵衛与申者兩人昨日罷越例年之通当十月迄請人取私手前ニ召抱置売業仕せ候願京町きくヤ清左衛門

廿一日 晴

一 小性町上横町西側ニ而所持之家やしき表口八間五尺裏行拾壹間一軒役南隣ふしのヤ藤助北隣ハ堺町丸龜屋文六土藏ニ而右家屋敷町内相談之上代銀貳百五拾匁右丸龜屋文六へ売渡し式丁目井田屋庄右衛門願

一 西今町ひしヤ治兵衛引請候後藤守助長屋勘次郎妻ひち「女乱心ニ而あれ候ニ付致方なく妻儀去秋〆長病介抱無人故難仕女あれ候節ハ甚難波仕ニ付御憐愍之上借牢之儀願出賄之儀ハ日々持参可仕旨。守助長屋勘次郎一札ニ娘久米倅弥吉名印ニ而乱心ニ付あれ候ニ付御牢拜借之願段々之世話此儀ニ付申分少も無之旨取之候願書差出ス。香山千「中山市左衛門一宮江

廿二日 曇天夜ニ入雨はけし

一 一宮出藤森権六三舟孫八

一 於宗道近來専はやり候疫病ニ付加治町之者共日待仕度旨聞届

廿三日 曇雨少

廿四日出
一一宮へ福田甚蔵神田権兵衛罷出る中山伝内石名左助

廿四日 晴

一堺屋伊右衛門切手播州今市綿屋嘉市郎手代忠七同武兵衛例年之通
呉服物并帷子売昨日入

一三丁目井筒屋嘉吉所持之他国受酒去ルヨ三月廿日巳年迄東新町八
木屋善七借置候処度取戻し断

一堺町小鳥屋次郎右衛門同町大室屋藤兵衛去ル五日乃井野久世
江為引候咎人ニ付差添役人白檜与市と申仁宿致候節無滞相濟候得
共次郎右衛門方ニ役人泊り役人ハ大室屋ニ泊り候儀ニ付馬屋与三
兵衛申候意味相出来訴状返答書大年寄共々差出し候。

廿五日 晴

一一之宮中山市左衛門香山子蔵

一西今町浜屋藤蔵家屋敷北側ニ而表口五間裏行十七間七步役東隣鳥
羽屋源次郎西者本源寺門前之横町右之家屋敷并有来土蔵式ケ所湯
殿雪隠其外建物不残代銀札三貫目相極三倉屋佐吉江売渡し申度願
承届ケ同月廿七日日本証文出ス

一右家去ル子七月之断辰年迄五ヶ年切町内三倉屋善四郎取次銀札式
貫五百め借用此度右銀札返濟質物受返し

一福渡町大坂屋九兵衛後家南側ニ而後家屋敷表口式間裏行拾七間五
步役東隣ハ真住屋忠吉西隣作人新助代銀札六十目相極町内作人仁
兵衛江売渡申度承届同月廿八日本証文出ス

一三奉行中々廻状

於江戸表井伊掃部頭様御三男正助様御病氣之処養生不被為叶去

ル十五日御死去被成候之段申来候仍之今日明後廿七日迄三日
之内鳴物高声御停止之事ニ候尤普請ハ不苦候右之趣

四月廿五日 夫々例之通廻状差出候

一司馬五郎様八半時御供揃ニ而二宮刃御遠乗被為入御道筋田町御門
より大番所前夫々今町安岡町之旨稲垣茂士々通用

廿六日 晴

一市村数馬村山平学太田舎人々廻状

從江戸表飛脚到来殿様倍御機嫌克被成御座去ル十五日御參勤之
御礼首尾能被仰上候之旨申来恐悦之御事候右為御歛御帳付候間
明後廿八日辰之中刻々已刻迄之内登城可有之候此旨同役属役並
支配

四月廿六日 夫々相触候

一三奉行中々廻状

從江戸表飛脚到来殿様益御機嫌能被成御座去ル十八日御老中御
連名之御奉書御到来浅草御蔵火之御番伊達遠江守様御代り被蒙
仰候旨此段為相知候様被仰出候右之趣同役

四月廿六日 夫々相触候

一茅町木屋六右衛門家屋敷北側ニ而表口三間裏行四間半步半役東
隣ハ碓屋彦六西隣ハ作人仁助右やしき代銀札三拾目ニ極同町作人
利七江売渡し

一川嶋桃庵先達而断出候岡山拔古庵祖母罷帰候老人之義故召連罷越
申度明廿七日立往来十五日逗留仕度旨承届。藤森権六室井作右衛
門一宮

廿七日 晴

一今町菱屋牢借之願ニ付当否考候処菱屋儀ハ勘次郎兄ニハ候得共
「中之人別ニ候勘次郎妻狂気致候迎離縁も不致候者を町人別に入
れ菱屋ハ借牢之儀願を引受申儀如何と存大年寄共江も例も候哉と
尋候処無其儀候然るを最初守助長屋者之処に不心付引請願聞届候
儀全役所之不念と存候ニ付一通り今日手帟ニ而申遣し置候

廿八日 少雨

一乙次左助利助役介とも去暮以来親類預ニ被仰付置候処親類預御免
被成家財之儀ハ当人分ハ是迄之通ニ封印役介共之分ハ銘々取分勝
手次第ニ可仕家屋敷之儀致借屋候共住居候共勝手ニ可仕之旨被仰
付候則日大年寄孫右衛門江申渡ス封印改メ仕分之為小頭石名左五
兵衛部屋目付藤森権六兩人遣ス親類共ハ当人道具預り之一札取之
帰る

一中山伝内福田甚蔵一宮ハ罷出候

一大嶋屋平右衛門身延参廿日計之日のへ断

廿九日 晴

一中山市左衛門神田権兵衛一宮罷出る

卅日 晴

一京町加茂ヤ和六切手越中富山舟橋町松井屋源兵衛同手代嘉七上下
式人例年之通反魂丹売昨日入

一虚無僧取計露計上京此度取計役於郡代所申渡有之本寺江罷越宗鉢
法式等伝請可致来月早々出立仕度大年寄ハ添翰遣しくれ候様露計
申出候由。白銀式枚式兩往來樽代四匁白銀壹兩役僧へ外ニ八拾

五匁道中雜用ノ百八拾七匁九分願書老通出銀書付ノ式通式兩ハ被
下之候由銀札五拾匁計是ハ町在江懸候由

一室井作右衛門三舟孫八一宮江罷越ス

一永井甚大夫ハ呼に参罷越候処菱屋借牢之願差出し役所ニ請取有之
候ハ、来ル三日差出可申病女ニ而引請之願何分聞届候上者右願差
出候様もの義被申聞候尤此儀ニ付一昨廿九日郷左衛門を甚大夫ハ
委細申込候得共直談可致由被申越候間以来ハ対談致し候此一条後
藤守助江も引合致

五月朔日 晴 二日 昨夜少雨

一鍛冶町鍛冶屋喜助立願ニ付四国遍路来六日出立往来八十日間届

一一宮江中山伝内石名左助

一中之町大塚屋十次郎訴訟と同町畳屋源次やしき堺論出来ニ付返答
書并双方へ絵図申付る

三日 晴

一福田甚蔵神田権兵衛一宮江

一元魚町八百屋平左衛門願今般西寺町長安寺兼帶大瀧寺地中ニおる
て能興行仕度左候得者来ル六月上旬晴之十日興行仕度奉存候尤右
役者共御当地ニ而私引受申候間如何様之儀出来仕候共御上江御苦
勞奉懸間敷候此段御許容被為成下候ハ、——今日及御沙汰候
処御聞届被成候旨市郷奉行被申渡候ニ付蔵合孫左衛門江申渡ス寺
社取次種村紋大夫とも引合長安寺ハも願出候由

一下紺屋町文六伴儀助追払ニ相成候仍之先達而文六江願置候義助妻

きくも同様ニ候間其旨取計候様甚大夫被申聞候併右之女先達而家出致候由届出申候ニ付尋申付置候尤未日數百日も不滿候其内ハ役所聞置候者と被存候尚又其節之日記「可申旨申之段々調候処女者預置候故其段御同人江達候処義助追払取計候節郷左衛門申合文六ハ預者取逃し候咎メ申付可然旨被申聞候

一 去月廿七日之書面西今町菱屋〆借牢之願やとり候処何分右女引請ハ聞届相濟候儀願も出候者可差出由ニ付請取置候願書ニ候間今日指出候処則御聞届被成其段大年寄江申渡ス

一 此度出羽守様御通行之処今日何角御伺申候処今般ハ大番所「」を中も無御出御先手出役も諸向其外も相止候由当役者罷出候様御極被成候御貸人馬之儀申達候処万端御省畧ニ付馬ハ出不申候由御徒目付下目付等之宿其外玉置方又ハ御使者宿尋候義之申付候

一 石屋伝次役介共親類預に被仰付旨甚大夫被申渡候

四日 晴 〆雨

一 一宮市町今日引弘万端無滞御徒目付ハ河村市兵衛罷出候由出番中

一 山市左衛門香山多藏相届候承置候任例御届不申達候

一 先達而新町ニ而義助諸道具預置候処牢屋江受取候旨昨日平井郷左衛門被申聞候ニ付今日年寄相添牢屋へ遣し藤森権六詮議方同心井汲林内右為封致置候ニ付立合封印切候而相渡ス

一 一石屋伝役介親類わたしニ付今日橋本町後藤屋孫市呼出し町内年寄五人組且又小性町一石屋方大家名代其外五人組町内年寄共役所江呼出後藤屋孫市儀者伝次請人ニ而同人妻之弟之由仍之第一に彼ニ預を申渡外ニも親類有之候間各連名ニ而預ヶ申付候請書為致候

様申渡ス取計候旨申達ス

一 西今町菱屋次兵衛方引受後藤守助長屋勘次郎妻儀今日牢屋江差越候ニ付同心神田権兵衛福田甚藏出役ニ付送り手形ヲ神田権兵衛ハ先に参リニ付相渡し罷出候処今町へ参り懐中見申候へハ手形無之候ニ付直に為尋見参候途中心を付拙宅迄帰り色々穿鑿致候へ共決而無之ニ付無抛相認遣し乱心女借牢之取計ハ相濟申候然ル処右送り之儀ハ重キ場所牢屋之銘も出且又詮議方平井郷左衛門名前宛拙者名印等も記し此書いつ方ニか「候者有之事ハ必定ニ候御家中并町在又ハ公料私領自他遠近ひろい候者もてはやし候か又ハ他所〆送り来り候事も難計迎も善悪ニ付事隱便ニも難成儀ニ存郷左衛門江も存寄之趣今日及噂候小頭左五兵衛も権兵衛江先差扣候様申聞候由

五日 雨

一 神田権兵衛送り手形落し候儀昨日書面之趣意難黙止以書面甚大夫江午内分達し置候其段郷左衛門江も及通用候然処及晚景ヘヤ目付中山市左衛門を以右紛失之手形元魚町之者拾候而差出候旨申出則右手形市左衛門致持参候仍之甚大夫江其段申置置候尤郷左衛門江も為知遣候

一 閏三月十一日西新町山伏吉祥引受候正覚坊不縁之断

一 昨四日之取計当正月十八日之書面三津屋平右衛門并平田屋伝次馬借問屋之存付申出以来段々存寄も付大沢長大夫とも申談御勘定奉行へも渡り合且又大年寄共〆姫路へ人遣し問合ニ而も致し御奉行方江も内伺も付候然ル処先頃以来御用所ニおゐて是迄無之相濟候

儀取計「候而早速に相止候様ニなり候而者往来目にもかゝり候
旁殊に宿入用差而減し候儀も無之申付候否之儀御沙汰も御座候由
ニ甚大夫の噂も有之候得共被仰付候而之上善悪ハ難計候得共右場
所も建候ハ、ゞりも且又大年寄共臨時ニ旅行之家中其外馬継場江
罷出不相成取計も仕候よし馬継有之候時も誰主ニ相成候者も無
之処の町方色々察度も不宜候得者總之減し候義ニても以後取計少
しく相止候様ニも相成候ハ、私見込違申候由ニも被成御評儀も被
付候様ニ申之候然る所去ル三日問屋場御聞届ニ付昨日三津屋平右
衛門呼出し問屋場申付^{申渡}書面有 平田屋伝次ハ差役諸事平右衛門同様
ニ勤候様申渡^{申渡}書面有 并馬持共へも申渡^{書面}有之 や「屋不残并はたこや
頭是又申渡ス^{書面}有之 且又問屋場申付候事大年寄の廻状町方へ出ス一
巻別ニ袋ニ入

六日 晴

一下こんヤ町文六伴義助追私有之由右ニ付今日文六藏合孫左衛門方
「呼出し左五兵衛立合申渡取計候

其方伴義助并同人妻去冬十月三日入牢被仰付候処菊儀者同十二
月廿五日出牢之上当役所江引渡し有之候得共夫義助吟味形付不^可
申内ニ付其方御預ケニ取計置候当三二月廿六日之夕相見へ不申旨
申出候ニ付急度尋出し可申出旨申付候処今以其儀ニ不及候然処
右義介今日追私ニ相成候ニ付菊尋之儀差留候夫義助入牢之事ニ
付預置候者籠畧之処の取逃し候段油断之致方重々不届ニ候仍之
申付方も候得共此上之憐愍ヲ以追込申付候急度慎可罷有候 右
御届申達ス

一出羽守様御通行御道筋見分拙者罷出候ニ不及小頭石名左五兵衛大
年寄斎藤孫右衛門両人罷出候
一玉置方用意之儀も申付置候

七日 晴

一出羽守様御通行ニ付町分江例之通触書出ス
一此間人馬問屋申付候儀大年寄共の触書為出候
一かち町山外屋与四郎四国^{（三ツ）}偏路来ル八日ニ立往来八十日之願聞届
一石屋伝次役介親類預請書差出シ一巻別に有之候
一鍛冶町之橋明日の引取候旨牧重郎治橋懸方相勤候旨届申聞候ニ付
大年寄江申渡候

八日 晴

一出羽守様御通行今以御先触も不来寄馬急に雇出し候も無覚束候ニ
付去歳之通五疋と御極被成郷中出銀ニ而問屋江申合勤兵衛瀬助出
合申談候様可仕旨甚大夫江伺申候処其通庄助江申合候様ニ被申聞
則及參談問屋江雇出候様申渡す

一柴山治部右衛門相見候御持組御旗組惣而御通行先私之郎東之方在
分ニ付いか様ニも相済安岡町ニ而原又ハ橋上ニ待合居申儀者^{難出町}店先
遠慮ニも存御用とハ乍申押付かましくも難成甚迷惑ニ存併年来済
候儀ニ而申立も難成候ニ付拙者場限ニ可然相頼候由申聞ニ付今日
粗ハ甚大夫江も及噂置大年寄共の相成之立宿勿論賄之儀ハ決而不
申付候旨役場切ニ取計候
一能興行ニ付長安寺の両橋江建札之儀寺社取次種村紋大夫も申聞甚
大夫も同事ニ付今日申渡す

一御舟奉行兼役御使番細江源左衛門ハ申来り出羽守様御通行之節鍛冶場渡し舟兼田へ相廻り候儀船年寄差添遣候儀申来候

一御使者宿齋藤孫右衛門御取次栗田唯次

一今晚御閑札到来之由大村庄ハ為知

一神田権兵衛去ル四日晝面之儀ニ付差扣居申候処明日ハ出勤申聞候

九日 晴

一出羽守様御先触到来当月廿四日江府被成御免駕繼ニ伏見ハ久世迄

之内ハ式拾五疋人足百七拾人之触ニ而右手当申渡候

一町奉行立宿蔵合孫左衛門ハ申来り林田町豊国屋善左衛門

十日 曇夜更雨

一司馬五郎様明日五ツ時町会所江御出可被成候ニ付先例之通取計候

様申来り候処御延引申来ル

十一日 雨少

一今九ツ時分出羽守様御通行当役林田町豊ニ立宿ニ而罷出ル当

年ハ於江戸表御通行之上御馳走向御省署被成大番所御家老中其外

不被出御先乘風廻り出役無之当役計例之通ニ而御徒目付ニ右

衛門目付組役所ハ小頭石名左五兵衛平同心中山伝内神田権兵衛是

ハ御先払馬駅江藤森権六室井作右衛門罷出当役供老人三舟孫八用

意ニ香山多蔵召連好御貸人継狭は合羽籠御貸馬御省署ニ付一通

り存寄ハ申達候得共御渡不被成諸向同断之旨被申聞候

一院庄江ハ大村庄介不快ニ付近藤伊左衛門罷出御使者兼ル勿論被進

物無之御返答も御取次ハ申達候由御使者江被下物ニ同様之由東

西川場江御舟奉行も罷出下役計東へ郡代替り不出作目付近藤惣

兵衛御方役人と号罷出候由

御通行ニ付被下物左之通

一馬駅へ兩人銀式ハ。御先払兩人江式百文ツ、小頭江三百文

。院之庄川惣船江老實文御蔵元舟年寄江六百文下裁許人百文。川

辺渡場惣船江老實百文御蔵元船年寄江六百文下裁許人江百文

一町奉行大沢三平金式百疋

一町医例之通在宿申付置候其外諸向御省署之外ハ例之通也

十二日 晴

一今朝大盤若ニ付窺之上罷出候

一二階町分大坂屋作次へ去暮預置候牢舍人乙次母并ニ娘先達而一統

親類預差免被仰付候以後右之者共ハ差ニ居所無之候ニ付作次方ニ

罷在候得共兼而作次并同人妻ともニ右之者共江致方不宜候旨及露

頭候処今日役所江乙次母同人妻娘三人直訴申出候趣去ル六日之夕

作次方をハ安岡町親類方江参候と申立出宮ワキ町辺ハ返し夫ハ大

谷村川端弥ニ申者此者母ハ乙次母之姪之由彼方へ便罷越尤翌朝

ハ弥六方ハ作次方へ為知候由然ル処右三人彼方ニ罷在候茂迎も難

相済と存難決以前迄居申候元魚町藤野屋方江昨夜罷越何とそ借屋

かしくれ候様及相談候得共不致承引無拠居所之儀ニ付歎出候しか

れとも其儀ニ事寄作次方之致方を心外ニ存候躰ニも相聞候いづれ

ニも筋を付不遣候而者難相済先作次をハ預ニ申付三人ニものハ裏

屋ニ差置引統居所之儀も可及評儀尤右組合共迎に差越候様ニ可申

付旨小頭左五兵衛をも呼寄へヤ目付市左衛門ハ右母江粗申聞せ候

処決而作次方江ハ難参押而申付候へハ所存も付候様申分可成ハき

せる屋伝兵衛方江者可参旨申之ニ付兼而伝兵衛儀者乙次江忍も候者ニ付差当申旨ニ任セ則刻大年寄方へ市左衛門罷越作次預ケ申渡伝兵衛江者三人之者当分預申付引続伝兵衛并組合之者共役所江迎ニ参候ニ付当番之同心孫八引越孫八引渡し取計候

一

十三日 雨

一新魚町茅町両町百万遍致執行候旨届出る

一八出天神宮ニおゐて当月下旬南京操興行建札之儀寺社取次且又市郷奉行中々被申聞則日大年寄江申遣ス

一防州関岡日続村岩政屋武助手代宇兵衛清之丞兩人縮木綿嶋卸売昨日入塚町大室屋藤之切手

一作治引請之乙次母并同人妻娘直訴之次第且作次預「きせるヤ伝兵衛へ右三人之者預ケ置候段市郷奉」中へ一通り申達置

十四日 雨

一きせる屋へ三人之者預置候ニ付作次方々相応之ふち米相渡可申旨且又伝兵衛江者三人之者へ店借之世話いたし可遣旨尤二階町年寄并組合之者共共くに借屋之儀世話致し可遣旨申渡し。右取計候上作治江去ル六日之夕家出致し候三人之者之儀ニ付六日六十二日迄申も不出不届之致方を左五兵衛が当座大年寄於宅尋候処以之外之儀申之還而きせる屋へ吟味懸り候ニ付則今晚又々左五兵衛を孫右衛門方江遣し伝兵衛を尋書付取之帰り候勿論伝兵衛吟味かゝり候ニ付預ケニ而番を申付置候

一似セ札師林左衛門牢中ニて不快針医之儀福田嘉兵衛が被申聞則大

年寄江申越田中玄道と申者罷出候

一八出天神南京操建札両橋江可致旨永井甚大夫尤寺社取次種村紋大夫が被申聞大年寄江申渡置

十五日 雨

一安岡町ニ而百万遍届出る承置

一乙次母并同人妻娘直訴之儀ニ付内々之様子尋可申「ニ付小頭左五兵衛大年寄孫左衛門宅江罷出書面有之

十六日 晴 十七日 晴

一組工町新職人町今夕百万遍京町同断承置

一福渡町浜野屋安二郎家主六兵衛借屋ニ罷在候莊助と申者斎藤八大夫長屋へ引越届

一播州今市布ヤ十兵衛と申者呉服卸売ニ参り候御差留被遊候而以今参不申候右之替り防州岩国多田村衣屋藤兵衛縮木綿縮帷子卸売塚屋伊右衛門切手

一京町加茂ヤ和六奈良今井町岡寫忠兵衛と申者例年之通墨筆昨日入同心石名左助去ル十一日女子出生血忌引込明十八日夕出動「

十八日 晴

一大坂屋作次きせる屋伝兵衛大年寄於宅左五兵衛立合吟味を蒙候口書ニ拙者存寄付帯外ニ吟味之大意書付相添今日甚大夫江差出ス

一司馬五郎様明十九日五ツ時かも川辺へ御出京橋が本通りすし被為入候旨稲垣茂士が通用

一宗門帳之儀ニ付当時御省畧之事下方へも行渡候様被成度宗門奉行中へ存寄付候様被仰出候而此度右認方半枚之内江二株宛書付候様

ニ仕候ハ、紙帳面等之認ハ是迄之通ニ而縦令ハ千枚可入なれハ五百枚ニ而相濟候趣今日甚大夫ハ郡代所当役所共被申渡候

一 小性町百万遍承置

一 御蔵米五拾五匁米五拾毫匁五分之届

十九日 晴

一 昨夕一方村長九郎と申独身者之由盜賊入被殺候而昨朝届出郡代所見分も出候而失物御座候間質屋其外買取候者可有之歎懸ケ合候

而町方尋も可有之儀と永井氏被申聞候旨大村莊助ハ申来り押付甚大夫ハも同様被申越候ニ付町方触出スもつきかヤ一格「寫ふとん

一空色一くろ色わた入羽織一浅黄小紋^{包の内}単物一ちばん一木綿一反

一 右一方村變死之儀ニ付目明当人源八江も存付候ハ、可申出何之趣迄ニても付又ハ小屋之者共江も同様心得致候様可申付之旨申渡候

一 備中屋甚七日詮議方へ可差出旨例之通大年寄も差添罷出候「不埒有之ニ付手錠町預ケ申付候旨平井郷左衛門ハ申来候もみ屋忠助も呼出候得共不幸之上其身病中ニ付延引^{此詮議筋之儀、盗人久米右衛門一条と相聞候由}

廿日 晴

一 宗門奉行細江源左衛門ハ宗旨改帳案文相廻り当年者細字ニ調候様昨日書面之通ニ而其餘ハ例年之通無相違入念候様可申付旨則認方

案文書添相廻し候卸日蔵合「^{衛門江遣ヌ}

一 虚無僧取計露計儀文針之名ニ而上京致「添状之儀大年寄共ハ先ニ遣候得共是者町分之者取計致候ニ付吟竜儀ニ三角竜甫跡役ニ而取

計候此度文針儀ハ郷中引受ニ而大庄屋土居太郎右衛門中嶋徳助兩人ハ申渡候得者大年寄計添状遣し候而者内所ハ兎哉角茂虚無僧本

座候之懸り如何ニ付大村莊助申談し大庄屋と大年寄連名状可然ニ申合セ左之通相認メ去ル九日出立致候。未得御意候得共一筆致啓

上候弥御堅固被成御勤役珍重奉存候然者林田村文針今般御宗門筋之儀ニ付御願御座候而上京仕候委細者文針ハ可申上候尤願之通相

濟候様ニ宜御吹挙奉願候右之段為可得御意如此御座候明「寺御役

僧中様蔵合孫左衛門土居太郎右衛門^{此名之居所大庄屋彼是意味合申候由ニ認候由}

一 明廿一日五ツ半時之御供揃ニ而司馬五郎様泰安寺江御仏參被成御道筋例之通稻垣茂士ハ通用

一 役所日參之面々三八ニ僧詰臨時之儀ハ其役に為知候様今日申達ス是又當時之御省畧ニ付拙者存付後日流例ニハ無之候

廿一日 晴

一 司馬五郎様御仏參御延引

一 関重次郎ハ大工棟梁権八病氣ニ付役免申付候旨通用此儀棟梁ハ町奉行支配之儀ニ候得者御作事ニ而申付ニハ有間敷様ニ可申事ニ候

得共番匠之儀ハ巧不巧又細工之全躰或ハ其仁躰^仁氣姓諸大工共之氣受相極メ候儀其場所ならてハ不存候ニ付町棟梁「付候当役所ニ而

不取「

一 こんヤ町百万遍

廿二日 晴

一 うたのヤ利八儀半踏難儀之旨及御噂候

廿三日 小雨

一 今日口中痛出動御断申上候

一 林田町もみ屋忠助儀詮議方懸り合ニ候得共病氣ニ付組合あつけニ
申付候

一去ル十八日同廿日書面之宗旨改メ調筆之事如何様ニ致候而も細字
仕立かたく在町共同様ニ付例年之通ニ相成候旨大村村助之通用

一 尾州知多郡嶋崎之内寺元村陰陽師高橋伊豆上下式人例年庄通

「町方旦那廻り昨日参候由小性町ひちヤ兵藏切手出ス

一 三奉行中ノ廻状 近々天神於社地見セもの且又大龍寺於境内勸
進能有之候右之場所江自分并妻子ハ不及申下々迄参候儀御停止之
事ニ候若紛敷躰ニ而罷越候もの有之候ハ、急度可被仰付候目付候
者ノ無用捨申出候様申付置候此旨可被得其意候
右之趣石名平太兵衛并同心組三軒屋江も相触候

一 御堀掃除料之儀例年之通十治ノ申聞有之申渡ス

廿四日 曇終日風 廿五日 晴少し雨曇

一 郷左衛門於宅戸川町長左衛門下こんヤ町四郎左衛門追込被申付候
後家組合之者ハ以後心を付候様申付有之候右懸り蔵合孫左衛門立
石才兵衛も罷出布原神戸懸り合者同断也城波後家訴状一件ニ付右
取捌者付別ニ有之候大庄屋と大年寄罷出候処座並寄之儀ハ御礼順
ニ取計請書名印等も右ニ准候也

一 伏見町吉田屋半三郎ノ因州氣多郡鳴瀧村郡城幸助と申者縁類之者
ニ而夜前参然ル処当町所々療治之相頼候ニ付来ル七月中迄逗留為
仕旨申出候得共此者儀ニ宮村松井屋方ニ先達而より内々ニ而逗留
首尾不宜罷出候儀も相聞ル殊更御家中町方ニ而も誰主被成招請と
申儀も無之ニ付粗及御噂相返し候

一 郡代所ノ吟味之事ニ付同心借呉候様申来り左助多藏差遣候

廿六日 晴

一 取計露計京都ノ罷帰候旨相届出候去ル廿日之書面之通大庄屋大年
寄連名ニ而添書遣し候処ハ役僧宛ニ遣し候得共返書ハ明暗寺直答
之書面ニ候然ル処土居太郎右衛門を筆頭ニ認孫左衛門を跡に書候
様子寺院之儀書法不存候故かいつれ難心得ニ付内分及批判候

廿七日 晴昼前雨少し

一 大坂屋作次去ル十二日書面以来之儀ニ付今日呼出尤母妻儀も作次
江申聞せ候趣を陰聞可為致且又きせる屋伝兵衛儀茂主意申聞せ候
母親并乙次妻子ノ直訴之儀ニ付吟味与申ニハ無之候得共存寄を以
作次不埒之儀相札之候

一 天神宮南京操勸進元願戸川町伝六書付出ス

廿八日 晴

一 伊丹屋嘉四郎自国請酒株寅二月ノ去辰迄三ヶ年切小性町ワケヤ多
兵衛預置候処切々通相濟嘉四郎手前江取戻し

一 作次頃日糺明之存寄取計候段申達し入牢可被仰付候哉旨御伺申達
候所御用所ニおゐて段々御評義も御座候」作次ハ入牢同人妻儀
ハ町内預ケ尤伝兵衛方へ預候母并乙次妻娘へ賄之儀も致し牢食之
儀も彼ノ為運候様且又きせるヤへハ母妻子共借屋ニ付居所出来候
迄是迄之通預申付候様取計候様ニ被仰付候

一 虚無僧取計露計帰着未刻受取帰候旨市郷奉行中へ申達候

一 来ル三日暑氣御機嫌伺御帳付ニ付御奏者中ノ廻状拙者ハ惣ノケ様
之儀ニ付不罷出候儀御奏者番中へ達置候

一入牢藤助理八兩人共牢賄ニ被仰付候下方江為相知候

一大隅宮神主所ニ而神道之講釈師来り今夕の相初メ右ニ付建札之儀申出候得共抑山ニも候間兩橋木戸江張紙ニても仕度旨相心得置くれ候様寺社取次種村紋大夫被申聞大年寄共へ申聞候

廿九日 晴

一昨日書面之通今日呼出し作次夫婦作次儀ハ入牢申渡し

其方儀先達而乙次母并妻娘其方へ預ケ申付候処右三人之者共江

對シ其方不埒之取計有之ニ付其訳相尋候処委細口上書指戻す尚

又右口上之趣ニ付此間役所ニ呼出一々我等存寄候趣申聞せ候処

一言之裏も無之由依之入牢申付候

一同人妻ハ呼出し是迄之通町預ニ申付候尤娘三十歳以上兩人也乙次

母并妻子賄是迄之通差出候様申渡ス

一きせる屋伝兵衛儀ハ預ケ差免し乙次母并妻子預置候間居所聞出し

候様申渡ス

一河原町紅屋勘七与申者先達而鳥商ひニ隣国へ出備後之鞆ニ而石井

町宿三原屋甚右衛門ニ而煩候ニ付同町あかね屋治右衛門右兩人相

頼頼津原町天間屋武右衛門差添当五月廿五日夜茶屋忠兵衛舟貸受

西大寺迄廿七日之昼といヤ中のヤ弥七江差致し籠之者頼右病人勘

七をのせ夜道罷越佐伯之手前夜明ケ快相見喰物あたへ申塩田手前

セキ申やうに相見へ申候所相果候由夫の直に罷越候由申之候段右

てんまヤ武右衛門書付取之候旨藏合孫左衛門申出承之置候得共何

分相果候勘七其俣ニも難差置候ニ付親類共ニても受取らせ候様申

付候処左之通従弟安岡町車屋利。同二階町加左衛門。同林田戸手

新八。勘七妻之弟下山伊織。勘七姑伊織母。勘七娘たねはハかも部屋ニ勤罷在。勘七姪ちかはハ中須賀ニ罷在

一鞆の差添参候武右衛門道中雜用百四拾九匁八分内七拾三匁ハ勘七

所持引残而七拾六匁八分又式拾七匁三分残り二つ百四匁壹分外

ニ錢式百同様之儀内式拾壹匁勘七所持之鳥代残而八拾三匁五分外

式百四拾文右之員数相受取度武右衛門申之候是ハ三分一遣し可遣

候由大年寄申候承置武右衛門をハ留置鞆へ河原町年寄飛脚遣し候

処鞆之宿屋石井庄右衛門と申者右勘七ニ武右衛門付添参り候事

無相違旨返事申来候

一武右衛門儀承ケ合飛脚入用其外武右衛門留置候入用ハ町内へ出シ

同人雜用三步一に付参候籠人足等宿ちん廿三匁余是ハ親類共へ遣

し候積りニ大年寄存寄ニ任セ置候

右之有増市郷奉行中へ及噂候尤勘七死骸受取候時ハ部屋目付藤

森権六見届ニ差出し候各立合候処病死に無相違旨ニ候

一今日作次呼出し候節ハ中山市左衛門平組同道ニ而入込市左衛門ハ

跡に残り其後小頭石名左五兵衛も参諸事改メ組合へ渡シ引取候

一柳之土手笋段々生立候ニ付為引取候

一濃州武儀郡津保村新六と申者廻国大庭郡上河内村病氣送り来候由

大村庄助の通用

一京町原田屋五兵衛御堀へ足代下し書付申達ス

晦日 晴

一昨日之送り者相済

一武州足立郡石戸町養善院与申者日本廻国ニ罷出雲州能義郡荒嶋村

ニ而煩伯州米子宿を送り出し林田村へ送り遣し候旨申出相届ル郡代所も通用

一当已三月十九日誕生寺法会参詣於小原村安岡町久米屋清兵衛借屋長八船平吉と新魚町河本屋伊之平口論致し同人同道ハ同町角屋伊之助小性町ひちヤ兵藏伏見町高田屋源七ニ而右出入双方内済も可致哉ニも相聞候処難有落差出し候ニ付今日呼出し双方札明之存寄申聞せ候処尤吟味ニ及候筋ニも無之一言之申開無之筋ニ付一通ニて差歸し候

一下こんヤ町中山良意借家に居申作人文六当已七十歳同人娘同人孫虎吉不勝手ニ付天野郡太長屋へ引越

六月朔日 夕立 二日 雨

一西今町中屋定次郎北側ニ而所持之家やしき表口七間裏行拾五間老軒半役西隣下直屋孫兵衛東隣永田屋久右衛門右家やしき内下直屋堺目が東表口四間裏行拾五間七歩五厘役兄黄金屋和右衛門江相議り申度旨願聞届一札同月十七日ニ出ス

一安楽院来ル七日の十四日迄痘瘡守護神へ灯明灯シ申度書付出ル達ス

三日 晴

一銀札百目掃除料関十治江渡ス跡ハ追々

一中之町大塚屋十次郎西隣疊屋源次と堺論有之吟味取懸り候旨達ス

一不動院当月七日の十四日迄祇園御戸開仕度寺社方江も断出し候由今年者町方施主之者祈願ニ付大溝之上江柱ヲ渡し行灯出し置申

度別紙ニ長ヲまなか横式間奥入まなか灯火五所其脇てうちん五張ほとかけ候由社取次中引合之上申達候所足ニても下し不申往来不致候ハ、寺社申立ニ任せ候様則日の聞届相済候

一孤独六月七月八月分相受取候

一明四日五ツ半時御仏詣被成候以後五ツ半時御供揃相極候旨稲垣の通用申渡し置候

四日 晴

一廻状三奉行中ハ 民部卿様御舍弟松平鎌三郎去月廿四日御死去ニ付今日明後五日迄三日之内鳴物高声御停止之事ニ候尤普請ハ不苦候 六月三日之日付今日一帯ニ認

来ル十二日悼信院様十三回御忌ニ付於泰安寺御供養被仰付候此段為相知候様被仰出候 六月四日両様一帯ニ而廻候

右両様町方江ハ御供養之方ハ火之元自身番等之儀例之通相触候尤石名平太兵衛并組中三軒屋へハ并之通

一明日五ツ時下紺屋町四郎左衛門戸川町七左衛門例之通差添候而罷出候様可申付之旨申来玉置忠兵衛江申渡ス

一東新町わけヤ太兵衛山本屋与市致所持候他国請酒株当已六月の申之六月迄借請商売致度断

五日 晴

一西新町木賊屋岩右衛門借家作人八助当已四十一歳妻かん娘龜倅若松四人此度林田村源兵衛方江引越

一戸川町はりま屋七郎左衛門下こんヤ町四郎左衛門両追込差免し候旨詮議方平井郷左衛門の通用城並一件落着詮議方ニ有之候故役所

日記畧之

- 一 永井甚大夫の安岡町魚町懸り合追込取計勝手次第ニ可致旨申来ル
- 一 戸川町福渡屋善六船伊左七当巳式拾九歳此度渡世之為大庭郡久世村金沢屋源右衛門方江当六月の来午十二月候ニ付遣度願
- 一 八出あやつり勸進元一札出ス

六日 晴

- 一 今日八半時二宮辺江御出被成候旨稻垣茂士の通用
- 一 今晚安岡町長八呼出し不快付停呵追込年寄共禁足申付茅町年寄へ助申付ル。新魚町河本屋伊之平追込同道角屋伊之助追込年寄共禁足申付おけヤ年寄へ助申付ル。小性町ひぢや兵藏伏見町高田屋源七兩人追込申付ル則御届申達ス始終一件袋に入置候
- 一 西今町三ハリヤ左吉内藤山城守殿御領分小山村藤次郎娘りつ当巳式拾三歳妻に引受尤庄屋喜惣次の放手形来ル本証文同月十六日ニ出ル

- 一 橋本町西屋半兵衛断八出村天神宮江参候大坂役者共宿仕度願聞届
- 一 福渡町座頭城南助金藏当巳十九歳罷成候処近来不行跡罷成心底ニ不相叶一類中組合相談之上種々申聞候得共承知不仕其上当時ニ而者在宿も不仕何方江参如何様之儀出来申候茂難計奉存候仍之義絶勸当仕度奉存候願之通被為仰付候ハ、難有可奉存候——
- 一 右被及御沙汰候御濟ニ付申渡ス

- 一 長安寺兼帯大龍寺勸進能当六月上旬之願候処役筋共病人有之得難参以飛札申来仍之来七月下旬迄延引仕度願出候勸進元と同様之申出ニ付寺社取次中江引合候処長安寺を呼出し飛札ヲ以申来候迎其

通ニてハ難相濟病人有之候ハ、差替候而も可差越之旨察度候へハ全明石迄ハ参能致し半病人致出来居申候由然ハ其実否以飛脚療治等諸事承札候上ニ而可被申出由当役所ハ何分寺社方ニ准し申付候事事勸元江長安寺引合可申出由為申渡候

七日 晴

- 一 明暗寺の大庄屋を筆頭ニ大年寄を末ニ書参候事土居太郎右衛門ニ察度有之候処上書他筆ニ頼候書法と存候由相答候ニ付右連状ニ申上候ハ甚申談し有之候上市郷奉行中御礼段々有之候ニ付申付候を彼是安愈安愈したる致方ニ而不審も不審と御郡代所ニ而被申聞候由尚又甚大夫江も及噂候間太郎右衛門へ急度可申付旨庄助の通達有之候此方ニてハ大年寄共心中ニハ疑念も付候様ニ相聞候へ共拙者其意を察し以後筋立可申旨申含メ置候右書状中ニハ大年寄を筆頭ニ書上ハ封ハ太郎右衛門を筆頭に認メ候を人を頼候故書法と心得候と申答卑劣之致方ニ候

- 一 祇園之灯笼今夕願候通ニ不致通り溝はたニしつらい之趣ニ付寺社取次中石松院呼出し願差出し段々御詮儀之上相濟候処右柱を不渡縁に被任せ候仕方不束之儀申聞有之由此方ニて引合候上同様大年寄共江心得為置候

- 一 大塚屋十治郎豊屋文左衛門境目見分石名左五兵衛へヤ目付中山市左衛門藏合孫左衛門大工棟梁五郎兵衛差出シ双方の大工大塚屋の西新町八幡屋の差出竿を改メ繩を為引委細之趣棟梁五郎兵衛の面差出候勝間田町五六尤年寄五人組出合十次郎文左衛門も罷出候

八日 晴

(32)
一 靱津石井町宿老石井庄右衛門の河原町年寄共江返事来り候儀御噂申達ス

一 林田中之町栗井屋善六借家宇助上之町嘉助借家へ引越聞置候

一 一方村長九郎殺害ニ逢イ候儀ニ付於役所も存付候ハ、可申出同心共其外目明共江も心得させ候様市郷奉行中が被申聞候即日夫々申付候

一 勝部村蓮池入札来ル廿日迄ニ触出し相集候場所ハ金井伝七江差出候様申触候近藤伊左衛門の通用ニ付

一 坪井町「きや吉兵衛今日呼出し呵り追込申付候

其方儀先達而琉球苗床蘭田川ニ而仕度申出於郡代所願之通申付柳植之場所者相除可申旨申渡有之候然処柳之場所苗床ニ致度義有之其段郡代所へ伺可申処無其儀作目付へ伺之有無之返答も無

「柳有之場所相聞候事相聞へ不届之至ニ候依之追込申付候相慎可罷在候

一 福渡町城甫助金藏当已十九歳不行跡罷成心底不相叶一類中組合相談之上種々申聞せ候得共承知不仕其上当町ニ而者在宿も不仕何方へ参加之儀出来仕申候も難計依義絶勘当願差出し今日御聞届相濟其旨大年寄忠兵衛江申渡ス

一 河井友益母并妻此度河井意斎人別ニ入申度尤ふちハ付候旨申出此義御勘定奉行補欠近藤伊左衛門も通用有之承置候

一 紀州日高郡下岡「与助与申者伯州日野郡根 邑の送り来り院庄村の送り出シ大村庄助の通用

九日

一 昨日之書面送りもの町分も済候申出候ニ付相届候

一 八出南京操江藤森権六香山多藏罷出候

一 去ル七日之書面祇園灯笼之儀大溝上江柱を不渡道へリニ差置申度書付出寺社取次後藤守助引合其旨ニ相濟候

十日 晴

一 八出江中山市左衛門三舟孫八

十一日 晴

一 安岡町新魚町年寄禁足差免シ

一 新魚町鳥屋与惣兵衛播州龍野新町いとや茂兵衛方へ罷越明日日出立往来十日計

一 昨日溝見分差出ス山田彦大夫前之石橋下支候事相聞へ御奉行江及沙汰候

十二日 晴

一 御供養ニ付例之通同心差出ス昨夕ハ不差出候

一 新魚町角屋伊之助小性町ひちや兵藏伏見町高田屋源七追込差免候

此儀月三日取計候

一 先達而林田村并玉林へ商内懸り合致候西新町中買江見屋伝七飯岡ヤ九八役儀取上申付候所式歩中買仲間共の一同ニ相願勿論兩人共

ニ老人とも有之其上病人等有之難儀致候趣相歎キ候ニ付一通り市郷奉行中江も達し聞届之上帰役申付候

一 銭七拾六文遣

一 悼信院様御供養ニ付他国他領御領分座頭警女共江御布施被下候左之通小頭石名左五兵衛へヤ目付藤森権六罷出ル

一 銀札六百六拾三匁式分五厘 内銀札五百拾六匁式分五厘 衆分百三人壹人ニ付五匁。はれ衆壹人六匁式分五厘。五拾目打懸式十人式匁五分ツ、。四拾目初心三十人壹匁式分五厘ツ、。式拾七匁寿名十八人壹匁五分ツ、。三拾配当向役料筆墨紙共ニ
一 雲州能義郡荒嶋村百姓与八母きわ西国順礼罷出病氣京大仏門前茶屋町年寄源七五人組甚右衛門町中川刃村の送り出し
一 信州筑摩郡木曾福嶋宿品川屋理右衛門手代金三郎壹人ぬり物類おろし売昨日入境町西川屋善助切手十日之出也

十三日 晴

一 今日林田中之町ニ而大塚屋重次郎の隣家疊屋文左衛門の境論之儀ニ付兩人其外年寄組合尤此間見分ニ差出し大工兩人呼出し立合石名左五兵衛へヤ目付中山市左衛門玉置忠兵衛書役野村喜兵衛相詰察度存寄申聞候尤可申趣候ハ、勝手次第可申出旨申渡候此一件外ニ有之候ニ付書畧致候
一 一方村殺害ニ逢候者之儀ニ付其外先達而市場村殺害致候もの儀組之者共不時ニ申出候儀候ハ、在中いつ方なりとも為入込可申哉之旨奉行迄伺候処勝手次第可取計旨挨拶ニ付今日組中江其意申合メ置候

一 安岡町長八平吉新魚町河本屋伊之平追込差免し申渡候儀伺候処御聞届被成候

一 坪井町にきや明日追込差免可申旨市郷奉行中が被申渡候尤柳之木元之場所江植直し其上ニ而作目付江相届候様[]為渡候様則日忠兵衛江申渡候

一 刑法定書市郷奉行中が被相渡候写之御郡代所江廻ス
一 八出江権六多藏罷出ル

一 今町直屋市郎右衛門こんヤ町作人五兵衛娘るい当巳式拾四歳養女ニ致し引受鉄砲町見取地伊左衛門嫁ニ遣シ引合済

一 伏見町のせ屋源助塀覆補足代下し済

一 坪井町桔梗屋庄右衛門上こんヤ町南側東下角ニ而家屋敷表口六間裏行五間四歩役也西隣ハ今屋伝助南隣ハ錦屋喜右衛門代銀札三百目ニ極同町原田屋左七江売渡し本証文同月十六日出ル

十四日 晴

一 中之町粟井屋善吉借屋宇助家内林田村上之町喜助借屋江引越

一 八出江市左衛門甚藏罷出候

十五日 大雨

一 茅町作人忠助家屋敷表口三間七寸五分裏行六間式歩役安岡町新屋清助取次質物書入当巳六月来十月切巻割半ニ而銀札四拾匁借候願書出ル天明五乙巳十二月返済断書出[]

一 もみや忠助町預ニ相成候処病中ニ罷在候而取計も無之候明十六日

一 坪井郷左衛門宅へ差出し候様ニ同人の申来り候

一 川水増鍛冶場渡し止り註進申来り相届ル

一 八出へ作右衛門源八罷出候

十六日 晴雨有

一 平野屋助右衛門方へ備中新見家中上田浪江内縁有之為見舞今日罷越十日計逗留之届及御沙汰御聞届之上申渡ス

一 中之町もみや忠助手錠町預被申付通用

一 司馬五郎様九つ半時御供揃加茂川へ被為入京橋の例之通

十七日 晴

一 川明申出相達ス

一 御蔵米五拾七匁五分町米五拾三匁五分

十八日 晴

一 八出江甚蔵左助罷出候

一 去ル十日之夕大隅宮ニおゐて講釈有之林田町作人長七倅次三郎参詣致し罷帰候節地内ノ町内松のヤ忠吉(トヤ)林木町山城屋重三郎同道罷帰候道ニ而重三郎挑灯ニ当り候哉跡ノ三人を呼かけ罷帰候処中ニ

もせい高キ者当候様申之候而重三郎を捕へ跡ハ帰り忠吉儀も一所ニ跡江立帰り治三郎ハ少し見合候得共何と申候而宜哉と存夫ゆへ先へ帰り候由挑灯ニ当り候儀ハ不仕と申之候由

親長七申候ハ去ル十二日大宮司ノ倅治三郎去ル十日之夕講釈致候様町内へ申来候若小身者之儀如何様之儀致候哉と存詫可致と道廻之者頼遣候然ル内倅口上承候処年寄共相尋候ニも同様申之夫故私儀も十二日夕大宮司へ罷越申候ハ今日町内へ倅事被届迷惑致し夫

ニ付倅不屈之事も御座候様ニ存段々尋候処狼藉等之儀にも無之何分宜と申取内々ニ而済候様御頼申与申候由大宮司申候ニハ前々狼藉致候者も有之願主中も明早朝夫々相届候得者自分も役所江相届候故内々之儀ニ而済不申由左候へハ今夕嘉八江上之町参候而可済様子とも被存不申此上御尋も候ハ、右之趣外可申上様も無之由申之候而大宮司方を帰り翌十三日承候処未届もなき由何様上江達候儀も恐入何卒内々ニ而相済候様致度尤町内年寄も内分事済候儀可

然挨拶人頼候様ニと申候故町内ノ兩人十三日之夕と十四日之朝大

宮司江も喜八江も参候而彼是挨拶致し候へ共喜八申候ハ夜前被参候ニ付連印も相請致し候得共難済候間是切ニ而除れ候へ又挨拶有之候而も願書指出候儀相伝不申由申之故無抛罷帰候由

右之様子大年寄江も粗ハ相聞候由然ル処今朝寺社取次後藤守助被参大宮司ノも申出候由引統登城致候処林田上之町之者共郡代所江も申出候由且又御徒目付下目付其外御役人足輕中間之類迄も灯籠之願主ニ候而一同ニ成候由はつし町方ノ曾而書付等も出し不申間貪着も難致見合罷在候

一 八出江市左衛門孫八罷出候

一 先達而ノ山本屋与惣七多胡左市借物懸り合之儀大庄屋仲間色々嘍致し候得共与三七不致承引「大庄屋嘍之主意書付大村庄助ノ相廻候を永井甚大夫ノ内々ニ相渡借物筋之儀急度差凶ハ難成候得共相考与三七江申聞方も候ハ、可然計候様とつりニ而右書付被相渡候即左五兵衛迄申聞候

十九日 晴

一 三奉行中ノ廻状 加茂川殺生之儀今年も去々歳之通屏風岩ノ御水場迄建札之内御留場ニ候間其旨可被相心得候右之趣同役属役并支配方江も可被相達候以上 則石名平太兵衛其外同心并三軒屋江も相触候

六月十九日

廿日 晴

一 銀札場奉行岡半四郎相見へ中之町豊久屋幸助儀於銀札場正月ノ壬

三月切之返納銀札六百目及遲滞種々申渡候へ共〇俵を申此等之忽に致候而者諸方不埒ニ相成候銀札場一鉢之故障且ハ何角御為ニも不相成候仍之申立候得共上之被仰付候事も難被成趣ニ付当役所江対談懸合宜取計候様ニと鈴木此右衛門之趣〇も被申聞候ニ付候様被申聞候尤此間此右衛門之拙者江件之趣〇も被申聞候ニ付候分相考見可申旨及挨拶候

一八出村開発場所桶屋町大坂屋次郎右衛門之願書差出ス郡代所引合置

一八出操へ作右衛門權兵衛罷出候処銀札場之手代兩人福ますヤ庄七元魚町

二階町鳥屋平三御用之由ニ而木戸へ踏込其上勸進元ニ差添候後藤屋孫市を扇ニて打口論出来候得共作右衛門權兵衛存寄ニ而事穩便ニ取計罷帰候届ニ而者無之当番迄物語申之

廿一日 晴

一八出へ權六伝内罷出候

一明廿二日司馬五郎様八つ時御供揃ニ而古林田辺御遠乘京橋之例之通林田町筋江被成御通成候稲垣之通用

廿二日 雨強

一紀州日高郡下志賀村貞助西宮辺之送り戻し候由郡代所之通用町分之申出届申達ス

一今町菱屋次兵衛役介七儀牢内ニ而大病ニ付同人之願書指出し及御沙汰候処御聞濟ニ付詮議方引合尤牢番之同様断出候由旁郷左衛門江書面遣シ同心神田權兵衛罷出今町役人共牢屋ニ而受取罷帰候一若松屋善左衛門娘哥当国森对馬守殿支配所目木村井口〇忠次郎養

女ニ遣シ度願聞届

一新職人町源助願瀧元屋平四郎借家居申者ニ而近来後藤菴程門弟ニ成針術稽古いたし此度嶋田玄作与改号度申出

一八出江左助多藏罷出候

廿三日 晴

一安楽院横手足代及御沙汰済

一初屋忠助方人別妻二十六俵馬吉十二忠助廿七以上三人備中屋甚七人別母六十三妻廿七娘十八甚七廿九右平并郷左衛門頼ニ付書付取差之

一豊久屋幸助今日呼出し銀札六百目銀札場江急度致納所可申段申付尤口達ニ主意申聞せ候。海布屋五三郎呼出豊久屋方銀札場之六百目借受候元来五三郎親伊助借銀札ニ而証文借手ハ豊久屋ニ候得共返り手形取置候上者其方之ハ右六百目ハ其方之相并可申旨急度申付旨趣意申聞せ候

一去ル十八日書面ニ有之候同十日之夕大隅宮一件ニ付町分之者之内林田町懸り合之者於役所致吟味候様永井甚大夫被申渡候へ其共分町在ニ懸り候儀詮議方江被仰付懸ヶ合可致旨申来り則日其段及通用置候

一去ル廿二日書面ひしヤ次兵衛方狂女引取以後養生不相叶昨夜四時死去致候然処後藤守助長屋勘次父子引取申度由申之ニ付相渡し申度断出候ニ付申達候而其通ニ申付候守助江も為念及通用候
一去ル廿日札場手代兩人芝居小屋江參候儀ニ付岡半四郎と対談いたし候心得錢目付ハ前々之差出候手代兩人と申も則錢目付之由銀錢

其外銀札等之見改ニ差出候事之由ニ相聞え候是ニ付而服役之者共江以後若棧敷江参手代共案内ニ参候ハ、いつれもハ右等ニ付参込候と心得候然ハ木戸場ニおるて全其儀可有之其外折屋之内見廻り之儀と存候拙者共品ニハ可借事も可有候いつれニ被扣候哉杯と差詰り致可然旨申聞せ置候

一能興行病人ニ付人数相勝不申ニ付段々延引盆後早々興行可仕旨ハ百屋平左衛門ハ断出ル

廿四日 晴

一八出操加日相濟今日作右衛門孫八罷出候

一もみや忠助備中屋甚七明五半時平井郷左衛門宅差出候様申来

廿五日 晴

一もみや備中屋兩人入牢々賄ニ被申付跡ハ町預申付候

一鳥屋佐助母先日ハ大病ニ付佐助儀対面之為御憐愍之処歎出候得共差扣罷在候処右母今日相果候由申出預御聞し之ものに候得共入牢ものハ母ニ候故永井甚大夫申達し今夕密に取置申付候

一八出江伝内権兵衛罷在候夕雨ニ而直に仕舞候由

廿六日 晴

一八出江権六多藏罷出候先日以来不相見候処今日手代兩人罷出同心

棧敷江案内ニ罷出候由兩人ハ右昨日之書面之通差詰り申候也

一明日九つ半時御供揃ニ而二宮辺御殺生被為入候大番所今町通りニ

宮江則申遣ス小嶋右内ハ通用

一明日五つ時大隅宮懸り合材木町山城屋重三郎ハツ時林田町長七棹治三郎同町まつ是も五つ時也のヤ忠吉平井郷左衛門宅江呼出し申来り則大年奇

へ申渡ス

廿七日 晴

一八出江佐助甚藏罷出候

一材木町林田町右懸り合山城屋重三郎治三郎町内預ケ被申付候段通用申来候甚大夫江申達ス

廿八日 晴

一明日八時林田町次三郎詮議方へ呼出しニ付其段申渡ス

一御藏米五拾三匁五分町米四拾九匁五分

一八出江市左衛門権兵衛罷出候今日切ニ而無滞相濟例之通印形等立合候由届候

廿九日 晴

一京町類族無事之届致候旨年寄共ハ書付差出ス

一大久保殿領分勝北郡みの村慶山備中小田郡新賀村より送り出郡代所ハ通用尤町分同断届申達ス

一牢舎人乙次儀不快ニ付詮議方ハ申聞町医井上一科申付候

一今夕徳守宮へ作右衛門権兵衛罷出候

七月朔日 晴

一宗門奉行細江藤右衛門松嶋十字栗田唯次ハ宗門改自分証文案詞之廻状

一幾野御代官手代大井田与五郎中里忠助ハ添翰ニ而西々条郡黒木村庄屋八右衛門と申者鳥屋与惣兵衛致同道訴罷出候右文段

然者彦兵衛御代官所作州西々条郡黒木村庄屋八右衛門ハ其御城

下坪井町富士屋嘉右衛門浜屋源右衛門兩人江懸り米代銀滞之儀
ニ付其御役所へ願筋有之罷出度旨申出候聞差出し願之趣御聞糺
濟方被仰付候様致度候右之段可得御意旨彦兵衛申付如此御座候
恐惶謹言

六月廿七日

右八右衛門御代官所江願之旨趣当役所江書付左之通

去ル卯暮八右衛門銀納米津出し致売渡去辰六月迄延し其後催
促候へ共不埒当已初三月迄之限付証文ニ而延置又不埒ニ而致
催促候得共筋不立請入源右衛門江懸り相濟候様ニ申候得共
是又事済不申下方ニ而致様無之訴出候由右借受候員数左之通
也

米拾五石五十七匁五分替 此代八百六拾式匁五分外三拾七匁五分
合銀九百目也

一八出江 参候役者共之内四五人相煩今暫之内逗留為仕度旨宿橋元町
西屋半兵衛勸進元今川伝六願及御噂聞届

一京町茂三郎甥因州鳥取河端三町目岩井屋弥太郎今般御当国紺屋修
行致度来春迄逗留引請

一ふきヤ町山伏教四坊同月三日ニ出立往来四十日之逗留大岑也

一備中倉敷一石屋一件入用銀盆前ニ六百目ほと可遣候処先達而茂渡
合出し候銀札四百ほと相残り迎も払込ニ可相成ニ付此度ハ茂渡藤
右衛門へ申談候様仕度役所挨拶を以て及相談候様ニ大年寄へ申談候
尤是迄川口茂渡市右衛門式貫目ほと調達致候小性町請前ニ候得
共一向手段難成候由併左様申而も難差置ニ付大年寄共も嚴敷申

付候様ニハ相聞え候粗市郷奉行中へも一条及噂置候

二日 晴 三日 晴雨有

一幾野御代官所合添翰之一件及御沙汰候右八右衛門来ル十八日ニ罷
出候由

一馬持共式十五人江大豆式俵ツ、拜借納所之儀者来ル八日合同十二
日迄ニ御引取之積り願窺候問屋ニ而庄助和七八八源五郎合今日
及御沙汰候処去々歳之例ニ而表表ツ、御借被成候趣其段申渡

一多胡左市山本屋与三七懸り合ニ付与三七弁書今日及噂候

一御作事江式百八拾九匁分四厘掃除料相渡す

一明後五日大坂屋作次并妻娘追払被仰付候家屋敷取上家財妻子ニ被
下候旨市郷奉行中合被申渡候

一元魚町のヤ彦兵衛下横野村百姓式右衛門娘つた式十七歳此度妻
に貫

一中之町松田屋利助俸勤二郎廿七歳二宮源三郎内縁ニ付養子ニ遣度
一境町難波屋紋助小田中村新屋敷齋兵衛姉さい十七歳此度妻に貫

四日 晴 五日 晴

一材木町重三郎林田町治三郎今日平井郷左衛門於宅呵追込去ル十八
日日記之一件ニ付上之町喜八も同様之取計有之候由一条役所ニ不
〔 〕

一大村庄助役所江入用ニ付同心孫八作右衛門差遣候

一今日幾野御代官合懸り合富士屋浜屋呼出し弁銀致納所候様申渡ス
一大坂屋作次呼出し（出牢申付候赴 中山補印 手形遣し候）同心伝内権兵衛牢屋へ遣し召連候
様申渡し右宅に扣罷在諸事見計セ候扱各相揃へ申渡シ取計三人共

ニ御領分追私家屋敷ハ取上家財ハ妻娘に遣之候一卷別に有之故又
畧之早而御届申達ス尤古城村庄屋左次兵衛見届一札取帰ル作次宅
ニ而道具取計湯原屋嶋屋兩人江預申付候由権六ハ届候

六日 晴

本延文向月八日ニ出ル
一船頭町ニ而南側仲屋六次郎家屋敷表口五間四尺式裏行六間三尺

式軒役也西隣今岡ヤ浅右衛門東隣新屋藤助右質屋ニ書入三丁目喜
多屋武右衛門取次ニ而銀札八百目来ル午十二月切利月式歩ニ而借
用

一元魚町紙屋太兵衛ハ願書家主作人市三郎ハ去秋ハ家人用借屋替可
申由ふしのヤ重吉ハ借屋申渡候ヘ共右組合合点不致其響ニ而外ニ
而借屋調不申何とそ住所相成候様ニと歎キ

作人市三郎ハ借屋替一札候様ニ請人福渡町みな木屋甚兵衛美濃
職人町豆フ屋善兵衛を以申聞候得共明不申乍当分手前居候所と入
替り候様ニ申候得共其儀も不仕難義致候由申出候(請状写し有之)
一新魚町魚住屋米四郎元魚町伊丹屋嘉四郎所持地国請酒株当己七月
ハ来ル申七月迄三ヶ年借受かけ酒商買願

七日 晴 八日 晴

一二階町作次家屋敷今般人札相望候者ハ来ル晦日迄入札相認大年寄
自番方ヘ可差出候右家やしき及見申度候ハ、町内年より迄可有対
談旨為触候及御噂候

一役者共昨日快気ニ而出立及御噂候

一三奉行中ハ廻状此廻状之趣町方江者触ニ不及御幼年様之儀殊に御忌掛りニ無之秀其段心得候様甚大夫被申聞候

天良院様廿三廻御忌ニ付於泰安寺御茶湯被仰付此段為相知候様被

仰出候

一盆中町廻リハ可致御貸し馬ハ無之候由此儀ニ付此間存寄申達し置
候ニ付御用所江も被申達候処其儀ヲ以御建を被破候事も難成いか
様ニ而も町奉行ハ々々ニ而候間左様相心得候様ニと有之事ニ候旨
存寄ハ尤に御聞届被成候

九日 雨甚シ

一三奉行中ハ廻状

尾張中将様去月十八日御逝去ニ付今日ハ来ル十二日迄五日之間
鳴物高声御停止之事ニ候尤普請ハ今日一日可為無用候

石名平太兵衛組中三軒ヤ町中江も触書差出し候

一東新町のたや儀右衛門年罷寄細工手支候間手間之者播州加古川清
兵衛与申もの彦人八月ハ十二月迄差置申度願出ル

歛柄屋吉右衛門嶋屋藤吉ハ断書私共数年ねちわく細工家業致し御
用之御手当ニ先年ハ他所粹細工人被成御差留渡世仕来り候処東新
町野田屋礮右衛門義者御当地者故十年以来右細工之儀被仰付其節
礮右衛門ヘ一切他所ハ懸組細工之儀ハ不相成段被仰付候処今般他
所粹手伝人呼越申度趣者私共ヘ可相尋処一向相知セ不申先達而被
仰付候趣を相背兎ヤ角御願申上候由前書ニ申上候通右礮右衛門儀
者全体他所より懸組細工之儀ハ不相成旨乍奉畏々様ニ色々之手段
をかへ御願奉申上候段何共不審奉存候ニ付乍恐口上書奉差上候以
上

一幾野御代官支配所久米北条郡宮尾村百姓重右衛門弟儀助当己拾八
歳内縁ニ付養子ニ仕度願伏見町小坂屋善兵衛ハ庄屋次郎左衛門ハ

書付添

十日 曇雨

一 水増鍛冶場船わたり留り申達ス

一 材木町重三郎林田町治三郎追込差免し被申渡〔通用申来り申達

ス

十一日 雨折々

一 元魚町古川屋与作借屋新八と申者今日美職人町永礼幸太と申者前

ニ而御蔵切手巻俵一枚半表一枚拾イ尤九時頃之由届出右切手八年

寄封印ニ而預り置可然旨右切手拾イ候町之様子尋申付候様ニ申渡

し候処今晚大橋十大夫殿之内平岡岩次と申者町内年寄之方江申出

右切手落し候由勿論宛其外も註文合候由前後甚大夫江申達候而何

分十大夫殿御沙汰無之候而者取計難成之旨申置扱罷帰当番香山

多蔵江申付十大夫殿長 長谷川物右衛門通用拾切手請取渡し例法

有之候旨申させ候処全十大夫方之切手ニ而無之岩次切手之旨何分

定法之通可為致旨申ニ付今夕請渡し致させ候

左之通

覚

一 御蔵切手巻俵四升巻合式勺五才 但し落し切手巻俵半之内四歩一

渡し残也

右之通御渡し儘受取申所相違無御座候若此已後右之切手外方相
落し候と申者有之候ハ、私罷出急度埒明可申候為其請取手形仍如

件 大橋十大夫内平岡定次印年寄平左衛門与一宛

覚

一 御蔵切手巻斗式升三合七勺五才 但し拾イ切手巻俵半ノ四歩一也

右之通御渡し被成儘請取申候処相違無御座候為其請取手形差上申

候処仍而如件 元魚町拾イ主新八印家主古川屋与作印組頭安右衛

門印年寄平左衛門与市宛

右之通ニ而相済

一 新職人町瀬元屋平四郎借屋源助近来後藤奄程門弟ニ相成針術稽古

致候処今般嶋田玄佐与 改号針医為致度願市郷奉行中へ申達候上聞

届

十二日 小雨後晴

一 大橋十大夫殿内平岡岩次落切手之一条相済候段永井甚大夫江相達

候

一 昨日遊行上人役者修領預の先触文段 一筆致啓達候各弥御無事御

勤珍重存候今般遊行上人廻国被致来午歳書面之通所々江相移られ

神勅之御札被致弘通候依之此度其所之御領主御地頭方江御案内之

書面差越候間各御届可給候將又上人移座之節ハ万事宜様頼入候

此段為可申達如此御座候以上

日向國 豊後 同 修領預 遊行人役者 土佐國 アワ

延岡 岡 白杵 宇和嶋 同 西条 高知 徳嶋

丸亀 松山 津山 岡山 赤穂 龍野 同 姫路

右所々御役人中 右相達候右に付飛脚小野田金石右衛門と申者参候

而寺社取次中迄宿檉野屋茂市より遊行上人の御家老中迄之書翰相

届候由御寺次種村紋大夫の通用有之候

十三日 晴

一 明五半時御供揃ニ而妙法寺泰安寺江御仏詣被成候旨稻垣茂士の通

用

十四日 晴

一 今日七ツ頃分盆中例之通町廻り致候趣ハ去ル八日晝面之通也相違ス

一 大峯坪井町渡野ヤ伝六明十五日立廿日往来。東新町たね屋伊助大峯出立日数同斷

一 福田嘉兵衛方ニ而千ヶ寺参之風躰之者参り烏論ケ間敷相見ヘ其儀ニ付非人小屋へ呼に遣し候而小屋之者参候由尚又其後ニ参候而役所之取計ニ致しくれ候様被申聞右に不限万端氣を候様申付候

十五日 晴

一 西新町忠助大峯参明十六日立往来十六日之由聞届候

一 石名平太兵衛自分寺証文今日相受取候

一 船頭町今津屋孫十郎分京町瀧山屋甚八へ懸り訴状出城村善八分相願候而去十一月之頃銀老貫五百目孫十郎分口入致し加判人ハ右瀧山屋甚八ニ候証文ニ甚八分相并可申由ハ無之候処返納相滞ニ付孫十郎分ハ手形ニ拘りなく甚八引請候事故及催促候へ共不埒ニ

一 瀧山屋分ハ善八直談ニ而調達致し弁済之物議ハ無之証文も其旨ニ候殊更出城善八十二月七日欠落致し然れとも気毒ニ存右打親類も有之田地ニ而も先渡し又ハ十年賦或ハ加徳米ニ而相済か田地売口をひ候而成ともと則孫十郎江も談し候様子何分借主不居申候得者難食着及ニ付一通り市郷奉行へも主意を付及噂置候

十六日 晴

一 黒木村八右衛門訴状ニ付坪井町分請書差出ス噺入候由かたしヤ太助市勢屋与ニ郎

十七日 夕雨

一 明日五ツ半時竹之宮辺御川狩御入京橋夫分鍛冶場御乗船被成候旨稲垣茂土通用則取計候

十八日 晴

一 かち場橋かけニ付河原町分願大川筋鍛冶場前渡場近来殊之外悪敷老人不達者之作人こヤし持越候町分甚難儀仕候右ニ付掛橋之儀只今迄之通鍛冶場前に広瀬橋之通以来夏分も差置くれ候様銘々組合作人共歎之市郷奉行中へ達候処御勝手方江かけ合可申旨則勘定所ニ而近藤伊左衛門へ談置候

一 司馬五郎様御帰館之時御挑灯御波戸場へ出し候否不相知候由御蔵元伺出候ニ付大文字御挑灯為ニ粗甚大夫江達シ候

十九日 晴

一 中之町兼而堺公事取捌今日大塚屋畳屋役所へ呼出し申渡即刻取計として小頭石名左五兵衛へヤ目付中山市左衛門大年寄玉置忠兵衛町棟梁五郎兵衛先方分出し候大工兩人年寄兩人組合訴答兩人各出合セ図面を以杭ハ双方分為出繩を引双方度石を為居晝面之差図ニ及引取候今日引統孫左衛門於宅重次郎文左衛門追込申付年寄ハ禁足取計之上御届申達ス

一 柳之土手小屋江昨夜流星落漸消留候由私共小屋之儀を申上候ニ而者無御座火之儀ニ而類焼と申もの御座候儀御敷又ハ鉄砲町屋敷も御大切之事ニ付其趣物語申事之ミ之よし即日申達置候

廿日 晴

一七拾七文遺届出候

一京町きくや清左衛門綿実座之儀ニ付野井乃郷宿中左甚三郎明後廿

二日立十日計

廿一日 雨

一永井甚大夫呼に参罷越候処延命寺御詮議筋ニ付大信寺へ御預ケ被成候寺社取次種村門大夫申来候ハ、同心兩人可差出旨被申聞則刻同心江かけ合申候暮方右宅へ遣し籠ニ門外より乗繩懸ニ而大信寺ニ至り廻江入引取候出番室井作右衛門神田権兵衛

一ぬし勘平用事ニ付播州赤穂一丁目二見屋伊右衛門方へ明廿二日立往来十日之願

一備中屋甚七初屋忠助役介共町内預差免申渡候様申来□則申渡す

一甚大夫申来候ハ先刻田中ニ而高橋官次長屋もの切殺れ候由右殺候者ハ小田中伊助と申者ニ而直に逃去り候趣相聞候小屋之者共見聞次第捕へ出候様御申渡可有之旨猶考之上可然様存候旨申来候ニ付右を請在中遠近疑念なく召捕可申尤此間御伺も申置其意を以可申付由及返答候則日同心へ申渡し小屋之者江者大年寄奇一応為申渡候猶以同心方ニ而委細ハ申含させ候

廿二日 晴

一黒木村八右衛門今一応婦宅可致由承置候

一中之町年寄禁足差免し

一盗人久米右衛門相煩福田嘉兵衛申聞中村以蔵差遣ス

一去ル六日之日記元魚町作人市三郎と同人借屋紙屋多兵衛一条今日

右多兵衛作人市三郎家守黒坂屋幸助呼出し察度存寄申聞せ請人皆木屋豆腐屋兩人も一通り存寄を聞差届し候

一御奏者番中〆廻状 昨廿一日從江戸表当月六日出之飛脚到来

殿様益御機嫌能被成御座主税様御儀淡路守様へ御賀養子御届書先月廿五日御用番板倉佐渡守殿へ被指出御請取被置当月四日主税様御登城被成様淡路守様へ御老中御連名之御奉書御到来兵庫様御同道御登城被成候処御願之通被仰出候旨申来恐悦之御事候依之為御怡御帳付候間明廿三日辰中刻〆巳之中刻迄之内出仕可有之候此旨同役属役并支配方江も可被相達候以上 七月廿二日 市村数馬村山平学黒田彦四郎

右御触之趣例之通夫々相触候

廿三日 晴

証文同月廿六日出ス

一鍛冶町鍛冶屋理右衛門倅宇平次当己廿八歳兼而不所存者ニ付一家之者ハ不及申心安き者相頼美名をかへ候得共不致承引弥相募申候然処当月五日与風罷出方々相尋候得共今以「行方相知」「右之通之もの」ニ付於何方何様変儀仕出し候事難計依之一家之者とも相談致し義絶勘当致度旨願今日及御沙汰御聞届之上其段申渡候

一二階町田原屋伊兵衛与申者延命寺掛り合之旨平井宅ニ而詮義玉置忠兵衛召連屋八時〆夜八時迄相詰候由

一田原屋六兵衛当三月廿三日郡代所へ呼出し之一件翌廿四日之書面之通ニ而其以後書付差出し候得共先役所切ニ致置甚大夫存寄も有之候由ニ候処今日於御城役所被申聞候ハ先達而田原屋郡代所ニ而尋有之追込ニも被仰付此義右開場所替地も願候者□中頃訴訟之有

之候得共不埒之儀ニ付願取上無之其上誤り一札も差出候儀を其段も不申疏状差上候事不届ニ付追込被仰付候田原屋儀開発之場所ハ先達而御聞届相済候事ニ付只今迄之通ニ候間左様ニ存候様被申渡候尤田原屋江者役所の咄候而可然旨今日呼出し為相知候年寄伝兵衛同道致候

廿四日 晴

一黒木村八右衛門懸り合鳥屋与惣次儀色々出精致候得共不相済候ニ付噯及断候之由申出候

一林田町豊国屋重右衛門願上田邑伝六伴勘四郎後家きく廿四歳此度借屋勘六妻引受

一伏見町作人齋之丞借屋田中屋伝六母娘式人六十四歳娘式拾七歳右

召連山北村孫六引請

一三津屋平右衛門所持之他国受酒株当已の来午迄借商買元魚町多助願

廿五日 晴

一平井宅へかつまた町紙ヤ左助呼出し延命寺懸り之由孫左衛門召連

一元魚町小鳥屋次郎右衛門大龍寺能役者宿致度願

一同町粟井屋忠次郎林源八と改馬場縫殿右衛門江出入奉公人別離承

届申渡ス

一大塚屋重次郎豊屋文左衛門追込申付置候所去ル十九日堺目捌申渡之趣請書一札取之尤組合印形年寄奥書印形取之候上ニ而追込差免申渡ス藏合孫左衛門於宅石名左五兵衛立合取計済御届申達ス

廿六日 晴

一豊屋文左衛門儀延命寺懸りニ付平井郷左衛門於宅詮議有之孫左衛門詰

一黒木村八右衛門一応帰り申度由申出且又返状之儀同候得共不及貪着候右之趣小鳥屋与惣兵衛罷出候

一明日田原屋伊兵衛五つ時呼出し郷左衛門の申来り孫左衛門へ申渡ス

廿七日 晴

一田原屋伊兵衛平井宅ニ而尋之上他参留申渡候由（式丁之内）通用

一坪井役人松下助七吉田勝右衛門の書状到来此間勝右衛門交代ニ参着松下ハ近々用向済次第罷立候旨挨拶之書面也

廿八日 晴

一司馬五郎様明日御仏詣御延引稲垣の通用

一三津屋平右衛門大社参社男小林山城同断晦日立十六日往来（）

一京町鍵屋与平次土岐美濃守殿御領分英田郡北村与一右衛門家内九八当已廿七歳此度養子ニ貫候願

一安岡町河本栄昌娘しん十八歳惣社村小井伊織養娘ニ貫遣度願

一堺屋伊右衛門切手大坂金田町金屋半兵衛手代六兵衛例年之通大具道具昨日入

廿九日 晴

一配当場城正申出主税様御目見御門出御結納三品此度御祝儀夫々座頭共頂戴仕度来月二日ニ罷出同三日ニ頂戴之旨大年寄藏合孫左衛門申出候尤岡山等もヶ様之類夫々に仕候由則甚大夫江及沙汰候明日御用番江可申達旨被申聞候

卅日 晴

一 甚大夫の申来りハ主税様御祝儀座頭共申出候趣与兵衛殿へ申達候
処先刻及対談置候通御養子御取組御願被為濟候御祝儀者弥可被下
候其餘御目見御結納等之儀ハ向方様ニ而之御取計ニ御座候得者此
方様ニ而御貪着者無之儀ニ候即其段可申渡旨御指図□左様相心得
可然申渡候様申来ル則配當場江可申渡旨孫左衛門江申遣ス

八月朔日 夜雨 二日 晴

一 勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄右衛門庄二郎式人例年之通
紺屋かた并呉服物昨日入。大坂大手筋折屋町田原屋庄左衛門悴庄
三郎例年之通腰物小道具売昨日入各西川屋善助切手

一 大坂屋作次家屋敷入札一昨卅日切ニ而今日於役所開之

。六百拾五匁堀屋小鳥屋次郎右衛門。六百五拾五匁相札 材木町拾五匁北村屋庄助

。五百三匁職人町团屋甚之相札有之六五拾一匁。六百拾五匁五分五リ元魚町

安原屋与市。五百五拾三匁野井町小鳥屋。六百七拾五匁平兵衛

高札ニ而但地入札ハ六百五拾五匁ニ候高札有之。六百七拾五匁落申候也

茂渡庄右衛門入札ニ而此家之儀ハ兼而所持之家之処先達而売券三
百匁ニ而作次買求メ候中何方か内々作次江加言も有之候ニ付売家
ニ而候処其由緒も有之右庄右衛門モ日入候由相聞之候元直段ニ而
右家庄右衛門へ被下候様ニと内分窺も候得共入札触も出たる儀去
屋辰屋家之入札ニ而もこんヤ町渡部休庵内談も有之申請度同候得
共入札触候得者望之儀存分ニ入候様ニと申聞せ候儀ニ付此度も其
通ニ計候立合小頭左五兵衛大年寄孫左衛門也尤申達ス上納ハ来ル

廿五日と申付候

本証文同月九日出

一 茅町南側ニ而吹屋藤介屋敷地表口式間式尺式寸五分裏行十七間老
步半役東隣吹屋藤助西隣森永屋源兵衛右屋敷代銀札百七拾匁ニ而
森永屋源兵衛へ売渡し申度願聞届

三日 雨

一 馬形町ニ而組屋勘十郎借屋藤吉と申者親助六江対し甚孝心之趣蔵
合孫左衛門宅之向ひニ候故数年朝暮及見候事与風承之ケ様成もの
ハ御吹調も申度孫左衛門へ相尋候処則近辺家並之者共江承り合之
為同人ハ書面を以名宛ニ聞合候之処いつれも其趣無相違旨ニ而印
形いたし尚又家□組屋勘十郎儀も藤吉孝心之事御聞及之通相違無
御座私儀も御同意ニ存候ニ付奥書請判致し候ニ付孫左衛門差出之
候仍之尚又廻り同心江も其段為相知堺町其外ニ而も虚実等聞合可
□之旨申合メ置候所最寄ニ而も右底（三）申之候由ニ付しからハ孝状
書付出し候様ニ孫左衛門江申聞候処同人書面ハ調同役孫右衛門忠
兵衛も奥書印形ニ而差出し候ニ付永井甚大夫江差出候
一 大村庄助相見ハ山吹与申女是迄山北村松原ニ而与兵衛と申者之方
ニ借住居候処品ニ而追出され行方無之ニ付直訴申出候由此ものハ
元来先役井上弥三兵衛町分追払ニ相成申候還八妹ニ而母并妹も追
払者ニ候山吹ハ無宿ものニ候此儀ニ付去月下旬之日記ニ有之候伏
見町同中伝六母娘山北村孫六へ引請候ニ付人別除願出し双方引合
之者之事右母娘と申者則還八母いもとニ而追払ものは迄町方ニ差
置候手段之次第相頭庄助とも大方申談候而方ニ糺し可申旨ニ極
メ置候今夕廻りハ先伏見町ニ而聞繕に申付候庄助役所ニ而も明日

急度吟味可致旨被申聞候

一座頭共主税様御祝儀去ル卅日之書面之趣ニ而中々承知不仕最初申出候三品頂戴仕度尤二品ニ而此度頂戴仕候得者以後御門出と御輿入と頂戴ハ可仕与申候而彼是存分之願被聞候ニ付大年寄忠兵衛も今日御城江罷出色々相談候上ニ而片付不申又候帰宅之上小頭左五兵衛を遣し於忠兵衛方ニ他所組頭并城正も呼出し左五兵衛ハ此度之引越之御祝儀可致頂戴其上ニ而江戸表へ御通用其方共申岡山ニ而此度之様御取組有之候哉又ハ外ニても御聞合之上可被下否可付候御目見被成候儀ハ拙者不存候決而御沙汰ハ無之候且又輿入と申ハ御婦人ニハ可有之候其方共申趣ニ而ハいかゝ候杯申候処至極いたし左様候ハ、最初被仰候通御引越御取組之御祝儀二品「頂戴仕此已後淡路守様御屋敷へ被為入候而も今般之御祝儀ニ而相濟「一切申分無御座段印形差出候ニ付上ニハ御引越計可被下候へ共左様ニ候へ□色々申取可遣旨申之引取候上ニ而其段申達シ候

四日 雨

一座頭江被下候御祝儀今日御日柄ニ付屋後取計候式拾五匁在名卷人。式拾五匁晴衆分式人。卷貫拾匁衆分百人^{拾匁}。六拾五匁打かけ拾三人^{五匁}、六拾式匁五分初心式拾五人^{式匁五分}。式拾四匁寿名八人^{三匁}、六拾目配當場役料書役筆墨紙代共 都合卷貫式百七拾目五分

右主税様御取組御引越之御祝儀御領分他国他領座頭警女へ被下置相渡候 立合石名左五兵衛藤森権六申達ス

一中之町おのヤ清助後家養子ニ湯谷村忠助参候由

一夜に入鍛冶場往来止り申達ス

一送り者野村彦右衛門殿御代官所備中阿賀郡佐伏村七藏夫婦西国願礼ニ出播州佐用郡円光寺村ニ而女房相傾村送り右願円光寺村年寄又右衛門庄屋新兵衛を送り出し川辺村を送り出し庄助を通用

五日 晴

一川明申出且又昨日書面送り者安岡村江送り遣シ届ル

一明六日九時御供揃二宮辺江御遠乗り京橋夫本町通り申渡ス

六日 晴

一中之町三室屋新兵衛所持他国受酒株当月を来ル十月迄借受商買仕度願直屋市郎左衛門

一播州加茂郡三木町形屋与兵衛例年之通こんヤ形昨日入。播州姫路龍野町いつミヤ孫兵衛手代茂兵衛重郎兵衛式人例年之通小間もの売昨日入右中之町福茂屋武助切手

一伏見町小坂屋善兵衛幾野御代官所支配久米北条郡宮尾村重右衛門弟儀助当已十八歳此度養子ニ貫去月願相「今日往来之証文出」

七日 晴

一永井甚大夫を申来候ハ村山平字手帑延命寺今日九ツ時「詮議方へ可差出旨平井郷左衛を佐々木紋大夫へ申来候段相届依之同心組兩人四半時紋大夫宅迄罷出延命寺達中警固いたし候様御取計町奉行中江被仰達可被下候。此趣ニ付四時罷出候様取計候処中山市左衛門三舟孫八大信寺江参夫を駕籠ニ而繩かけ廻し大信寺同道夫を紋大夫江参申渡夫を郷左衛門へ召連御徒目付下目付相詰尤同心も其際に詰座敷次之間ニ而詮議有之候而又大信寺江召連参候而紋大夫

江届候由

一大目付海老原極人少連名ニ手栴明八日御用日九日江延候趣申来ル
一中之町米屋八郎兵衛去ル卯之八月少造酒商買致候義ハ不勝手ニ付
当年少相止申候旨届候

八日 雨少し

一市村数馬村山平学黒田彦四郎少廻状左之通

從江戸表飛脚到来殿様益御機嫌克被成御座主税様御儀先月廿三日
日時吉辰御養家淡路守様無御滞御引越被成万端首尾克被為濟候旨
申来恐悅御事ニ候仍之為御歎御帳付候間明九日辰之中刻少巳之中
刻迄之内出仕可有之候

右ニ付支配方夫々即刻触出し候

一三軒屋下草今日少苜候由届出ル

一宗門帳今日右役所江為持出ス

九日 晴

一郡代大村庄助被為召役免卷^{マキ}上下被下置跡役之儀御勘定奉行山岡与
左衛門へ兼役被仰付候

一今日月番居候尤御帳ニ付惣出仕於七間廊下ニ頭分大目付海老原
極人御政事奉行永井甚大夫出会御用番伊達与兵衛殿出座申達候由
。御勝手御不如意ニ付数年御家中引米被仰付猶又差添不得止事去
ル寅之歳増引被仰付熟^{マツ}も別而可為難儀処是迄可也ニ取統御奉公相
勤御満足ニ思召候右年限相濟当春引米御用捨被仰出儀ニ候処去春
江戸御屋敷御類焼過分之御物入大坂表おゐて御才覚等之儀御役人
随分出精候へ共存候様ニ不相調今以御館等も出来不致甚御不易之

御住居ニ被成御座候其上当年「御役被蒙仰差懸り之御入用多く
御難波之事共ニ候仍之今年茂引米御用捨難被仰出候熟^{マツ}も嘸可為困
窮至而御氣毒候思召候得共誠に無御抛右之段被仰出候此上いか様
とも致艱難取統可被為努候尤少々も御手操出来次第引米御赦免之
儀くれ〜御勝手御役人江申渡置候右之趣可被得其意候

一御年貢米町在におゐて切手替式は致外払候儀兼而停止ニ候弥以堅
可被停止候間此旨急度可相守候且又町在ニ而切手替外払等之取次
致候ものも有之様ニ相聞候此已後右之類於有之者当人ハ不及申五
人組之者迄急度越度可申付候尤目付之もの差出之間末々迄猥成義
無之様可申渡候附り御家中へ少々宛の当米差出し候儀ハ苦からず
候以上 例之通相渡り触候

一水無瀬屋家来飛脚之由和田一藤太と申者出家者人下人雲州へ通り
問屋ニ而道案内出し可申旨罵候ニ付勝間田宿仕来ニ付出し候由

十日 雨曇

一^東大番所うしろ中村以蔵方江去ル三日之日記還八追払之役介母娘明
和六年丑三月翌寅二月迄借屋貸候儀尋候所伏見町各務伊右衛門少
不苦ものニ付差置具候様被頼尤借請ハ斎之丞と申者之由是節伊右
衛門名代と相聞へ候

惣ノ此一件ニ付候而ハ行先懸り合多く候故詳に不記一所ニ縮
袋ニ入置候事

一御城下町鉄砲改帳今日鉄砲奉行中へ差出ニ付同「玉置忠兵衛」出
ス

一中之町福茂屋武助儀還八妹山吹を妻ニ致し罷在候御母娘之追払も

のを一所に差置候事尋候処母五七日逗留ハ致し引請ハ不仕由

一 明十一日延命寺儀郷左衛門宅へ呼出しニ付紋大夫宅へ同心組六半時頃差出し此間之通相動候様可申付旨永井甚大夫の申来則申渡ス

十一日 晴

一 関十次がいなり山の内指竹其外大竹之分伐取之儀申来り甚大夫江御通り達し三軒屋番へ為知之書面遣之候昨

十二日 晴 十三日 晴夜中雨

一 京町年寄若松屋善左衛門印形紛失ニ而替候所出候ニ付相用申度断聞届ケ

一 吹屋町円教坊大峯修行相済持福院与改号願出る

一 水無瀬殿飛脚和田一藤太と申者并出家老人大小指老人雲州へ参候ニ

付問屋場ニ而先払無之事ヲ彼是申候由勝間田（マ）も指差さし羽織ニ而杖突候者を先へ立候ニ付急ニ拵候而同様ニ計候由其分ニ承置候

儀甚大夫迄及噂九日日記ニ有

一 稲荷山下草苅昨日切済候由

一 江戸表の相廻候由公儀被仰出之御書付御裁許裏書絵図御裁許書下証文等写を為差出本紙相添当已年中ニ取集江戸着次第寺社奉行御

引番へ致通達差図可被請之旨御書付永井甚大夫の被相渡町方年寄共江右様之者相考可申出旨触出ス其委細触書留ニ有之

一 伏見町帯屋源次借屋ニ木挽幸七と申者細工いたし罷在候処去ル十

一日之七ツ時頃内山五藏下女つまと申此者元来右幸七と夫婦ニ而近頃ハ離縁いたし候処約を變し候儀を遣恨ニ存右幸七つま（マ）ニ本林

寺前横丁ニ而見かけ散々打擲いたし町内見物（マ）来候留り候へ共材

木町も伏見町役人も不（マ）合帯屋主ハ老人俸源次取鎖メ候由右ニ付

刑法奉行井上弥三兵衛の咄し之趣ハ其女当季の弥三兵衛江召抱られ候ニ付其日ニ目見に参五藏方へ帰候途中（マ）「件之趣内山五藏の

も届弁書も出候儀則日永井甚大夫の被相渡候大年寄も是迄不申

出甚不埒ニ付夫の平太兵衛江手幣差越役所の吟味ニかけ候。内山五藏の出し候弁書等一まきに有之候

一 材木町証屋忠助へ木挽幸七去ル九日夕やとかし候ニ付五藏の差置候様申付と相聞候得共其訳ハ追而之儀先改候而役所へ急度預申渡候追々可及吟味

去八月二日入札有

一 二階町北側ニ大坂屋作治家屋敷表口式間裏行拾式間半也式歩役東隣花野屋伊助西隣元魚町肥後屋佐七ニ而御座候右之家やしき此度

入札ヲ以御払被為仰付候所私落札買上仕候代銀札六百七拾五匁并式拾歩一銀札三拾三匁七分五厘合七百八匁七分五厘御上納仕候然

上者右之家屋敷ニ付此以後違乱無御座候為後日家屋敷買券状仍而

如件茂渡庄右衛門買主五人組伊助藤吉伝兵衛組屋

十四日 晴夜中雨 十五日 小雨

一 御蔵米四拾九匁五分町四拾五匁五分

十六日 晴

一 幸七一件ニ付吟味筋相掛大意甚大夫へ達ス幸七出所吉ヶ原之者之由ニ付昨晚内聞遣し候上粗人別ニ離候者之由相聞今日伏見町材木

町年寄の先村庄屋江印紙ニ而人別外否之問合に書状遣し候
十七日 晴

一 吉ヶ原村庄屋の帳外者之由返書到来ニ付幸七吟味中入牢取計尤平

井郷左衛門江通用手形遣ス

十八日 晴

一 渡部休庵ハヤシ元次郎儀来ル十月迄差置申度旨願出得共去歲以来間もなき事願御取上無之候併元次郎儀幼年候間十五歳ニ相成候迄休庵江御預被成候満年之節申出候ハヤシ「被仰渡候」

一去ル三日之書面ニ有之候馬形町こんがたヤ藤吉御賞し被下米壹俵木綿地一反被下之候可然申渡取計候様被仰出候則今夕藤吉呼出し

大家組屋勘十郎并藤吉組合共年寄召連出大年寄孫左衛門忠兵衛両人石名平太兵衛罷出左五兵衛權六詰ル此一条別ニ袋ニ入置候

一 明四つ時 田原屋伊兵衛 二かい町 追込 勝また町 阿 中之町 追込 甲屋左助 豊屋文左衛門 郷左衛門宅へ呼出し

一 延命寺儀同所呼出し有之同心兩人寺社取次宅江差出候様甚大夫ウチ申来ル

十九日 晴

一 延命寺脱衣住職取上 寺社取次佐々木 較大夫談義し 之上白砂ニ而詮議方上り屋入牢申渡し有之候由甚蔵多蔵

一 今四時御供揃二宮へ被遊御出田町御門ハヤシ例之通稲垣御通用

一 幸七呼出し并町方懸り合吟味

一 延命寺掛り合ニ付勝山と申女も入牢之由

廿日 雨

一 二階町組屋勘十郎造酒商賈之儀近年掛増長元入不手廻りニ付当秋

新酒口ハヤシ現銀売ニ致候由二丁目組屋店も同様之由相聞え候

一 御蔵米四拾七匁五分町米四拾三匁五分

廿一日 晴

一 くみや勘十郎現銀売之儀申出候得共勝手次第と申趣ニ大年寄江相答候

一 関十次ハヤシ竹川下ケ裏印調遣ス

一 播州龍野本屋佐吉例年之通書物売昨日入堺屋伊右衛門切手

廿二日 曇小雨 廿三日 晴

一 二階町藤吉へ遣し米証文ニ而受取

廿四日 晴

一 吉ヶ原ハヤシ右幸七儀帳外ニ無之処籠末いたし候段庄屋年寄ハヤシとして罷出候由相聞候

一 一かち町鍛冶屋与助願十ヶ年以前相願播州龍野古殿町かち藤助方へ奉公持ニ差遣し置候俵勘次郎儀当已ハヤシ三拾四歳不所存ものニ付義絶

一 勘当願出今日差出ス

一 東新町因幡屋新七切手大坂松坂屋忠右衛門老人例年之通唐弓弦おろし売昨日入

〔今町直屋孫兵衛妻まき離縁願兄備前建部塩ヤ万五郎へ差帰し大目也〕

一 玉置広四郎所持地國請酒株当已ハヤシ未歳迄三年借商賈仕度藤野屋重吉ハヤシ願出此者先年封札御免候儀ニ付店を仕廻候故当人組合共江尋

申付候所皆々相願候故聞届遣シ候

廿五日 晴

一 明日二宮江御出

廿六日 晴

一 吉ヶ原ハヤシ庄屋年寄罷出幸七儀ニ付書付差出ス別ニ記ス此儀ニ付幸

七此方相当之裁許可申付哉御預り所之ものニ付御引渡可申哉無御覆藏可申聞候旨書面を以飛脚乃井野江遣候

廿七日 晴

一幸七今日呼出し吟味郷左衛門へ手形遣ス

一明日九時御出藪田前通二階町御門の本町通り火矢被成御覽旨一場茂右衛門の通用

一明日の大龍寺ニ而能初候届大鼓為打候儀相届申達ス

廿八日 雨

一今日御出延引。松平内蔵頭殿領分備前国赤坂郡吉田村仁助当巳四拾宍藏同人妻き「三拾三歳西今町かとヤ吉兵衛引請願申達ス御聞届

廿九日 曇

一文左衛門伊兵衛差免し被申付通用申達ス

一乃井野の飛脚帰り返書申達シ一条ニ記ス

一播州あほし塩屋伊兵衛同弟助五郎右二人例年之通り荒物塩物売昨中之町日入榎木ヤ

一明朝日九時御供揃杉山江被為人京橋の川井前也稲垣の通用

九月朔日 晴

一乃井野の書状吉ヶ原村庄屋年寄持参及御沙汰候一卷ニ有

一今日九ツ時砲術御覽之儀追書ニ明日杉山御出御道筋今日之通一場の通用

一能今日の初り市左衛門権兵衛罷出候

二日 夜ニ入雨

一五藏方下女之儀者向之方之取計請人江申渡し此方引受候御方甚大夫江申達ス一卷に有之

三日 晴

一今日幸七を吉ヶ原庄屋年寄へ町会所ニおゐて伏見町材木町年寄両人引渡ス同心中山伝内香山多蔵見届先方の年寄江受取を取尤宍の会所迄幸七江穢多を引連来手錠ハ不懸腰繩も付不申先方へ受取候而手錠ニ而腰繩を付候由村方の何角式十人計組合尋参り候由右相濟下女并請人親類之者其外掛り合或いハ町内年寄今四ツ出立之積りニ申付乃井野役所江差立候道中見計りの為同心中山市左衛門神田権兵衛差添遣し候幸七ハ引渡し以後ハ乃井野同心差添候由是ハ此間を入込に在候得共忍之体ニ而罷在候由相聞え候。五藏下女ハ向之方各諸事構候様ニ被仰付中間老人御弘ニ御差添被成候旨ニ候乃井野へ遣候書状等之儀ハ一件ニ入置故書翰留之日記ニも不相記候尤書翰留ニも其趣を記置候

四日 晴

一昨二日幾野御代官平岡彦兵衛殿御城下通行ニ付先弘多蔵孫八差出ス御使者藤堂多七相勤候由

一いくの御代官所大井田与五郎中里忠助の当十月十五日の同晦日迄上米大豆相場之儀調置候ハ、十一月二日頃自己飛脚差遣可申旨申来

一明日彦兵衛殿帰村宮尾村早朝出立いくの陣ヤへ帰り候之旨御先触到来

。□□□□非人宮松と申者□□□□分□□□□村境ニ而穢多喜平次□孫八と申者に打擲ニ逢昨日之事之由□□□□村非人甚助と申者ひそかに介抱ニ而連歸り候由目明を申付尤孫左衛門も尋書出し申達ス

五日 晴

一伏見町田邑屋伝助禁足ゆるし申渡ス

一彦兵衛殿今朝通用中山伝内藤森権六罷出ル

一播州龍野六次郎善次郎喜八郎利助半之清八小八郎儀右衛門政右衛門利右衛門徳三郎以上十老人此度召抱例年之通油仕込為致度来午

五月迄逗留玉置忠兵衛を断

一能出役室井作右衛門三舟孫八

六日 雨

一盗人平蔵と申者御城下ニ吹屋町其外ニ徘徊致し米平と申者へ盗物を頼伊木屋ニ質ニ置其儀相願右平蔵を米平尋出し柳之土手江召連候所鉄砲町土手ニ而取放し候得共土手之者共見付追かけ新土手辺ニ而捕へ小屋ニ預り居候ニ付今「達し候上平井郷左衛門へ引渡ス平蔵年式拾式歳手形遣ス

一伏見町安之丞明日差免し可申旨申来ル

一雲州下山佐村伝兵衛と申者妻儀同人娘つや粉弥四郎以上三人内縁有之八十日計之逗留届西今町田丸屋何平

一三丁目持来り古道具取売味噌屋伊兵衛不勝手ニ付願候相讓申度旨

申ニ付願主福渡町常盤屋左七聞届戸川町□穴屋へ文六質ニ置候物

請候者之書付差出ス受渡候様申付候

一京町作人権蔵北側ニ而私家屋敷表口五間裏行十七間但御堀切巻軒

役東隣福井屋友節後家西隣作人忠四郎右家屋敷之内東之方ニ而表

口式間半裏行十七間半役代銀札式百五拾匁町内鍵屋忠右衛門へ売

渡シ

一西隣大工善六代銀札百六拾目町内亀屋勘右衛門江売渡シ申候林

田町作人長七倅治三郎当已十八歳森对馬守殿御預り所勝南郡行延

村豊八与申者之養子ニ貫申ニ付遣度聞届

一山本与市不勝手ニ付造酒商買止申度届

一吹屋町金屋次郎左衛門願叔父しなの屋喜四郎と申者御当地出生之

ものにて廿年以前人別離京都一文字屋庄左衛門方ニ相勤候処今度

病氣ニ付私方引受百日計滞留ニ而養生為仕度聞届

翌午ノ正月断喜四郎養生不相叶去極月廿九日之昼相果同夕光嚴寺へ葬候旨届

七日 晴

一伏見町大工齋之丞追込免し

一筑摩源右衛門戸村源吾渡辺唐兵衛を来ル十月米平均相極候ハ、為

知呉候様例歳之通申来り且又戸村源吾の地方役被申付候案内申来

ル

八日 晴

一大坂屋作次家代六百七拾五匁欠所銀札今日御金奉行中へ送り候而

相納候受取来ル

九日 晴 十日 晴

一今日幸七一件ニ付乃井野江飛脚遣ス萩野左助

一能江中山伝内香山多蔵

十一日 晴

一 銭七拾六文

一 能江 藤森権六 福田甚蔵

一 播州 龍野町和泉屋孫兵衛例年之通小間物売昨日入福茂ヤ切手

一 摂州 大坂嶋之内大宝町若屋善次郎老人例年之通革足袋すいのう金

とうし売昨日入福茂屋切手

一 今日九半時御供揃ニ而杉山江被為入候

十二日 晴

一 今朝大盤若御執行ニ付登城

一 播州あほし余陸屋武兵衛例年之通八百屋物并經売昨日入

一 越中富山松井屋佐兵衛与申者例年之通反魂丹昨日入

一 播州網干丸尾屋六三郎例年之通荒物并しほもの卸売昨日

一 同幸松屋惣左衛門手代式人例年之通小間物并晒蠟売昨日入

一 同河本屋常七例年之通荒物類經節昨日入

一 播州網干のたヤ平蔵例年之通小間物右中之町小山屋与三右衛門切

手

一 乃井野の飛脚帰り幸七手錠之儘押込善右衛門叱と呵申付候由則申

達ス

一 三軒屋番人中村豊次昨日御供ニ而夜ニ入罷帰り役介共咄し昨日

八つ頃新測へけやき枝半枯落込ニツニ折候処見請向辺も見つけ

候者も可有之其後又罷出見申候処悉皆なくなり候由申之候得共体

も見へ不申候議御届も難御届申翌早朝ハ大盤若ニ而早朝罷出無扱

御届延引仕候殊更昨今共兩人罷出候ニ付不任存寄候旨恐入候段申

出書面認明十三日及御沙汰候様豊治へ申聞せ帰し候

一 能江 中山市左衛門神田權兵衛雨降一番切ニ而濟候由流ニ不相成候

由

一 いなり山折木林田町分袋町勝蔵幸助と申昨晚亥前川上より流れ来

候故引上候旨相聞何分右町年寄共江も御城山之木ニ候心得置可申

旨申付置候木者為入置候」 「八関十治^(マ)迄届置候由

十三日 晴

一 会所是迄敷有之候豊役所引候ニ付万人講へ相廻候様可申付旨鈴木

此右衛門被申聞則日申渡ス

一 入牢藤助^(快カ)不慎ニ付本道医を願候由申渡高畑友賢罷出候由

一 昨日稻荷山折木之儀今朝申達候処兩人共御用ニ付両日罷出候へハ

「度可申ニも不及併林田町之者共届筋違候事以来為心得」然旨

井上弥三兵衛被申聞候甚大夫不参ニ付

一 鍛冶場土橋出来ニ付渡船引候旨御蔵元申出候勿論橋かけ才許御役

人牧重郎治も届有之候申達候

一 いなり山之木袋町へ御作事取に遣候由関十次申来ル承届

一 能江 三舟孫八室井政次罷出ル

十四日 晴

一 二丁目浜野屋十郎兵衛数年来持来候裏屋敷之内東西三間六尺壹寸

南北四間尤鍛冶町鍛冶屋市郎右衛門居宅之東隣則市郎右衛門持家

敷之南ニ而御座候処此度代銀札六百目之売渡「承届

一 能へ中山伝内石名左助罷出ル

十五日 晴

一 鍛冶町家並宿願ニ付宗道宮祭礼に松植申度申達聞届

一 安岡町ふく嶋屋幸助材木町柁屋忠助幸七一件ニ付呵追込申付候申達ス

一 勤進能今日切済福田甚蔵香山多蔵引続長やと「底願有之由仍而届見合候

一 京都烏丸通六角下ル町ニ文屋九兵衛手代市三郎新兵衛甚六ノ四人例年之通呉ふく物売夜前入えひヤ長右衛門切手

十六日 晴

一 長安寺能昨日切ニ而相済候得共小鳥屋治郎右衛門方役者ニ三日差置呉候様寺ノ頼ニ付断申出ル八百屋平左衛門儀も引続世話致候様与奨其段断出ル

十七日 晴

一 鍛冶町新兵衛世倅岩治郎義絶之願指出候得共彼是人組候義一端指下ケ候

一 三丁目浜野屋十郎兵衛売券状差出ス

一 永井甚大夫ノ長安寺勤進能相済已後鎮守賑之為日和二日致興行度旨相願御聞届尤勤進能者名目ニても無之付御家中見物可有候間目付者差出候筋ニ候ハ、宜御取計可申旨夜前与兵衛殿ノ申来り御家中見物も候ヘハ弥為メり役人罷出候而可然存御徒目付下目付罷出候様申遣し同心共も罷出候様可申渡旨申来中山市左衛門三舟孫八立付例之通ニ而指出ス

一 今夕八ツ時頃玉林浜田屋ノ西へ五竈程焼失町方火消追々入込往還出人も来り同心組一両輩罷出候得共不致「」から高張ニ同心老入

添石場所へ差向候趣永井甚大夫へ届ケ申達ス

十八日 雨 十九日 晴

一 此間追込申付候安岡町福嶋屋幸助材木町柁屋忠介指免取計其段申達ス

一 九ツ半時御供揃御茸狩川辺へ被為人北御門より林田袋町本町通り之旨稻垣茂士ノ通用取計之

一 西川坂井良蔵永松太惣左衛門ノ御城下当月米平均直段之由例之通頼来ル則答申遣ス

一 徳守警固部屋へ并当并酒ニ遣ス祭札済届申達ス

廿日 雨

一 黒木村八右衛門一件ニ付加右衛門源右衛門納所筋及遲滞候段不埒よつて今日呼出シ急度済口致候様申渡ス

一 能無滞相済届申達ス藤森権六福田甚蔵

一 播州餘陸屋惣七同手代彦右衛門例年之通八百屋もの卸シ売昨日入柁屋伊右衛門切手

廿一日 晴

一 宮松懸り合ニ付今日永井甚大夫宅へ山岡与左衛門拙者対談致度旨申来り質方之懸合大旨無証抛之趣ニ付取上に不及併綿貫ニ相廻り候宮松を理不尽に致打擲候段不届ニ付穢多孫八手錠且宮松も懸り合無証様子不及取上併打擲ニ逢候ハ兼而同様不宜儀ニも相聞へ不埒ニ付追込与取計可申哉之旨下案之「候得共此義町奉行所ニおゐてハ得冒難成候ニ付思慮之上可及御返答旨及御挨拶候郡代所ニおゐるてハ為指存寄も無之趣ニ付

廿二日 晴 廿三日 晴

一 入牢之藤助療治吉武弁壽罷出候由大年寄申出ル

一 罷役者罷出候由

一 茅町年寄吹屋藤助役免申渡ス

一 同町土橋損シ断書出ス

一 西新町中嶋屋伊兵衛久世出雲守殿支配所須江村伝五郎東巳三拾八

歳内縁ニ付引受申度旨願書出ル人別入

一 十一月朔日万人講御聞届相済

一 非人宮松穢多孫八喧嘩之一件今日刑法方へ引渡候様被仰付候間右

是迄之吟味書等平井郷左衛門へ可相渡旨永井甚大夫御用手紙ニ

而申来ル追啓ニ先達而差出候宮松口上等三通相戻候郷左衛門へ廻

シ可申旨是又申来ル

一 河原町岡野屋伝右衛門願唯今迄私借屋に居申候作人十兵衛当巳六

拾五歳同人母八拾式歳家内二人下森原村文右衛門引請引越申度町

内人別除

廿四日 晴

一 今日鍛冶町新兵衛夫婦直訴一件に罷出候処段々利害を^(マ)引取らせ

候

廿五日 曇

一 鳥屋与三兵衛切手京六条通香具屋兵助手代左兵衛例年之通小間も

の売昨日入

一 勝間田町吉田屋与三兵衛切手播州網干菊屋弥七郎例年之通小間も

のおろし昨日入。同州新在家伊部屋清六例年之通塩もの經節昨日

入

廿六日 今夕雨

一 大坂屋清十郎書付野田屋伊兵衛離縁之女りよ義ニ付去ル廿二日

之夜吹屋町辺ニ而申談候一件書付指出ス別に有之

一 美濃職人町西屋文六大坂曾根崎新地一丁目丸屋文右衛門と申もの

親類ニ而妻召連当月廿七日に罷越来午三月迄逗留願届

廿七日 晴

一 今日構為見分石名佐五兵衛罷出郡代所より植月喜惣次罷出ル

廿八日 晴

一 役所陣笠修覆代拾三匁三分關所金ニ而相受取候証文相廻ス

一 三奉行廻状近年雁鴨渡り候節鉄砲打候ゆへ御用之鳥難取候ニ付今

年も去歳之通来ル十月中鉄砲打候義可為無用候尤十月後たり共御

留場におゐて鉄砲打候儀御停止之事候此段申達候様御用所御申ニ

付申達候

一 綿美取計之儀是迄玉置忠兵衛へ被仰付候塩運上取計斎藤孫右衛門

へ被仰付候今般振替に相勉候様今日被仰出則蔵合孫左衛門へ申渡

ス

一 乃井野へ同心中山市左衛門神田権兵衛幸七一件ニ付指遣候雜用駕

箆代四拾九匁八分御訳別に有

廿九日 晴

一 花相撲日和五日之内為仕度くゝり意文太^(マ)願出付御聞届

十月朔日 晴

一 明二日非人宮松郷左衛門宅へ可指出旨申来ル

一 花相撲観河原ニ而場所相願郡代所代官所へ相届候由役所へ書付差出ス

二日 晴

一 今日宮松指遣シ候ニ付目明十右衛門頭兩人大年寄孫右衛門召連尤室井作右衛門指添遣ス

一 境屋伊右衛門播州今市綿屋嘉市郎手代忠七武兵衛と申もの式人例年之通呉服売昨日入

三日 晴

一 成道寺再建立之供養ニ付千部午三月五日迄同十四日迄建札之儀寺社取次申達之旨永井甚大夫被申聞大年寄へ申渡ス

一 井口村長法寺来午ノ三月本尊開帳建札右同断

四日 晴

一 渡部休庵方へ備州出屋源吉参候断

五日 晴

一 今日万人講ニ付郡代山岡与左衛門町奉行大沢三平出役其外例之通

小川才次石名平太兵衛取計是又同断奇札高七千四百六拾壹枚但シ

五匁札此銀札三拾七貫三百五匁内拾壹貫百九拾壹匁五分三步引残

而式拾六貫百拾三匁五分五拾番ニ割ル小沢外ニ有無滞相済連名ニ

而永井甚大夫へ届ケ御用番へハ不罷越候

一 備中小坂部水谷但馬守殿役人近藤武左衛門より平均相場之儀相頼

ミ来りかるわさ茂二夜指越候間答申遣ス

一 明六日五ツ半時御供揃ニ而田ノ村辺御殺生御帰り安岡町の大番所

田町稲垣の通用

六日 雨

一 桶屋町勘兵衛と申もの昨日五拾番も相済候御彼見せへ塔中村文七と申もの押倒され候を割木を以致打擲同道公郷村勘三成安十太郎

軒戸村多助詰合此方東新町突渡り受申候噯に入其場無事故引取上ル右之勘兵衛場所柄と云遣恨もなき者を理不尽打擲候儀旁以難指

置役所へ呼出手錠預ケ申付候此段甚大夫へ達置候尤打擲ニ違候者其外在所へ引取候由

一 御米四拾八匁町米四拾四匁

一 今日花角力ニ付場所限り太鼓打候儀申達ス出役藤森権六神田権兵衛

七日 晴

一 今日相撲出役中山市左衛門三舟孫八

八日 晴

一 相撲室井作右衛門福田甚蔵出役

一 明九日四ツ時二ノ宮辺御遠乗京橋本町通稲垣の通用

一 備前岡山下市町中嶋屋久六例年元結売

一 江州神崎郡嶋崎屋新平例年きせる墨筆堺町西川屋切手

一 加茂屋和六切手奈良墨屋伊兵衛手代源介例年墨売

一 小性町北側中ノ横町角藤野屋藤助家表口五間半裏行十間八年已前

戌ノ年銀札場ニ質入銀札三百匁借請納所差支町内割家役等之儀難動銀札場へ断り候而も請取も無之当三月歎書出シ候得共訳立不申

候処去月廿六日風雨ニ横町立物本屋裏口へ吹通候往來見通シ困等

も得不致渴命之身分ニ付歎書指出す

一鳥屋与惣兵衛切手撰州としま郡池田村月野木町植木屋平兵衛例年之者昨日入

一今日相撲室井作右衛門香山多蔵

九日 晴

一相撲出役石名佐助中山伝内

十日 晴

一相撲今日相濟神田権兵衛福田甚蔵出役御届申達ス

一大神楽岡田忠大夫罷越候届

一明日五ツ時非人宮松郷左衛門宅へ遣候様申来ル

一久世出雲守殿支配所勝南郡須江村伝十郎当巳三拾八歳西新町中嶋

屋伊兵衛引受本証文出ス先達而御聞届相濟

十一日 晴

一宮松例之通ニ候而差出ス□□村穢多孫□手錠申付られ候由

一手錠申付置候勤兵衛孫右衛門方ニおゐて石名左五兵衛差出ス福田

甚蔵召連味申付候」

一御蔵米四拾九匁五分町米四拾五匁五分

十二日 晴後雨 十三日 晴

一豆腐直段之儀申達ス壬三月六十四文ニ売候処大豆下直ニ相成候ニ

付十三文ニ売買仕度旨

九分六厘大豆式升三分薪ノ巻匁式分六厘十挺ニ付元入十三文

ニ売立巻匁七分内巻匁式分六厘元入ニ引残而四分五厘手間代

一吹屋町七右衛門後家娘とし当巳三拾五歳林田上ノ町九兵衛妻に遣

候願引合申渡ス

一岡半四郎ニ被成御預被成御預候先達而元中間猪助七郎兵衛懸合候

女詮議方へ被仰付吟味中入牢に候処御詮議相濟候ニ付在所播州新

宮縁家へ右女之請人市三郎へ御引渡し仕在処へ差返し候様被仰付候

得共道中変義無覚束ニ付目明シ老人差添へ候様被仰出其旨申渡ス

尤途中取計善悪に付町奉行所無念にハ不相成旨其段申渡シ□働候

もの荒熊文太目明シ儀ハ兩人申合參候様取計候

十四日 晴

一御蔵米五拾目町米四拾六目

一桶屋町勤兵衛役所へ呼出シ呵之上手錠免申付ル御届申達ス

一鍛冶町鍛冶屋新兵衛世伴岩次郎不孝ものニ付去歳追出シ右組合共

方ニ致世話差置候処此度同町忠左衛門方へ岩次郎之養子ニ取組候

儀岩次郎女病之養父差押へ新兵衛儀ハ岩次不孝ニ付義絶致度親類

之巴判を以再応之願容易難及御沙汰懸り合之もの共為吟味今日役

所へ呼出し追」別」に記す

十五日 晴

一今日新宮へ返シ候女郷左衛門宅ニ而申渡尤受人市三郎差添源八文

太三人之もの共へも万端申含有之致出立」

一三丁目福吉屋伝助願勝山領種村治右衛門娘いわ当巳十八歳此度娘

に貫度人別入聞届

一同町播磨市右衛門願妻之妹ちよ当巳三拾歳京都四条通り長刀鉾町

藤屋源兵衛妻に遣シ申度願聞届

十六日 晴 十七日 晴 十八日 晴

一勝間田役所中村与左衛門和田安兵衛平均米相場之儀申来ル同所
金谷伴六役所詰ニ而先日参着案内書別に来ル

一万人講今一ツ可被仰付旨永井甚大夫被申「大年寄へ申渡ス

一去ル八日書面之小姓町藤野屋崩れ家之儀銀札場ニ而引請囲等も可

申付間当役所指出候歎書指□可然旨札座奉行岡半四郎被申聞則書

面大年寄へ返す

十九日 晴 廿日 雪雨

一非人宮松□□村勘七へ預ケ置候風呂敷「取に可遣旨申来ル

一大橋十大夫殿家来玄次不埒有之北山修斎へ引越し尤口次人之由右

玄次茂渡市右衛門藤右衛門両人之甥ニ而「勘当願申度旨申出ル

一小姓町藤野屋崩れ家町奉行所願指上ケ候義銀札場より取計可申

由近藤岡両士の手帯到来其旨ニ取計候

廿一日 晴

一平井郷左衛門非人宮松明五ツ時可差出旨申来ル

一幾野御代官所廻米積下シ両番所例之通郡代所より申来り取計暮候

一永井甚大夫明廿二日非人宮松詮議相済向方ニ而□弘同人妻伴有

之候ハ、当役所ニ而追弘可申付様被仰渡ニ候間明日右取計可申旨

申来ル

浪券扶同月廿四日ニ出又

一河原町北側ニ而表口三間裏行八間六尺五寸半役也東隣ハ栄田屋茂

平次西隣ハ新魚町藤野屋十兵衛家代銀札二百目ニ相極メ町内作人

徳兵衛へ売渡シ紅屋たね願主

廿二日 晴

一宮松追弘方向心堺目迄追弘此方ニ而同人妻多蔵甚蔵境目迄追弘

一新魚町福本屋庄助借屋三輪屋文助娘へん十一歳林田上之町桶屋多
七養女に遣し

一新魚町作人源八宅ニ而鏡一面致紛失候ニ付其分ニ存候処林田安之

丞と申盗人詮議方ニ而右鏡取候趣相知申郡代所相請取右孫八へ

返し遣ス

廿三日 晴

一茂渡市右衛門藤右衛門岩次勘当願今日御聞届尤不快ニ付出仕断り

山岡与左衛門を以差出し候

一来ル十二月万人講日取朔日ニ可仕旨御聞届

一鍛冶場土橋損し修覆有之候ニ付渡し船出し候様致度青木義作申

聞其旨相達ラレ下方へ申渡ス

廿四日 晴

一鳥屋与三兵衛切手備中妹尾俵屋手代吉兵衛例之通表売昨日入。加

茂屋和六切手奈良今井町岡元忠兵衛例之通墨売昨日入

一宗枝邑伊三郎と申もの去ル廿二日年貢通ひを川戸西口米納候後今

町上直屋へ立寄其所ニ而落候由申出山岡与左衛門より町方相触く

れ候様申来り一昨日触出ス

廿五日 晴 廿六日 晴

一鍛冶場土橋修覆相済渡シ船引取候様ニ申出□奉行へ申達ス牧十郎

次よりも通用有之候

一小姓町ひぢ屋兵蔵切手雲州杵築大社多久十大夫上下二人例年之通

旦那廻り昨日入

一下紺屋町福住屋吉左衛門家屋敷甥中山良意へ相讓申度願聞届

一御藏元伝兵衛彦兵衛米五俵高十二俵之内七俵ハ当春受取候由右ハ
船頭町渡シ守当巳ノ年之御給米也

廿七日 雪

一御藏米四拾九匁町米四拾五匁

一紀州高野山万照院使僧三善と申僧上下式人例年之通日那廻り昨日
入栝梗屋莊右衛門切手

一昨夜中投書有之小性町割方之内訴

一万人講御貸人馬并太鼓打セ候事者明日可申達

廿八日 晴

一今日不快ニ付出仕御断

廿九日 晴

一紀州在田郡箕嶋浦椀屋五兵衛手代藤右衛門十蔵政右衛門例年之通
椀折敷売昨日入田戸屋惣十郎切手 築前遠賀郡拍原浦小平次手代

一庄兵衛例年之通茶碗類売昨日入同人切手

一黒木村八右衛門坪井町藤屋加右衛門浜屋源右衛門へ九百目之懸り

一合相濟候旨濟口届書双方出ス

晦日 晴

一今日幾野御代官所へ濟口返書黒木邑八右衛門へ渡ス

一大坂屋次十郎樫野屋茂市里子一件ニ付呼出尤尋之上兩人へ預ケ申

付ル

一船頭町木屋佐七一昨廿八日樫原前藪際ニ而中脇指一腰拾候旨申出

一市郷奉行中へ達シ今日より三日迄之内両橋建札申付ル

一鳥屋与三兵衛切手京六条香具屋兵介手代弥兵衛例年之通小間もの

売昨日入ル

一材木町鶴飼屋宇助切手紀州高野山法蓮院使僧順良上下二人例年之
通壇那廻り

十一月朔日 晴

一万人講ニ付出役郡代山岡与左衛門町奉行大沢三平寄札高一万千百
式拾八枚五匁札此銀札五拾五貫六百四拾目内拾六貫六百九拾式匁
ハ三步に引残而三拾八貫九百四拾八匁六拾番に割一番壹貫六百六
拾九匁式分十番壹貫百拾式匁八分二拾番同三拾番六貫六百七拾六
匁八分四拾番壹貫百拾式匁八分五拾番同六拾番式貫五百五拾九百
四分四厘間々四百八拾五匁一分式厘

一備中倉敷平均相場書申来ル遣ス

二日 晴雨

一坪井役所吉田勝左衛門米相場申来り遣ス

一乃井の右同断

一鍛冶町多次郎太郎七呼出シ 三日 曇

一目明シ源八文太兩人へ拾五匁為酒代遣之ス尤先達而岡半四郎下女

へ差添遣候ニ付本目明シ十右衛門足痛ニ付右兩人指出シ候

一勝山へ相場書明日飛脚を立候儀申達ス

一備中小坂部水ノ谷但馬守殿内鈴木甚大夫へ例之通相場書御留守居

岡邑要助へ預遣ス

一西川領久米北条郡津石谷村勘三郎娘三拾三才福渡町中嶋屋文助妻
に引請

一町方御用銀返濟之筋去歳之通御断被成候趣大年寄へ申渡ス

一湯原屋十助此度御使組ニ被召抱名字相改候願尤荒木十助与改号

一材木町河内屋藤三郎切手阿州名西郡高原邑直兵衛同手代与兵衛二

人例年之通藍玉売昨日入同州板野郡高総邑新兵衛同州名東郡柴原

村栄次郎各藍玉売切手同人

一今日次十郎茂市郎呼出シ

一押入邑ニ而姫路屋彦兵衛開発願差出し候処故障有之村方印形難成

勿論邑方より相願候而も御取上無之旨願指下ケ候且又弥出河原開

発大坂屋次郎右衛門先達而願候是又御取揚無之ニ付願差下ケ候両

様郡代山岡与左衛門通達

一幾野御代官所平均相場申来り調遣ス

一西川役所へ平均書付例之通西川屋へ相渡ス

四日 晴

一魚住藏人之家来四人夜前参候由京町花屋忠七より届出ル

一勝間田金谷伴六米相場之儀申来ル調遣ス

五日 雨雪

一魚住藏人ノ扇子書状到来当年者社用多キニ付不参之旨申来ル

一江戸表ノ飛脚到来殿様益御機嫌能被成御座去月廿三日為上使奥津

左兵衛殿御越御鷹之雁御拜領被成候段申来り恐悦之御事候依之為

御歛御帳付候間明六日四ツ時ノ九ツ時迄之内登城可有之候 市村

数馬黒田彦四郎

右ニ付夫々知らセ取計

一大目附赤見類助之来ル八日之御用日明六日ニ相成候知らセ申来ル

六日 晴

一船頭町米屋佐七へ拾候脇指渡シ遣候

一今日御帳付

一拙者儀当四月ノ勝手向ニ付御扶持方被下三ヶ年之間禁足勤ニ被仰

付候処郷左衛門を以御願申上御扶持方御断申出勤之儀今日御聞届

被成御当職御礼致廻勤候

七日 晴

一直屋市郎右衛門三室新兵衛所持他受酒株此度新兵衛方へ差戻し候

一三室宇左衛門願十一年已前引受候備中花房近江守殿領分加茂大庄

屋片山忠兵衛役介新兵衛当已ニ三拾八妻ニ拾八此度人別離れ順国

之願及御沙汰候

一胸枝邑七郎兵衛通ひ拾候もの無之旨届出郡代所へ及通用

八日 晴夜雨

一久世邑幸三郎と申もの不筋之儀申之孫右衛門ノ内達申聞候処其分

ニ罷帰候由

九日 雨

一宮川大橋之下十三四計之男童野伏相果居申由注進夜に入候ニ付非

人番に付置候

一鍛冶町多次郎呼出并尋申付ル

一鍛冶場兵吉居宅之西隣此度代銀札三百匁兵吉へ壳渡し

一一人数年持来り候家屋敷之内東西三間五尺南北四間鍛冶町太郎兵

一鍛冶場兵吉居宅之西隣此度代銀札三百匁兵吉へ壳渡し

一一人数年持来り候家屋敷之内東西三間五尺南北四間鍛冶町太郎兵

一鍛冶場兵吉居宅之西隣此度代銀札三百匁兵吉へ壳渡し

衛居宅之南隣此度代銀札六百匁太郎兵衛ニ売渡シ

十日 晴

一宮川橋下野臥藤森権六見分ニ指出し候処病死無相違ニ付其旨相届
取捨申付候

一京町海老屋之七右衛門切手大坂久太郎町丸尾東兵衛手代清兵衛例
年之通大工道具売昨日入

十一日 晴 十二日 晴

一鍛冶町懸り合之もの共呼出追込禁足手錠 等一所に取計市郷御奉
行へ申達候一件別に有之

一宮脇町土佐屋金十郎願当国内藤領久米北条郡中井和谷村伝九郎娘
たね年二拾三才妻に引受願聞届

一鍛冶町鍛冶屋伝右衛門願家屋敷南側西角ニ而表口二間裏行二拾七
間ニ歩役東隣則売主南隣ハ磯屋新兵衛右之家屋敷銀札八百目鍛冶
甚之丞ニ売渡し

一鍛冶町伝七鍛冶屋梶兵衛父子去ル四月甲州身述參詣五拾日計日延
願出ル

一町方困窮ニ付来正月中旬万人講願申出永井甚大夫へ談之置候

十三日 晴 十四日 晴

一去ル朔日三拾番之上り札鍛冶頭治右衛門三丁目真砂屋平六懸り合
分方申分候得共双方無証抛ニ付役所江上難成大年寄場合ニ而相当
之取計候様申渡ス

十五日 晴

一鍛冶町年寄禁足差免

一今日七ツ半頃戸川町作人藤助借屋嘉吉と申ものへかた失火有之候
得共事輕町内穩にも消申候年寄共叱ニ而相濟一通り御届申達ス

十六日 晴

一鍛冶町忠左衛門太郎兵衛加右衛門喜兵衛追込差免申達ス

一錢七拾八文

一りよ今日呼出し相尋候

一東新町橋元屋茂次右衛門願私妹辻三拾式歳此度林田村弓削屋伊右
衛門養女ニ遺度

一二丁目松田屋孫八郎私姉とミ四十七才廿九年以前英田郡倉敷村文
右衛門遣し候処双方勝手ニ付此度引戻願

一安岡町神目屋勘兵衛安岡町北側ニ而家屋敷表口三間裏行十四間半
役也東隣ハ作人源八西隣ハ河本栄正右屋屋敷表口三間裏行十四間
半役也東隣作人清八西隣ハ河本永正右家屋鋪之内東かたニ而表口
二間裏行十四間四歩役也銀札二百目茅町作人久助へ売渡し売券同
月廿五日ニ出ス

此儀今日同 十七日 晴 十八日 晴
一加治町岩次多次郎兩人手錠免大年寄孫右衛門方ニ而取計セ候

一河原町山形屋新太惣社宮ニ而花相撲之願今日御聞届
一新魚町のとヤ伊兵衛呼出し存寄申聞セ候

一井上鈴木永井の廻状

来正月誓海院様十三回御忌之処御取越来ル廿一日於泰安寺御茶
湯被仰付候此段為相知候様被仰出候右之趣下畧

右夫々触出候

十九日 晴

一 鍛冶町多次郎若次郎手錠差免大年寄宅ニ而石名左五兵衛立合

一 中買住屋利兵衛を頭ニ申付目付吉田屋喜八小倉屋茂兵衛を申付候

一 玉置忠兵衛大坂会所町鍵屋伊兵衛方江往来廿日計之逗留兼而足痛

致候ニ付大坂表心安致し候針術之医師療治仕度旨明廿日立永井

甚大夫江申達置聞届候

廿日 晴

一 明廿一日五半時御仏參被成候旨稻垣茂次ハ

一 誓海院様十三回御忌御布施頂戴仕度配當場城正伺出

廿一日 曇

一 桔梗屋庄右衛門切手出雲大社官西村神大夫御師上下四人例年之通

旦那廻り昨日參

廿二日 晴

一 築前遠賀郡山床浦伝十郎手代庄兵衛文四郎式人例年之通茶碗売昨

日入田戸屋惣十郎切手。船頭町今岡屋浅右衛門切手阿州板野郡川

端村常本屋治兵衛例年之通藍玉売昨日入。同やと同州同郡成瀬村

曾右衛門例年之通藍玉売昨日入

廿三日 晴

一 三津屋平右衛門平田屋伝次ハ口上書今般人馬問屋被仰付相勤申候

先達而御手当之儀願是迄無之問屋之儀新ニ被仰付候ニ付給米之儀

恐多任不申上何卒今般御拜借被為仰付被下候ハ、此段宜被仰上之

旨申出候処何分当年ハ初年之儀是迄之通拾式儀四表減高指給
六表式表減日用頭相請取

候様可致旨問屋動方出精も致候由第一之事ニ候又々明年ニ至り相
伺候儀可然様永井甚大夫被申聞候尤御勘定所江も懸合置候

一 座頭共へ御布施之儀此度御茶湯被仰付御省畧之儀先達而御七回忌
切之節ニ候得共其儀被仰出も無之故御町奉行達而被仰達ニ而此度
者被下候最早御遠忌ニも被為成候ニ付以後者不被下候由被仰渡候
左様相心得候様配當場江申渡ス

一 来ル廿八日寒氣為伺御機嫌御帳付候之間四時登城可有之候此旨同
役同列組合可被相達候以上 市村数馬黒田彦四郎

廿四日 晴

一 今津屋孫十郎京町滝山屋甚八へ掛り合山城村善八へ借銀壹貫五百

め当巳ハ酉年迄五年賦三百目ツ、之内落口書付出ス甚八ハも右落

口届書取差出ス

一 茅町作人理七屋敷北側ニ而表口三間裏行四間半一步半役今町金谷

屋忠助へ取次来年五月切百匁質入

一 桶屋町おけヤ善右衛門倅加平次三十式才每度酒狂不埒有之処去月

下旬不図罷出不相見以後いか様之儀仕出し候も難計義絶勘当仕度

願出

一 福渡町作人五兵衛借屋ニ居申候吉兵衛と申者西尾多内長屋江引越

廿五日 晴

廿六日 晴

一 摂州境北原屋町河内屋甚右衛門手代弥次兵衛例年之通木綿類糸物
類反もの并緒切々売ふくも屋武助切手。京町今出屋半兵衛切手阿
州板野郡中留村□助手代平兵衛例年之通藍玉売。同州名西郡桑嶋
村平次兵衛手代長右衛門茂三郎式人例年之通藍玉売。同州同郡同

村武右衛門手代与一兵衛藍玉壳切手同人

一 誓海院様御法事拾三回御忌御省畧御茶湯被仰付此度ハ御布施不被遺儀ニ候得共前廉之儀申聞も不致候ニ付申立之上頂戴被仰付候以來ハ御遠忌之事故不被下候尤城正其外所々組頭共連判之請書有之候

都合五百六拾目五分 在名言人嗜衆分式人衆分八拾五人

打かけ拾三人初心拾式人寿名拾四人役料共ニ

右立合小頭石名左五兵衛目付藤森權六

廿七日 雪 廿八日 晴

一 桶屋町善右衛門粉嘉平次勘当願御聞届

一 大年寄共江戸表献上もの例歳之通江戸表御留主居并小勤者役所へ

書状遣ス尤当所御奏者中へも其旨申置ク

一 今日寒中御機嫌伺御帳付ク

廿九日 曇

一 西新町野山正軒所持家屋敷表口一間半裏行十七間二歩半役東隣延

屋源左衛門西隣山伏吉丈代銀百目同町備前屋儀助へ売ル

一 上紺屋町坪井町原田屋佐七家守作人長七母親へ孝行之趣初付三通

差出ス

一 今日例之通類族無違変旨届

一 中之町鳥羽屋後家守山西屋要助去ル廿四日之夜盜賊入染地拾六

端白地拾八反衣類三ツ右紛失断り申出

一 元魚町粟井屋先達而馬場縫殿右衛門へ出入奉公町内人別相離れ候

処此度乃井野へ大谷幸内と名相改奉公有付候由

一 当月分孤独扶持相渡ス

十二月朔日 晴後雨

一 今日万人講ニ付郡代山岡与左衛門町奉行大沢三平出役無滞相済届ケ申達ス寄札高四千百七拾六枚五匁札此銀札式拾貫八百八拾目内六貫式百六拾四匁三步ニ引残而拾四貫六百拾六匁六拾番に割壹番六百式拾六目四分拾番四百拾七匁六分式拾番同三拾番二貫五百五匁六分四拾番四百拾七匁六分五拾番同六拾番九百六拾目四分八厘間七六拾七匁五厘

二日 晴

一 御藏米四拾八匁町米四拾四匁

一 林田町上ノ町理助借屋に居申多吉三拾二歳妻常三拾一歳此度私借

屋引越申度中之町松田屋理介願

一 西今町田丸屋何平願雲州伝兵衛妻子三人来午ノ四月迄逗留之断り

一 西新町并筒屋和兵衛持来り旅人旅籠屋株去ル卯巳迄借受又候

来午巳甲ノ歳迄追願伏見町わけ屋喜八郎巳願

一 小須賀一学殿御用ニ付江戸表御越

三日 晴

一 紺屋町作人長七孝行之書付今日及御沙汰

一 林田町人別人郡代所引合相済

四日 小雪

一 先月十一日主税様御儀御婚姻首尾能被成御整候段申来恐悦之御事候此段為相知候様被仰出候旨廻状井上弥惣兵衛鈴木此右衛門永井

其大夫の廻状到来石名平太兵衛并同心三軒屋へ相知ス町ハ相除ク
一京町今出屋半兵衛貸家五助後家かた失火有之候得共早速接燭^{つて}シ候
旨今日申達ス尤夜前之儀

五日 晴 六日 晴

一中之町三室屋宇左衛門方役介人備中へ引越之証文出ル

一町米四拾六匁五分町米四拾式匁五分

七日 晴 八日 晴

一安岡町福升屋多兵衛甥六兵衛五拾歳因州鳥取高明寺当住由緒所有
之引越願聞届ケ

一元魚町八百屋壬左衛門退役願承届跡役藤野や十吉へ申付候様達シ
置ク

一播州姫路豆腐町椀屋扇兵衛例年之通椀壁もの類売昨日入ル福茂屋
武助切手

一錢七拾九文

九日 晴

一一学殿今日出立江戸表江被帰候

一京都愛宕長床坊使僧常意例歳之通旦那廻り兵藏切手

一船頭町船持共御上り米川岸此方ニテハ式儀廻シ惣平均金岡ニテハ

式儀廻シ三艘平均此儀ニ付弁米過分ニ付ケ致難義何卒御当所之通

御廻シ被仰付被下候様願書別に弁書出シ候ニ付船持共四五輩呼出

シ委細相尋置候右弁書市郷御奉行へ内見ニ及

一孤独扶持相渡ス

一東新町黒田両朴来午ノ歳分戌ノ歳迄備前佐伯逗留追願尤五年已前

八人込居申候

十日 晴 十一日 雨

一境屋伊右衛門切手備前岡山鼠屋甚八元結売同人切手

一藤波神主手代北村留之助昨日参候由

十二日 晴

一福渡町作人市郎右衛門不勝手ニ付渡世難取続大坂梶木町玉子屋九
兵衛かたへ五年切奉公願聞届

十三日 晴

一林田邑伊右衛門家内男女五人東新町橋本屋茂右衛門方へ引越郡代
所引合相濟

一従公儀御触書 永井甚大夫が被相渡役所ニ写置致返達候町方へ

ハ不相触

一紺屋町甚七へ米彦儀木綿地彦反被下之候ニ付今日呼出シ以書付を
申渡ス

一馬持共拜借大豆式儀半宛例之通相願今日御聞届候

一西新町高松屋平兵衛娘もと十七此度山北村大谷政吉妻ニ賞願出ス

一九日之日記有之候船持共願筋最早積切ニ相成候間明年ニ至り評議

可致旨御勘定奉行清水多橋懸ケ合置候

十四日 晴夜雨

一今日りよ呼出右一件ニ付段々存寄申聴セ候上一先為引取候

一福渡町城南粉金藏先達而勘当之者ニ候処当八月已来立帰り其上於

所々盜等いたし候沙汰相聞昨夜召捕親城南方へ預ケ組合番申付尤

其旨相届ケ置今晩於役所目明シ共場合小屋之者問合之ため為立合

致吟味候

一橋本町東側西屋半兵衛家屋敷表五間裏行拾二間本役南ハ綿屋文助
西ハ山本与市美濃職人町桶屋定右衛門へ売渡し四百目尤此家東新
町鉄屋金右衛門取次ニ而三百九拾目之質物ニ入此度請返シ也

一多胡佐市へ山本屋与惣七ハ式貫目先達而借置去ル丑ノ歳ハ納所不
筋ニ候処当四月已来与惣七ハ願書出シ郡代所と懸ケ合彼是入組候
処此度安黒權十郎中嶋徳助土居太郎右衛門杯噉を以惣貫目当季相
渡シ残而惣貫目来午ノ十月切二割ニ而元利惣貫式百目取立可相渡
旨双方相済新証文佐市ハ相渡シ濟口之儀与三七ハ申出市郷奉行中
へも申達ス

十五日 晴

一品平と申者当時居所も無之已前ハ江戸往来御家老中ニも相動候者
之由近来批判不宜者ニ候処此度金蔵吟味之上ニ而品平儀盜之結ヒ
申かけ候由同人差之候間今日召捕候処桶屋町勘右衛門借屋ニ母居
候由申ニ付彼かたへ預ケ組合番申付候

十六日 晴

一品平儀市郷奉行中へ委細申達ス今夕金蔵品平呼出シ目明シ切之吟
味いたし候処金蔵へ申かけ候儀粗無相違相聞候兩人共ニ一応相返
候

一錢八拾文

十七日 晴

一坪井吉田勝右衛門ハ經節式拾到来

十八日 晴

一長七ハ相渡シ候嶋もめん代十匁五分小勤者役所へ手形相わたし銀
札相受取

一豊久屋銀札場へ六百目不納之儀ニ付先達而嚴敷申付置候処三百目
ハ親類之もの取集当委相納残り三百目ハ三切に上納仕度旨申出勸
定所へ懸ケ合銀札場奉行承知候上今日孫左衛門宅ニおゐて前後之
不埒相咎呵禁足申付候

一下紺屋町紺屋忠藏家屋敷表口三軒裏行拾七間六步役東ハ大工仁右
衛門西ハ中山了意代銀札百五拾匁町内作人幸助へ売渡シ

一入牢村尾藤助養父相果候由届ケ

一鍛冶町新兵衛願世倅友次去歳山本与八養子ニ遣し候処此度離縁願
聞届

一元魚町油屋与市但馬柳籠履細工相構細工為仕度尤地方無故障場所
右柳植候儀段々書面有之此一件ハ御勘定所引受ニ付当役所へハ引
合退也

一鍛冶町甚兵衛願鍛冶次兵衛と申もの勝山領垂見村百姓文之助所へ
卯之年ハ罷越候処明午ハ甲ノ歳迄逗留追願

一蔵合孫左衛門へ銀五拾枚被下之是ハ役領也斎藤孫右衛門へ銀六拾枚右
同断右兩人運上もの動かた年に依多少可有候得共一ヶ年平均ニ而
相渡シ候由

十九日 晴

一金蔵品平兩人尤品平ハ吟味中金蔵義ハ書付有之平井郷左衛門へ掛合手形差
遣ス町奉行之引請ニ而取計候宿賄申付候

廿日 晴

一西川役所の通谷紙千枚到来桜井庄蔵永松太惣左衛門書面此進物者
近來断候故中絶候処到来ニ付永井甚大夫へ承合候上相納候

廿一日 晴

一金藏品平吟味筋ニ付町方紛失ものハ無之哉申出候様明廿二日切之
触申付候

一御蔵米四拾七匁五分町米四拾三匁五分

一高野万性院使僧今朝罷立候旨申出候

廿二日 晴

一加治町礪屋利兵衛願私家屋敷南側西横町表口四間裏行六間式歩式
リン役南隣ハ三国屋仁右衛門北隣ハ加治屋甚兵衛銀札六百匁ニ売
渡買主桶屋町川口屋善七江

一新魚町入江屋藤助家屋敷南側表口四間裏行拾式間本役なり東ハ塩
田屋孫三郎西ハはり田屋平次去十二月戸川井口屋庄助取次百五拾
匁ニ置候処此度居町取次ニ而百八拾匁ニ置替

一山手屋弥太郎所持他所売酒株是迄三年西今町西田屋かし置候処取
もとし断

一安岡町村屋長助此者入牢藤助実父ニ候処養父方之家内ニ組有之夫
婦一所ニ暮候得共藤助人牢ニ付外嫁も難成殊ニ女房病中渴命ニ及
ひ助命之儀願出候ニ付市郷奉行中へ申達し候処他へ離れ候事ハ難
成渡世之(ツマ)之儀ハ勝手次第為致候様ニ被申聞其旨申渡ス

一与兵衛殿の切帛申奉書到来明廿三日四時登城可有之旨申来即刻御
請に罷越候

廿三日 晴

一今日例歳之通夫々被為召御褒美被下候礪野伊兵衛村上清大夫大沢
三平三人一所に罷出司馬五郎様へ御指南申上太儀ニ思召候旨被仰
渡有之廻勸

一馬持共拜借大豆之儀此度者問屋共の引受之願ニ付切手も名宛問屋
ニ致度旨御勘定所ニ而相談御蔵方へ通用可有旨清水多橋掛合相済
候

一重屋次郎右衛門の願貧窮難凌家屋敷及大破起臥ニなりかたく銀札
五百目拾ケ年賦拜借願孫拾式歳罷成何卒職分ニ取付候迄取統申度
且長病人今以快氣不致当日及渴命候間御憐愍之儀相款申達候所勘
定所江懸合候様被申聞清水多橋へかけ合候此願筋を押し候而者決
而相成不申候得共兼而至極難渋之段相聞格別之義ニ付米五表相渡
可申由尤以後者決而難及貪着旨被申聞候今日申渡す

一上紺屋町作人長七江木綿嶋一反米壹俵今日大年寄蔵合孫左衛門於
宅ニ相渡候

一石名平太兵衛へ金貳百疋万人講之儀致出精候ニ付被下之候尤表向
町奉行所付
之儀ニハ無之勘定奉行中之場合ニ候而取計之趣ニ候小川才治へ
も同様ニ相渡候由

廿四日 晴

一中之町豊久屋幸助禁足申付候処今日差免申渡候

廿五日 晴

一鍛冶町礪屋本証文出ル。新魚町質入証文出ル
一此間相触候紛失もの大嶋屋平右衛門方ニ而蒲団二ツ布子古帯洗濯
もの一ツ質に取書付差出候ニ付中山市左衛門香山多蔵三船孫八差

向市左衛門の相尋候処古林田村喜助質置候由尤質主富山源助と申候ニ付入牢金藏叔父ニ候間喜助と申もの八万一人牢之金藏ニ而ハ有間敷哉と明日牢越ニ右平右衛門透見可為致申談三人共ニ罷帰候

廿六日 晴

一今明郷左衛門へ牢越吟味筋ニ付金藏引合申度同心差向候間右取計被呉候様及通用尤永井甚大夫へ昨夜之趣直又金藏儀牢越引合致度旨申達ス右ニ付平右衛門儀牢外ニ差置金藏容兒為見請候処弥金藏ニ相決紛失之質物問詰候処彼盜候而質ニ置候旨及白状勿論品平儀も一緒ニ参候由申ニ付是又致糺明懸ケ其儘入牢申付置候

一勝間田町吉田屋与惣兵衛切手播州網干菊屋弥七郎例年之通小間物卸シ昨日入。同州同所新在家印形屋清六例年之通塩もの鯉卸シ売昨日入

廿七日 晴

一山岡与左衛門へ新田村持宝院かたニて盗人金藏入込紛失もの白状ニ及候得共持宝院方々申出無之ニ付引合致候処今日下方々出候書付相廻ル別に有之

一元魚町山手屋弥太郎家守田原ヤ善十郎借屋蚊山屋伝助五七日以前懸ケ取に罷出今日迄帰り不申相尋候処行衛不知届申出承置ク

一堺町小鳥屋次郎右衛門願近年勝手向困窮宿屋株当己ノ歳々戌ノ歳迄新職人町豆腐屋弥兵衛かたへ預ケ申度旨願候ニ付見通之所外町ニても無之旅人之難儀ニも相成間布段々評議之上願之通承届候

一西今町房屋繁藏致所持候造酒株同町鳥羽屋源左衛門へ相讓候願

一中之町浜吉屋茂八願北側表口八間裏行拾七間本役町内松原屋長七

へ七百目来午ノ十月切質入

一玉置忠兵衛登坂之処日延断り申出ル尤悴広四郎が則今夕帰候段申出る

廿八日 晴

一橋本町浅本屋源藏の粉林田土手下遊ひ居申候処鰯口一ツ指渡シ五寸五歩銘ハ西大崎大明神金井村施主寺坂安右衛門享保十五年と有之由拾申候ニ付相届之候間申達右邑へ通用致さすへき旨申置ク札相立不申候

一安岡町角屋藤十郎願粉左兵衛去ル子ノ歳々辰ノ歳迄久世邑へ出職致候処当己の来ル西ノ歳迄追□

一來正月三日五ツ半時御供揃ニ而八幡宮泰安寺妙法寺御参詣被成候旨稻垣茂次の通用

一元魚町泊屋与市但馬柳籠履細工召抱候儀且又小川筋柳植候事ニ付当役所へも願差出候処於地方故障も無之間届遣し度旨御勘定奉行中懸ケ合之上当役所よりハ承届候旨今日申渡ス

一福渡町繁屋治右衛門不如意之処先達而歎書差出於勘定所懸ケ合之上八木五俵相調今日拙者以手形受取之大年寄へ相渡ス

一梓屋一件先達而懸り合ニ相成候処訴訟方林田野田屋儀右衛門願方吟味之上役所存寄有之候旨ニ而願書差返し候尤大年寄孫右衛門へ委細申渡候

廿九日 晴雪少し

一中之町浜吉屋茂八質入本証文出ス

卅日 晴

一 御屋敷へ歳暮申上并御分考中且又所司殿与兵衛殿江も廻勤

安永二癸巳年

町奉行御用日記

從正月

至十二月 平井郷左衛門

(表紙)

癸巳 元旦 出勤

一 辰上刻中奥組以上登城十六歳以上御流被下置御譜代之面々不残相
濟早而御奏者夕席順ニ頂戴之右早而町奉行詮議役勘定奉行郡代一
所ニ御用所江罷出年始之御祝儀申述ル

一 御用所毎月御休日去十一月四日被仰出左之通

毎月休日

三日 七日 十日 十三日 十六日 十九日 廿二日

廿五日 廿七日 晦日

一 毎月四時御社参御仏詣御定日

毎月

四日 八日 十二日 十四日 十七日

正月二日 出勤

一 今日御用初ニ付四時御出席日参之御役人登城御吸物御酒肴一種七
間廊下おゐて町奉行詮議方勘定奉行郡代中奥目付御歳奉行御金奉

行御作事奉行詮議方添役頂戴之為挨拶御勝手奉行鈴木比右衛門罷
出右早而町奉行詮議方勘定奉行郡代御蔵奉行御金奉行一所ニ御用
所江罷出御用初御祝儀申上ル御勝手奉行中江も御礼申達ス
一辰上刻掛物頭惣領御医師大御番以下大役人迄御流被下之早而月次
以下御徒格迄御目見被為請候

一今日御宅へ罷越懸御目候御方左之通

御家老 安藤造酒介殿 御家老格御年寄 山田衛守 御年寄 伊達与兵衛殿

一明三日御社参御仏詣被仰出候旨大目付赤見類助御年寄知せ有之

正月三日 出勤

一四つ時御供揃地藏院泰安寺御社参御仏詣ニ付町奉行詮議方郡代七
間廊下江罷出御通懸ケ御目見申上ル

正月四日 出勤

一四時御供揃泰安寺江例月之御仏詣ニ付例之通御目見申上ル

正月五日 出勤

一今日寺社年頭御礼被為請候

一元日御年寄今日迄麻上下着用明六日御年寄平日之通袴計

正月六日 出勤

一下御屋敷江八ツ時御供揃ニ而被為入候

正月七日 休日

一今朝平井郷左衛門妻出産男子出生ニ付血忌引込届町奉行大沢三平
を以相届之

正月八日

正月九日 休日ニ相成ル

一四つ時御供揃御对面所江御出被仰出候付今日御用所御出席無之

正月十日 休日

一四時御供揃地藏院江御証月ニ付御仏詣被遊候得共休日出仕無之由

正月十一日

正月十二日

正月十三日 休日

一平井郷左衛門今日迄ニ而血忌相済明十四日御年寄出勤之届町奉行大沢
三平を以相届ル

正月十四日 出勤

一四つ時御供揃泰安寺江御仏詣ニ付例之通七間廊下江罷出御目見申
上ル

一今日御年寄平井郷左衛門出勤

一牢屋改今日定日之処来ル十六日迄延引断出承届ル

正月十五日 出勤

一辰中刻小従人以上登城式日之御礼被為請候日参之御役人例之通七
間廊下ニ而御通懸ケ御目見申上ル尤着服例月之通裏付上下着用

一原田屋利助鳥屋左助吟味之儀博奕宿いたし候儀可遂吟味之旨尤懸
ケ合之義者不及詮議候旨且又音治無吟味并久右衛門義も一通り可
致吟味之旨并上弥三兵衛被申聞候

一当役筋書役被仰付候付是迄之物書使組上田茂八義者差戻候様井上
弥三兵衛被申聞候其段勘定奉行山岡与左衛門へ申談差戻ス

正月十六日 出勤

一御具足御祝被下置候ニ付大役人以上辰中刻登城大書院おいて頂戴

之

一 大年寄并札元共町医郷中地方目付共御祝前御目見被為請夫の御用
達町人共御通懸ケ御目見被仰付候

一 今日牢屋改加藤登八井汲林内差出シ無別条段申出ル

一 今日被為召候面々被仰渡左之通

御使番役 栗田唯治 兼役 組頭役寺社取次 佐々木弥大夫

正月十七日 出勤

一 四時御供揃地藏院夫の稻荷へ御社參被遊候付例之通七間廊下江罷
出御目見申上ル

一 明十八日牢屋江詮議ニ罷出候付登城不仕候段井上弥三兵衛江申達
ス牢屋火鉢炭之義是又井上弥三兵衛江申立相済小勤者沼本弥五兵
衛へ牢屋炭被相廻候様申達ス

正月十八日

一 五時牢屋江罷出原田屋利助鳥屋左助音治久右衛門遂吟味七ツ半

過引取相替義無之ニ付井上弥三兵衛江者不罷越直帰宅

一 御用所御出席有之候得共牢屋江罷出候ニ付登城不仕候

正月十九日 休日

正月廿日 出勤

一 昨十八日利助左助音治久右衛門右四人之口書井上弥三兵衛江差
出之

正月廿一日 出勤

正月廿二日 休日

正月廿三日 出勤

一 安岡町藤助義明後廿五日町奉行中へ引渡可有之候之間請取久米右

衛門申口之趣遂吟味入牢可申付旨井上弥三兵衛被申聞候

正月廿四日 出勤

一 四時御供揃泰安寺江御証月ニ付御仏詣被遊例之通七間廊下へ罷
出御目見申上ル

正月廿五日 休日

一 安岡町村屋藤助義明奉行大沢三平の四時過引渡有之平井郷左衛門
宅へ添役福田嘉兵衛立合請取久米右衛門申口之趣を以致吟味入牢
申付候其段刑法奉行中へ届之町奉行大沢三平へも知せ遣ス

右ニ付 書役 豊田伝藏

同心代り 加藤登八

同 井汲林内

袴着 日笠伝治

中間 式人

一 今日三奉行中へ廻状到来左之通

来ル廿九日源剛院様百回就御忌於泰安寺御茶湯被仰付候此段

為相知候様被仰出候

右之趣同役属役并支配方へも可被相達候以上

正月廿五日 永井甚大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

右之趣書役豊田伝藏江申渡ス

一 明廿六日御対面所江被為人候ニ付御用所御出席無之旨大目付黒田

多膳の申来ル

正月廿六日

一今日御対面所江御出ニ付御出席無之休日ニ候

正月廿七日 休日

正月廿八日 出勤

一明廿九日源剛院様百回就御忌泰安寺江四時御仏詣被仰出候旨大目附黒田多膳の知せ有之

一鍛冶町打穴屋理八義去ル廿五日入牢申付候村屋藤助同様之者ニ付町奉行の引渡可有之候間請取御日柄故牢番預ケ可申付旨吟味之義も追而可取計旨井上弥三兵衛被申聞其段夫々江申達八ツ時過引渡有之請取之添役福田嘉兵衛立合平井郷左衛門宅ニ而牢番預申付候尤賄宿江申付右之段手紙ニ而井上弥三兵衛へ相届ル

右ニ付

豊田伝蔵 同心代 加藤登八代
井汲林内 同 前原平兵衛
日笠伝治 中司 式人

一去ル廿五日村屋藤助口書卷冊今日井上弥三兵衛江差出置

一去ル廿日差出置候原田屋利助鳥屋左助音治右三人口書三冊井上弥

三兵衛の被相戻追而再吟味可致旨被申聞候久右衛門口書者町奉行

大沢三平江被相渡候間当役の懸合被戻候様弥三兵衛被申聞候

正月廿九日 出勤

一四時御供揃泰安寺江御仏詣ニ付例之通七間廊下江罷出御目見申上ル

一今般御法事ニ付牢舎人之内左之者共助命御領分追払可申付旨井上

弥三兵衛被申聞尤明後二日可申渡旨被申聞候

無復盗人 市六

同生盗人 甚蔵

野介代村生盗人 六兵衛

右三人共 御領分追払

牢番預ケ差免町奉行中へ 元後藤守助長屋者 久右衛門

引渡可申旨

一大熊勤ケ由殿此間御帰着ニ付御面謁之儀井上弥三兵衛江相尋候処当年御役替等之面々者御面謁可有之旨去歲御役付之面々者年を越候得者御面謁無之旨被申聞候

癸巳 二月朔日 出勤

一辰中刻小従人以上登城式日之御礼被為請日参之面々者例之通七間廊下おゐて御通懸ケ御目見申上ル

一御家之儀古来の書留置候もの有之候ハ、可差出旨先日被仰出候得

共部立候ものニ無之少々ツ、書留置候之様成類ニ而可差出旨御政

事奉行永井甚大夫より被申渡之

一野介代村六兵衛生盗人甚蔵盗人市六右三人ニ申渡書付案文相認差

候処可然候間案文之通申渡候様被申聞候

一明日出牢取計四人有之加人同心代り六人中間五人被差越候様勘定

奉行山岡与左衛門へ申談夫々江福田嘉兵衛の直ニ可申付旨返答有

之其段嘉兵衛江申達又尤刻限五時前相揃候様申達ス

二月二日 出勤

一五時平井郷左衛門宅ニ而添役福田嘉兵衛立合申渡左之通

元後藤守助長屋者 久右衛門

牢番預ケ差免町奉行所引渡申候

右差添同心代組兩人中間告人

登人市六

一愛染寺之錢之塔を盗取其上林田上之町ニ而蚊屋盗取候付

死罪可申付処御法事ニ付助命追払申付候此以後徘徊いた

し候ハ、急度可申付候

右市六皿村江追払古城村庄屋立合見届一札取之差添遣候組兩

人差出ス

無宿牛盗人 甚蔵

一川戸御蔵ニ而牛を盗候付死罪可申付処御法事ニ付助命追

払申付候此以後徘徊いたし候ハ、急度可申付候

右甚蔵宮尾村江追払院村庄屋立合見届右同断

野介代村牛盗人 六兵衛

一志戸部与三七持牛盗取候付右同様申付候

右六兵衛皿村江追払古城村庄屋見届一札取之同心代り組差

出ス

右三人申渡委細別帳ニ有之ニ付詳不記之

一右申渡相濟登城井上弥三兵衛江相届ル郡代中へも及通達候

一打穴屋利八入牢手形牢番共へ差遣ス

二月三日 休日

二月四日 出勤

一四時御供揃御仏詣ニ付例之通七間廊下江罷出御目見申上ル

一安岡町藤助口書井上弥三兵衛被相辰請取

一明五時五分屋江罷出詮議場おゐて致吟味候之間夫々江申達ス

一牢番大谷栄蔵母今晝病死之由福田嘉兵衛合届有之井上弥三兵衛江

申達七日引セ助使組合告人罷出ル

二月五日

一五つ時五分屋江罷出打穴屋理八村屋藤助盗人久米右衛門右三人終

日致吟味尤添役福田嘉兵衛立合其外書役同心代中間例之通罷出ル

右ニ付今日登城不致事

一明六日御対面所御出被仰出候付御用所御出席明日者無之段大目付

黒田多膳合申来ル

二月六日

一今日御出ニ付御用所御出席無之休日相成ル

二月七日 休日

二月八日 出勤

一四ツ時御供揃泰安寺江御仏詣ニ付七間廊下江罷出例之通御目見申

上ル

一東新町ト林田村玉林之商人共与商ひ筋之儀及出入双方下方吟味口

書等井上弥三兵衛被相渡当役筋ニ而可遂吟味を旨被申聞候尤町

奉行郡代中へ得と懸ケ合之上可取計旨被申聞候

一去ル五日遂吟味候三人之者共口書井上弥三兵衛江差出置

一明九日四つ時御供揃二宮辺江御遠乗御出ニ付明日御用所御出席無

之旨大目付黒田多膳被申聞候

二月九日

一今日御出ニ付御用所御出席無之休日ニ相成ル

二月十日 休日

二月十一日 出勤

一 村屋藤助打穴屋理八盗人久米右衛門口書差出置候処今日井上弥三兵衛少被差戻再吟味可取計旨井上弥三兵衛不審書付被相渡請取之

一 今日牢屋江加藤登八罷出候処無別条段申出ル

一 牢番大谷栄藏義去ル四日同人母病死ニ付昨日迄七日引込今日出動段福田嘉兵衛少屈有之尤加人今日差戻ス由是又福田少噂有之

二月十二日 出勤

一 四時御供揃泰安寺江御仏詣ニ付例之通七間廊下ニ而御目見申上ル

一 林田村玉林商人共別紙之通可遂詮議旨井上弥三兵衛被申聞候付明十三日致吟味候而不苦候哉と相尋候処吟味一通り之儀ニ候間勝手次第可取計旨被申聞候ニ付明十三日六人之者共地方目付召連五ツ

時平井郷左衛門宅罷出候様可被申付旨郡代大村庄介へ申遣ス其外夫々江例之通申達ス

井上弥三兵衛少被相渡候書付左之通

林田村詮議之事

一 丸俵丸物ハ不相成候旨申渡候所毎度相背町分申出不出

事

一 何年已前少商ひ致来候哉事

一 人数前々何人當時何人

一 去冬質物等ニ過分物出候事ハ先達而申付背候ニ相違無之

事

一 買候事法定申候へ者売候事ハ相定候事質物事売候同然

ニ候左候得ハ弥申付背候事相違無之急度誤可申事申訳無

之事

二月十三日 休日

一 五時平井郷左衛門宅江添役福田嘉兵衛立合林田村太田村商人左之者共遂詮議委細別帳ニ有之

林田村 伊右衛門

同村 佐右衛門

同村 庄七

同村 甚兵衛

太田村 六郎兵衛

太田村 勘兵衛

二月十四日 出勤

一 四時御供揃泰安寺江御仏詣ニ付七間廊下ニ而御目見申上ル

一 昨十三日之吟味口書井上弥三兵衛江差出置候

一 今日牢屋改定日之所穢多不罷出候付明後十六日ニ相極候旨申出ル

二月十五日 出勤

一 辰中刻小従人以上登城式日之御礼被為請日参之御役人者七間廊下

ニ而御通懸ケ御目見申上ル

二月十六日 休日

一 今日牢屋改加藤登八井汲林内罷出別条無之候旨申出候

二月十七日 出勤

一 四時御供揃地藏院江御社参被遊候付七間廊下江罷出御目見申上ル

一揚り屋彦番四番破損有之候付書付福田嘉兵衛アリが差出則井上弥三兵衛江繕之義申達置候事

一明十八日久米右衛門藤助利八遂吟味候間登城不仕候旨井上弥三兵衛江申達ス

二月十八日

一五時の牢屋へ罷出添役福田嘉兵衛立合久米右衛門再吟味いたし終

日相詰候事

書役豊田伝蔵

同心

加藤登八 井汲林内

使組西原文治 中間式人

二月十九日

休日

一五時の牢屋詮議江添役福田嘉兵衛一所ニ罷出藤介利八兩人吟味終

日取計口書清書出来兼候付爪判取不申罷帰候

書役豊田伝蔵

同心

加藤登八 井汲林内

使組 中間式人

二月廿日

出勤

一明廿一日天崇院様御証月ニ付四時御供揃御仏詣被仰出候旨大目付

黒田多膳が知せ有之

二月廿一日

出勤

一四時御供揃泰安寺江御仏詣被遊候ニ付例之場所江罷出御目見申上

ル

一藤助利八兩人去ル十九日吟味口書清書出来候付牢屋江書役豊田伝

蔵同心加藤登八井汲林内差出爪判致させ取帰り右三人が差出之

二月廿二日

休日

二月廿三日

出勤

一去ル十八日十九日久米右衛門藤助利八右口書三冊井上弥三兵衛へ

差出置候

二月廿四日

出勤

一今日牢屋改定日之処明日江差延候様申付候

二月廿五日

休日

一今日牢屋改雨天ニ付延引追而天氣次第罷出候様申付候

二月廿六日

出勤

二月廿七日

出勤休日

一今日牢屋改加藤登八井汲林内差出候処別条無之旨申出ル

二月廿八日

出勤

一藤助利八盗人久米右衛門右三人口書三冊井汲弥三兵衛が被差戻藤

助利八再詮議可取計旨被申聞候

二月廿九日

出勤

一今日御用所御退出無之内町奉行詮議方勝手次第退出いたし候様御

差図有之御用所江不罷出九つ過退出

一三奉行中廻状到来左之通

一紙 於江戸表万寿姫君様御不之処御養生不被為叶去ル廿日御逝

去被成候段申来候依之今日が来月八日迄十日之内鳴物高声御

停止之事ニ候尤普請ハ三日迄五日之内不相成候

右之趣同役属役并支配方へも可被相達候以上

二月廿九日

半切 右御触書之趣可被得其意候以上

二月廿九日

永井甚大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

右御触之趣書役豊田仁伝蔵へ申渡ス

一御奏者中ハ廻状到来於東武万寿姫君様去ル廿日御逝去被成候段申
来依之上巳之御礼不被為請候旨被仰出候段申来ル

二月晦日 休日

癸巳 三月朔日 出勤

一式日御礼例歳不被為請鳴物御停止中ニ而茂日參之面々肩衣者着用
登城

三月二日 出勤

三月三日 休日

一上巳之御礼鳴物御停止ニ付無之尤詰合之面々者麻上下着用之由承
之

三月四日 出勤

一今日御仏詣御延引被仰出候旨大目付亦見類助ハ知せ有之

一御用所外御用向有之候間勝手次第退出候様被仰出九半過致退出候

一今日牢屋改定日ニ付加藤登八井汲林内差出候処別条無之段申出ル

三月五日 出勤

一三奉行中ハ廻状到来左之通

半切来ル八日桃園院様五十回御忌ニ付於本源寺御茶湯被仰付候此

段為相知候様被仰出候

右之趣同役属役并支配方へも可被相達候以上

三月五日

永井甚大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

一御用所外御用向有之候間退出候様被仰出八ツ時過退出

三月六日 出勤

三月七日 休日

一明八日御仏詣御延引被仰出候段大目付亦見類助ハ知せ申来ル
三月八日 出勤

一今日御仏詣御定日之処御延引被仰出候

一鳴物御停止今日迄ニ而相濟候付明九日藤助利八詮議いたし候間明

日登城不仕候段井上弥三兵衛へ申達

三月九日

一五ツ時牢屋江罷出添役立合藤助利八終日致詮議暮前罷帰ル組中間
例之通罷出ル

一三奉行中ハ廻状到来左之通

御參勤御時節先達而御伺被成候所四月中と被仰出依之閏三月

十八日御発駕被成候筈相極候此段為相知候様被仰出候且又御

道中御条目虎之間御縁側被差出置候間御供方何茂拜見可被得

其意候

右之趣同役属役并支配方江茂可被相達候以上

三月九日

永井甚大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

三月十日

休日

一昨九日藤助利八詮議口書清書平井郷左衛門宅添役寄合相認させ候事

三月十一日 出勤

一明十二日御仏詣御延引被仰出候段大目附黒田多膳の知せ有之

一林田村大田村商人共六人并式歩中買商人左之通来ル十六日可申渡

旨井上弥三兵衛被申聞尤申渡書付相認可差出旨被申聞候此方ニ而

詮議口書差出置候処急難見候旨井上弥三兵衛被申聞不相戻候

井上弥三兵衛江相渡候書付左之通

林田村

伊右衛門 佐右衛門 勘兵衛 庄七

大田村

六郎兵衛 勘兵衛

一右之者共去冬商売向之義付兼々申渡候商物員数心得違相背

不届候事先年申渡候書付売買共差留申候売候義ハ不苦敷と

心得候事不埒之事候

一追込申付候

一向後貫拔外ニ而一切商売差留メ候今年の来午歳迄其分致置

候夫迄之内町内へ引移り候とも又ハ農業計いたし候とも可

致候事

一右申渡書認可被差出候

詮議方

去秋町奉行所の

申渡趣相背ニ付

江見屋

飯岡屋

伝七

九八

追込

右詮議方

一庄屋共へ已来事申渡事

右者郡代

三月十二日 出勤

一書役豊田伝蔵同心代足輕兩人牢屋へ差出藤助利八去ル九日之口書

爪判取らせ候処又々申口相違有之其段書付差出之

三月十三日 休日

一平井郷左衛門宅へ豊田伝蔵呼出藤助利八昨十二日之申口清書認させ候

七候

一明十四日御仏詣御延引被仰出候旨大目付赤見類助の知せ申来ル

三月十四日 出勤

一今日之御仏詣御延引被遊候

一去ル十一日井上弥三兵衛被申聞候申渡書付相認差出候処得と熟読

之上差図可有之旨被申聞候

一御奏者中の廻状到来左之通

明十五日月次之御礼少々御風邪被成御座候ニ付不被為請候段

被仰出候右之趣同役属役并支配方江も可被相違候以上

三月十四日 太田舍人

村山平学

市村数馬

一今日牢屋改定日ニ付加藤登八井汲林内差出候処別条無之段申出ル

一藤助利八口書爪判取豊田伝蔵の差出ス

三月十五日 出勤

一今日御札不被為請

一昨十四日差出置候申渡書付之通明十六日可申渡之旨井上弥三兵衛被申聞其段町奉行中郡代中へ申達ス其外組中間例之通差越候様申付候

一夜入御触書到来於江戸表去ル二日日向守様御卒去被成候段申来依之今日今来十七日迄三日之内鳴物高声御停止ニ付明十六日申渡延引之通用町奉行郡代中江も申遣并書役江申渡ス
一去ル九日藤助利八詮議口書井上弥三兵衛へ差出ス

三月十六日 休日

一明十七日地藏院江例月之御社参御延引被仰出候段大目付赤見類助合申来

三月十七日 出勤

一地藏院御宮御社参御延引

一西新町飯岡屋九八同町江見屋伝七林田村太田村商人共六人去ル十六日可申渡之所鳴物高声ニ御停止ニ付致延引候明十八日可申渡之旨井上弥三兵衛へ相尋候処取計候様被申聞其段町奉行并郡代中へ呼出之儀申達ス尤刻限五つ時罷出候様被申付候様申談其外福田嘉兵衛并組中間例之通申達

一一昨十五日差出置候藤助利八両人口書井上弥三兵衛被戻請取之

三月十八日 出勤

一五つ時平井郷左衛門宅ニ而添役福田嘉兵衛立合申渡左之通

西新町飯岡屋

去秋町奉行所町端在分取組大商致間敷 九八

相触候所林田村伊右衛門胡麻四石同村

庄七佐右衛門甚兵衛操綿壹本或式本買取候付追込申付候

同町江見屋

伝七

右同断太田村六郎兵衛勤兵衛合

村田村商人

伊右衛門

大商売不相成候段郡代所合兼々申渡置候

処飯岡屋九八江胡麻四石売払候付追込申付

向後貫抜外存分ニ而一切商売差留候乍然俄差留候而者可致難儀候間今年今来午歳迄定法之通少々之儀者其分ニ差免候今来

年過候ハ、農業計いたし候とも又ハ町内江引移り候共可致候

若於相背急度可申付候

同村 同

右同断飯岡屋九八江操綿式本売払候ニ付 甚兵衛

同村 同

右同断 同村 同 庄七

同村 同

右同断 同村 同 佐右衛門

太田村同

右同断江見屋伝七江操綿式本 勘兵衛

売払候ニ付右同断

右同断

同村 同

六郎兵衛

右委細申渡帳ニ有之候ニ付不記之

一西新町年寄罷出九八伝七追込被仰付取計候旨届出ル地方目付河辺

村土井太郎右衛門林田村太田村商人共請書一札印形取揃奥書印形

いたし持参差出之

一四つ時過登城いたし町在八人之者申渡書付井上弥三兵衛江差出ス

尤町奉行郡代中へも申渡之趣及通用候

一三奉行中へ廻状到来左之通

去歳被仰出候通千松様鉄弥様御儀公儀御届被為濟候儀候間

右名面之者茂有之候ハ、可被相改候

右之趣同役属役并支配方江も可被相達候以上

三月十八日

永井甚大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

一西新町九八伝七林田村四人太田村式人都合八人之申渡書付井上弥

三兵衛被罷右八人江申渡之大意相認年月日詮議方姓名書差出

可申旨被申聞則相認差出ス右扣書付右一件一所いたし有之

三月十九日 休日

三月廿日 出勤

三月廿一日 出勤

三月廿二日 出勤休日

一藤助利八申口ニて者妙見嘉助被相頼候ニ付久米右衛門盗取候銀子

差戻シ候様ニ相聞候得共取計方相考候所急度左様とも被存候妙見

并福渡之様子聞合ニ足輕彦人差出候様いたし度旨井上弥三兵衛宅

「申達候所与兵衛殿江被及御沙汰御差戻」旨被申聞候尤

鳥屋左助詮議之事も及噂置候

三月廿三日 出勤

一元御駕籠之者相勉候源六与申者田邑所々ニ而法外いたしニ而郡代より召捕候付引渡可

有之候間請取入牢可申付之旨尤当时人別外之者ニ付牢屋賄可申付

井上弥三兵衛被申聞候ニ付人別ニ入不申候而茂先達而元村山平学

長屋者茂介夫婦者下紺屋町親文六江賄被仰付候右之例ニ被仰付候

得者右源六義茂下田邑川西親有之候之間可被仰付候哉と申候処無

宿者ハ牢屋賄と被相極候間以来無宿者ハ牢屋賄可申付旨被申聞候

一右源六横山村穢多番四郎兵衛田宗寺村同定七兩人捕候ニ付地方目

付一方村植月六郎右衛門肝煎キ八出村清右衛門横山村庄屋差添手錠

ニ而郡代大村庄助送り差紙を以申上則引渡有之即刻入牢申付其

段井上弥三兵衛江手紙ニ而相届之尤例之通添役中間左之通

書役彦人 同心兩人 使組彦人 中間式人

一右源六懐中多葉粉入銀札式分有之「同心加藤登八井汲林内申出

ル 三月廿四日 出勤

一林田村藤右衛門不届有之郡代所ニ而明日入牢被申付候間例之通可

取計旨井上弥三兵衛被申聞刻限之義郡代中江懸合候処明廿五日四

時呼出申付候由右ニ付詮議方足輕彦人平井郷左衛門宅江罷出候様

申付

一今日牢屋改定日ニ付加藤登八井汲林内差出候処別条無之其段申出ル

三月廿五日 休日

一林田村藤右衛門年五拾三歳郡代所ニ而入牢申付「大村庄助」手形相廻則入牢手形牢番共江足輕井汲林内持セ差違之尤賄之義者宿賄ニ而御座候

三月廿六日 出勤

三月廿七日 休日

一明廿八日林田村太田村追込申付置候六人西新町式步中買兩人差免可申旨井上弥三兵衛申来ル夫々江手配申遣又町奉行郡代中へ明日四時呼出申遣ス

一郡代所申盗人男女兩人引渡可有之候間牢舎可申付旨井上弥三兵衛申来ル郡代も右盗人兩人明日四時可引渡旨申来ル依之同心代り足輕兩人加入「越候様申付ル

三月廿八日 出勤

一今日平井郷左衛門宅ニ而添役福田嘉兵衛立合申渡左之通

西新町飯岡屋

追込差免候

同町 江見屋

右同断

右召連罷出候者共大年寄蔵合孫左衛門西新町年寄并組合之者

不残

林田村

追込差免候

林田村

伊右衛門

追込差免候

同

佐右衛門

右同断

同

甚兵衛

右同断

太田村

庄七

追込差免候

同

六郎兵衛

右同断

右召連罷出候者共地方目付土井太郎右衛門肝煎庄屋組頭組合之者共不残

者共不残

勘兵衛

右申渡相濟町奉行郡代中へ知せ申遣ス

一昨日郡代申通用有之候盗人吉野郡古町出生之者治郎兵衛与申年式拾五歳手錠ニ而被差越右女房義ハ懐妊ニ而近々出産之様子ニ相見歩行も難成「付井上弥三兵衛へ被申達先盗賊番江預ケ置候付今日引渡不相成候由且証文ニ者当人古町村与申候ニ付認候得共盗賊番共不審ニ存候様子ニ相聞伯州者ニ而者無之候哉と申候由大村庄

介申来

一右盗人治郎兵衛纏懸ケ入牢詮議方ニ而添役立合申付ル取計相濟登

城井上弥三兵衛江相届之

一右治郎兵衛盗取公保田村入百姓彦四郎申差出候註進書并被盗もの

拾四品書付老通院庄村の治郎兵衛召捕同人女房懷妊之由届書老通井上弥三兵衛が被相渡請取之

一去辰十一月廿六日夜上河原村治右衛門被盜取候註進書老通被盜物品書付老通是又被相渡盜人治郎兵衛ニ而者有之間敷哉遂詮議候様被申聞候

一無宿源六所々ニ而法外いたし候註進書ニ宮村地方目付立石斎兵衛差出候老冊中嶋村庄屋口上書老通川崎村庄屋治助同老通太田村庄屋九郎兵衛同老通田邑南村庄屋藤八同老通中村庄屋勘助同老通東田部村原方庄屋藤八同老通被相渡請取之

一右盜人治郎兵衛井源六右兩人明廿九日致詮議候ニ付登城不仕候旨井上弥三兵衛江申達ス例之通組中間差出候様申付ル

三月廿九日

一五つ時（ト）の牢屋詮議場罷出添役立合盜人治郎兵衛遂詮議公田村彦四郎十四品被盜物盜取候段及白状右口書老冊井上弥三兵衛宅江持参差出ス源六口書（及籍）。清書出来兼候付追而可差出之旨申達置之

三月晦日 休日

〔時（ト）の平井郷左衛門宅江添役并書役寄合源六口書相認之〕

癸巳 閏三月朔日 出勤

一式日之御礼被為請辰中刻小従人以上登城日参之面々七問廊下おゐて御通懸御目見申上ル

一今日被為召被仰渡左之通

御分職ニ付以後

安藤造酒介殿

御在府年詰江戸被仰付候

御分職ニ付御新政之儀御

委任御引請被仰付候

御年寄役見習被仰付

御新政御用懸り被仰付

尤御勝手方当時急務ニ付別而心を付可相勉候

早而去年以来御出精ニ付御目録之通被下之

兼役市郷惣奉行役 井上弥三兵衛

御免被仰付候

市郷惣奉行役兼帯 永井甚大夫

被仰付候

一御用所江町奉行詮議方勘定奉行罷出候当日御祝儀申述ル

一安藤昇殿御年寄見習被仰付候ニ付町奉行詮議方勘定奉行御用所江

罷出御怡申達候様井上弥三兵衛被申聞候付罷出申達ス

閏三月二日 出勤

一昨日牢舎人年付書付差出候様刑法惣奉行井上弥三兵衛被申聞今日

差出ス尤当巳ノ年書付申候

一去月廿九日無宿源六詮議口書老冊井上弥三兵衛江差出置之

一今日登城前安藤昇殿江御逢被下候様昨日申込置罷越候様眼疾不被

相勝ニ付断ニ而不懸御目候

一三奉行中（ト）廻状到来去歳以来両大番所脇江疏状箱被差出候得共御

留主中ハ引取御在國中ハ被差出候旨申来ル

一明三日四時於御対面所御囃子被遊候御家中大役人以上又二男三男

ニも武芸御覽之段罷出候者ハ勝手次第拜見罷出候様被仰出候旨
三奉行中ハ廻状到来

一三奉行中ハ廻状到来左之通

火之用心之儀前々被仰出候得共御発駕前堅申付御発駕当日ハ
別而相慎可申事

一酒之儀是又兼々被仰出候得共弥下々迄堅相嗜候様可被申付候
若酒狂なと有之候者可爲曲事

一御発駕之砌御城内者不及申可爲人込候間喧嘩口論無之様ニ別
而相慎可申事

右之趣——可被相違候以上

閏三月三日 休日

閏三月四日 出勤

一四時御供揃泰安寺江例月之通被遊御仏詣七間廊下江罷出御通懸御
目見申上ル

一無宿源六口書井上弥三兵衛被戻明後六日追払可申付之旨被申聞候
一明五日御出被仰出候ニ付御用所御出席無之旨大目付海老原極人ハ
申来ル

閏三月五日 御用所御出席無之

一無宿源六申渡書付相認井上弥三兵衛宅江持参差出候処以来共追払
者申渡書付是非立帰徘徊いたし候ハ、召捕急度可申付候与相認候
様井上弥三兵衛被申聞候

〔「屋藤助穴打屋利八懸り合之儀聞合妙見并福渡江」〕〔輕差遣候儀
先日申達置候昨日御用番伊達与兵衛殿〕〔聞届相濟御勝手奉行鈴

木此右衛門江も通用相濟〔「次第近日差遣」〕井上弥三兵
衛被申聞

閏三月六日 出勤

一五つ時下田邑川西安兵衛伴元御駕籠者当時無宿源六三月廿三日入
牢申付置詮議之上今日詮議方宅〔添役福田嘉兵衛立合書役豊田伝
藏書付を以左之通申付ル

其方儀去辰十二月十八日夜院庄村庄屋 無宿 源六

伝右衛門方江大文字付挑灯ともし参り御用与申致一宿同廿三
日中嶋村庄屋茂兵衛方江罷越右同様申宿申付宿錢も不相払其
後茂所々ニ而法外いたし重々不屈之至候依之御領分追払申付
候此以後立帰致徘徊候ハ、召捕急度可申付候以上

巳閏三月六日

右源六義血村江追払古城村庄屋見届一札取之并汲林内加藤登
ハ差出之

一〔源六江申渡書付井上弥三兵衛登城無之ニ付永井甚大夫江差出置
井上弥三兵衛江も手紙ニ而申〕〔大村庄助江も知せ手紙遣ス
一妙見嘉助聞合天氣次第近日罷越候様加藤登八江申渡ス

閏三月七日 休日

一今朝新田刃夫ハ妙見倉敷湯郷刃迄藤助利八懸り合之儀聞合加藤登
ハ差遣ス勝間田之駅一宿翌八日辰中刻過罷帰ル

閏三月八日 出勤

一四時御供揃泰安寺江例月之被遊御仏詣候ニ付七間廊下罷出例之通
御目見申上ル

一 明九日四半時御供揃御対面所江御首途御出被仰出候旨大目付黒田多膳〆知せ有之

一 右ニ付麻上下着用登城候様永井甚大夫〆被申聞候旨町奉行大沢三平〆演達有之

一 盗人治郎兵衛詮議口書先日差出置候処今日郡代所〆戻ル

一 右治郎兵衛吉野郡古町村出生之者ニ而親者伊右衛門〆女房親者〆右衛門郡代所〆聞合有之候処古町ニ右〆者無之由今一応可致詮議候旨井上弥三兵衛被申〆書役一人〆兩人牢屋差出詮議申付候処治郎兵衛〆女房ハ古町与右衛門娘ニ相違無之申之由

閏三月九日 出勤

一 四半時御供揃御首途御対面所江御出被遊候付麻上下着用七間廊下江罷出町奉行詮議方勘定奉行郡代御通懸御目見申上候例歳御祝儀赤飯被下置候得共当年者御儉約ニ付不被下候旨御勝手奉行鈴木此右衛門〆被申聞候

一 今日被為召被仰渡左之通

改性永見ニ被仰付候

紋所も被改候様被仰付候

御加持持式人ふち被下

都合五人ふち

安藤造酒介殿

丸尾新助

一 治郎兵衛盗取十四品之内質物ニ院庄村甚九郎世話いたし候分請戻相渡候註進書付一通井上弥三兵衛〆被相渡請取置治郎兵衛生因詮議之趣口上ニ而申達ス

〔右治郎兵衛口書清書出来ニ付書役老人足輕兩人差出シ〕〔取之候〕〔安藤昇殿此間御改号所司与願之通被仰付候由承之何レ〆も知せ無之

閏三月十日 休日

閏三月十一日 出勤

一 御発駕前休日無之日々御出席有之候旨大目付黒田多膳被申聞候

閏三月十二日 出勤

一 四つ時御供揃泰安寺江例月御仏詣ニ付七間廊下江罷出例之通御通懸ケ御目見申上ル

一 御発駕前使組人少ニ付詮議方定付足輕兩人十八日迄使組方へ可差出旨井上弥三兵衛被申聞候ニ付兩人差遣候而者来ル十四日牢屋改

難相成申達候処十八日後迄致延引可申旨其外詮議筋も可致延引之旨弥三兵衛被申聞候左候ハ、此節之儀故可差遣候得共牢屋近辺出火其外急変有之候節何方へ罷出居申候而も早速牢屋江欠付候儀相成候御用向被申付候儀候ハ、差遣可〆尤當時牢舍人拾人有之候間此方加人不相渡候而ハ〆不申候得共御人少ニ付無其儀是非右兩人者〆通ニ〆而者相済不申候旨申達候処其通可申渡〆申聞候其段福田嘉兵衛江〆被申付候

一 牢舍藤助利八去〆福渡江参り悪事〆聞合ニ加藤登八今朝差遣之

閏三月十三日 出勤

一 明十三日五半時頃例刻〆早々登城候様井上弥三兵衛被申聞候其段福田嘉兵衛江も申達ス

閏三月十三日 出勤

行中宅ニ而詮議筋有之候付御目見不罷出候

一 刑法奉行井上弥三兵衛宅ニ而詮議方平井郷左衛門中奥目付西尾多内詮議方添役福田嘉兵衛御徒目付中沢曾右衛門下目付老人詮議方書役老人詮議方足輕式人立合遠藤十助俸吟藏去ル四日致出奔候ニ付其以前惡事之様子御尋有之詮議方父十助。相尋口書出来之上添役書読聞セ書判取之午刻取計相濟口書直ニ刑法奉行中へ差出即刻登城

井上弥三兵衛ハ浜本屋喜助差出候書面可差出旨ニ付差出シ置候

一 老斗式升之紛失切手今津屋孫十郎江御藏奉行中ハ預ケ置候儀今日此方江取上ケ候筋ニて有之間敷旨井上弥三兵衛被申聞候間右切手之義者役筋へ取上不申其俣今津屋孫十郎手前ニ致所持させ置申候段申達ス是者遠藤十助ハ買戻シ候筋被申候

閏三月十五日 出勤

一 辰中刻小従人以上登城式日之御礼被為請日參之面々者七間廊下ニ而御通懸ケ御目見申上ル

一 来ル十八日卯上刻御発駕被成候段被仰出候付右前刻登城可仕旨市村数馬ハ被申聞候尤当年者不差出候旨尤御目見相濟候嫡子之面々是又同様登城候様被申聞候

一 表御礼相濟御用所江町奉行詮議方勘定奉行郡代一所ニ罷出候処左之通御直之御意蒙仰候

御留主中役筋別而心を付可相動候折角息才

一 牢屋穢多番加番之儀兼而刑法奉行中へ下方相願候趣申達置候処郡代所江も願出候間存寄次第可承届旨井上弥三兵衛被申聞其段添役福田嘉兵衛申渡ス委細者嘉兵衛日記有之付不記之

一 林田村藤右衛門先達而郡代中ハ入牢被申付置候之処下代差出牢越吟味之筋有之候間其段申渡呉候様大村庄助ハ通用有之牢越吟味之儀ゆへ足輕差出候ニおよひ不申候間牢番共へ其段可申付旨添役福田嘉兵衛江申達ス

一 安藤所司殿江去ル二日罷越候処断ニ付今日退出懸ケ罷越懸御目御年寄御見習御怡申達ス

閏三月十六日 出勤

一 御留主中御用所御出席毎月三八ニ相定候段知せ有之一昨晩方夫々支配頭宅ニ而左之通被仰付候由

遠藤十助

其方俸吟藏儀去ル四日令出奔候段不届候然処彼是不埒之筋有之趣相聞候ニ付遂吟味候処左様之儀其已前承候者存寄茂有之処決而不存吟藏立去候已後漸右等之趣承知候段申之候吟藏儀先達而不行跡ニ付追々「見等相加度由相願候間願之通部屋住へ御」被成候左程之儀候得者常々無油断心を付取計方も可有之処等閑之致方ハ事起殊更役筋与申旁以不届之至ニ候依之蟄居被仰付候相慎可罷在候

中村定八郎

遠藤十助俸吟藏此間出奔之由届出候其已前其方紛失もの有之由專風説流行候ニ乍存致遅滞候段不埒之事ニ候依之急度御呵可被仰付候得共自身之事故以御憐愍指扣被仰付候

富沢金左衛門

遠藤十助俸吟藏此間出奔之段

河村市兵衛

届出候其已前々彼是風説承候ニ品々不申出其上仲ヶ間之儀ニ
候得者十助江可申聞之処無其儀筋違之取計且亦致遲滯候段不
届之事ニ候依之遠慮被仰付候

一井上弥三兵衛不快ニ付出動無之

閏三月十七日 出動

一今日地藏院江御參詣御定日候得共御発駕前ニ付御參詣不被遊候

一刑法惣奉行井上弥三兵衛不快ニ付出動無之

閏三月十八日 出動

一卯上刻前大役人以上井小従人以上御目見相落候。面々登城卯中刻

過益御機嫌能被遊御発駕藤之間江相詰御通懸御目見申上ル例年通

蒙御意夫々詮議方勘定奉行一緒御用所罷出御怡申述并三奉行中御

奏者中大目付江御怡挨拶申達ス

一御発駕御祝儀赤飯「」於役所頂戴之早而御礼三奉行中へ申達

ス

一御用席辰中刻御退出夫々下城御家老御年寄中御宅江廻動

一町奉行郡代支配所江罷出候ニ付出動無之

一井上弥三兵衛今日出動無之

閏三月十九日

一今日牢屋見分井汲林内差出候処別条無之段申出ル

閏三月廿日

閏三月廿一日

一去ル十四日牢屋改相延居申候ニ付今日加藤登八井汲林内兩人差出

候処別条無之段申出ル

閏三月廿二日

閏三月廿三日 出動

一御用所御出席有之

一刑法惣奉行井上弥三兵衛不快出動無之

一牢舎藤助利八遂詮議候様井上弥三兵衛御政事惣奉行永井甚大夫

迄通用有之間取計候様甚大夫被申聞候間廿四日牢屋江罷出可致

詮議旨及返答其段添役并書役組中間足輕加人老入夫々江申付ル

一戸川町城波病氣之処去辰十月廿六日致病死其節神戸村布原村親類

金右衛門又兵衛市右衛門罷越死骸諸道具豊迄茂取帰候ニ付城波後

家訴状町奉行所江差出候処大年寄地方目付均合ニ而取扱候得共相

落不申内右後家去十一日致病死候得共組合之者共并後家親下紺屋

町四郎兵衛存候程之義者罷出可申披之旨申出候由右ニ付当役筋ニ

て遂詮議可申旨刑法奉行中不快ニ付市郷奉行永井甚大夫より被申

聞右一件書付九通被相渡請取之

閏三月廿四日

一五時牢屋詮議場江平井郷左衛門福田嘉兵衛罷出藤助利八并久米

右衛門三人致詮議終日相詰ル例之通書役豊田伝蔵足輕定付式人外

老入加人袴着使組老人中間式人

一今日者牢屋改定日之処去ル十九日相改候ニ付来ル廿七日迄延引候

様申付ル

閏三月廿五日

一平井郷左衛門宅江添役福田嘉兵衛四時寄合藤助利八昨日之詮議

口書清書書役豊田伝蔵認「」

閏三月廿六日

一 藤助利八去ル廿四日詮議口書爪取ニ書役并足^二式人差出

閏三月廿七日

一 今日牢屋改差出候処別条無之段加藤登八并汲林内申出ル

閏三月廿八日 出動

一 御用所御出席有之

一 今日被為召被仰渡左之通之由承之候

養子被仰付相応之者可被相願候 佐久間上総殿

尤同氏兵右衛門伴等有之候ハ、是たり共勝手次第且兵右衛門

儀御預ケ之処此度御免被成徘徊等勝手次第勿論御目通可致遠

慮候

一 去ル廿四日藤助利八久米右衛門詮議口書刑法惣奉行未出動無之ニ

付市郷奉行兼役永井甚大夫江可差出哉相尋候処刑法奉行中近々出

動可有之候間急成事ニ而も無之候間井上弥三兵衛出動之上可差出

旨被申聞候

閏三月廿九日 小

癸巳 四月朔日

四月二日

四月三日 出動

一 御用所御出席

一 今日刑法惣奉行井上弥三兵衛出動ニ付去月廿四日藤助利八久米右

衛門詮議口書差出迎も此上ハ拷問懸不申候ハ、藤助義有躰致白状

間敷旨申達最初ハ度々申口相違有之候付口書不残差出置候処熟覽

之^二御用所江被相伺候上御日柄考之上勝手次第拷問可取計旨井上

弥三兵衛被申聞差出置候口書不残被差戻請取福田嘉兵衛相渡ス

一 去暮廿五日追払被仰付候中間吉六脇差老腰牢番共江預ケ有之其後

差凶無之ニ付今日井上弥三兵衛江吉六脇差去暮先ツ牢番共へ預ケ

置候様被申聞候ニ付其通り申付置いづれとも被仰付候様致度候牢

番共江預ケ置候筋とも不被存候旨申達候添役福田嘉兵衛場合ニ

而売払ハセ代銀御勝手江相納候様可取計旨被申聞候ニ付左候ハ、

中間之儀候間中間頭江脇差引渡向方ニ而關方江相渡候筋ニ而有之

間敷哉又ハ嘉兵衛ハ關所方江相納其上ニ而売払候様被仰付候様い

たし度旨猶又申達候処左様ニ而者方々手越ニ相成候間嘉兵衛ハ牢

番共江申付売払代銀相納候様可申達旨弥三兵衛被申聞候其段福田

嘉兵衛へ申達ス

一 去月廿三日永井甚大夫ハ被申聞候城波跡出入詮議明後五日町方懸

り合之者呼出可遂詮議旨井上弥三兵衛江申達夫ハ町奉行大沢三平

へ五日五ツ時大年寄差添可差出旨申達シ其段福田嘉兵衛并書役足

輕中間例之通差越候様申付ル

四月四日

一 今日牢改定日之処雨天ニ付不罷出候旨加藤登八申出ル

四月五日

一 雨天ニ付城波跡式出入懸り合町家之者詮議相延明日五ツ時呼出シ

町奉行大沢三平江申遣ス

一 昼過ハ晴候付牢屋改加藤登八并汲林内差出候処別条無之旨申出ル

四月六日

一今五つ時戸川町城波家主七左衛門城波後家組合之者共右後家親下
紺屋町四郎左衛門呼出シ於平井郷左衛門宅添役福田嘉兵衛立合致
詮議候尤例之通大年寄齋藤孫右衛門右之者共召連罷出ル

一明七日布原村市右衛門神戸村金右衛門又兵衛呼出郡代中へ申遣ス

四月七日

一五つ時城波跡式出入相手方神戸村金右衛門又兵衛布原村市右衛門
右三人呼出シ福田嘉兵衛立合致詮議候尤例之通大庄屋立石齋兵衛
召連罷出ル

四月八日

一御用所御出席有之

一城波跡町在出入懸り合之者共去ル六日七日両日之詮議口書不残并
上弥三兵衛江差出候処後家相果候事ゆへ諸道具并貸付証文等之儀
可遂詮議様無之併町分ニも城波死骸相渡候儀ハ無念村方ニも元城
波旧宅有之候とも町人別之死骸連掃向方ニ而野送いたし候儀者不
筋候間今一応遂詮議可申旨并上弥三兵衛被申聞口書不残被差戻請
取之

一右下方吟味村方再返答書老通町奉行所残居申候由大沢三平△可相
廻旨通用有之候得共相對ニ而請取候筋ニも無之段及返答候処市郷
奉行永井甚大夫江其段大沢三平△被及噂候処詮議方直ニ相廻候様
被申候由ニて相廻候間即刻其段刑法奉行并上弥三兵衛江申達右返
答書差出其後被差戻請取之

一盗人治郎兵衛并義助取計方致思慮来ル十三日御用日存寄可申達旨

井上弥三兵衛被申聞候

一明後十日平井郷左衛門宅ニ而城波跡出入懸り合者共再詮議取計候
付組老人中間式人五ツ時差越候様申付ル其外定付書役足輕江も罷
出候様申付ル

四月九日

一町奉行大沢三平勝手向及極難術計無之段去月「」日市郷奉行中へ
申立置候処今日永井甚大夫宅ニ而被仰渡左之通尤口上申渡之由大
沢三平△承之

勝手向及極難候由家内多人數ニも無之処不勤弁之儀其上御時
節をも不願難決申立候段不調法之事ニ候併當時ニ至術計無之
急難無餘儀趣ニ付三ヶ年之間家内人別扶持御渡被下依之物成
渡方被差止候尤右年限之内御用向之外致禁足随分艱難相暮取
統御奉公可相勉候

但倅義武芸講釈等ニ付罷出候事勝手次第ニ候

右ニ付大沢三平差扣已刻永井甚大夫宅へ罷越相伺候処申ノ下刻不
及其儀候旨被仰出候間可申達之旨永井甚大夫△申来即刻大沢三平
へ其段申達ス

一明十日五つ時城波跡出入懸合町方之者呼出シ大沢三平江申遣候処
後家親分四郎左衛門義ハ病氣ニ而絶食仕合ニ付断申出候段申来ル
快気次第申出候様町奉行中へ申遣置

四月十日

一五時城波後家組合之者共家主七左衛門右六人大年寄差添罷出平井
郷左衛門宅ニ而福嘉兵衛立合致再詮議午上刻相済組中間差返ス

四月十一日 十二日

四月十三日

一御用所御出席有之

一城波後家出入同人家主七左衛門并組合之者共去ル十日詮議口書并

上弥三兵衛江差出尤即刻右口書被差戻之四郎左衛門義者病氣ニ付

再詮議不相濟候間快氣次第可取計旨申達置候

一今日牢舎藤助不致白状候間此上ハ拷問懸ケ候儀相伺候之処来ル十

八日致詮議不致白状候ハ、勝手次第拷問懸ケ可申旨并上弥三兵衛

被申聞候

一牢舎義助盗人次郎兵衛取計方存寄之趣口上ニ而并上弥三兵衛申達

ス

四月十四日

一下紺屋町四郎左衛門去ル十日呼出申遣候処病氣之断申出今日快氣

之段申出ル付明十五日九つ時呼出シ町奉行中へ申遣ス

一雨天ニ付牢屋改定日ニ候得共今日延引晴次第近日罷出候様申付置

候

四月十五日

一今日牢屋改足輕兩人差出候処別条無之旨申出ル

一九つ時下紺屋町四郎左衛門再詮議取計例之通大年寄斎藤孫右衛門

差添罷出ル添役福田嘉兵衛立合致詮議七つ時相濟

四月十六日

四月十七日

一御奏者中ハ廻状到来左之通り

自江戸表飛脚到来殿様御道中倍御機嫌能去ル五日御着府被遊

候段申来恐悦之御事候右為御歛御帳付候間明十八日辰ノ中刻

ハ巳之中刻迄之内登城可有之候此旨同役屬役并支配方江も可

被相達候以上

四月十七日

太田舍人

村山平学

四月十八日

市村教馬

一辰中刻登城御歛御帳付夫ハ御用所江町奉行詮議役勘定奉行郡代右

四役一緒ニ罷出御着府恐悦申上ル夫ハ御家老御年寄中御毛江廻勤

一右恐悦ニ付今日之詮議相尋候処一通り詮議「」も有之越寄拷問之

義候間延引候様并上弥三平衛被申聞来ル廿一日迄者御日柄統候間

廿二日牢屋罷出可遂詮議之旨弥三兵衛江申達ス

四月十九日 廿日

一明廿一日林田村藤右衛門尋筋有之候間郡代所下代差出牢越ニ相尋

させ候旨大村庄助ハ通用有之其段福田嘉兵衛江申遣ス尤牢越吟味

故此方足輕不差出候

四月廿一日

一五つ時ハ牢屋江罷出添役福田立合利八佐致致詮議及白状藤助義ハ

兎角不致白状候ニ付拷問懸ケ候処及白状候得共今少申口不審成ル

義茂有之

四月廿三日

一御用所御出席

一鳥屋佐助博奕宿之儀万人講之節四月一宮市町節^之者右宿いたし候旨
及白状詮「口書井上弥三兵衛へ差出之尤右佐介最初口書」音治
原田屋利介口書一緒差出候様被申聞「差出置之

一「屋藤助打穴屋利八詮議口書都合十一冊是「井上弥三兵衛へ差出
置之

一郡代大村庄助の明廿四日林田村藤右衛門九つ時呼出吟味有之候旨
通用申来候間加藤登八右前刻罷出候様申付ル

四月廿四日

一牢屋改定日ニ付加藤登八野上文治差出候処無宿久米右衛門ちり紙
ニ而横帳いたし破軍星繰様其外いろ一事を認腕ニ薬ニて結付居
申候ニ付取上加藤登八の差出ス

一林田村藤右衛門今日吟味中出牢手形郡代大村庄助の相廻則牢番共
へ当役之手形差遣之郡代中之手形者此方留置

四月廿五日

一牢舎久米右衛門所持いたし候ちり紙横帳井上「衛江致持参候
処留主ニて罷帰ル

一三奉行中夜入廻状到来左之通

於江戸表井伊掃部頭様御三男正助様「病氣之処御養生不被

為叶去ル十五日御死去被成候段申来候依之今日の明後廿七日
迄三日之内鳴物高声御停止之事ニ候尤普請ハ不苦候
右之趣同役属役并支配方江茂可被相達候以上

四月廿五日

永井甚大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

右御触書之趣書役豊田伝蔵江申渡ス

四月廿六日

一御奏者中夜入廻状到来左之通

從江戸表飛脚到来殿様倍御機嫌能被成御座去ル十五日御参勤
之御礼首尾好被仰上候之旨申来恐悦之御事候右為御歎御帳付
候間明後廿八日辰之中刻の巳之中刻迄之内登城可有「

此旨同役属役并「江茂可被相達候以上

四月廿六日

太田舎人

村山平学

市村数馬

一久米右衛門牢内ニて致所持居申候ちり紙横帳井上弥三兵衛毛江致
持参差出候処先ツ牢番共江詮議致させ以後之り付候ハ、可然旨
被申聞候

一城波後家神戸村布原村親類共出入詮議口書不残并取計方書付共差
出置

四月廿七日

一三奉行中夜入廻状到来左之通

從江戸表飛脚到来殿様益御機嫌能被成御座去ル十八日御老中
御連名之御奉書御到来浅草御蔵火之御番伊達遠江様御代り被
蒙仰候旨申来候此段為相知候様被仰出候

右之趣同役属役并支配方江茂可被「候以上

四月廿六日

永□基大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

四月廿八日

一辰中刻登城御帳ニ付夫○町奉行詮議役勘定奉行一所ニ御用所江罷

出御參勤之御礼被仰上候恐悦申上ル尤郡代大村庄助当病出勤無之

一於江戸表去ル十八日御役替左之通被仰渡候由

御奏者番兼大御番頭只今迄

本多出兵衛

之通御勝手方兼三原右門

故障之節補闕被仰付候

御小姓頭格御政事奉行兼

三原右門

公辺方本多出兵衛故障

之節補闕被仰付候

大目附役被仰付

入江多仲

右同断

渡辺与十郎

直姫様御附被仰付候

河野新□門

御先手物頭御表門預り被仰付候

須川半左衛門

早而御先代様○久々御次勉無滞相勉御馴染之儀ニも候之

間寄々御次江罷出可伺御機嫌御厄□方へも右同様可罷

出候

御使番役被仰付候

太田定右衛門

格式御使番

芦沢作十郎

主税様御附兼御小納戸役被仰付候

格式番外御小納戸役被仰付候

長沢右源治

右同断

隅田伴七

御刀番役被仰付候

服部十兵衛

格式番外御供頭表御刀番

河野彦太郎

兼役被仰付候

式十石御加増被下七十石高

齋藤友仙

格式御小性組御七代り被仰付候

御小性組御近習勉被仰付候

山田喜代太郎

主税様御側被仰付候

柴崎小左衛門

格式違ニ候得共御人少故被仰付候

勤方只今迄之通御上屋敷

柴崎甚右衛門

引請被仰付候

御役御免御取次動只今迄

小沢左吉

無滞相勉太儀ニ思召候

御役御免御留守居

大場猪平治

定助被仰付候

一牢舍鳥屋佐助音治原田利介役介共并諸道具親類共へ預ケ先達而被

仰付町奉行所ニ而申渡有之候処役介共預ケ被差免諸道具等も当人

分ハ町内江預ケ役介之之分被下候段町奉行大沢三平へ被仰渡候旨

井上弥三兵衛より為知有之

一城波後家出入裁許之儀神戸村布原村植付相濟候儀勘定奉行中江承

合其上可取計井上弥三兵衛被申聞其段山岡与左衛門江申談置

一藤助利八詮議口書十一冊井上弥三兵衛被差辰利□申口最早不及詮

議旨藤助儀者今一応可遂詮議旨被申聞候

四月廿九日

四月晦日

癸巳 五月朔日

一郡代大村庄助〆明二日四つ時林田村藤右衛門出牢申付候間之節手形相廻可申旨案内申来ル

五月二日

一大村庄助〆林田村藤右衛門出牢手形相廻り則此方□形牢番共へ差遣之足輕加藤登八牢屋江差出右取計申付ル尤今日者郡代所足輕病氣不足ニ付会所迄差添罷越候様申付ル夫〆井上弥三兵衛宅江罷越右之段相届以來共出牢之節者御差図無之候而茂郡代所〆通用次第取計可申哉以後之心得相尋候処先格者出入共御用番中〆御差図有之候得共以來者今般之通り相心得可然旨被申聞候

五月三日

一御用所御出席

一牢舎義助盗人治郎兵衛右兩人来ル六日左之通可申渡之旨井上弥三兵衛被申聞候

五十九ノき之上

御領分追払

無宿盗人

治郎兵衛

無宿

義助

風聞不宜ニ付
御領分追払

右兩人申渡書付相認井上弥三兵衛差出候処存寄も無之候間存寄之通可然旨被申聞候

一次郎兵衛女房病氣ニ付先達而〆院庄村盜賊番江預ケ有之候間郡代所〆右同日追払候様被仰付候間刻限等申合取計候様井上弥三兵衛被申聞候間次郎兵衛儀五つ時追払宮尾村へ払可申旨申達置

一右次郎兵衛申渡者牢屋門前川戸御藏脇ニ而取計候様被申聞候尤御徒目付下目付咎人ツ、被差出候間此方〆ハ書役并足輕差出書役〆誑渡添役茂不及出役候旨被井上弥三兵衛被申聞候盗人治郎兵衛取計ニ付手桶式ツ□なへ式本申立小勘者〆添役福田嘉兵衛江請取之

一無宿義助女房儀者去辰十二月□五日出牢町奉行中へ引渡義助親下紺屋町文六江預ケ被仰付候故右女房儀者町奉行所江取計被仰付候由井上弥三兵衛被申聞候

一後藤守助長屋勘次郎女房西今町菱屋治兵衛引請相願候上乱心いたし候ニ付牢屋拜借町奉行所江願出候ニ付被及御沙汰候御聞届相濟候間町奉行中申合牢番預ケ之通取計候様井上弥三兵衛被申聞候尤賄之儀者宿賄ニ而有之候旨是又被申聞候

一義助追払被仰付候間家財諸道具關所ニ取計候様井上弥三兵衛被申聞候西新町ニ義助諸道具預ケ有之候分町奉行所同心此方足輕合封預ケ置候間近日牢屋へ差出候様町奉行大沢三平江申談置候処明四日四つ時牢屋江差出候様申付候由通用有之

五月四日

一今日牢屋改定日ニ付加藤登八井汲林内差出候処別条無之段申出ル
一西今町菱屋治兵衛引請之乱心女今屋頃途中駕籠ニ乗年寄五人組同

心兩人差添牢屋江可差遣之旨町奉行大沢三平の案内有之其刻当役足輕加藤登八老人罷出取計候様申付差出ス取計相済加藤登八の女牢江入置候旨届出ル

一牢舎義助諸道具預ケ有之西新町年寄差添牢屋江持參町奉行所同心
〔森権六詮議方足輕井汲林内差出封印相改夫の牢番共預ケ置井汲林内牢番合封いたし置候旨届ル尤品数書付左之通

(一頁弱の空白、書付文面記載なし)

一來ル六日次郎兵衛女房追込郡代所江被仰付病女之儀院庄村の直ニ宮尾村へ払可申由次郎兵衛何時頃取計候哉同刻郡代所ニ而も取計可有之旨大村庄助の申來六日五ツ時可申渡旨及返答候

一町奉行所の相廻候西今町菱屋治兵衛引請之乱心之女送り書付左之通

覚

後藤守助長屋勘治郎妻

一

〔 年六十歳

右之者西今町菱屋次兵衛役介致乱心候ニ付牢屋拜借右治

兵衛の相頼御間届ニ付差遣申候以上

安永二癸巳年五月四日 大沢三平 印

平井郷左衛門殿

五月五日

一終日雨天ニ而明日之晴天難計候ニ付明日盗人治郎兵衛取計雨天ニ而者難相成之旨刑法惣奉行井上弥三兵衛江手紙ニて申遣候処尤ニ

候間致延引来ル九日取計候様申來御徒目付下目付出役ニ付延引之義弥三兵衛の大目付赤見類介へ通達有之

五月六日

一院庄川昨日の舟渡止り未明今日川明之程難ニ候間盗人治郎兵衛今朝之取計何哉と郡代所の聞合手紙到來右取計致延引候追而日限相極候ハ、通用可申旨返書差遣之添役福田ニ江も次郎兵衛取計延引義助申渡拙宅ニ而取計間出役有之候様申遣之

一五ツ時平井郷左衛門宅おるて詮議方添役福田嘉兵衛立合書役豊田伝藏説渡左之通り

其方儀風聞不宜候ニ付牢舎

無宿

義助江申渡ス

申付置急度可申付之処以憐愍

御領分追込申付候此以後立歸致徘徊候ハ、

召捕急度可申付候以上

巳五月六日

右義助古城村御境目迄井汲林内日笠惣八中間老人差越〔城東村佐治兵衛一札取之差出ス

一右義助申渡相済候届井上弥三〔江手紙差遣并町奉行大沢三平江

知せ申遣ス

五月七日

五月八日

一御用所御出席

一〔六日追込候義助江申渡書付并同人〔末之書付井上弥三兵衛江差出ス

一西今町菱屋治兵衛引請之乱心女於牢屋殊之外騒キ「付ほど足打

可申哉と伺出候旨福田嘉兵衛申聞候間刑法「井上弥三兵衛江

申達候処騒キ候節者如何様共可取計旨被申「其段町奉行大沢三平

江茂「通用置福田嘉兵衛江」次第。候様差凶可有之旨「ス尤

取計
乱心もの之儀「随分心を付不便を加へ候様「申渡旨申達ス

一明九日盗人次郎兵衛敲放「計候旨申達ス尤院庄「御境目江相払可

申旨先日申達置候得共此間雨降「川支難計候間古城村御境目へ

相払可申旨申「ス其段郡代大村庄助江も及通用夫々江手配申付候

一「議方書役豊田伝藏病氣ニ付右代り明日之詭渡「否吾人差出

候様小頭植月文助へ申付田口喜「為案内罷出ル

五月九日

一卯中刻過牢屋門前おゐて御徒目付下目付出「詮議方書役申渡書

付を以左之通詭渡

其方儀当二月十九日公保田村

彦四郎所持之衣類拾四色

盗取候段及白状急度可申付処

以憐愍五十敲之上

御領分追払申付候此已後立帰致徘徊候者

召捕急度可申付候以上

右之者古城村御境目江追「村庄屋一札取之差」

右ニ付「名面左之通

御徒目付 中嶋喜大夫

下目付組彦人

詮議方書役 田口喜「

右同

足輕

加藤登八
井汲林内
中間式人

一右取計相濟候段書役申届出ル則刑法奉行井上弥三兵衛其段手紙ニ
而相届之

一盗人治郎兵衛脇差老腰院庄村盜賊番方へ有「追払候節治郎兵衛

之足輕共へ申候ニ付当役筋へいまた相廻り不申辟言院庄村有之候

共追払申付候上ハ以後院庄村江入込候ハ、急度可申付之旨申聞三

日加藤登八井汲林内申出ル

五月十日

五月十三日

一御用所御出席

一去九日治郎兵衛江申渡書付彦通同人一件書付彦通刑法奉行井上

弥三兵衛江差「之

一去八日義助申渡書付差「置候処井上弥三兵衛被差戻請取添役

福田嘉兵衛江相渡之

一右義助諸道具願牢屋有之候間売払。福田嘉兵衛御勝手江相納候

様可申達哉と井上弥三兵衛へ相尋候処其通可然旨被申聞其段福田

嘉兵衛へ申達ス

「人治郎兵衛脇差之儀郡代大村庄助江相尋候処村方申出候由

被申聞候井上弥三兵衛江茂別席ニ而及噂置候

一去九日治郎兵衛敲放之節穢多共酒屋共酒を集メ候様相聞候尤

死罪有之候時分ハ是迄も集候様相聞候得共今般之儀者新規之取計之
事故旧例無之事情間福田嘉兵衛へ申達ス

一御參府年ハ御用日も三八計ニ而添役福田嘉兵衛宿ニ而牢番并同所
中間共江御用向ニ付人遣多有之甚難儀之趣相聞候間今日別席ニ而
井上弥三兵衛江右難波之趣及沙汰候処無餘儀趣候得共此節御勝手
向御差支之御時節故中間半人被下候事も難申立候旨被中間候

五月十四日

一今日牢屋改定日ニ付足輕加藤登八井汲林内罷出別条無之段申出ル
一申上刻頃添役福田嘉兵衛入来牢舎人林左衛門持病之積氣差起候ニ
付針医之儀願出候段被中間即刻町奉行大沢三平江針医被申渡候様
嘉兵衛ニ口上申含差越候

一明後十六日牢屋江罷出藤助可遂詮議筋寄拷問懸ケ候儀も可有之旨
刑法奉行井上弥三兵衛宅江罷越申達置并林左衛門積氣差発医願出
承届候段及噂置候

五月十五日 別条無之
五月十六日

一五ツ時ハ牢屋江平井郷左衛門添役福田嘉兵衛并書役以下例之通罷
出藤助利ハ遂詮議九時過相済届宅

一九半時過郡代大村庄助ハ手紙到来播州平福長谷村安五郎と申盜賊
召捕候間明日ハ御日柄ニ付今日引渡度旨尤刻限者此方好次第可取
計段知せ申来且又井上弥三兵衛今日他出ニ付永井甚大夫ハ右安
五郎穢多四郎兵衛召捕様子相糺候処御領内数ヶ所ニ而□々盜候趣
及白状候由訴出候ニ付御用番へ被及御沙汰候処入牢申付候様被仰

渡候間郡代所ハ引渡候ハ、宜取計入牢可申付旨申来

一八半時右盜賊勝手次第被差越候様郡代所申遣。添役福田嘉兵衛立
合一通り致詮議入牢申付ル差添足輕井汲林内加藤登八兩人并彦人
差遣ス

一右盜賊安五郎指添罷出候村方之者共左之通

大庄屋 肝煎 庄屋 組頭
植月六郎右衛門 彦人 彦人 彦人

一右安五郎入牢申付届永井甚大夫井上弥三兵衛江手紙ニ而申遣之

五月十七日
五月十八日

一御用所御出席

〔今日被為召御役替之面々左之通

大番頭役御奏者兼役

太田舎人

願之通御免

大目付

大番頭役御奏者
兼役被仰付候

黒田多膳

御次祐筆被仰付候

嶋田軍治兵衛

一去ル十六日牢舎人藤助利八兩人詮議口書式冊井上弥三兵衛差出候
処詮議詰り相済候旨被中間両冊共被差戻請取福田嘉兵衛へ相渡置
之

一去ル十三日差出置候盗人治郎兵衛江申渡書付彦通被差戻請取福田
嘉兵衛江相渡之

一去ル十六日入牢申付候播州佐用郡長谷村盜賊安五郎村方ニ而吟味

書付彦通井上弥三兵衛被相渡相渡之牢舎藤助利八懸り合備中屋甚七初屋忠助儀町奉行大沢三平江申談呼出シ遂詮議不埒有之候ハ、先ツ町預可申付之旨井上弥三兵衛被申聞則大沢三平へ明十九日平井郷左衛門宅江四ツ時被差越候様ニ申達尤例之通大年寄立合罷出候様申達シ其外例之通組中間右前刻差越候様申付候

一去九日盜賊治郎兵衛敲放之節罷出候穢多共酒屋を廻り酒を集メ候儀為相尋候処前々々死罪有之候節者左之通集候由福田嘉兵衛申出候ニ付

本酒屋の 老升ツ、
請酒屋の 五合ツ、

右之通井上弥三兵衛江申達尤去ル九日取計今般新法ニ而候得共死罪有之候節之通罷出候様嘉兵衛申付候間相集候儀と被存候穢多頭兩人共ニ都合十六人拷問之節者前々々穢多頭共都合八人□出其節者先格町奉行所の酒式升ツ、差遣候□當時者拷問之節酒遣不申候間兩様差留候而者穢多氣請不宜其上年ニも寄可申候得共度々有之候事ニ而も無之候間今般之通以来共被仰付候様仕度旨井上弥三兵衛へ申達置

一詮議。添役福田嘉兵衛此間勝手向極難之願申立有之候処今八つ時刑法奉行井上弥三兵衛宅おゐて家人内別扶持被下御用向之外禁足被仰付候尤講釈場等出席之儀不苦候段被仰出候由勿論倅読書武芸等稽古ニ付罷出不苦候由

五月十九日

一初屋忠助今日呼出之儀昨日町奉行大沢三平江申達置候処大病ニ而

得罷出不申旨断申出候由大沢三平申来ル備中屋甚七儀罷出候由申来

一伏見町備中屋甚七呼出大年寄蔵合孫左衛門町年寄并組合之者六人差添四つ時平井郷左衛門宅江罷出候ニ付添役福田嘉兵衛立合遂詮議候処去辰二月十九日藤□利八初屋忠助甚七申合福渡りへ罷越新田村平右衛門被盜候銀式百五十目久米右衛門の右之内三十目其節取戻し七十目者同三月中可相渡約束ニ而双方納得いたし右挨拶初屋忠助備中甚七双方へいたし式百五十目之所一切百目ニ而相濟候筈ニ而御届候由其後罷越取計候儀者一向不存候由右福渡罷越丸屋五郎三郎五郎助与申者方ニ一宿いたし宿錢并往来小遣等藤助利八相払其外龜甲茶や忠助方ニ而念□かね四匁ニ而相調右代銀四匁利八の借り払申右宿錢往来小遣并念仏かね代共今ニ一錢も遣不申候申之候ニ付左之通申付ル

手錠町預ケ申付

伏見町備中屋甚七

右取計九ツ時相濟夫の井上弥三兵衛宅江罷越甚七口書差出シ取計之趣相届之并初屋忠助儀者病氣断申出候段是又申達ス并右甚七手錠町預ケ申付候儀町奉行大沢三平江も及通用候

一伏見町甚七預り一札同町年寄兩人連判ニ而差出候付大年寄蔵合孫左衛門持参差出請取置候文言左之通

差上ケ申一札之事

伏見町備中屋甚七

右之甚七江手錠被仰付町内江御預ケ被遊榎預り置申候所相違無御座候為一札差上申候已上

安永二癸巳年五月十九日

伏見町年寄 八右衛門 印

同 半兵衛 印

一 明廿日先達而追払被仰付候中間吉六脇差老腰右同断元村山平学長屋者義助夫婦諸道具闕所ニ相成候ニ付入札申付壳払候様牢番共へ申付候由福田嘉兵衛より案内有之ニ付当役筋足輕井汲林内其節立合罷出候付申付ル

五月廿日

一 中間吉六脇差老腰并義助夫婦諸道具入札相開候所落札廿五匁三分灰屋喜平治江相渡可申哉と添役福田嘉兵衛罷越被申聞候ニ付高札候ハ、被壳渡候様申達ス

五月廿二日

別条之

五月廿三日

一 御用日御出席

一 今日町奉行大沢三平口中痛出勤無之断申来其段市郷奉行永井甚大夫断申達ス

一 盗人安五郎詮議口書老冊刑法奉行井上弥三兵衛へ差出置之

一 藤助利八懸り合初屋忠助去ル十九日呼出申付候所病氣之断申出候

ニ 付其俣差置候而万一逃去ニ而者不相濟候間市郷奉行中江相談相

濟候間町奉行大沢三平江当役及噶町預ニ成り共組合預ケ成り共

町奉行存寄次第大沢三平申付候様可申達之旨井上弥三兵衛被申

聞其段申達ス

一 神戸村布原村植付相濟候ハ、餘り延引ニ相成候間城波跡出入裁許

可申渡之旨井上弥三兵衛被申聞候付勘定奉行山岡与左衛門へ承合

候処未二ノ宮構相濟候住懸無之申出次第為知可申旨被申候郡代大村庄助江承合候処神戸布原兩村者最早相濟其「」過半相濟残居申候地所者少々之儀ニ候間不苦と被存候旨被申候ニ付其段井上弥三兵衛江申達ス

一 戸川町城波後家神戸布原兩村出入裁許伺置候通明後廿五日可取計旨尤申渡書付町在一緒ニいたし下方故障無之候ハ、請印迄一緒可然旨被申聞候間郡代大村庄助及對談候処大年寄大庄屋御礼席之通ニ候間存寄無之旨被申候其段井上弥三兵衛へ申達町奉行中へも明後廿五日懸り合者共五つ時呼出并及出入候田地証文持參罷出候様被申付候様申達ス在方右懸合者右同刻呼出大村庄助申達ス

一 右一件詮議口書不残差出置候処不殘今日井上弥三兵衛被差戻請取之

一 三奉行中廻状到来左之通

密紙

近々天神社地おゐて見せ物且又大龍寺於境内勸進能有之右之

場江自分并妻子者不及申下々迄參候儀御停止之事ニ候若紛敷

躰ニて罷越候もの有之候ハ、急度可被仰付候目附之者より無

用捨申出候様申付置候此旨可被「」其意候

右之趣同役属役并支配方江茂可被相達候以上

五月廿三日

永井甚大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

五月廿四日

一 今日牢屋改定日ニ付井汲林内加藤登八差出候処別条無之段届出ル

五月廿五日

一五ツ時詮議方宅ニおゐて添役福田嘉兵衛立合城波後家出入懸り合之者共町在共呼出シ申渡左之通

追込申付ル

城波後家親下紺屋町

四郎左衛門

右同

同家主戸川町

七左衛門

同組合 同

長七

町内年寄へ申出差図

同 同

兵助

請可申処無其儀

同 同

忠助

不埒ニ付自今可心を

同 同

伊兵衛

付候

同 同

茂七

追込申付候

城波母夫布原村

市右衛門

右同

城波伯父神戸村

金右衛門

右同

同又伯父同村

又兵衛

城波持分田地古城村宅ヶ所神戸村式ヶ所取上之右証文三通

郡代所江相廻ス右申渡書付并証〔写三通別ニ有之候間此所

ニ不相記之大年寄大庄屋奥書連銘ニ取計相濟候事

右取計相濟候段并上弥三兵衛江手紙ニ而相届ケ町奉行大〔三平へ

も町家者共申渡及通用候九つ時取計相濟

一伏見町備中屋甚七手錠封印摺候段同町年寄〔候間封印仕替并汲

林内差出ス

一上高倉村磯右衛門下人新助と申者所々ニ而〔盜〕付大笹村盜賊番召捕候ニ付明廿六日四時過引〔度尤郡代所足輕老人不足ニ付詮議方足輕老人差越呉候様相頼来右手賦申付ル

一新助与申盜賊召捕候ニ付明日請取御詮議之〔入牢可申付旨刑法奉行并上弥三兵衛申来村方ニ而之吟味書三通相廻ル

五月廿六日

一四半時過磯右衛門下人盜賊新助郡代所引渡有之請取候上繩懸ケ添役福田嘉兵衛詮議之上入牢申付ル村方役人大庄屋安黒權十郎大笹村高倉村庄屋〔盜賊番老人差添来ル取計相濟并上弥三兵宅

五月廿六日

江罷越相届ル新助賄之儀相尋候処先宿賄申付置〔申旨被申聞尤明後廿八日可被相極之旨其段郡代中へも^{及通}用

五月廿七日 別条無之

五月廿八日

一御用日御出席

一去ル廿五日町在江申渡書付宅通并同廿六〔盜賊新助口書老冊并上

五月廿七日

弥三兵衛江差出置之

一牢舍人村屋藤助打穴屋利八盜賊新助〔三人明廿九日今牢屋賄可申

付旨并上弥三兵衛被申聞其段福田嘉兵衛江申達ス町奉行郡代中へ

も及通用候

一御奏者中々廻状到来左之通

来月三日暑氣為伺御機嫌御帳付候間巳ノ刻出仕可有之候

右之趣同役同列組合江可被相達候〔

半切

右之趣同役同列組合江可被相達候〔

五月廿八日 黒田彦四郎

村山平学

市村数馬

五月廿九日

一 二階町大坂屋作治不屈有之町奉行「入牢」申付旨右申合取計候様
与兵衛殿被仰渡「今日町奉行中懸合可有之候旨取計可申旨刑法
惣奉行并上弥三兵衛由來ル并町奉行大沢三平八つ時頃取計
入牢申付差添之者共先格之通申付候由送り手形後刻」懸ヶ
合有之当役筋足輕加藤登八右前刻「申付七つ時右手形相廻
候ニ付入牢手形例之通相認牢番共江差遣之

五月晦日 別条無之

癸巳 六月朔日

一 林田村定助与申者下高倉村致盜候付召捕候「訴出候ニ付
入牢申付候様与兵衛殿被仰」詮議之上入牢可申付旨
村方吟味書忝通相廻尤「人別相聞候聞宿賄可然旨刑法奉行并上
弥三兵衛」申來郡代大村庄助不快ニ付町奉行大沢三平右定助七
ツ時可引渡旨通用有之尤送り手形者不快中ニても大「手形可
相廻旨申來例之通添役并書役足輕中間右」刻罷出候様申触之
一「刻林田村定助手錠ニ而大庄屋肝煎庄屋組頭組合之者共差添被
差越請取致詮議候所々」歟或者なた盜取候段及白状候ニ付入
牢申付其段并上弥三兵衛江手紙ニて相届ヶ大村庄助江宿賄之「
申遣之

六月二日

一「十九日呼出申候初屋忠助病氣少々快方ニ而駕籠ニ而者押而罷
出可申旨町奉行所由來ル

六月三日

一 御用所御出席
一 已上刻揃御使番格以上暑氣伺御機「付着服袴計
一 林田村盜賊定助口書爪判今朝取ニ書役老人足輕式人牢屋へ差出御
城江持參則并上弥三兵衛江差出候処一覽有之
一 盜賊安五郎新助定助口書三冊被差戻右懸り合之「諸より之」町奉
行郡代中可懸合之旨并上弥「被申聞
一 去月廿五日追込申付置候町在之者明後五日可差免旨「行并上
弥三兵衛被申聞候ニ付右之内神戸村又兵衛儀者米銀疊等死骸迄
取歸金右衛門市右衛門儀者不埒之取計同意いたし迄ニ候間輕重も
可有之哉と申達候処同様ニ而可然旨被申聞候間來ル五日五ツ時呼
出之儀大村庄助へ申達ス町奉行中者先へ退出故明日可申遣事
一 当春迄中間相勉欠落いたし候太兵衛与申者風「市方村長九郎
殺害いたし候ニ而可有之哉」中と懸ヶ合之上遂詮議候様并上弥
三兵衛被申聞候郡代大村庄助今七ツ時右太兵衛引渡可申旨懸ヶ
合有之其手紙申付ル
一 七ツ時過右太兵衛手錠ニ而引渡有之請取詮議之上「懸ヶ入牢
申付其段并上弥三兵衛へ手紙ニ而田邑土居与三兵衛罷出ル肝前忝
人庄屋組頭」右太兵衛無宿ものゆへ勿論牢屋賄申付ル
一 初屋忠助病氣快方候旨申出候趣并上弥三兵衛江申達候処步行ニ而

罷出候迄致延引可然旨被申聞其段大沢三平江も申談置候

六月四日

一今日三奉行中へ廻状到来左之通

笠原

民部卿様御舍弟。鎌三郎様去月廿四日御死去ニ付今日より明

後五日迄三日之内鳴物高声御停止之事ニ候尤普請者不苦候

右之趣同役属役并支配方江茂可被相達候以上

六月三日

半切

右御触書之趣可被得其意候以上

六月三日

永井甚大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

来ル十二日停信院様十三回御忌ニ付於泰安寺御供養被仰付候

此段為相知候様被仰出候

右之趣同役属役并支配方へも可被相達候以上

六月四日

永井甚大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

一明五日町在追込差免候儀鳴物御停止ニ付井上弥三兵衛へ相尋遣候

処差免候儀者不苦候旨申来候付町合之もの共呼出大沢三平へ申遣

ス

〔牢屋改定日ニ付加藤登八井汲林内差出候処別条無之段申出ル

六月五日

一〔つ時平井郷左衛門宅江添役福田嘉兵衛立合左之通〕渡ス

追込差免

下紺屋町

四郎左衛門

右同

戸川町

七左衛門

右ニ付罷出候者左之通

大年寄

玉置忠兵衛

両町年寄

同組合之者共

一右〔刻神戸村布原村者共可差免之処郡代大村庄助少々心得有之不

罷出候ニ差紙被差越八つ時過罷出候ニ付立合同断申渡左之通

神戸村

又兵衛

追込差免

同村

金右衛門

布原村

市右衛門

右同

右ニ付罷出候者共左之通

大庄屋二宮村

立石斎兵衛

肝煎院庄村

庄兵衛

両村庄屋共

同村組頭共

同組合之者共

右之通取計候旨井上弥三兵衛江手紙にて相届ル町奉行郡代中へも知せ手紙差遣ス

一 明六日牢屋詮議罷出候付夫々手賦申付ル

六月六日

一 五つ時の牢屋罷出太兵衛致詮議八ツ時相濟夫の井上弥三兵衛江福田嘉兵衛同道罷越口書式冊差出置候

六月七日

六月八日

一 御用所御出席

一 去ル六日差出置候太兵衛口書井上弥三兵衛の被相戻考之上可遂詮議旨被申聞候間助左衛門明九日呼出シ可致詮議候其上ニ而猶又太兵衛可致詮議候得共先ツハ紛失もの相知不申候得者詮議詰り申聞敷旨申達置

一 明九日五つ時古城東村助左衛門呼出シ之儀郡代大村庄助江申達ス尤妻子者大庄屋方ニて相糺候様申付候之段大村庄助被申聞候

六月九日

一 五つ時平井郷左衛門宅江添役福田嘉兵衛立合古城東村助左衛門并同人召仕牛飼三之丞致詮議候得共急度手懸り相聞へ不申候村方役人共例之通罷出ル大庄屋植月六郎右衛門不快ニ付手伝大谷〔兵衛罷出ル組中間例之通終日相詰ル詮議相濟井上弥三兵衛宅江福田嘉兵衛同道罷越口書差出置

六月十日

一 古城村助左衛門女房并娘下方吟味書付式通外ニ家財改書付〔宅通助左衛門方へ長九郎打殺候儀相知一方村源右衛門吟味書付〔宅通郡代所の相廻ル

一 伏見町備中屋甚七手錠封印摺レ候段同町年寄の申出ル明十一日封印改罷出候様足輕共へ申付ル

六月十一日

一 伏見町備中屋甚七手錠封印仕替相違無之段加藤登八井汲林内申出ル

一 古城東村助左衛門宅改候処長持有之鍵損居候付此間改之難相成鍵出来ニ付村役人立合相改候処小脇差一腰有之素人研ニ而上さび出居申殊外油浮居申候付村方の差出候ニ付永井甚大夫江大村庄助の差出候処当役筋へ相廻候様差図之由右脇差老腰下方添書共郡代所の相廻り請取置候

六月十二日

一 初屋忠助病氣快候段町奉行所申来ル

六月十三日

一 御用所御出席

一 助左衛門詮議口書被相戻候ニ付太兵衛儀明十四日可致詮議候旨并上弥三兵衛へ申達夫の筋寄助左衛門呼出シ致詮議候段是又申達置候

一 初屋忠助病氣快候段申出候間来ル十六日呼出し致詮議備中屋甚七同様ニ候ハ、手錠預ケ可申付之旨井上弥三兵衛へ申達候処先ツ右同様申付可然旨被申聞候

一 盜賊安五郎新助定助口書三冊郡代所へ相廻置候処今日大村庄助の被相戻右懸り合之者共下方吟味帳面被相廻請取之

六月十四日

一五つ時の牢屋詮議場江添役福田嘉兵衛一緒ニ罷出太兵衛儀終日詮議いたし候処急度手懸りも相聞へ不申候

一牢屋大谷栄蔵女房出産血忌引込之儀井上弥三兵衛へ福田嘉兵衛の

申立候由噂有之候得共此方支配ニて無之故存寄付不申候

一明十五日助左衛門并俸五ツ時呼出郡代所へ申遣ス

一今日牢屋改定日ニ付今朝相改相違無之段足輕共の申出ル

六月十五日

一五ツ時助左衛門父子呼出シ例之通福田嘉兵衛立合終日致詮議候所手懸りも相知不申候大庄屋植月六郎右衛門不快ニ付手伝土居与三兵衛罷出ル肝煎以下例之通罷出ル

一大笹構四ヶ村盜賊懸り合吟味書郡代所の相廻ル

一先日郡代所の相廻候内新助請合人書付相戻候様申来西一宮村の差出候帳面巻冊致返却□

六月十六日

一五つ時中之町初屋忠助呼出添役福田嘉兵衛立合遂詮議候処去辰二

月十九日福渡罷越久米右衛門の「尽三十匁請取往来入用引残而

四匁ツ、藤助利八甚七忠助龜甲茶やニ而割賦相違無之段致白状候

ニ付手錠町預ケ申付其段刑法奉行井上弥三兵衛へ相届ル并町奉行

大沢三平へも及通用大年寄月番玉置忠兵衛罷出其以下例之通差添出ル

一町内年寄請一礼是迄文言不宜候ニ付今般相改今日中之町年寄一礼左之通

差上ケ申一札之事

中之町初屋

忠助

右之者手錠被仰付町内江御預ケ被為仰付奉畏候昼夜番人附置大切不可仕候為後日之御請一礼印形仕差上ケ申候以上

安永二癸巳年六月十六日

年寄

次右衛門 印

同

八郎兵衛 印

右之通御請一礼印形差出候処相違無御座候ニ付奥書仕差上ケ申候以上

巳六月十六日

大年寄月番

玉置忠兵衛

印

御役所

六月十七日

一中之町初屋忠助手錠少々難儀之趣同村年寄申出候ニ付加藤登八井汲林内差出打替申付ル当役所手錠外ニ無之ニ付町奉行所へ申遣大形之手錠取寄相用之

六月十八日

一御用所御出席

一去ル十四日太兵衛口書十五日助左衛門并同人倅清八口書十六日初屋忠助口書都合三冊井上弥三兵衛差出置手錠五ツ新規井上弥三兵衛へ申立ル

六月十九日

一三奉行中の廻状到来左之通

半切盛

加茂川殺生之儀今年茂去々歳之通屏風岩の御水場迄建札之間

御留場ニ候間其旨可被相心得候

右之趣同役属役并支配方江茂可被相違候

六月十九日

永井甚大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

一右御触書之趣書役へ申付ル

六月廿日 廿一日

六月廿二日

一後藤守助長屋勘次郎女房致乱心当^五四月四日牢屋拜借相願入置候昨

今食事給兼殊之外閑相成候旨福田嘉兵衛の届ケ有之其段井上弥三

兵衛へ手紙ニ而相届并町奉行所江者嘉兵衛を以知せ申遣ス

一右勘治郎女房西今町菱屋治兵衛引取介抱仕度旨願出御間届相濟候

間町奉行所へ懸合出牢可取計旨刑法奉行井上弥三兵衛の申来尤別

事無之候ハ、不及届明日可申達旨是又申来ル

一右治兵衛役介乱心女病氣重く候ニ付出牢之願相濟候旨町奉行大沢

三平通用有之当役足輕井汲林内牢屋へ差出引渡候様申付ル無滞於

牢屋引渡候旨井汲林内申出ル其段福田嘉兵衛知せ申遣ス西今町年

寄并菱屋治兵衛為礼罷出ル

六月廿三日

一御用所御出席

一伏見町備中屋甚七中之町初屋忠助手錠町預当役所ニ而申付置候処

来ル廿五日入牢申付候様刑法奉行井上弥三兵衛被申聞候尤牢賄取

計可申旨妻子共者町預ケ町奉行所被仰付候由

一右備中屋甚七初屋忠助家内人別書付町奉行大沢三平の相廻井上弥

三兵衛へ差出候処一覽之上被差戻請取之

中之町初屋忠助

当已三十七才

同人女房りは

同式拾六才

同人粹馬吉

同拾貳才

✓三人

伏見町備中屋甚七

当已三十九才

養母

同六拾三才

女房ぬひ

同三拾七才

娘くり

同十八才

✓四人

一後藤守助長屋勘次郎女房西今町菱屋治兵衛引請牢屋拜借先達相願

入置昨日出牢願出町奉行所へ無滞引渡候段井上弥三兵衛へ申達ス

一阿波国めうどう郡沖の浜村浪人藤蔵申者一方村長九郎殺候盜賊ニ

て有之間敷不審懸り郡代所ニ而召捕候間請取入牢申付可遂詮議旨

刑法奉行井上弥三兵衛が被申聞郡代大村庄助へ懸合今七つ時請取候積申談手賦申付ル

一右引渡ニ付郡代所足輕病氣有之不足ニ付詮議方足輕老人相廻シ具候様相頼来則加藤登八差越候七ツ時過阿波国名東郡沖の浜村無宿藤藏郡代所引渡有之請取一通致詮議入申付其段井上弥三兵衛へ手紙ニ而相届ル

一大隅宮夏祓ニ付懸灯燈痛申候ニ付林田上町に訴状差出候付可遂詮議旨被仰渡候間林田村之者共呼出詮議之上材木町者共書面通ニ無相達候哉詮議之上林田町理三郎呼出詮議之上双方聞糺理三郎材木町十三郎町内へ預可申付旨井上弥三兵衛申来尤林田上町に差出候訴状卷通相廻ル

一明廿四日無宿藤藏詮議牢屋へ五つ時分罷出候間例之通手賦申付ル
六月廿四日

一今日牢屋改定日ニ付六半時分加藤登八井汲林内差出候処別条無之段申出ル

一五つ時分牢屋詮議場へ罷出藤藏詮議并盜賊新助請人名面請状印形相違之処遂詮議終日相詰帰懸ケ井上弥三兵衛宅へ罷越藤藏口書差出之

一明廿五日五半時伏見町備中屋甚七中之町初屋忠助呼出町奉行大沢三平へ申遣ス組中間手賦申付ル

六月廿五日

一五つ半時平井郷左衛門宅ニおめて添役福田嘉兵衛立合申渡左之通

伏見町備中屋
甚七
年三十九

入牢申付
右同
忠助
年三十七

右召連罷出候者共年寄玉置忠兵衛両町年寄并五人組之者共右取計相濟候上井上弥三兵衛へ手紙ニて相届ル并町奉行大沢三平へ知せ申遣候

一明廿六日五つ時林田上ノ町懸灯燈損シ候ニ付訴状差出候者共呼出郡代大村庄助へ申遣ス組中間手賦申付ル

一井上弥三兵衛手足痺其上濕瘡難儀ニ付湯郷温泉ニ二廻り入湯被相願明朝出立ニ付御用向甚大夫此右衛門へ被相頼置候旨知せ有之

六月廿六日

一五つ時林田上町訴状差出候者共呼出シ福田嘉兵衛立合致詮議九つ時過相濟組中間差帰ス

一右相手方林田町保頭倅治三郎同町忠吉材木町大工十右衛門倅重三郎明日呼出町奉行大沢三平へ申遣ス組中間手賦申付ル

六月廿七日

一五つ時林田町長七倅治三郎同町忠吉材木町十右衛門倅十三郎呼出致詮議候処十三郎忠吉兩人者訴出候之趣ニ差而相違も無之治三郎義者決而不埒不仕候段申候得共申口不埒ニ付治三郎十三郎兩人義者町内預ケ申付両町年寄共預り一札差出大年寄月番玉置忠兵衛奥書ニ而差出之右取計相濟刑法奉行井上弥三兵衛湯郷温泉へ入湯

ニ付御政事奉行永井甚大夫宅へ福田嘉兵衛同道罷越林田上之町之
訴状巻通昨今詮議口書三冊差出之置熟覽之上明日可被申聞候旨甚
大夫被申聞候并十三郎治三郎町内預ケ申付候段町奉行大沢三平へ
及通達候組中間終日相詰ル

六月廿八日 出勤

一御用所御出席

一昨日永井甚大夫へ差出置候上之町訴状并口書三冊被差戻訴状之内
ニ大隅宮神主へ林田村治三郎父長七罷越法外申候趣訴出候得共両
人之儀筋違之儀候間及詮議間敷旨被申聞候左候得者御作事中間徳
介儀も相尋申間敷哉と申達候処其通ニ而可然旨被申聞候在町双方
今一応致詮議候様被申聞候ニ付明日林田上之町十八人之者共五つ
時林田町治三郎八ツ時呼出之義町奉行郡代中へ申達ス并組中間例
之通差越候様申付ル

六月廿九日

一五つ時林田上之町之者共呼出再詮議いたし八つ時林田町治三郎呼
出遂詮議夫々井上弥三兵衛湯郷故永井甚大夫宅江罷越右一件訴状
并口書差出置

一牢舎音治病氣之段訴出候由福田嘉兵衛之届有之薬相願候段申出候
付町奉行大沢三平へ申遣ス永井甚大夫江罷越ニ付及噺置候
一牢舎新助口書巻冊并右懸合請合人郡代吟味書付類郡代大村庄助江
不残差戻ス

巳 七月朔日

一林田上之町訴状双方口書右一件書付不残永井甚大夫被差返落口
相考存寄可申達旨申来ル

一例年之通宗旨証文当月中旬迄可差出宗旨奉行之廻状□来

七月二日

七月三日

一御用所御出席

一ニ階町大坂屋作治儀先達而町奉行所へ入牢申付置候之処来ル五日
出牢御領分追払被仰付候間町奉行所可相渡旨永井甚大夫被申聞候
一林田上之町十八人之者共材木町重三郎林田町治三郎取計方永井甚
大夫江申談候処町方右兩人追込上之町十八人之者共不埒有之候得
共大勢之事故組合頭喜八追込残十七人者呵置已来諸事相□可申旨
来ル五日可申渡旨永井甚大夫被申聞□郡代町奉行中へ右呼出之儀
申達ス組加人中間へ例之通式人差越候様申付ル

七月四日

一牢屋改定日ニ付井汲林内加藤登八差出別条無之段申出ル

七月五日

一二階町大坂屋作治出牢手形町奉行大沢三平之相廻候付出牢手形相
認加藤登八へ相渡牢屋へ差越町奉行所へ相渡ス
一五つ時在町之者呼出申渡左之通

大隅宮夏祓之節祈願ニ付町在境ニ
挑灯差出候処去月八日九日夕卷張
ツ、引破候者有之同十日「心懸

林田上之町 善七
同 吉也
同 作左衛門
同 平八

ケ候処又候挑灯ニ手懸ケ候者有之
 引捕候処材木町重三郎□誤入候由
 同道人林田町治三郎と申者之由捕
 理詰致候ハ、可訳立処見請候迄ニ
 而取逃早竟無証抛往還ニ出し置候
 ハ、可心を付之所致等閑置候所ハ
 事起り候儀ヲ仰山ニ訴出不調法之
 事候林田町長七大隅宮神主方へ罷
 越及論議候趣訴状書裁候得共筋違
 ニ付不取上候已来急度相嗜心得可
 有之且亦喜八儀者組合頭之儀候得
 者双方挨拶致方も可有之処無其儀
 不埒之至ニ候依之喜八義追込申付
 候

去月十日夕挑灯に手を懸被咎誤入
 候ニ付相手方之者共致納得候得共
 早竟不行作不埒ニ付追込申付候

去月十日夕挑灯ニ重三郎手を懸被
 補誤入其節同道ニ而罷在上ノ町庄
 吾捕候処振放逃去候旨ニ付□詮議候処誰以補候者無之□弥誤無
 之候ハ、□々詫□而茂致可遣之処無□罷帰其後父長七夕町内

同	長助
同	重兵衛
同	露計
同	文四郎
同	彦四郎
同	文六
同	助三郎後家
同	半兵衛
同	伊助
同	多助
同	平四郎
同	浅兵衛後家
同	弥吉
同	喜八
同組合頭	
材木町重右衛門伴	
	重三郎

林田町長七伴

治三郎

忠八源六相頼詮致賞候得□全一己之誤無之とハ不相見前後不都
 合不埒之至ニ候依之追込申付候

右立合大年寄玉置忠兵衛大庄屋土居太郎右衛門以下五人組迄罷出
 書役ハ読渡之相濟井上弥三兵衛留主ニ付御政事奉行永井甚大夫江
 手紙ニ而相届ル井町奉行郡代中江も追込申付候知せ申遣ス

七月六日 七日 例年御参府年ハ登城無之

七月八日

一御用所御出席

一去ル五日町在江申渡書付永井甚大夫江差出候処一覽之上被差返請

取之福田嘉兵衛江相渡

一去ル五日追込申付置候町在之者共盆前之儀候間□十日可差免旨

永井甚大夫被申聞候

一三奉行中ハ廻状到来左之通

来ル十一日天良院様二十三回御忌ニ付於泰安寺御茶湯被仰付

候段為相知候様被仰出候

右之趣□役属役并支配方江茂可被相違候以上

七月八日

永井甚大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

一来ル十三日之御用日例年之通御出席無之段大目付赤見類助ハ被申
 聞候

一牢舎人似セ札師林左衛門江先達而墨筆入遣候穢多共穢□遂詮議
 白状之趣口書三通差出候由福田嘉兵衛ハ被差出墨入遣候ハ□□□

村手助当二月入遣候由筆ハ右同村源助当四月牢舎次郎兵衛江入遣

候由きわだは右同村幸七林左衛門へ入遣候由右三〇〇刑法奉行留主

中ニ付市郷奉行永井甚大夫江差出候処無程井上弥三兵衛掃着候間

其上ニ而差図可有御坐旨〇〇書者請取置候旨甚大夫被申聞候

七月九日

一三奉行中〇廻状到来左之通書役江申渡〇

尾張中将様去月十八日御逝去ニ付今日〇来ル十二日迄五日之

間鳴物高声御停止之〇尤普請之儀者今日一日可為無用候

右之趣同役属役并支配方江茂可被相達候以上

七月八日

右御触書之趣可被得其意候以上

七月八日 永井 鈴木 井上

七月十日

一去ル五日追込申付置候者共今日呼出福田嘉兵衛〇申渡左之通

材木町十右衛門倅

追込差免候

十三郎

林田町長七倅

治三郎

右同断

右之者共差添罷出候者

大年寄月〇

藏合孫

両町年寄共

同組合之者共

追込差免候

林田上之町

喜八

右差添罷出候者共左之通

大庄屋土居太郎右衛門不快ニ付名代

土居与三兵衛

肝煎老入

庄屋老入

組頭老入

組合之者共

右申渡相濟候段永井甚大夫江手紙ニ而相届ル〇町奉行郡代中江

知せ申遣ス

七月十一日 十二日

七月十三日

一今日御用日御出席定日候得共例〇御出席無之

七月十四日

一今日牢屋改定日ニ候得共盆中ニ付来ル十六〇及延引候様申付ル

七月十五日

七月十六日

〇今日牢屋改并汲林内加藤登八差出候処別条無〇申出ル

七月十七日

七月十八日 出勤

一御用日御出席

一井上弥三兵衛去ル十二日上湯ニ而候得共今日者出勤無之候之段永

并甚大夫が被申聞候

一手錠五つ先達而申立置候処今日出来之「兵衛が相廻ル」

一去ル八日牢番穢多三人口書永并甚大夫江「井上弥三兵衛婦」

着ニ付右口書弥三兵衛へ相「得候様甚大夫被申聞候」

一田邑見内村浅右衛門不届有之郡代所ニ而明十九「取計有之候」

間郡代所が通用有之候ハ、其段可申付旨永并甚大夫被申聞候郡代大村庄助明日四つ時可取計之旨知せ有之右前刻当役同心老人罷出候様申付ル

一宗旨両証文栗田唯治江為持差出之

七月十九日

一「時当役付同心并汲林内罷出九つ時過迄見合候処郡代所が手形不相廻候付入牢取計いかゝ相成候哉「八つ後ニも相成候ハ、其取計ニ手賦可申付旨聞合申遣候処吟味手聞取候間八ツ半時過ニも相成可申申来候間林内差返し加藤登八八ツ半時罷出候様申付ル」

一申上刻田邑見内村浅右衛門入牢申付候段郡代大村庄助が手形相廻即刻入牢手形相認加藤登八江相渡牢屋江差遣之尤宿賄「其段牢番共へ可申聞置旨申付揚屋三」

一其段相届候様申「登八申出ル福田嘉兵衛江も其段相届候様申」

一牢舎人音治病気快ニ付明日が葉相止候由申出ル

七月廿日 廿一日

一牢番之穢多共三人之口書三通弥三兵衛が被「請取候」 猶又

相考可申達旨被申「嘉兵衛へ」 七月廿二日

一四つ時頃「弥三兵衛」。被参御用番伊達与兵衛殿被仰渡候者林田村延命寺女懸合風聞不宜ニ付延命寺儀者大信寺へ御預ケ右女ハ林田上之町勘四郎引請候間村預被仰付候間双方「方江引請可遂詮議旨被仰付候旨被申聞候尤」方が遂詮議其節者平生之通延命寺詮議之節寺社取次御徒目付下目附立合被差出候旨弥三兵衛が被申聞夫が右女呼出之儀郡代所へ申遣組中間手賦申付今昼後が致詮議候処延命寺懸合之儀決而無之旨申之候右口書老冊井上弥三兵衛へ持参差出女申口右「通」間「世上風聞御構有之間敷哉又ハ二階町田原屋伊兵衛」右懸り合之儀ニ付最初が世話いたし候由相聞候右伊兵衛可致詮議候哉と相尋候処何分明日伺之上可被申聞旨弥三兵衛被申聞口書老冊差出置罷帰ル

一御奏者中が廻状到来左之通

一昨廿一日從江戸表当月六日出之飛脚到来殿様益御機嫌克被成御座主税様御儀淡路守様江御簪養子御届書先月廿五日御用番板倉佐渡守殿江被差出御請取被置当月四日主税様御登城被成候様淡路守様江御老中御「御到来兵庫頭様御同道御登城被成候処御願之通被仰出候旨申来恐悅之御事ニ候依之為御怡御帳付候間明廿三日辰中刻が巳中刻迄之内出仕可有之候此旨同役属役并支配方江も可被相達候以上」

七月廿二日 黒田彦四郎

一村山平学

一市村教馬

一牢舎久米右衛門不食いたし候ニ付医師之儀申出候段福田嘉兵衛が

届有之其段町奉行大沢三平へ申遣二

七月廿三日 出勤

一 今日辰中刻五巳中刻迄之内大役人以上登城主税様御願之通被仰出
為御歎御帳付

一 御用所御出席

一 昨日井上弥三兵衛江申達置候二階町田原屋伊兵衛呼二可致詮議之
旨弥三兵衛五被申聞候ニ付町奉行大沢三平今八二時右伊兵衛大年
寄召連可罷出之旨申達右ニ付組中間手配申付ル右御用向ニ付御家
老御年寄中御宅為御歎廻動得不仕候段弥三兵衛へ申達置二」
一 八二時福田嘉兵衛立合二階町田原屋伊兵衛呼出致二」
一 処右延命
寺と女懸り合扱人相違無之趣相聞候二」
一 致詮議候得共相濟候
付先ツ引取候様申付二」

一 田邑引乗寺新田村長雲寺盜賊差置吟味郡二」
一 申付右弁書先達而
郡代所五当役筋へ相廻居候二又寺社取次種村紋大夫江相廻呉候様
郡代所五被申越候間取次中へ相廻ス

一 林田上之町たか明廿四日五二時呼出大村庄助へ申遣ス

一 明廿四日牢屋改定日候得共詮議筋有之候付延引候様申付ル

七月廿四日

一 上之町たか五二時呼出昨日郡代所へ申遣置候得共田原屋伊兵衛詮
議いまた残り居申候ニ付たか詮議今日延引郡代所へ申遣シ田原屋
伊兵衛呼出町奉行大沢三平へ五二時二」
一 出候様可被申渡旨申遣ス嘉
兵衛并組中間手配申付ル終日致詮議

一 勝間田町紙屋左助儀も伊兵衛同道ニ而たか方へ参り候様ニ相聞候

ニ付明廿五日呼出町奉行大沢三平へ申達ス

一 二二屋源治尋之筋有之候間呼出之義三平へ申談候処追込被申付候由
被差免候ハ、案内可有之被申聞候

七月廿五日

一 五二時添役福田嘉兵衛立合勝間田町紙屋左助呼出し致詮議候処林
田辺伊兵衛不案内ゆへ案内いたし二」
一 右懸合之義者いか様成事
候哉委細不存候由二」
一 口書有之候ニ付不記之

一 疊屋源治追込今日被差免候段町奉行所五」
一 即刻明廿六日呼出
之儀申遣ス福田嘉兵衛并二」
一 手配申付ル

七月廿六日

一 九二時疊屋文左衛門呼出福田嘉兵衛立合致詮議候処二」
一 町田原屋
伊兵衛ニ途中ニ而出合候処たか懸合扱扱候様相頼夫五彼是世話い
たし候由委細口書ニ有之ゆへ不記之

七月廿七日

一 二二階町田原屋伊兵衛呼出再詮議いたし候委細口書に有之ゆへ不記
之

一 林田村庄屋源八往來共廿日計入湯いたし度願出二」
一 上之町詮議懸合
他行如何可有之哉当役存寄次第可申渡之旨郡代大村庄助五聞合有
之先つ被差留候様及返書候

一 村々被盜もの尋書付先達而郡代所五相廻居候分不残差戻候様申来
引乗寺長雲寺之書付ハ寺二」
一 取次種村紋大夫江相廻置候間取戻不残
差返ス

一 林田上之町たか勘四郎右兩人明廿八日五二時呼出大村庄助へ申遣

ス

一御用所明廿八日御出席日候得共宅ニ而詮議筋有之候間出仕不致候
段井上弥三兵衛へ申達ス

七月廿八日

一御用所御出席

一五つ時林田上之町たか勘四郎庄屋源八右三人「致詮議候委細口
書ニ有之ニ付不記之尤たか儀者尋之筋も不残不相濟候ニ付口書印
形者追而呼出「可取之事延命寺弟子忠山と申僧三度たか方へ使ニ
罷越候様ニたか申之候間登城いたし井上弥三兵衛へ可申達と罷出
候処井上弥三兵衛今日ハ出勤無之寺社取次種村紋大夫御城ニ而出
合候間右忠山義「人別人居申候哉と相尋候処随分人別之僧ニ
而「有之候得共不致吟味候而難相知候旨返答有之是方詮議荒増相
濟候而福田嘉兵衛へ相任せ置井上弥三兵衛へ罷越右忠山及樽置候
明廿九日御証月ニ而候間詮議取計いか、可致哉と相尋候処明日ハ
相除候様被申聞候

七月廿九日

一早朝の書役罷出上之町たか口書清書相認申候

一牢舎久米右衛門去ル廿二日病氣ニ而葉相用候処昨廿八日迄ニ而
今日の葉相止メ候段申出候由福田嘉兵衛の届有之

一明晦日五つ時上之町たか呼出郡代所へ申遣ス

七月晦日

一五つ時上之町たか呼出致詮議尋之筋相濟候付口書印形取之相濟福
田嘉兵衛立合其以下例之通罷出ル

癸巳 八月朔日 登城

一辰中刻大役人以上登城八朔之御祝儀御帳付夫の大書院御縁側江御
家老御年寄御奏者三奉行大目付出座御小性頭格の御使番格迄一列
ニ罷出御祝儀申述ル番外以下大役人迄者三人ツ、末座江罷出ル右
相濟即刻御用所御退出故御用所へ今日者不罷出御用之外禁足之面
々日参役人ニ而茂出勤無之

一井上弥三兵衛不快ニ付今日出勤無之并福田嘉兵衛不快出勤無之

一延命寺懸合女たか口書老冊其外扱人共口書不残井上弥三兵衛宅へ
持参差出延命寺弟子忠山と申僧右たか方へ延命寺使ニ参り候趣相
聞候間右忠山儀當時延命寺人別ニ人居候哉と寺社取次種村紋大夫
江聞合候処當時人別之者ニ者有之候得共先達而の外江参り居候様
風聞有之候由内々ニ而者難相知返答有之候段弥三兵衛江申達候之
処何分詮議無之而者相濟不申候間寺社奉行中江可被申達候間左様
相心得候様被申聞候且御蔵番日下権六妻是も右懸合世話いたし候
様たか申口相聞候間是茂詮議無之而者相濟間敷申達候処村方人別
者ニ而候哉又ハ組屋敷居申町在人別無之候哉郡代所江聞合候様弥
三兵衛被申聞候尤御蔵奉行へも通用有之候様御勝手奉行鈴木此右
衛門へ通用可被致旨弥三兵衛被申候

一牢舎新助安五郎定助右三人追払申渡来ル三日可取計旨井上弥三兵
衛被申渡候定助義妻子も林田村ニ有之右妻子江申渡者郡代所取計
ニ而相濟候之間郡代所江申遣ス且日下権六妻村方人別ニて有之候
哉承合候処村方人別之由申来ル

八月二日

一延命寺弟子忠山義益前後迄者久米中北村天福寺江罷越居申當時者外へ参り候哉又者天福寺ニ居候哉不相知候旨寺社奉行の申来候由井上弥三兵衛の手紙にて申来今明日中日下権六妻可致詮議之旨申来候付明三日九つ時権六妻呼出シ郡代所へ申遣ス

一林田村盗人定助明三日五半時追払申渡候間大庄屋以下組合之者共迄右前刻可罷出旨郡代大村庄助へ申遣候

一盗人新助明日五つ時於牢屋門前敲払申付候間例之通穢多可罷出旨其外前格之通申付候様添役福田嘉兵衛へ申達ス組中間加人書役豊田伝蔵の夫々「」遣ス

一明日新助申渡取計之節御徒目付下目付出役ニ付刻限聞合大目付海老原極人の下目付被差越候間五つ時出役有之候様可被申付之旨申遣ス

八月三日 出勤

一今日五ツ時牢屋門前ニおゐて詮議方書役の書付を以申渡左之通

其方儀当已歳下横野村ニ而割木一駄 新助 勝南郡松尾村出生無宿盗人

高倉村ニ而牛鎌先へう四枚野辺ニ而同五枚 当已四拾壹歳

大笹村ニ而同壹枚同村ニ而割木四束上高倉村ニ而牛鎌へう四枚鎌式枚太田村ニ而へう式枚右之通所々ニ而盗取其上先年致

欠落七ヶ年已前立帰同年四月十八日憐愍以御領分追払申付候処又々立帰致盗候段「」不届至極候依之急度可申付処憐愍を以五十敲「」御領分追払申付候此已後立帰致徘徊候ハ、召捕

急度可申付候

右立合

御徒目付 中沢曾右衛門

下目付 老入

詮議方書役 豊田伝蔵

同心代加人 飯田弥作

竹内源助

中間 老入

右新助義古城村御境目江追払同村庄屋見届一札取之差出ス
一五半時平井郷左衛門宅ニ而福田嘉兵衛立合書役の書付を以申渡左之通

林田村盗人

定助

其方儀去ル寅歳下高倉村庄八方ニ而 なた壹挺同卯歳川部村瀬助方ニ而同壹挺 当已四拾歳

去辰歳下高倉村三六方ニ而 なた壹挺同村三右衛門方ニ而 なた壹挺 当已歳上高倉村清助方ニ而 なた壹挺 当已月川部村社男山城

方ニ而同壹挺同村ニ而 唐金壹「」当四月野介代村惣十郎方ニ而同壹挺同村ニ而 なた壹挺太田村伝八方ニ而 唐金壹挺同村与左

衛門方ニ而 なた壹挺当五月下高倉村佐助方ニ而 鎌老挺同村勘四郎方ニ而 なた壹挺右之通所々ニ而 盗取不届之至ニ候依之御

領分追払申付候此已後立帰致徘徊候ハ、召捕急度可申付候

右申渡立合 大庄屋川部村

土居太郎右衛門

肝煎以下組合之者迄

右定助義川部村御境目江追扨同村庄屋見届一札取之同心代加人
野上新治梶間儀藏ハ差出ス

播州佐用郡長谷村出生無宿盗人

其方儀去辰五月林田麴屋ニ而銀札

安五郎

拾刃入居申候紙入ニ其後新田村

当已拾七歳

長雲寺ニ而拾ニ帶ニ筋ニ同村ニ而拾ニツ脇差一腰紺屋町ニ而

てうちん一張当四月魚町湯屋ニ而鏡一面同五月横山村ニ而脇

差一腰帶ニ筋ニ嶋之切四一」太田村ニ而小紋単物ニつ単羽織

老右之一」盗取候段不届之至ニ候依之急度可申付之処憐

愍を以御領分追扨申付候此已後立帰致徘徊候ハ、召捕急度可

申付候

右安五郎古城村御境目迄追扨同村庄屋見届一札取之加藤登八加

人川端喜六ハ差出ス

一御用所御出席

一刑法惣奉行井上弥三兵衛不快出勤無之

一牢舎新助定助安五郎御境目迄追扨候段申出候付御政事惣奉行永井

甚大夫一御届ケ申渡書付三通差一ス井上弥三兵衛江も手紙ニ而相

届ル

一延命寺懸り合口書不残延命寺江尋ケ条書井上弥三兵衛へ差出置候

今日不残被差戻請取置尤尋書之内弥三兵衛存寄も有之書付被相込

請取置候

一今昼呼出申遣候日下権七妻病氣ニ而得不罷出候段申出候由郡代大

村庄助被申聞候間今日詮議延引申候病氣と計申出候而者様子不相
知候間得度被致吟味被申聞候様庄助江申遣置候

八月四日

一田上之町日下権七妻病氣ニ付昨日不致詮議候段井上弥三兵衛宅

江罷越申達シ大村庄助ハ委細容躰等申出候上者逆も得不罷出候ハ

、詮議方書役足輕差向大庄屋以下組合之者共迄立合セ可致詮議之

旨申達候処逆も得不罷出候ハ、右之通可然旨被申聞候夫ハ容躰書

付等も医師認差出候様申付可然旨病氣と申出候得者直に相濟候様ニ

相成候而者不相濟候旨弥三兵衛被申聞候処日下権七妻容躰書肝煎

庄屋組合之者共ハ書付差出候由大村庄助手紙差添井上宅江持参ニ

付致被見候処医師ハ差出候書付ニ而も無之村方之者共病躰見届候

之様相見不申候ニ付得と吟味之上申出候様郡代大村庄助へ申遣ス

一延命寺弟子忠山儀昨晚久米南条郡中北村天福寺ハ連帰泰安寺へ預

ケ寺社奉行中ハ被申付有之候間勝手次第寺社取次佐々木弥大夫江

呼出之儀当役筋ハ直ニ可申達旨井上弥三兵衛被申聞候延命寺呼出

之儀ハ日限相極候ハ、弥三兵衛へ申達候様被申聞候

一忠山と申延命寺弟子明五日五つ時拙宅江呼出取次佐々木弥大夫江

申遣ス

一右ニ付福田嘉兵衛并書役組中間手配申付ル

一牢屋改定日之処雨天ニ付延引

八月五日

〔五〕つ時并郷佐衛門宅添役福田嘉兵衛立合延命寺弟子忠山呼出玄

関差置致詮議候処たか申口ニ相違無之趣申之九つ時過相濟差戻ス

尤泰安寺。弟子信雅と申僧同道寺社取次之物書足輕差添罷出ル

一上之町日下権七妻容躰書付本道阿部周益針医北村李齋印判ニ而差

出候由郡代所々相廻ル請取置候処積氣差起り其上腰痛甚敷寝起も

自由ニ難成眩暈絶食事兼申候由右ニ付迎も急ニ手出し候儀難相

成候様子ニ付明六日九つ時書役足輕差向相尋させ候間其段村方へ

被申付候様郡代大村庄助へ申遣ス尤其節大庄屋以下組合者共迄立

合可罷出旨申遣ス

一福田嘉兵衛不快ニ付引込候旨晚方届有之

八月六日

〔九つ時々林田上之町たか懸合扱人日下権七妻詮議ニ書役豊田伝蔵

足輕井汲林内硯箱持中間老人差出亥刻前罷帰ル

一井上弥三兵衛宅江罷越日下権七妻病氣ニ付急呼出候而も得不罷出

と被存候間今日書役差向遂詮議候様申付候段申遣ス

一明日九つ時延命寺詮議可致と相届ケ候処左様取計可申旨被申聞候

御徒目付下目付立合之義者弥三兵衛の大目付中へ可被申達候間延

命寺呼出し之義ハ寺社取次佐々木弥大夫江当役筋ニ申遣候様ニと

被申候寺社取次立合候儀者御成箇筋之儀ニ付郡代所へ御代官立合

候様成思召ニ而被差出候儀ニ有之候哉又者寺院詮議方へ呼出シ候

ニ付出演ニ而候哉上思召を承り着座等之心得も有之詮議之筋も事

寄存寄も承り候筋ニ而候哉又者詮議方之儀者当役筋ニ而存寄次第

不及相談取計候儀候哉相尋候処何分詮議者当役筋へ被仰付候間取

次存寄相談ニ不及取計候様被申聞候左候ハ、御徒目付着座之少上

ノ方ニ着座有之候様可取計旨申達候処其通可取計旨被申聞候尤嘉

兵衛不快ニ付明日立合不申段も申達置候

一明七日九つ時延命寺拙宅罷出候様取次佐々木弥大夫江申遣シ并書

役足輕中間手配申付ル

八月七日

〔九ツ時平井郷左衛門宅江延命寺呼出致詮議候処去々卯歳十月通夜

之節六疊敷之居間ニ火燵有之酒を給打臥居申候処上之町たかと申

女小兒抱一緒にあたり候由右之節手足ニ而あたり候哉夫を向方ニ

者心有之右之通いたし候事と存其後度々文さし越候得共延命寺儀

者心有之手足差出候儀ニて無之候由併六疊之間ニ大勢相集居候事

ゆへ決而手足も障り無之と難申候由酒ニ給酔覚不申越申之其後扱

人等相頼右女縁付等いたし候ハ、夜着長持等拵遣可申一者謀と

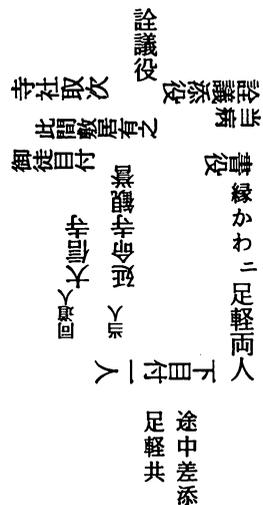
乍申来春至り候ハ、西町ニて借屋をかり可逢と申候事ハ何分右女

立服一候ハ、いかやう成ルいたし候も難計恐敷其外御上へ御

苦勞懸ケ候儀も恐多奉存候而右之通扱人相一申候由申之申刻詮議

相済差戻ス

右詮議之節出役之面々着座左記ス



寺社取次

佐々木弥大夫

御徒目付

中沢曾右衛門

下目付組

植月又藏

一四時前大村庄助今九時牢舎田邑見内村浅右衛門吟味取計有之候間吟味中出牢手形可相廻候間其節当役所足輕老人差添呉候様相頼来候二付加人一人触口江申遣又定付加藤登八牢屋方江差出夫六郡代二へ差添罷越向方差図を請可相動旨申付差出吟味相二入牢取計申刻過其段申出ル

八月八日

一今日御用日之処相延明九日二相成候段昨日大目付海老原極人六手紙二而知せ有之

一御奏者中六廻状到来左之通

半切

從江戸表飛脚到着殿様倍御機嫌能被成御座主稅様御儀先月廿

三日四時就吉辰御養家淡路守様江無御滯御引越被成万端首尾

能被為濟候旨申来恐悦之御事二候依之為御歎御帳付候二明九

日辰中刻六巳中刻迄之内出仕可有之候

此旨同役属役并支配方江も可被相達候以上

八月八日

黒田彦四郎

村山平学

市村数馬

八月九日 出勤

一辰中刻大役人以上登城為御歎御帳付二而引統御用席有之

二於七間廊下御政事奉行永井甚大夫大目付海老原極人立合御用番伊達与兵衛殿より御使番格以上諸月番江被仰渡書付左之通

御勝手向不如意二付数年御家中引米二仰付猶又御物入差添ひ不被得止事去ル寅歳増引被仰付何茂別而可為難儀処是二可也取統御奉公相勉御満足思召候二年限相濟当暮六ハ引米御容赦可被仰出儀二候処去春江戸御屋敷御類焼過二之御物入於大坂表御才覚等之儀御役人随分出精候得共存候様不相調今以御館等茂不致出来其御不自由之御住居二被成御座候其上当年又々御役被蒙仰差懸り候御入用多御難渋之事共二候依之今年茂引米御容赦難被仰出候何茂嘸可為困窮至而御氣毒二思召候得共誠無御抛右二被仰出候此上いか様共致艱難取統可被相勉候尤少々茂御手繰出来次第引米御容赦之儀呉々御勝手御役人江申渡置候右之趣可被得其意候

八月

一添役福田嘉兵衛不快二付出勤無之

二元中間二兵衛六月十四日詮議口書老冊古城東村助左二同人悴清

八口書合冊老冊中之町初屋屋忠助六月十六日口書老冊阿波国無宿藤

藏六月廿四日口書老二四冊先二差出置候処今日井上弥三兵

衛六被差戻請取之

一去ル三日追払申付候新助安五郎林田村定助右三人二書付老通井

上弥三兵衛江差出ス

二延命寺詮議口書老冊上之町たか口書老冊其外右懸合之者共口書八冊都合十冊井上弥三兵衛江差出候処延命寺再詮議可取計旨被申聞

右口書十冊被差戻請」

一郡代大村庄助拜領有之御役御免後役勘定奉行山岡与左衛門江兼役被付候

八月十日

一明十一日五つ時延命寺呼出取次佐々木弥大夫江申」

〔刑法惣奉行井上弥三兵衛へ御徒目付下目付立合之〕〔福田嘉兵衛前刻出役有之候様手紙差遣組中〕〔先格之通申付ル

一今日夕福田嘉兵衛出勤之旨案内有之

八月十一日

一五つ時延命寺呼出寺社取次御徒目付下目付立合遂詮議候処〔か申口之通相違無之申訳無之旨及〕〔九つ時詮議〕〔濟差戻夫の口書井上弥三兵衛へ持参差出シ置〕〔三日右懸合口書共不残御城江可

〔之旨被申〕候

詮議役

平井郷左衛門

同添役

福田嘉兵衛

寺社取次

後藤守助

御徒目付

河村市兵衛

下目付組老人

詮議方書役老人

足輕 兩人

外ニ袴着老人

中間 式人

〔今日八ツ時夕牢屋改加藤登八井汲林内差出候処別〕無之段申出ル

八月十二日 別条無之

八月十三日 出勤

〔御用所御出席

〔延命寺〕〔者共口書不残井上弥三兵衛〕差出候処右一件取計之

趣意〕〔書井上弥三兵衛被相認相違も無之候哉尋〕一覽之〕相違

も有之候ハ、可申達旨被申聞右書付被相渡候処詮議扱人口〕引合

候処少々相違有之其段申達ス書付差戻ス

一先達而牢内江筆墨きわだ入遣候穢多番共三人取計〕之儀福田嘉兵

衛の刑法惣奉行へ被申達候ニ付刑法奉行の当役〕右三人之者共へ

過料可被仰付候間右三人身代いか様成ルものにて候哉申付候而も

得差出不申候得者相濟不申候間福田嘉兵衛場合ニ而承札候様可申

達旨井上弥三兵衛被申聞則嘉兵衛へ其段申達ス

八月十四日

〔今日牢屋改定日ニ候得共去ル十一日相改候ニ付今日之処延引候様

申付ル

八月十五日 十六日 別条無之

八月十七日

一此度内山五蔵下女江懸合有之候木知ヶ原出生当時無宿木挽幸七町奉行所吟味懸ケニ付町人別之通町奉行引受吟味被仰付候由入牢被

而申渡可相濟其外ハ昨日申談候通可取計旨

一五ツ時平井郷左衛門宅江添役福田嘉兵衛御徒目付中沢曾右衛門下
目付組老人立合寺社取次佐々木弥大夫書付を以読渡左之通

延命寺觀音江

其方儀去々卯年十夜之彻通夜之節

申渡

飯田和吉妻江不作法致懸ケ其後も紛敷文通いたし年玉与乍申
音物致受納其上扱人等相頼不埒之取計方俗人たりとも有之間
敷事ニ候遂詮議候処女対決申付候而も酒狂前後致亡却申披無
之旨出家之儀別而不届之至ニ候依之任職取上脱衣申付候以上

巳八月十九日

右申渡相濟玄関ニ而脱衣夫ハ当役筋足輕玄関前ニ而請取白洲江
引出手錠懸ケ添役福田嘉兵衛ハ口上申渡左之通

元延命寺

觀音

今般遂詮議候処申披無之段

申之候ニ付入牢申付候

年四十壹歳

右觀音足輕式人中間老人差添步行ニ而牢屋江差遣尤牢賄ニ申付
ル

一五ツ半時平井郷左衛門宅ニ而添役福田嘉兵衛立合左之通り申渡ス

林田上之町元勘四郎引請

夫有之身分ニ而延命寺江不作法有之

たか

其後も度々致持参其上音物等受納不届之至候 年廿五歳

依之入牢申付候

右牢屋江差遣候取計右同断賄茂牢賄申付候

林田上之町權七妻

ろく江

其方儀去辰十月廿九日延命寺より
相頼候ニ付たかと申女不埒之懸合之儀取扱 申渡

其上十一月九日之夕九ツ前延命寺たか兩人共其方宅へ呼寄ハ
ツ半頃迄致面談させ右之通懸合茂有之候処及深更取計候段不
埒之至ニ候依之追込申候以上

巳八月十九日

林田上之町

勘四郎へ

其方儀元引請たかと申女延命寺
懸合不作法之儀有之得度異見加へ候ハ、得心茂 申渡ス
可致候処致等閑置不埒之至ニ候依之追込申付候以上

巳八月十九日

右申渡候節大庄屋土居太郎右衛門肝煎庄屋組頭五人組迄立合

二階町田原屋

伊兵衛へ

其方儀当閏三月延命寺ハ相頼候ニ付
たかと申女へ來春至候ハ、西町ニ而借屋を 申渡ス
借り差置延命寺ニ逢セ其上致縁付候ハ、長持夜着可遣之候段
謀与ハ乍申口右之通申聞セ不行届致取扱不埒之至ニ候依之追
込申付候以上

巳月日

中之町豊屋

文左衛門へ

其方儀延命寺懸合たかと申女取扱
之儀ニ階町田原屋伊兵衛ハ相頼候ニ付銀百匁 申渡ス

ニ而相濟候様取扱候段不埒之至ニ候依之追込申付候以上

巳月日

勝間田町紙屋

其方儀当閏三月延命寺ニ階町

佐助へ

田原屋伊兵衛相頼たかと申女不埒之懸合之儀

申渡ス

ニ付右女親分藤四郎并引請勘四郎江伊兵衛不案内ニ付致同道

罷越及挨拶候段不埒之至ニ候已来急度相慎可申候以上

巳月日

一五つ半時牢屋詮議場江足輕加藤登八差出牢番之穢多三人左之通申

付ル尤手錠者穢多頭封印致候様申付ル

〇〇〇〇村穢多

当四月牢番罷出候節牢舎人

源助

次郎兵衛江筆入遣候不届之至ニ候□□之手錠所預ケ申付候

同村 穢多

当二月牢番ニ罷出候節牢舎人林左衛門へ

手助

墨少し入遣不届之至ニ候依之手錠所預申付候

同 同

当四月牢番ニ罷出候節牢舎

幸七

林左衛門へきわだ入遣不届之至ニ候依之手錠所預ケ申付候

但し右幸七儀者病氣ニ付不罷出候付穢多頭共居村罷越右之

通申渡取計候様申付ル

右取計之趣手紙ニ而刑法奉行井上弥三兵衛江相届ル町在申渡之

通町奉行郡代中及通達候

〔木挽無宿幸七今日吟味中出牢手形町奉行〕〔沢三平相廻則牢番

共へ手形相認引替相渡ス

八月廿日 廿一日 廿二日 別条無之

八月廿三日 出勤

一御用所御出席

一去ル十九日〔渡書付六通井上弥三兵衛江〕出之

八月廿四日

〔改定日ニ付井汲林内加〕登八〔処別条無之段〕

八月廿五日

一町奉行〔木挽無宿幸七今日吟〕〔牢手形相廻差懸り候吟味ニ

付当役所付ケ足輕間ニ〕不申候ニ付町奉行所同心江当役筋手形相

渡取計申付ル

八月廿六日 別条無之

八月廿七日

一九つ時平井郷左衛門近郷江私用ニ而罷出候付差懸り候御用向

田〔衛相頼遣ス

〔奉行所へ木挽幸七今日吟味中出牢手形相廻平井郷左衛門〕

付添役福田嘉兵衛取計ニ而相濟候旨届有之

八月廿八日 出勤

一御用所御出席

一御用席江町奉行詮議方勘定奉行罷出ル郡代中不快出勤無之

一明廿九日。追込申付置候左之者共可差免旨井上弥三兵衛へ被申

呼出之儀町奉行郡代中へ申遣組中間明日五つ時罷出候様申付

出之「左之通

二階町「屋伊兵衛
中」 「屋文左衛門

「上」 「權七妻ろく

「勘四郎

同 幸七

右取計相濟候段井上弥三兵衛へ手紙ニ而相届「町奉行郡代中江
知せ申遣ス

癸巳小九月朔日

九月二日

一去ル十「牢屋詮議場おゐて。申」^{追込} 「村穢多」 「源助幸七

右三人是又明日可差免旨井上弥三兵衛被申聞其段添役福田嘉兵衛
江申達シ呼出之儀牢番共穢多頭へ申付ル尤過料五百文ツ、郡代

所被申付候様被仰付候「過料取計当役筋申渡ニおよひ不申候旨

井上弥三兵衛被申聞候

一井汲林内不快之段加藤登八申出ル

八月廿九日

一五つ時平井郷左衛門宅おゐて添役福田嘉兵衛口上申渡左之通

其方儀追込差免候 二階町田原屋伊兵衛

右同 中之町豊屋文左衛門

右立合大年寄玉置忠「町内年寄共五人組迄

「儀追込差免候 「ろく

「 「引請勘「

「合大庄屋土居」 「庄屋組」 「組迄

「牢屋詮議場おゐて牢番」 「輕加藤登」 「申渡左之通

手錠所預差免候 □□□村穢多手助

同 同 源助

同 幸七

右取計相濟候段井上弥三兵衛へ手紙ニ而相届「町奉行郡代中江

知せ申遣ス

癸巳小九月朔日

一木挽幸七義今日吟味中出牢。^{手形}町奉行大沢「平相廻り此方手形相認

差懸り候吟味ニ付町奉行所同心組へ相渡ス

一今日四つ時過近郷へ罷出右差懸り候御用向福田嘉兵衛へ相頼遣

ス

一刑法奉行井上弥三兵衛手紙「来木挽幸七出牢之儀」 「差合

可有之候間」 「旨申来

九月三日

「御用所御出席

一木挽幸七出牢手形大沢「平相廻候付手形相認メ相渡シ其段井上

弥三兵衛江相届ル

一元延命寺観音懸り合一件書付井上弥三兵衛へ差出ス

九月四日

一今日牢屋改定日ニ付加藤登八其外加入老人差出候処「条無之段申

出ル

九月五日 別条無之

九月六日

一井上弥三兵衛手紙到来福渡辺之出生者之「当町奉公杯致申者盜

賊之由町奉行所召捕出「今日入牢取計尤先村人別者歟名面等も

出役左之通

委細可遂詮議旨盜候趣ハ町奉行所へ聞合可申旨申来夫々江手配申

詮議方

付申刻過右盜人大沢三平引渡有之請取候上添役福田嘉兵衛立合

同添役

致詮議候処福渡川口村出生ニ而平治郎と申者之伴幼少平蔵と申

同書役

候所六ヶ「已」 「表へ罷越借金増長「付翌年三月欠落いたし川

同足輕式人

口「 「処追出シ夫」 「帳外もの」 「倉敷刃竹部」 「

使組袴着一人

式奉公等」 「安岡町三大夫と申者之方」 「月十七」

中間式人

「及白状候得共晩方ニ相成候間口書。」 「入牢申付」 「井上弥

別条無之

三兵衛へ手紙ニ而相届ル

九月十一日 十二日 出勤

一右盗人平蔵盜候趣書付被「廻候様町奉行所へ申遣候処何分明七日

一御用所御出席

大沢三平罷越委細可申聞旨返書来ル

一盗人平蔵口書卷冊去ル七日町奉行相廻候被盜物書付四通井上弥

九月七日

三兵衛へ差出置

一大沢三平盜物書付四通相廻り候得共今日詮議迎も聞合不申明日

一牢舎安岡町村屋藤助二三日不食ニ付葉願出候由福田嘉兵衛申立

御日柄ニ付先ツ及延引候

有之井上弥三兵衛へ及樽医師之儀大沢三平へ被申付候様申達ス尤

九月八日 出勤

委細添役福田嘉兵衛日「有之

一御用所御出席

九月十四日

一去月十九日牢屋へ罷出候穢多三人取計一件書付卷通井上弥三兵衛

一牢屋改定日ニ付加藤登八井汲林内差出候処別条無之段届出ル

へ差出ス

九月十五日 十六日 十七日 別条無之

九月九日

九月十八日 出勤

一今日例格之通登城無之御家老御年寄中御宅へ当日廻勤

一今晚丑刻玉林出火ニ付牢屋江書役豊田伝蔵足輕加藤登八罷出候段

九月十日

届出ル

一五つ時詮議場へ罷出福田嘉兵衛 「盗人平蔵」 「詮議未上刻過

一御用所御出席

相済

一書役豊田伝蔵不快断申出ル

一今日被為召候面々被仰渡左之通

寺社奉行願之通御役御免

寺社奉行兼役被仰付候

右同断

中奥目付本役被仰付候

御徒目付役被仰付候

村山平学

市村教馬

黒田彦四郎

太田官平

鷹取文治

一去ル十三日差出置候盗人平蔵口書老冊被盜物訴出候書付四通井上

弥三兵衛被差戻盗物相知候分者町奉行江懸合夫々江取戻可遣之

旨被申聞則右口書并書付四通町奉行大沢三平江相渡ス

九月十九日

九月廿三日

一御用所御出席

一当七月郡代所ニ而入牢被申付候田邑見内村浅右衛門儀明後廿五日

出牢御領分追払被仰付候間郡代所へ可相渡旨井上弥三兵衛被申聞

候

一去ル三日□□□村下分ニ而穢多番孫八□□□非人宮松ヲ鉄刀ニ

而致打擲喧嘩および大年寄大庄屋致吟味候得共難相分候ニ付市郷

奉行中御用所へ被申達刑法奉行中へ詮議可遂詮議被仰付旨井上

弥三兵衛被申聞候尤穢多之吟味郡代所直ニ承之候先格有之候得

共□□之非人之吟味者大年寄場合切ニ而町奉行直ニ承候先格無之

候相考存寄付可申旨是又弥三兵衛被申聞候

一非人宮松疵痛快相成候哉詮議相成候趣候ハ、呼出し可申旨町奉行

大沢三平へ申達候処快氣届出候ハ、通達可有之旨被申聞候

一□□□村穢多孫八喧嘩郷中懸合之者共迄吟味書付郡代山岡与左衛

門被相廻請取之

一 九月廿四日

一牢屋改定日ニ付加藤登八使組加人差出候処別条無之段届出ル

一夜入□□□非人宮松吟味書付大沢三平持参請取之

九月廿五日

一田邑見内村浅右衛門出牢手形郡代山岡与左衛門被相廻則加藤登八

呼出シ置当役手形相認牢屋へ差出郡代所足輕兩人へ為相渡尤与左

衛門被依頼郡代所迄加藤登八差添遣ス

一□□□村孫八非人宮松懸り合之者共迄。吟味不残井上弥三兵衛宅

へ致持参差出詮議仕形及相談置候事

九月廿六日

一夜入井上弥三兵衛手紙到来当五月追払候盜賊次郎兵衛又々立帰

金谷村ニ而銀札盜取候ニ付召捕致吟味及白状候段訴出郡代所申出

依之入牢申付詮議可遂之旨御用番与兵衛殿御差図之由明日郡代所

引渡可申候間請取可取計旨申来ル

一郡代山岡与左衛門被差越右次郎兵衛儀明廿七日四つ時可引

渡旨通用有之夫々手配申付ル

一□□□村下分ニ而穢多孫八□□□之非人宮松喧嘩双方方吟味書致

一覽候由可然可遂詮議旨井上弥三兵衛より申来尤非人共義ニハ印

形取不申先格之様相聞候非人吟味町奉行所ニ而直ニ承候先格無之

様ニ存候得共無宿非人ニ而盜賊と申召捕出候得者直に吟味も有之

名面ニ爪判も取り申候左候得ハ□□□□之者ニ而も爪判口書ニ取

り可然旨且又町奉行中郡代中之右一件弁書見申候而者追而御差図之砌故障ニも可相成候間被差戻御掟書文之内ニ

支配違之出入ハ双方領主地頭ハ断無之而ハ御吟味御取上ケ無之候尤公事意味地頭ハ彼是申候事ニハ無之と御届候右支配違事ニ候得ハ右弁書考合ニ而ハ却而いかゝと存候右意味合申達御戻被成可然候

右之通刑法惣奉行井上弥三兵衛ハ手紙ニ而申来ル

九月廿七日

一四ツ時盗人治郎兵衛郡代所ハ引渡有之大庄屋以下村方之者共例之通差添罷出添役立合遂詮議候処金谷村勘太郎方へ片上之者由申之魚商ハニ参り夫ハ綿調掃度旨申候ニ付勘太郎義ハ綿取集ニ罷出其之留主ニ而錢箱有之候老丸札廿二枚三分札十枚式分札十枚都合廿七匁盗取候致白状入牢申付ル其段井上弥三兵衛へ手紙ニ而相届ル昼支度時分ニ相成候間口書清書爪判取り不申昼後清書相認明廿八日朝之内書役并足輕兩人牢屋へ罷出爪判取り候而御城江持参候様申付ル

九月廿八日 出勤

一御用所御出席

一立掃盗人治郎兵衛口書老冊爪判取書役豊田伝蔵差出候ニ付井上弥

三兵衛へ差出ス

一書役豊田伝蔵悪寒有之引込届申出ル

一明廿九日穢多非人喧嘩可致詮議之処書役不相成□段井上弥三兵衛申達候処先ツ延引可然旨被申聞候尤書役当分之義ニて近々出勤も

可致候哉何卒二三日中ニも詮議相済いたし度旨弥三兵衛被申聞何分明日中見合又々可申達旨及挨拶候

一隔鴨難取候ニ付十月中鉄炮殺生御停止尤十一月已後たりとも御留場おゐてハ殺生不相成候段御触書出ル

九月廿九日

一書役豊田伝蔵病氣相尋候処二三日ニ出勤相成候趣ニ茂不相聞候

癸巳 十月朔日

一井上弥三兵衛宅へ罷越書役いまた不罷出穢多非人喧嘩之詮議明日不取計候得者三日ハ御証月四日者毎月之御目柄五日者万人講来ル六日迄延引ニ相成候旨申達シ候之処喧嘩之儀候間延引いたし候内双方変儀も出来候得者不相濟候間明日呼出シ双方申口承り置候而書役罷出候後口書印形取り候而可然旨尤書役助町在懸合詮議之事ゆへ町奉行所郡代所物書茂被差出がたく其外使組之内ニ者口書相認候様成もの無之候間右之通双方呼出シ一通り承り置候様ニと井上弥三兵衛被申聞候

一明二日五ツ時非人宮松儀大年寄召連罷出旨町奉行大沢三平へ申遣ス明九ツ時穢多孫八儀大庄屋以下村役人共へ召連可罷出候郡代山岡与左衛門へ申遣ス組中間例之通申付ル

十月二日

一五ツ時非人宮松呼出シ大年寄齋藤孫右衛門并非人頭兩人ハ「罷出添役福田嘉兵衛立合遂詮議九ツ時差返ス八ツ時ハ穢多孫八其外懸り合□□□村下分庄屋瀬助同村勘七□□村非人甚助迄呼出遂詮議

申中刻過差返ス例之通大庄屋「庄屋組頭穢多頭同組頭迄差添出ル尤惣穢多頭者不罷出候書役不快ニ付口書印形者追而呼出シ可取事

一牢舎盗人治郎兵衛服痛難儀之趣断出候段福田嘉兵衛ハ届「ハ」之針医之義被申付候様町奉行所へ申遣ス

十月三日 出勤

一御用所御出席

一岡半四郎下女当正月小田中村伊助女房ニ而候節七郎兵衛と申者と致密通候ニ付右女の兄弟へ預ケ置候処当二月右七郎兵衛連越岡半四郎方へ奉公ニ差出候ニ付伊助ハ七郎兵衛を致殺害逃去今ニ行衛不相知候得共右女可致詮議之旨井上弥三兵衛被申聞尤半四郎宅迄当役所附足輕差向引寄詮議相濟候ハ、又々半四郎宅先ツ差返候様可取計旨被申聞明日者御日柄明後日ハ万人講ニ而候間来ル六日書役出勤候ハ、可遂詮議之旨申達置候

十月四日

一牢屋改定日ニ付加藤登八使組加入者差出候処別条無之候段申出ル

一去ル二日詮議口書草案福田嘉兵衛入来終日相認被

十月五日

一書役豊田伝蔵今日出勤届出ル

一井上弥三兵衛宅へ罷越書役罷出候ニ付弥明六日岡半四郎下女呼出可致詮議旨申達シ尤途中腰繩付可申旨申達候処其段半四郎へ可被仰渡旨被申聞候

一夜入井上弥三兵衛手紙到来左之通

一伊助書置老通并小田中村吟味書明朝迄ニ与左衛門ハ相回シ候様甚大夫申段置候

一腰繩付候義半四郎へ被申達候様此右衛門へ申談候

一岡半四郎下女詮議相濟明「ハ」ニ牢舎可取計尤半四郎へ者今日被仰渡無之明日詮議相濟候刻限可引渡旨被仰渡候筈御坐候

一離別状所持いたし候哉御尋可被成候半四郎宅ニ差置候哉委細屋刻得御意候通ニ御坐候以上

一郡代山岡与左衛門ハ広原分伊助書置老通同人家主つね与申女吟味書老通相廻り請取置候

一岡半四郎へ手紙ニ而明六日御預ケ之下女五つ時可差ハ申遣ス尤足輕中間ハ此方差向候旨是又申遣候事

一明日詮議ニ付例之通組中間差出候様申付ル尤井汲林内いまた病氣ニ付加入申付ル

十月六日

一五つ時過同半四郎下女ふで呼出添役福田嘉兵衛立合致詮議候処播州播東カ一とう郡下野田村百姓伊兵衛と申者娘ニ而名ハつよと在所ニ而者申候処去々卯年二月氣尽ニ而不斗欠落いたしあちこちいたし去辰四月倉敷長四郎と申者方へ参り同六月伊助方へ参り当正月迄逗留いたし候へ共夫婦と申ニ而ハ無之当分参り居候ゆへ村方人別ニも入不申当正月十七日播州兄弟迎参り連帰候節右之通ゆへ離別状者取り不申候「二月七郎兵衛市三郎兩人同道ニ而ふで姉智播州ハ」

宮清七と申者「罷越候」右七郎兵衛妻貫候而御当地へ連掃岡半四郎方へ奉公ニ差出候由申之候口書爪判取り牢舎申付其段井上弥三兵衛へ相「ル」井岡半四郎江も及通達候事尤賄之儀も牢賄申付ル

十月七日

一郡代山岡与左衛門「手紙」而左之通申来

昨日被仰聞候小田中村伊助方ニ居申候女之儀吟味致候処正五

九月人別改帳ニ而八村辻計ニ而相分不申「付村方吟味いたし

候処右女之義去夏頃伊助方へ参「居申村役人及見候ニ付何方

「参り哉」と相尋候伊助從弟ニ而当分参居候由伊助申候旨勿

論伊助妻と申願等無之村方ニ而伊助妻と申義ハ曾而不存候

旨申出候間左様思召可被下候

一植月新右衛門長屋者市三郎呼出シ遂詮議候処ふで申口ニ相違無「

十月八日 出勤

一御用所御出席

一盗人治郎兵衛口書去月廿八日出置候処今日被差戻請取之郡代山

岡与左衛門へ相廻置之

一盗人平藏口書老冊大沢三平へ相廻置候処今日相「ル

一昨日郡代所「小田中村吟味之趣申来其段今日井上弥三兵衛へ申達

候処小田中村構庄屋組頭伊助組合之者共呼出可遂詮議旨被申聞候

ニ付明九日五つ時呼出郡代山岡与左衛門江申達候

十月九日

一五ツ時小田中村構庄屋長兵衛組頭平兵衛元伊助組合者拾壹人右之者共大庄屋中嶋徳助肝煎召連罷出添役福田嘉兵衛立合遂詮議候処

伊助宅へ去「六月」当正月迄若女老人参り居申候ニ付度々相尋候伊助姪ニ而当分洗濯ニ参り居申候仕廻次第差返候と申候ニ付人別ニ入不申候勿論右之通姪と申候ゆへ伊助妻ニと申儀者決而存候者老人も無之旨申之候ニ付口書印形取り井上弥三兵衛へ差出ス

一明十日五つ時穢多孫八懸り合者共罷出旨郡代所へ申遣ス

十月十日

一五つ時「村下分庄屋瀬助同村勘七」村流民非人甚助去ル二

日詮議口書印形取之「村下分源六妻呼出シ遂詮議候処孫八申

口とハ相違ニ而宮松わた貫掃候節引統孫八も罷掃作方咄不承候旨

申之候ニ付孫八呼出シ又々遂詮議候処兎角我意申募弥源六妻へ咄

いたし候ニ相違無之旨申之候ニ付明十一日孫八召連罷出旨大庄屋

中嶋太右衛門へ申付置候井上弥三兵衛宅へ罷越孫八儀証人も有之

候処我意申募候ニ付手錠可申付之旨申達候処明日晚方可取計被申

聞候孫八明日呼出直ニ大庄屋へ申付候段郡代山岡与左衛門へ手紙

ニ而申遣ス

一明十一日五つ時非人宮松呼出シ町奉行大沢三平申遣ス

十月十一日

一五つ時「非人宮松呼出大年寄斎藤孫右衛門立合非人甚助申

口を以過言之処遂詮議候処証人有之候而も決而左様成儀者不申候

旨我意申募候双方意趣無之段申之喧嘩之仕懸ケ相偽申候

一八ツ時過孫八呼出遂詮議去ル二日「之口書印形取之晚方手錠所預

ケ申付候其段井上弥三兵衛へ手紙ニ而相届ケ并郡代山岡与左衛門

へ及通用候

捕候段申出候明十六日請取遂詮議入牢可取計申来ル

十月十六日

〔早朝郡代山岡与左衛門の手紙到来盗人安五郎今〕可引渡旨通用有之候ニ付組中間其節例之通差出候様申付ル

一四つ時過盗人安五郎引渡有之請取遂詮議候処立帰盜取候段及白状入牢申付其段并上弥三〔手紙にて相届之〕

十月十七日

相替御用向無之

十月十八日

出勤

一御用所御出席

一盗人立帰安五郎口書爪判今朝取りニ差出シ〔井上弥三兵衛へ右口書老冊差出置之〕

一牢舎申付置候盗人平蔵明十九日五十敲之上御領分追払可申付旨被仰渡其節立合御徒目付下目付組出役之義被及通達候旨并上弥三兵衛〔申渡書付相認差出候処可然候間其通可申〕被申聞候組中間并穢多頭共へも為罷出候様〔〕

一〔非人宮松〕村上分穢多孫八喧〕詮議相済候間来ル廿二日双方御領分追払可申渡旨并上弥三兵衛被申聞尤〔書付相認近日差出候様被申聞候〕

一〔五つ時牢屋門前おるて書役の書付を以申渡し左之通〕

十月十九日

〔五つ時牢屋門前おるて書役の書付を以申渡し左之通〕

福渡川口村出生無宿盜賊

其方儀当已三月安岡町

〔方ニ而嶋裕彦〕平蔵

同八月吹屋町權助方ニ而ふ〔男帯老筋桶屋町ニ而単物老〕

ツ下紺屋町ニ而わた老斤余川〔町十兵衛〕ニ而単物老ツ小紋

羽織老ツ〔老筋西新町の〕而古金三貫目同九月鉄砲町文

吉方〔木綿四尋初山村ニ而〕屋老垂右之通所々ニ而盜取候

段及白状急度可申〔以熾慙五十敲之上御領分追払申付候〕

此已後立帰致徘徊候ハ、召急可申付候以上

巳月日

右申渡〔古城東村御領目五追払同土着居番一札取之〕相済井上弥三兵衛江手紙ニ而相届ル

右ニ付出役左之通

御徒目付 鷹取文

下目付組

詮議方書役 豊田伝蔵

同 足輕 加藤登八

同 使組の 加人式人

中間 三人

穢多頭共十六人

一植月新右衛門長屋者市三郎昨夜播州新宮の罷帰〔去ル十六日〕

晩方清七連罷越無滞相渡候段申出ル

〔井上弥三兵衛宅へ罷越〕非宮松村穢多〔申渡書付差出候処可然旨被申〕被差戻候〔播州新宮清七受取候段及噂候〕

〔非人宮松風呂敷包老〕去月三日村下分勤七江預ケ〔処詮議相済候間明日明後日之内差戻旨被申付候〕与左衛門へ申

達ス

〔非人宮松風呂敷包老〕去月三日村下分勤七江預ケ〔処詮議相済候間明日明後日之内差戻旨被申付候〕与左衛門へ申

達ス

達ス

申之候全宮松稲はでの間ニ相待致喧嘩候と可申ため源六宅ニ
而暫咄しい「」候と相偽其上宮松へ疵為負候ニ付先達而手錠
〔付置遂詮議候処意趣之覚無之当日口論者勿論挨拶も不申候
段申之候得共右之通ニ而喧嘩ニ可取詰様無之候再三遂詮議候
処我意申募不屈ニ付御領分追払申付候
右申渡川部村御境目江追払庄屋見届一札取之足輕兩人の差出ス
庄屋以下御境目迄差添罷越ス

右立合

大庄屋 中嶋太右衛門

肝煎 彦人

庄屋 彦人

組頭

穢多惣頭 彦人

穢多頭

同 人足

右取計相濟候段井上弥三兵衛へ手紙ニ而相届之并町奉行大沢三
平郡代山岡与左衛門江茂及通達候事

一当役所定附足輕井汲林内先達而の永々病氣之処快方ニ付歩行願加
藤登八を以申出候付承届ル

一去ル廿一日郡代所の相廻候盗人治郎兵衛木綿合羽袴ツ先達而郡代
所の相廻居申候牢舎元中間太兵衛脇差彦腰牢番呼出シ福田嘉兵衛
の相渡預り手形差出候様申付候

十月廿三日 出勤

一御用所御出席

一去ル十九日盗人平蔵取計書付彦通昨廿二日非人宮松穢多孫八取計
書付彦通井上弥三兵衛江差出之尤申渡書付茂差出候処即刻申渡書
付者被差戻請取之

一大沢三平養女願之儀禁足茂今年の三ヶ年之間ニ候之間右年数相立
候上相願可然旨尤相願置引取候儀〔勤〕上引請候様成儀不苦問敷
旨永井甚大夫被申聞其段三平へ申達〔

但禁足年数も永キ事ニ候「」又候評議も可有之候得共三ヶ年
と申候得者最「」年数も「」之候間右之通御差因之由被申聞
候

十月廿四日

一盗人新助口書彦冊先達而郡代所江相廻置候処今日郡代山岡与左衛
門の相戻ル

〔牢屋改定日ニ付例之通足輕兩人差出候処別条無之段申出ル

十月廿五日 廿六日 廿七日 相替御用無之

十月廿八日 出勤

一御用所御出席

一盗人立掃安五郎口書彦冊去ル十八日差出置候処今日井上弥三兵衛
の被差戻請取福田嘉兵衛へ相渡ス

一小田中村元中間伊助書置彦通同人家主つね口書郡代山岡与左衛門
の先達而相廻り伊助書置者当役所ニ差置右家主つね吟味口書彦通
山岡与左衛門へ於御城差返ス

〔詮議方書役豊田伝蔵願之趣去ル十四日井上弥三兵衛へ申達置候之

処去歳詮議方書役被仰付候付壱石五斗増給米茂被下置候処此節右
之通相願候節ニ而者無之候間元之下目付組株被下候様ニ者相成間
敷候間其段申渡相勉候様可申「旨夫とも相願候ハ、猶又可「達旨
「弥三兵衛被申聞則「段申渡候処何分猶又思「仕可申出「申之
候

「大沢三平当夏勝手極難申立三ヶ年之間家人別扶持被下置候段被
仰渡候処此節迄御隣愍を以取統難有奉存候何卒出勤仕度旨市郷奉
行中へ申達シ呉候様頼ニ付今日永井甚大夫江別席ニ而申達候処出
勤之儀一段之事ニ候得共来年至又々難決申立有之候様成儀ニテハ
「相濟候間其之所又々三平存寄得度承札可申達旨「申聞則其段大
沢三平へ申達思慮之上近日何レ共存寄被申聞候様申達置候

十月廿九日 晦日 相替御用向無之

癸巳 十一月朔日 出勤

「例年之通御吉事日ニ付四つ時御譜代之面々麻上下着用登城一統御
用席江罷出礼儀申述早而於桜之間御赤飯頂戴之其外日參之御役人
登城大目付以上麻上下其之以下裏「上下着用銘々詰所ニ而頂戴之
「今日万人講有之候ニ付町奉行郡代中登城無之

十一月二日 相「御用向無之

十一月三日 出勤

一御用所御出席

一大沢三平出勤御願申候上者勝手向難決。相願申間敷旨ニ付其段永
井甚大夫江申達候処左候ハ、口上書勝手次第可差出旨被申聞則相

認差出候処已来勝手難決御敷之間敷申上間敷と申文言入差出候様
ニと「申聞其内御用所御退出ニ付今日間ニ合不申候

「寺院九社之神主其外社男山伏町在懸り合「事訴訟詮議之節呼出申
合之儀寺社取次「申合候様刑法奉行井上弥三兵衛被申聞候

十一月四日

「今日牢屋改定日之所雨天ニ付及延引「段申出ル

十一月五日

「屋改今日差出候処別条無之段加藤登八井汲林内へ申出ル

一御奏者中へ廻状到来左之通

從江戸表飛脚到来殿様益御機嫌能被成御座去月廿三日為興津

左兵衛殿御越御「之雁御拜領被成候段申来恐悦之御事候依之

為御歎御帳付候間明六日四ツ時九ツ時迄之内登城可有之候

此旨同役属役并支配江茂可被相達候「

十一月五日 黒田彦四郎

市村教馬

一來ル八日之御用日明六日ニ相成候間大目付亦見類助へ申来

十一月六日 出勤

一御鷹之雁御拜領被成候ニ付為御怡御帳付四つ時大役人以上麻上下
着用登城桜之間おるて御帳付夫へ町奉行詮議方勘定奉行「緒に御
用所へ罷出御怡申述ル退出懸御家老御年「中御宅へ廻動いたし候
「大沢三平出勤之口上書永井甚大夫を以差出候処御聞届相濟候段被
申聞則大沢三平へ其段申「

一古城村助左衛門先達而欠落いたし候元中間太兵衛「候之処差置

候ニ付郡代所(ト)叱之上他參差留候様被仰付候段并上弥三兵衛ハ知
せ有之尤市方村(ト)九郎切殺候儀詮議懸り合之者故通用有之

〔盗人立掃安五郎口書老冊郡代山岡与左衛門〕此間相廻ハ〔処今日
相戻り福田嘉兵衛へ相渡〕

十一月七日 八日 相替御用ハ無之

十一月九日

一牢屋不時見分并汲林内差出候処別条無ハ〔段申出ル

十一月十日 十一日 十二日 御用向無ハ〕

十一月十三日 出勤

〔用所御出席

〔牢屋所々破損有之候旨福田嘉兵衛ハ届有之ニ付直被申立候様申達
ス

十一月十四日

〔牢屋改定日ニ付加藤登八并汲林内差〕〔処〕〔条無之段申出ル

一書役豊田伝藏病氣ニ付難相勉願先月相願候処同廿八日差留候候何

分奉畏相勉可申旨今日申出ル

十一月十五日 十六日 十七日 御用向無之

十一月十八日 出勤

一御用所御出席

一三奉行中ハ廻状到来左之通

来ル正月誓海院様十三回御忌之所御取越来ル廿一日於泰安寺

御茶湯被仰付候此段為相知ハ〔被仰出候

右之趣同役属役并支配方へも可被相達ハ〕

十一月十八日

十一月十九日

〔今日牢屋見分加藤登八差出候処別条無之〕

十一月廿日 廿一日 廿二日 御用向無之

十一月廿八日 出勤

一御用所御出席

一御奏者中ハ廻状到来左之通

来ル廿八日寒氣為伺御機嫌御帳付候間ハ〔登城可有之候此

旨同役同列組合江可〕〔以上

十一月廿三日 黒田彦四郎

市村教馬

十一月廿四日

一今日牢屋改定日ニ付并汲林内加藤登八差〕〔別条無之段申出ル

十一月廿五日 廿六日 廿七日 御用〕

十一月廿八日 出勤

〔御用所御出席

〔ツ時御使番格以上為伺御機嫌登城於〕〔御帳付夫ハ御家老御

年寄中御宅江茂寒中〕〔越ス

小十一月廿九日 御用向無之

癸巳 十二月朔日 二日 御用向無之

十二月三日 出勤

一御用所御出席

十二月四日

一三奉行中ハ廻状到来左記ス

先月十一日主税様御儀御婚姻首尾好被成御整候段申来恐悦之

御事候此段為相知候様被仰出候

右之趣同役属役并支配方江も可被相達ニ以上

十二月四日

永井甚大夫

鈴木此右衛門

井上弥三兵衛

一今日牢屋改定日ニ付加藤登八并汲林内差出ニ処別条無之其段申出ル

十二月五日

六日 相替御用向無之

〔去ル二日小須賀一学殿立帰御用向ニ而御帰着ニ付今日罷越懸御目

候事

十二月七日

御用向無之

十二月八日

出勤

〔御用所御出席

十二月九日

十日 相替御用無之

一石田新治母病氣之処今四時致死去母方之叔母ニ而ニ間定式之通忌

服請十日引込候段大沢三平を以相ニル尤服忌令職大山郡大夫江聞

合候処右之通相違無ニ旨書来ル

十二月十一日

十二日 御用向無之

十二月十三日

忌中ニ付出勤無之

一御用所御出席

〔今日不致出勤候段添役福田嘉兵衛へ為知ニ遣ス

十二月十四日

一今日牢屋改定日ニ付并汲林内加藤登八差出候処別条無之段申出ル

十二月十五日 十六日 十七日 御用向無之

十二月十八日 忌中出勤無之

一御用所御出席

一今日被為召左之通被仰渡候由

御小姓組御刀番被仰付

支度次第出府可仕之旨被仰付候

細川丈助

十二月十九日

一今日迄ニて忌中相済明廿日ハ出勤之届町奉行大沢三平を以刑法奉

行并上弥三兵衛江相届ル

一町奉行所ニ而兩人今日入牢取計有之候間懸ケ合有之候ハ、取計候

様并上弥三兵衛ハ申来

一大沢三平入来福渡町盲人城甫勘当之悴金藏年十九無宿品平年廿八

歳今晚入牢取計有之候ニ付手形可相廻旨対談有之ニ付足輕并汲林

内罷出候様申遣シ申中刻過入牢取計相済

十二月廿日 御用向無之

一今日忌明ニ付出勤御家老御年寄中江廻勤

十二月廿一日 廿二日 御用向無之

十二月廿三日 出勤

一御用所御出席

一当役定付足輕加藤登八当年中出精相勉候ニ付御褒美被下候様并上

弥三兵衛へ申達尤御時節柄之儀候之間員数之儀外々並茂可有御坐候間並之通被下候様仕度旨申達又井汲林内儀者久々病氣ニ而引込候故不申立書役者増給被下候間外役所ニ而も^例茂無之故不申立候事

〔安永二癸巳年正月ヨリ至十二月

十二月廿四日

御用日記

一今日牢屋改定日ニ付加藤登八井汲林内差出□処別条無之段届出ル

刑法詮議方

十二月廿五日 廿六日

平井郷左衛門

一去ル十九日町奉行所ニ而入牢之もの今日牢屋詮議場へ同心組差出吟味筋有之候旨町奉行大沢三平公通用有之当役足輕加藤登八差出ス

十二月廿七日 廿八日 出勤

一御用所御出席

一加藤登八儀年中出精相勉候付鳥目式百文被下之尤使組小頭より申渡ス

菓廿一服

同

銀札六匁

中村以藉

銀札六匁

井上一推

右同

右同外かけ菓壹服

同 六匁

高島友賢

同 六匁

吉竹弁寿

針指五度

針三度

同 六匁

田中玄道

同 式匁

嶋田玄佐

十二月廿九日 晦日

一御参府年者歳暮登城無之一

（最終頁、二枚の紙を重ね折りした内側の紙の記載）

解説 二冊の安永二年「町奉行日記」

はじめに

今回翻刻した町奉行日記は、安永二年(七三三)の一年分であるが二冊あり、しかも分冊されたものでもなければ、どちらかが写しという訳でもない。表紙(写真1・2)を見ても明らかのように、大沢三平と平井郷左衛門というそれぞれ別の筆者によって記された同じ期間の日記である。当初、津山松平藩では二人の町奉行を置いていたが、享保八年(七三三)儉約を理由に一人とされてからは、勘定奉行による兼務が行われた宝暦・明和年間を除いて町奉行は一人しか置かれていない⁽¹⁾。では、この安永二年に限り何故二冊の日記が存在するのであるうか。この点を検討して本巻の解説に代えることとする。

表題について

『愛山文庫目録 津山松平藩文書の部』の「E 6 町奉行日記」⁽²⁾を通覧すると、いわゆる「町奉行日記」の表題は寛政期に変化していることがわかる。すなわち、寛政五年(二五三)以前は「御用日記」であるが、寛政七年(二五三)以降は「町奉行御用日記」と記されている。安永二年については、大沢筆の日記が「御用日記」、平井筆のものが「町奉行御用日記」となっており、後者はこの時期の日記の表題としては不自然で、後年新たに綴じ直された表紙の可能性がある。しかも巻末には、単に「御用日記」と書かれた綴じ直し以前の表紙と思われるものが残っている⁽³⁾。表題の変化と平井筆の日記の綴じ直し、これらをどのように考えればよいであろうか。

現存する日記の表紙は、その日記が記されつつある時期、または記し終わ



写真2 安永2年 平井筆 町奉行日記



写真1 安永2年 大沢筆 町奉行日記

写真3 平井寛 詮議属役辞令
(本館蔵平井家文書)

った直後のものとは限らないであろうし、もともと明確な表題がなく後に作成されたものや、欠損して作り直されたものもあるに違いない。しかし、寛政期に「町奉行日記」の表題変更が実施されたと仮定して、その対象が過去の全ての日記を含むのであれば、今日見られるような表題の差異は生じなかったはずである。つまり、この表題変更は新たに作成される日記のみが対象であったということになる。その中で、安永二年の平井筆の日記だけ表紙が作り直されたのは何故であろうか。

詮議属役（刑法詮議方）とは

この日記の筆者である平井郷左衛門は、当時実は町奉行ではなく詮議属役（刑法詮議方とも称す）という役職にあった（写真3参照）。まず、この詮議属役の概要を左にまとめておく。

この当時、津山藩では藩主松平康哉（すしやう）による改革が進行中であった。その第一目標は財政再建であったが、それに関連して機構改革も断行されている。明和九年（一七七二）八月朔日、刑法・政事・勝手の三惣奉行と、刑法惣奉行の配下として詮議属役・詮議方添役が新設される。⁴三惣奉行は従来の大目付を上回る格付けとされ、勘定奉行は勝手惣奉行配下に、町奉行・郡代は詮議属役と共に刑法惣奉行の配下となった。

詮議属役は、同時に新設された添役の他に従来町奉行の配下であった牢番足輕を配下とし、直属の書役・同心をも有し、それまで町奉行や郡代が行っていた司法・檢察事務を統一的に受け持つ役職として創設されたようである。平井はこの創設当初から就任し、安永三年（一七九四）八月朔日に大目付に昇格すると、その後任には大村庄助が選ばれた。しかし、二か月後の十月五日儉約のために免ぜられ、その後この任に就く者はなかった。これと時を同じくして三惣奉行も廃止され、結局わずか二年余りで藩政機構は旧に復した。詮議属役の分掌する職務内容の具体的な検討や設置・廃止理由の解明は、三惣奉行のそれと共に今後の課題である。

結論

要するに安永二年の「町奉行日記」は、厳密には大沢三平筆の日記のみであり、平井郷左衛門筆の「町奉行日記」は、正確に言えば「詮議属役日記」ということになる。記述内容も正しくその通りのものである。詮議属役が置かれた期間は明和九年から安永三年までの足掛け三年であるが、この安永二年分以外に「詮議属役日記」の存在は確認されておらず、この役職の実態を明らかにするうえで貴重な史料と言えよう。

この日記の表題が「町奉行御用日記」と変更された理由を推測すれば、短期間で廃止されたために冊数が少なく、「詮議属役日記」という項目を設けて分類するには及ばないと判断され、またその職務が本来の町奉行のそれに深く関わっていることから、検索においても「町奉行日記」一般と同種の日記として分類し、歴代町奉行の手元で保管しておく方が便利であると考えられたからではなからうか。

註

- (1) 『津山松平藩町奉行日記 二』(津山郷土博物館紀要第五号、平成五年三月)「解説」表①津山藩町奉行一覧表参照。
- (2) 津山郷土博物館紀要第三号(平成三年三月)一一八～一二二頁。
- (3) 本文一四〇頁参照。
- (4) これは「町奉行日記」においても確認できる。『津山松平藩町奉行日記六』(津山郷土博物館紀要第十一号、平成十年三月)二二五頁参照。
- (5) 仮に「詮議属役日記」の項目を設けたとしても、保存・管理に当たるとき後任者がいないという問題点がある。

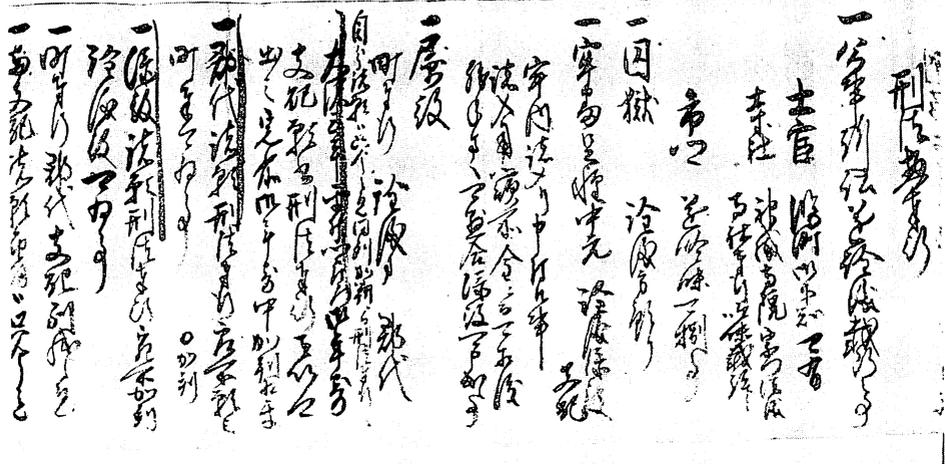


写真4 刑法惣奉行被仰付候 = 付町奉行郡代勤方書付 (部分)
(本館寄託矢吹家資料「刑法惣奉行被仰付候節之書類并郡代同書」内)

津山郷土博物館紀要第十二号

津山松平藩奉行日記七

平成十一年三月三十一日発行

編集 津山郷土博物館 ©

発行 岡山県津山市山下九二番地

印刷 有限会社 二一 葉

岡山県津山市中島四二一五

